STUDY GUIDE 2011

学びのすべて

追手門学院大学

目　次

教育理念

追手門学院大学の教育理念 …… 2
追手門学院大学のポリシー …… 3

はじめに

学位について …… 12
単位のしくみ …… 13
UNIVERSAL PASSPORT …… 14

事務手続き

大学からの連絡 …… 18
休 講 …… 21
補 講 …… 22
欠 席 …… 23
学 籍 …… 25
休 学 …… 27
復 学 …… 29
退 学 …… 30
除 籍 …… 32
除籍取消 …… 33
転学部・転学科 …… 35
再入学 …… 36
各種証明書について …… 37
問合せ先一覧 …… 39

授　業

授業について …… 42
シラバス …… 44
卒業に必要な単位 …… 46
共通科目 …… 55
学科科目 …… 63
副専攻 …… 92

履　修

履修とは …… 98
履修単位制限 …… 99
履修計画 …… 100
履修登録について …… 101

試験・成績

試験 …… 104
授業中試験・レポート …… 105
定期試験 …… 106
定期試験に代わるレポート …… 108
追試験 …… 110
成績について …… 112

進　学

大学院へ進学する …… 116
その他の学生として大学に在籍する …… 117

大学院関係事項

経済学研究科 …… 120
経営学研究科 …… 125
心理学研究科 …… 130
文学研究科 …… 139

資格取得

本学で取得できる資格について …… 144
教職課程に関する規程 …… 146
学芸員資格取得に関する履修規程 …… 158
社会教育主事の資格取得に関する規程 …… 160
レクリエーション・インストラクターの資格取得に関する規程 …… 162
開講科目一覧表 …… 163

規程等

経済学部関連規程等 …… 170
経営学部関連規程等 …… 180
心理学部関連規程等 …… 191
社会学部関連規程等 …… 195
国際教養学部関連規程等 …… 199
学科共通履修細則 …… 207

索引

索引 …… 212

STUDY GUIDE は４年間大事に保管してください

STUDY GUIDE は、入学時のみ配布しますので、卒業するまで使用します。大事に保管しておいてください。
記載内容に変更があった場合は、大学ホームページおよび UNIVERSAL PASSPORT にてお知らせします。

教育理念

追手門学院大学の教育理念　P. 2
追手門学院大学のポリシー　P. 3

追手門学院大学の教育理念

用語解説

▶ 開学の趣旨

追手門学院は１８８８年（明治２１年）大阪偕行社附属小学校として発足した。大阪偕行社は陸軍将校の親睦を深める目的で創立された団体であり、この中心にいた陸軍中将高島鞆之助が、「国家有為の人物」の育成をめざして、日本の発展の原動力となる人材は小学校時代から育成すべきであるという信念をもって附属小学校を設立したのである。

ここでいう「国家有為の人物」とは、偏狭な国粋主義者ではなく、学芸や武芸の修練に努めて切磋琢磨し、礼儀を正しくして品性を高め、秩序を守ることができる人物のことである。文明開化が急速に進む反面、礼儀作法や規律が乱れ、風俗が惰弱になるなど道徳的退廃が著しかったため、これを正し、道徳律に裏打ちされた教育組織を作ろうとしたものと考えられる。

学院開学の趣旨は、現代では「社会有為の人物」の育成と置き換えられているが、その精神は「独立自彊（じきょう）」として継承されている。「彊」は「他者と一線を画し、弓を硬く張ったように揺るぎないこと」を表し、したがって、「独立自彊」は「独り立ちして、他者に惑わされることなく、強く生きる」という意味である。

なお、２００６年には教育構想委員会による「追手門学院の教育構想」（中間報告）がだされ、「独立自彊･社会有為～自由と調和の人間教育をめざして～」が学院のキャッチコピーとされた。

▶ 教育理念・教育方針

追手門学院大学は、「独立自彊」として集約される学院全体の教育理念を継承して、１９６６年（昭和４１年）に、ここ茨木の地に開設された。

大学開設に際して、初代学長天野利武は、学院の歴史と伝統を継承し、新たな時代を開く目標として、「心身を鍛練し、人間性を高め、民主主義を求めて暴力を排し、地域社会や国家に貢献することに生きがいを感じ、民族的自信とともに国際的視野・識見を有する人材の育成」を教育方針とした。

天野の方針はその後の学院教育の基礎をなすものとして受け継がれ、次のように現在の教育方針に生かされている。

(1) 確固たる個性をもち、自他の人格を尊重し、節度をわきまえ、社会の秩序と平安を乱す有形無形の暴力を排除する、勇気ある民主的人物
(2) 美的、倫理的価値に対し、鋭敏で健康な感受性をもち、真に自由な精神と強い意志をもった責任感のある人物
(3) 豊かな一般教養を身につけ、深く高い知識と思考力をもって、人文、社会ならびに自然の諸科学の正しい発展に寄与できる人物
(4) 日本の歴史、文化および芸術に対する深い造詣と、母語に見識をもつ豊かな表現力のある人物
(5) 国際的視野と国際的社会性、および地球的観点をもち、人類の繁栄に寄与し、社会に貢献することのできる人物

これらは追手門学院大学が養成すべき人物像として描かれており、約言すれば、豊かな感性と柔軟な思考力を持ち、総合性と専門性を兼ね備え、常に進化を続ける人材の育成をめざしたものである。現在は、これをさらに簡約化して、「自主・自由・自立の精神の涵養」を大学の教育理念・方針としている。

追手門学院大学のポリシー

追手門学院大学では、各学部において、ディプロマ･ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）をそれぞれ次のように定めています。

用語解説

▶ 経済学部

ディプロマ・ポリシー [1]

経済学部ではつぎのような能力をもった学生に学位を授与します。

（1）経済学の基本的な科目を学んだことで、経済分析力を身につけ、論理的な思考ができること。

（2）経済学の応用的な科目を学んだことで、問題解決能力あるいは構想力を培い、社会の各分野でその能力を実践できること。

（3）卒業後も経済社会の事象に興味をもち、生涯にわたって学ぶ姿勢を保ち続けること。

1. ディプロマ・ポリシー
学位授与方針。

カリキュラム・ポリシー [2]

（1）経済学の基本的な考え方と論理的な思考力を培うために初年次の経済学教育を充実させる。

（2）基幹的な科目から応用的な科目へとつながるカリキュラムを構築し、学生の自主性を尊重しつつ体系的な学習を促す。

（3）社会からの要請にこたえることができるようにカリキュラムの検討を継続的に行う。

2.カリキュラム・ポリシー
教育課程の編成・実施方針。

アドミッション・ポリシー [3]

（1）政治・経済・社会問題に対して知的好奇心をもち、自主的・積極的に問題解決に取り組もうとする強い意志をもつ人。

（2）豊かな構想力と人間性を身につけるために、経済学を中心に幅広い分野の学問を積極的に学ぶ意欲と能力のある人。

（3）経済学に関する専門知識を活用して、経済・産業界のリーダーとして活躍しようとする意欲のある人。

3.アドミッション・ポリシー
入学者受け入れ方針。

用語解説

▶ 経営学部

1. ディプロマ・ポリシー
学位授与方針。

ディプロマ・ポリシー [1]

- 全学共通カリキュラムの多面的履修を通して、基礎的教養と汎用的技能を身につけていること。
- 経営学、会計学、ビジネス法学並びに情報処理の諸分野について、基礎的・基盤的専門知識を身につけていること。
- 経営学科においては、経営学、会計学、ビジネス法学のいずれかの分野に関して、基幹的な理論と現実的な問題の分析·問題解決への応用能力を身につけていること。マーケティング学科においては、起業創造とマーケティング、国際経営、情報処理、ビジネス心理のいずれかの分野について、基幹的な理論と現実的な問題の分析・問題解決への応用能力を身につけていること。

2.カリキュラム・ポリシー
教育課程の編成・実施方針。

カリキュラム・ポリシー [2]

(1) 基礎的教養・汎用的技能の涵養を図るために、全学共通科目である基本科目・外国語科目・総合科目の充実。
(2) 早期の目標形成のための導入教育とキャリア教育の充実。
(3) 経営学の主要分野の基礎的学力を身につけるための講義体系の構築。
(4) 専門性の育成のために、経営学科では経営学、会計学、法学メジャーを、またマーケティング学科では国際マーケティング、情報マーケティング、起業マーケティング、ビジネス心理の各メジャーを設ける。
(5) 創造性を育成するために、基礎、基幹、展開・応用科目といった体系的科目配置と、細分化された知識と情報を一つの知見に纏め上げる統合性を涵養するため、総合的科目と実践型・参画型教育の充実。
(6) 学科間、各メジャー間の壁を低くし、多様な学生に対応するカリキュラム体系の構築。
(7) 教育効果向上のために少人数教育の充実。

3.アドミッション・ポリシー
入学者受け入れ方針。

アドミッション・ポリシー [3]

経営学部で提供する知識・経験を将来的に実践し、自らの夢や組織の目標を実現したい者や、複雑化·高度化する社会情勢を敏感に察知する能力に優れ、自分なりの問題意識をもって行動できる者、経営学の専門知識を広く修得し、ビジネス社会の第一線での活躍を目指す者、および起業・事業継承・創業の場での活躍を望む者、等。

▶ 心理学部

ディプロマ・ポリシー [1]

心理学部心理学科は、幅広い教養的基礎の上に、心理学の知識及び方法を様々な職業に生かし、自己実現をめざす豊かな人間性をもつ人材の育成を目的としています。

心理学科は以下の力を身に付けた学生に学位を授与します。

(1) 心理学の基礎的知識や技能を幅広く学ぶことにより、心理学的なものの見方や考え方を身につける。
(2) 現代社会のさまざまな問題を心理学的に理解し、地域社会に貢献するために、心理学の知識や方法を実践的に使用する力（応用力）を身につける。
(3) 自分を知り自分の生き方を考えながら、その生き方に応じた心理学の学びを選択し、主体的、創造的に自分の人生を設計していく力を身につける。
(4) 日常生活の中で交わる他者の心を理解し尊重しながら、柔軟に対人関係を築く力を身につける。
(5) 多様なことがらや人に興味関心をもち、さらに人がもつ興味関心にも心を寄せて、広い視野をもち多角的・総合的な視点を身につける。
(6) 自ら課題を探求し、問題解決のために適切な方法を用い、得られた事実から論理的に思考する力を身につける。

カリキュラム・ポリシー [2]

心理学部心理学科は、心理学の高い教養を身につけるだけでなく、それらを自分の生き方や社会に役立て、心豊かに生きて自己実現をめざす人の育成を目標にしています。

その目標を達成するために、以下のようなカリキュラムを編成しています。

(1) 心理学の基礎知識を幅広く習得するために、「各系入門科目」「心理学総合科目」「概論科目」を設置しています。ここで得られた知識は生活の中に活かされ、教養的知識として、生活を豊かにしていくものです。
(2)「生き方確立の基礎」を形成するために、「ライフスタイル演習１･２」「心理学総合科目（職業としての心理学）」を設置しています。自分の生き方を考えながら、その生き方に応じた心理学の学びを選択します。
(3) 心理学の知識を実践的に応用する能力を育てるために、「各メジャー演習」を設置しています。自分の興味や生き方を考えながら、自分にふさわしいメジャーを選んで学びます。メジャーは、心の問題を持つ人に関わる「メンタルケアメジャー」、人の生涯の発達と教育に関わる「チャイルドサポートメジャー」、企業で心理学の知識を生かしていく「ビジネスリサーチメジャー」があります。それぞれのメジャーは、心理学部の各系専門領域を基礎にしており、メンタルケアメジャーは臨床系科目群、チャイルドサポートメジャーは、生涯発達・生涯教育系科目群、ビジネスリサーチメジャーは、社会・犯罪系科目群、そしてすべてのメジャーの基礎に、認知・脳科学系科目群があります。
(4)「特殊演習１・２」「各系演習」を設置し、人の興味関心を知りそれにも関心を寄せることによって、自分の興味を広げ、さまざまな視点からものごとを考える力を養います。また人と一緒に活動をしたり、共同で問題解決をしたりする体験から、他者の心を理解し尊重する力を養ったり、自分の主張を適切に表現できるプレゼンテーション能力を養います。
(5)「卒業研究」を設置して、獲得した知識をもとに自主的に問題を発見する力、必要な資

用語解説

1. ディプロマ・ポリシー
学位授与方針。

2.カリキュラム・ポリシー
教育課程の編成・実施方針。

用語解説

料を収集する力、適切な方法を用いて研究を行う力、さらに得られた資料をもとに論理的に思考する力やそれらを論文にまとめる力など、総合的な能力を養います。

3.アドミッション・ポリシー
入学者受け入れ方針。

アドミッション・ポリシー[3]

心理学部心理学科は、「独立自彊・社会有為」という学院・大学の教育理念のもと、心理学の専門家を目指す人の基礎教育と、心理学の高い教養を備え、自分のためだけではなく人のために心理学の知識を使うことができる社会人の育成を目標にしています。心理学は、心についての実証的研究も行うため、文系の科目だけではなくいわゆる理系の科目も含めて、高等学校までの各教科をしっかりと習得しておくことが大切です。

具体的には次のような学生の入学を期待しています。

(1) 人間の心理と行動に関心をもち、好奇心をもって自主的に学ぶ態度のある人
(2) 心豊かに生きていくために、心理学を学びたいと思っている人
(3) 人と社会のつながりを大切にしたいと思っている人

▶ 社会学部

アドミッション・ポリシー [1]

社会学部社会学科は、以下のような「あそび」「居場所」「何者かになるまえに」という３つのこだわりによって、間口が広く、柔軟な社会学的な想像力・思考力の獲得をめざします。そして、そのことは、急速に変化し流動する現代社会の問題の解明においておおいに有効であり、社会学的なものの考え方は現代に生きる市民・職業人・生活者・地域人としてより豊かで活力のある生き方を見出すために必要なものである、と考えています。

社会学部では、こんな学生を求めます。

社会学部社会学科の第１のこだわりは「あそび」です。あそびのない機械はうまくは動きません。

社会や人間もおなじです。社会の役に立つかどうかわからないけれど、どうでもいいことをおもしろがれる、どこでもあそべる―このことがじつは社会を生きる上で役に立つと考えます。この「あそびの精神」は「日常」「身のまわり」への関心から出発します。私たちの日常には「ムダなもの」「無意味なもの」「わけのわからんもの」だとして隅っこに追いやられているものが沢山ありますが、そんなものへの好奇心を大切にすることで、「世の中、おもしろいことだらけにできる！」かも知れません。

２つ目のこだわりは「居場所」です。ここでの「居場所」とは友だちとお茶を飲みながらマッタリできる部屋や施設に限りません。「ハミッた感」（しっくりこない感）や「なんかちがう」を抱えている人にとっての「居場所」となることのできる、そんな「雰囲気」のことでもあるのです。「どんなひとでも、なんらかの形で」を大切にしています。追手門・社会学科の一番のウリはこの「雰囲気」に満たされた少人数のゼミ（自分で希望して所属する大学ならではのクラス）をカリキュラムの基礎にしていることです。

「即戦力」や「資格」をアピールする大学や学科が多いなか、追手門・社会学科はそうした「就職に役に立つ」「就活に役立つ」ことよりも、「長い人生を生きていく上で役に立つかも知れないことを大切に」、そんなスタンスで学生さんたちと接しています。ここでの学びは長い熟成の時を経て、あなたの人生に「コク」と「まろやかさ」を与えるはずです。４年間に「楽に生きる」「何者にもならない」方法を考えてみるのも悪くはありません。「何者かになるまえに」、これが３つ目のこだわりです。

社会学社会学科では上記のようなこだわりに関心をもつ学生を求めています。

用語解説

1.アドミッション・ポリシー
入学者受け入れ方針。

用語解説

▶ 国際教養学部

1. ディプロマ・ポリシー
学位授与方針。

ディプロマ・ポリシー [1]

国際教養学部は、現代社会の理解と創造に役立つ情報文化と２１世紀の国際社会に広く通用する国際語学を中心に教育を行い、生活基盤としての基礎教養文化（コモン･リベラル･アーツ）の上に、より多様化し複雑化する社会や文化に対する的確な理解および情報の適切な選択と発信の能力を涵養し、もって現代に通用する生きた教養を備えた社会有為の人材の育成を目的とする。

国際教養学部アジア学科では、次の人材の育成を目的とする。

1）中国語やアジア諸地域でコミュニケーションが可能な英語の実践力を有し、その他のアジア諸言語についても一定の知識をもつ人材

2）アジア諸地域に関する基礎知識のうえにフィールドワークなどの体験的・主体的学習を通じて、日本を含むアジア諸地域の社会と文化に深い理解を持ち、日本はもとより国際社会の多方面で活躍する教養人

国際教養学部英語コミュニケーション学科では、次の人材の育成を目的とする。

1）21 世紀の国際社会に広く通用する英語コミュニケーション能力を備えた人材

2）異文化コミュニケーション能力の育成と異文化交流の促進、キャリア形成や資格を目指す実践英語学習などを通じて、国際社会の多方面で活躍する表現力、行動力、判断力を兼ね備えた教養人

なお、これらを「むすぶ力。ヒト・コトバ・ブンカから未来」という標語で要約し、さらにロゴマーク化して、学部特色の表明としている。

2.カリキュラム・ポリシー
教育課程の編成・実施方針。

カリキュラム・ポリシー [2]

（「学位授与」方針に述べたように）学部教育の二つの柱に、「現代社会の理解と創造に役立つ情報文化」と「２１世紀の国際社会に広く通用する国際語学」を位置づけている。

まず、「現代社会の理解と創造に役立つ情報文化」の基本的核となり社会全般で最も必要とされている「日本語・日本文の読解能力と表現能力」のレベルアップを目指す。そのために、アジア学科･英語コミュニケーション学科ともに、第一段階としては全学共通科目に「日本語の諸相」などを、第二段階としては「日本語ワークショップ」などを設置し、さらに学科科目の講義や演習・卒業論文作成などにおける文章表現・口頭発表の指導を、ひろく日本語能力強化の科目として設定している。

次に、「２１世紀の国際社会に広く通用する国際語学」とは、「コミュニケーション能力を重視した英語」と「中国語の実践学習」のことである。グローバル化の進展にともないインターネットを通じての海外情報の拡大は、いまや英語を日常生活レベルでの基本的な言語としている。このようなリアルタイムの文化情報、社会情報、経済情報などを的確に理解し、また正確に相手に伝えることが重要となっている現在、新たな「情報メディア」とそれに対応した「コミュニケーションの内容と手法」に重点を置いた英語学習の必要性はますます増大している。また、さまざまな分野で躍進著しいアジア諸地域の中でも、文化・経済メディアとしての中国語の果たす役割と意義はとりわけ大きく、基礎的で実用的な中国語と中国文化の理解を深めることの今日的意義もまた増大している。それらの学習のために、アジア学科に「専修中国語」、英語コミュニケーション学科に「専修英語」の科目群を設置し、段階的な積み上げ方式で学習し、習熟度別のカリキュラムを編成し、加えて両学科の相互乗り入れを実施している。

また、多彩な国際理解教育、それはアジア学科においては「生活文化重視の人文系教育」であり、英語コミュニケーション学科においては「文化理解力と異文化コミュニケーション能力の養成」であるが、そのための一環として現地の生活の中で人々との交流を通して、ことばと文化を体験

する現地体験型科目「中国語現地演習」（中国：南京）「カナダ現地演習」（カナダ：バンクーバー）や「アジアフィールドワーク」などを設置している。

アジア学科の学科科目においては、「地域研究群」と「専門領域群」との交差するところに学生はそれぞれ自身の「専門」を見いだし、履修することになる。

「地域研究群」は、次の３つのプログラムである。

①日本・国際プログラム　⇒日本の歴史と文化

日本社会を比較的観点から眺めることにより、日本のあり方に対する相対的な見方を身につけ、国際的に発信する能力を養成する。

②東アジアプログラム　⇒中国語と中国の文化

中国を中心とする東アジア地域の哲学・文学・歴史等の知識や理解を深め、当該地域で活躍するための教養と能力を養成する。

③広域アジアプログラム　⇒アジア諸地域とオーストラリアの文化と社会

東南アジア・南アジア・西アジアおよびオーストラリアの社会と文化に関する基礎知識を身につけ、当該地域で活躍するための教養と能力を養成する。

「専門領域群」は、次の３つの系に分かれる。

①哲学・文学系　②語学系　③歴史学・地理学系

英語コミュニケーション学科の学科科目においては、英語コミュニケーション能力の向上と専門的知識の習得を果たすために、学生は次の３つのプログラムから、自身の関心と想定する進路とに応じて、履修を進めることになる。

① 異文化コミュニケーションと異文化理解プログラム
　異文化間のコミュニケーションギャップを理解し、多様な種類の英語を学習する。

② キャリア形成や資格を目指す実践英語プログラム
　実社会で通用する英語コミュニケーション能力の養成とキャリア形成のための資格取得を目指す。

③ フィールドワークを通じた体験型・主体的学習プログラム
　カナダなどでの海外現地演習を体験して、英語の実態の理解を通じて現地の人々の生活や文化を学ぶ。

アドミッション・ポリシー[3]

国際教養学部の学びの領域は、アジア諸地域とオーストラリア、英語文化圏およびドイツ語・フランス語圏を中心とした「国際理解教育」「外国語教育」「情報文化教育」である。また、その学びのポイントは、以下の４点に絞られる。

① 異なる文化と文化をむすぶコミュニケーション能力を身につけて、自分自身の世界を広げること
② 現地の生活のなかで「ことば」にひたり、その土地の人々との交流を通して、国際的な教養の土台を作ること
③ 実践的な語学力をみがいて、コンピュータ上にあふれている（日本語のみならず）英語や中国語の情報にも選択と発信の的確な対応ができるようになること
④ 授業という場で、教員と学生、おなじ学生同士が人間的なむすびつきの中で学ぶこと

大学４年間を通じて、以上のような学びの領域とポイントに興味と関心を持って積極的に取り組み、結果として自分自身のキャリア形成につなげていく志向と姿勢をもった人の入学を期待する。

① 英語・中国語をマスターして国際的に活躍したい者
② グローバルな視野を持ち、そして自分で考え始めることのできる者
③ 世界と日本の架け橋になりたいと志し、行動する者

用語解説

3.アドミッション・ポリシー
入学者受け入れ方針。

はじめに

学位について　P. 12
単位のしくみ　P. 13
UNIVERSAL PASSPORT　P. 14

学位について

用語解説

▶ 学位の授与

本学の卒業者には、学士の称号を授与します。学位に付記される学士の種類は、次のとおりです。

学　部	学　科	学　位
経済学部	経済学科	学士（経済学）
	ヒューマンエコノミー学科	
経営学部	経営学科	学士（経営学）
	マーケティング学科	
心理学部	心理学科	学士（心理学）
社会学部	社会学科	学士（社会学）
国際教養学部	アジア学科	学士（国際教養学）
	英語コミュニケーション学科	

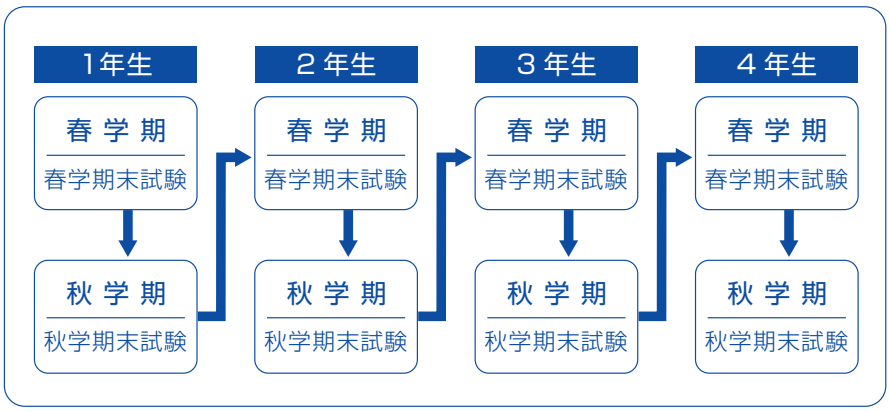
▶ 学位授与までの道のり

卒業し、学士の学位を授与されるには、

- ４年間以上大学に在学していること　※休学した期間は在学期間に含まれません
- 卒業に必要な単位数（卒業要件単位数）を満たしていること

の２つの条件が必要になります。

卒業までの４年間の道のりは、以下のようになっています。



４年生の秋学期末試験の結果、上記の２つの条件を満たした学生は、教授会を経て、卒業が決定します。

卒業が決定した学生は、３月上旬に学内の掲示板[1]にて発表されます（卒業者発表）。卒業が決定したら、学位授与式へ出席し、学位記（卒業証書）の授与を受けることになります。

1. 卒業者発表

卒業者発表は学内の掲示板でのみ発表となります。よって、UNIVERSAL PASSPORT や電話等での確認はできません。

単位のしくみ

▶ 単位の計算方法

大学を卒業するためには、各学部で定められた単位を修得しなければなりません。

単位は、授業科目を履修・受講し、定期試験やレポート、授業中の評価にて合格点をとることによって修得できます。

単位修得の順序は、以下のとおりです。

履修登録
単位認定を受けるには必ず履修登録をしなければならない。

▶

授業への出席
毎回の授業に出席する。

▶

科目修了の認定
定期試験・レポートや授業中の平常点により評価される。評価方法は、シラバスに掲載されている。

▶

科目修了の認定
合格点をとれば、単位が認定される。

こうして修得した単位で卒業に必要な単位数（卒業要件単位数）を満たすことにより、卒業が認められます。

単位の計算方法は、授業形態や授業方法によって異なります。

※ 1 単位は自習も含めて 45 時間の学修をもって構成されています。

【1】単位の計算基準

1 単位＝ 45 時間の学修（自習を含む）
1 時限＝制度上 2 時間として計算

【2】単位の計算方法

講義・演習科目

（1）毎週 1 時限の授業が春学期または秋学期に 15 週行われる場合
2 時間の授業× 15 週＝ 30 時間（＋自習 60 時間）⇒ 2 単位

（2）毎週 2 時限の授業が春学期または秋学期に 15 週行われる場合
4 時間の授業× 15 週＝ 60 時間（＋自習 120 時間）⇒4 単位

外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・日本語）、実験・実習・実技科目

毎週 1 時限の授業が春学期または秋学期に 15 週行われる場合
2 時間の授業× 15 週＝ 30 時間（＋自習 15 時間）⇒ 1 単位

▶ 単位と出欠

各学部の学部規程では、「原則として各科目とも出席すべき授業時数の 3 分の 1 以上欠席した者は、科目修了の認定を受けることができない」とされています。

毎回の授業に出席し、疑問があれば随時担当教員に尋ねるなど、積極的に授業に参加するようにしてください。

なお、科目ごとの評価方法に関しては、シラバス[1] で確認してください。

用語解説

1. シラバス
⇒ P. 44 を参照。

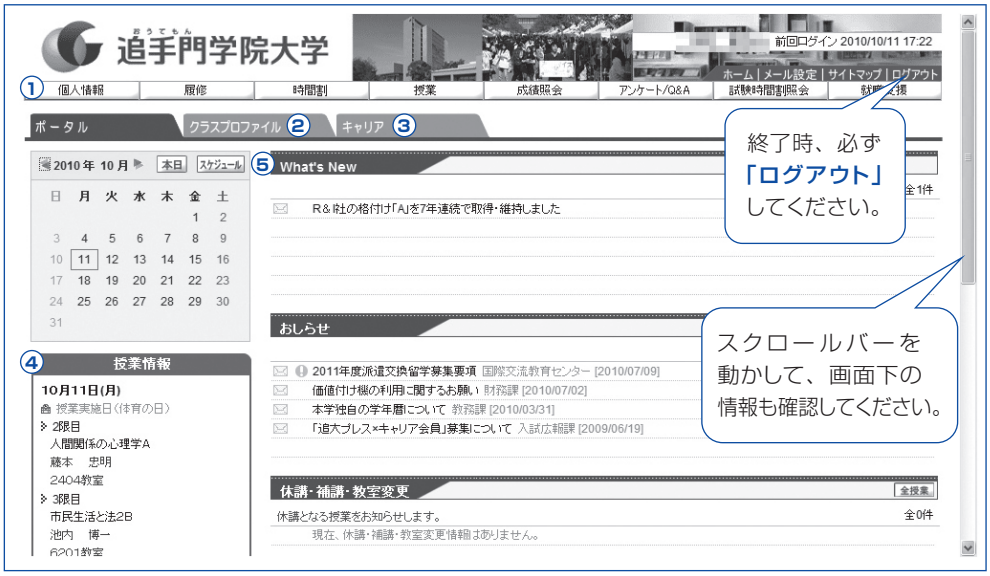
UNIVERSAL PASSPORT

用語解説

▶ UNIVERSAL PASSPORT とは

UNIVERSAL PASSPORT（ユニバーサルパスポート、通称：UNIPA（ユニパ））は、インターネットを通じて、履修登録を行ったり、休講情報などの学内情報の検索ができる WEB システムです。このシステムは、大学生活を送る上での大切なツールとなりますので、毎日ログインし、最新の情報を確認してください。

【UNIVERSAL PASSPORT ポータル画面（ログイン後、最初に表示される画面）】



UNIVERSAL PASSPORT の主な機能と、それぞれに関する問い合わせ先は、次項のとおりです。なお、使用方法等の詳細については、「UNIVERSAL PASSPORT 利用ガイド」を参照してください。

【UNIVERSAL PASSPORT の主な機能】

No.	機能		説明	問い合わせ先
①	個人情報		学生・保護者の住所や電話番号の変更手続きを行う場合に使用します。	学生課
	履修		その年度に受講する科目の登録（履修登録）や、指定された科目の抽選登録が行えます。 また、教員免許等の資格を取得するための登録が行えます。	教務課
	時間割		履修登録している科目の 1 年間の時間割が閲覧できます。	
	授業		開講科目のシラバス（講義テーマや授業計画など）が検索・閲覧できます。	
	成績		入学してからの全履修科目に対する成績（合格・不合格）の結果が閲覧できます。 また、GPA に関するパンフレットを閲覧できます。	
	アンケート / Q＆A		授業アンケートなどのアンケートに対する回答を行う場合に使用します。	「差出人」へ問い合わせてください。
	試験時間割照会		履修登録している科目について、定期試験の時間割や定期試験に代わるレポートの提出期限が閲覧できます。	教務課
	就職支援		キャリア開発課が収集した企業求人・説明会情報が閲覧できます。	キャリア開発課
②	クラスプロファイル		履修している科目の課題提出、授業資料、小テスト、Q＆Aなどを使用する機能です。	総合情報教育センター
③	キャリア	キャリ蔵	授業やゼミ、クラブ･サークル、インターンシップ、ボランティアなど、さまざまな体験の記録を蓄積していく、キャリア体験データベースが使用できます。	キャリア開発課
		シュウ蔵	「個別企業選考（筆記や面接内容等）」「合同説明会（企業名･説明内容等）」「対策講座･セミナー（受講内容）」の分類別に就職活動体験記録を登録する機能です。	
		シュウカツ伝言板	キャリア開発課からのお知らせとして就職支援行事等を一覧で表示しています。	
④	授業情報		当日と翌日の履修科目の情報が表示され、休講の場合は、休講のマーク、教室変更があった場合は、変更後の教室が表示されます。	教務課
⑤	What's New お知らせ		学内のニュースやイベント情報、大学の各部署や教員からのお知らせが掲示され、閲覧できます。	「差出人」へ問い合わせてください。
	休講・補講 教室変更 授業中試験		履修登録している科目の休講、補講、教室変更といった情報が閲覧できます。また、授業中試験やレポート課題が出された場合、その情報が閲覧できます。	教務課

❗ メニューに関する注意

履修、成績照会や試験時間割照会は利用できる期間以外、メニューが表示されませんので注意してください。

▶ ユーザー ID とパスワードについて

UNIVERSAL PASSPORT にログインするには、ユーザー ID とパスワードが必要です。これらは、学内のパソコンでログイン時に使用するものと同じで、新入生オリエンテーション時に配布します。

なお、ユーザー ID とパスワードがわからなくなった場合は、学生証を持って、5 号館 4 階の総合情報教育センター事務室まで来てください。電話での問い合わせは、本人確認ができないので応じることができません。

❗ パスワードの管理に関する注意

UNIVERSAL PASSPORT では、学生の個人情報、成績情報へ簡単にアクセスすることができます。よって、個人情報保護のために、以下の点に十分注意してください。

(1) ユーザー ID、パスワードを他人に教えない。
(2) 自分のユーザー ID、パスワードでログインした UNIVERSAL PASSPORT を他人に使わせない。
(3) 席を外すときは必ずログアウトする。

▶ メール設定について

UNIVERSAL PASSPORT を通して情報発信するもののうち、W hat's New や大学からのお知らせ、および履修登録している授業に関する情報（休講・補講・教室変更・授業中試験）や担当教員からのお知らせについて、情報を任意のパソコンや携帯電話のメールアドレスに転送することができます。

メール設定は、ポータル画面の「メール設定」より行ってください。詳細は「UNIVERSAL PASSPORT 利用ガイド」を参照してください。

❗ メール設定に関する注意

(1) UNIVERSAL PASSPORT を通して情報発信されるものの中には、データ（word 文書や PDF データなど）が添付されている場合があります。携帯電話では転送されてきたメールから添付されているデータは参照できませんので、必ずパソコンで UNIVERSAL PASSPORT にログインして、確認してください。
(2) メール設定で登録した任意のパソコンや携帯電話に転送されてきたメールに返信をしても、情報の差出人へメールが届きません。また、携帯電話では転送されてきたメールの差出人も表示されませんので、必ずパソコンで UNIVERSAL PASSPORT にログインして、差出人の確認や返信、問い合わせ等をしてください。

事務手続き

大学からの連絡　P. 18
休講　P. 21
補講　P. 22
欠席　P. 23
学籍　P. 25
休学　P. 27
復学　P. 29
退学　P. 30
除籍　P. 32
除籍取消　P. 33
転学部・転学科　P. 35
再入学　P. 36
各種証明書について　P. 37
問合せ先一覧　P. 39

大学からの連絡

用語解説

▶ 掲示内容

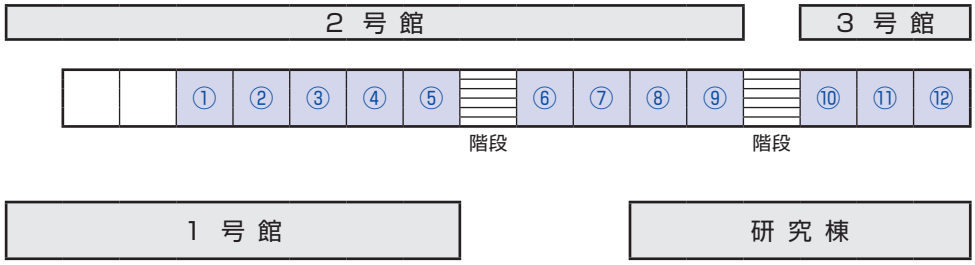
学生の皆さんには、大切な連絡事項を掲示にてお知らせしています。

例えば、教室変更、休講、補講、授業中試験・レポートのお知らせなど、学生生活を送る上で大切な情報ばかりです。大学へ登校した際には、必ず学内掲示板（下記【1】）を確認してください。UNIVERSAL PASSPORT（下記【2】）でも確認できますが、内容によっては学内掲示板にのみ掲示する場合があります。

掲示でお知らせした情報は、周知したものとして取り扱いますので、注意してください。

【1】学内掲示板への掲示

大学内に設置された掲示板に情報を掲示しています。掲示内容と掲示場所は以下の通りです。



①	経済学部
②	経営学部
③	心理学部・社会学部
④	国際教養学部
⑤	休講・補講
⑥	教室変更・大学院
⑦	全学部共通（授業中試験・レポート課題）
⑧	資格課程
⑨	全学部共通（定期試験・定期試験に代わるレポートなど）
⑩・⑪・⑫	全学部共通（定期試験・定期試験に代わるレポートなど）

【2】UNIVERSAL PASSPORT への掲示

ログインの方法や掲示の確認方法など、詳しくは「UNIVERSAL PASSPORT 利用ガイド」もしくは本書（P. 14）を参照してください。

UNIVERSAL PASSPORT の URL
ＰＣから https://www.portal.otemon.ac.jp/
携帯から https://www.mobile.otemon.ac.jp/

▶ 学籍情報の登録について（お願い）

学生個人に大切なお知らせや緊急の連絡がある場合に備えて、次の２点を UNIVERSAL PASSPORT に登録しておいてください。

（1）携帯番号・・・UNIVERSAL PASSPORT の学籍情報[1] 変更申請で登録
（2）携帯メールアドレス・・・UNIVERSAL PASSPORT のメール設定[2] で登録
＜登録しておくと、休講情報などがメールで届きます。＞

1. 学籍情報
氏名、住所、電話番号などの情報。

2. メールの設定
⇒ P. 16 を参照。

また、登録内容に変更があればすぐに UNIVERSAL PASSPORT で変更手続き[3]をしてください。

▶ 教務課窓口での問い合わせ

掲示でお知らせした内容について、分からないことがあれば、所属学部係窓口で尋ねてください。

【窓口受付時間】

	平　日	土　曜　日
授業期間	9：20 ～ 18：20	9：20 ～ 13：00
定期試験期間中	9：20 ～ 17：00	9：20 ～ 13：00
夏期・冬期休業中	9：20 ～ 17：00	休　業
春期休業中	9：20 ～ 17：00	9：20 ～ 13：00

※冬期休業期間は、1 月のみ土曜日の業務を行います。

授業、試験、レポート、成績に関することなどの電話での問い合わせには、間違いが生じやすく、個人が特定できないといった問題もありますので、一切応じられません。

▶ 教務課事務取り扱い内容

履修・授業・休講・補講・欠席 試験・レポート 成績・証明書 教員 学籍（休学、復学、退学、除籍、除籍取消、転学部転学科、再入学） 研究生・科目等履修生・聴講生に関すること	所属学部係
資格（教職課程、学芸員、社会教育主事、レクリエーションインストラクター） 定期試験・追試験 教室予約 証明書自動発行機パスワード 課外活動欠席カードに関すること	教務係

※ UNIVERSAL PASSPORT および学内のパソコンにログインするためのパスワードについては、総合情報教育センター（5 号館 4 階）に問い合わせてください。

▶ 教員との連絡

大学の教員と連絡をとりたい場合は、次のような方法があります。

研究室を訪ねる

教員には専任教員（教授、准教授、講師）と非常勤講師がおり、専任教員は本学に所属

用語解説

3. 変更手続き

変更手続方法は、「UNIVERSAL PASSPORT 利用ガイド」を参照してください。氏名変更、本籍変更については、学生課窓口で手続きしてください。

用語解説

していますので、研究室があります。授業がある時間以外は研究室にいることが多いので、直接研究室を訪ねてもよいでしょう。研究室の場所については、UNIVERSAL PASSPORT に掲載されている「教員組織一覧（下記【1】）」を確認してください。教員の授業予定についても、UNIVERSAL PASSPORT の「教員時間割表」で確認することができます。

また、専任教員は「オフィスアワー（下記【2】）」を設定していますので、必要であれば事前に予約を入れて、相談に訪れてください。

非常勤講師には、研究室はありません。授業がない曜日には原則として本学に出校していないので、連絡をとりたい場合は、教務課各学部係窓口に相談してください。

研究室へ電話をする

専任教員の研究室には、外線の電話番号が設定されていますので、電話で連絡をとることもできます。研究室の外線番号については、前述の「教員組織一覧（下記【1】）」を確認してください。

メールを送る

専任教員はそれぞれメールアドレスを持っていますので、授業の中でメールアドレスが公開されている場合は、メールで連絡をとることもできます。ただし、メールで連絡をとる場合は、必ず学籍番号・氏名を明記し、授業科目名を書くなど、何について尋ねたいのかはっきりわかるように心がけてください。

【1】教員組織一覧

学部ごとに、専任教員の職名、氏名、研究室の場所、研究室の外線番号を一覧で記載しています。非常勤講師についても、学部ごとに氏名を記載しています。UNIVERSAL PASSPORT のポータル画面、左下の「お気に入り」欄に PDF 形式で掲載されています。

【2】オフィスアワー

学生のみなさんが教員の研究室を訪れ、相談するために設けられた時間帯です。オフィスアワーには、教員は研究室を開放し、学生は自由に相談に訪れることができます。ただし、事前にメール等で予約が必要な場合がありますので、注意してください。オフィスアワーについては、UNIVERSAL PASSPORT の「教員時間割表」や、ポータル画面左下の「お気に入り」欄にある「オフィスアワー」で確認することができます。

▶ 授業のない期間に連絡をとりたい場合

授業のない期間（定期試験期間や、夏期・冬期・春期休業期間など）には、教員が必ず学内にいるとは限りません。また、非常勤講師については、原則として大学には出校していません。したがって、教員への連絡・相談は、出来る限り授業期間内にしておいてください。ただし、どうしても連絡が必要な場合は、教務課各学部係窓口にて、「教員連絡依頼書」を提出することができます。

教員連絡依頼書

直接連絡がとれない場合に限り、教員宛に提出できる通信文書です。提出された教員連絡依頼書は、教務課より教員へ転送されます。学生は自分の連絡先を記入することができますが、教員が返答をおこなうかどうかについては、受け取った教員が内容を確認したうえで判断します。

休 講

授業は、大学または担当教員のやむを得ない事情（学会出張、体調不良等）によって休講になることがあります。

休講の通知は原則として１週間前に掲示（学内掲示板[1]・UNIVERSAL PASSPORT[2]）しますが、やむを得ず、当日掲示することもありますので、注意してください。

休講の掲示がなく、授業開始後３０分を過ぎても担当教員が教室に来ない場合は、教務課所属学部係窓口に申し出て指示を受けてください。

▶ 気象警報発令時

（1）午前７時現在、大阪市、北大阪又は東部大阪のいずれかに「暴風警報」、「大雪警報」又は「暴風雪警報」のいずれかが発令中の場合は、全日休講とします。（北大阪とは、豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町のいずれか、東部大阪とは守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四条畷市、交野市のいずれかをいう）

（2）午前７時を過ぎて、上記の気象警報が発令された場合は、その時点でそれ以降の授業は休講とします。

注意「大雨警報」「大雨洪水警報」では授業があります。
なお、他地域の警報発令のため登校不能または遅刻した場合は、速やかに担当教員に直接届け出てください。

▶ 交通機関のストライキ時

午前７時現在、ＪＲ西日本（東海道本線）、阪急電鉄のいずれかがストライキ決行中の場合は、全日休講とします。

なお、他の交通機関がストライキのため登校不能または遅刻した場合は、速やかに担当教員に直接届け出てください。

これ以外の場合でも、予期できない災害等によって休講の措置をとることがあります。大学ＨＰや UNIVERSAL PASSPORT の掲示情報に常に注意してください。

用語解説

1. 学内掲示板
⇒ P. 18 を参照。

2.UNIVERSAL PASSPORT
UNIVERSAL PASSPORT に携帯メールアドレスを登録しておくと、休講情報を確認することができます。詳細は「UNIVERSAL PASSPORT　利用ガイド」を参照してください。

補 講

用語解説

授業が休講となった場合、またはその他の理由により、平常の開講曜日時限以外で授業を行うことを補講といいます。

▶ 授業期間中の補講（５時限目などに実施）

補講を行うことが決まり次第、掲示（学内掲示板[1]・UNIVERSAL PASSPORT[2]）します。

▶ 定期補講（春学期と秋学期の２回決められた期間に実施）

補講時間割発表日に掲示（学内掲示板[1]・UNIVERSAL PASSPORT[2]）します。同一時限に補講が重なった場合は、どちらかを選択し授業を受けてください。

1. 学内掲示板
⇒ P. 18 を参照。

2.UNIVERSAL PASSPORT
UNIVERSAL PASSPORT に携帯メールアドレスを登録しておくと、補講情報を確認することができます。

欠 席

授業の欠席については、事由や期間により教務課またはその他の窓口で取り扱う場合と、直接教員へ申し出る場合があります。定期試験期間中に欠席する場合は、別途手続きが必要です。（P. 110 参照）

▶ 教務課またはその他の窓口で取り扱う場合

以下の場合については、教務課またはその他の部署より担当教員へ欠席に関する通知を行います。

欠席理由	欠席期間	取扱窓口	必要書類
病気・ケガ等	1週間以上	教務課所属学部係	欠席届※ 診断書（期間が明記されているもの）
病気（法定伝染病[1]）	医師が許可するまで	保健室	保健室指定の書類
忌引 （2親等まで[2]の同居者の場合や、一週間以上欠席の場合）	教務課所属学部係に連絡し、指示を受けてください。		
課外活動（大学公認）[3]	必要な期間	学生課 教務課教務係	課外活動による欠席届
教育実習・介護等体験・博物館実習	実習にかかる期間	教務課教務係より担当教員へ通知します。手続き不要ですが、各自で事前に担当教員へ報告しておいてください。	
就職活動	必要な期間	キャリア開発課	就職採用試験等出席証明書[4]
裁判員制度による裁判への参加	必要な期間	教務課所属学部係	裁判所発行の証明書

※欠席届について

病気その他の事情により、引き続き１週間以上欠席する場合に記入する書類です。教務課にありますので、窓口に取りに来れない場合は所属学部係に連絡してください。

欠席届の期間は、診断書等の証明書に記載されている期間を記入してください。

用語解説

1. 法定伝染病
法定伝染病（インフルエンザ等）と診断された場合は、医師の許可が出るまで登校してはいけません。

2. 2親等まで（1親等と2親等）
父・母・祖父・祖母・兄弟姉妹・子・孫

3. 課外活動
大学公認の課外活動については、４単位の科目は７回、１または２単位の科目は３回の欠席カードの提出が認められます。

4. 就職採用試験等出席証明書
キャリア開発課と相手先企業の押印が必要です。

【欠席届】

年　月　日

追手門学院大学　学部長殿

欠　席　届

学部	学部	学科	学科	学年	年	組	組
学籍番号		ﾌﾘｶﾞﾅ 氏名					男 女

※組は経済・経営学部１～２年生のみ

私は　　により　　年　月　日から

年　月　日まで　　日間欠席致します。

（申請者）

住　所〒

TEL（　　）　－

氏　名　　印

教務課受付印

（注意）１．病気の場合は、医師の診断書を添付すること。
２．試験期間中の欠席については、別に試験欠席届を教務課へ提出すること。

▶ 担当教員へ直接申し出る場合

欠席理由	欠席期間	手続きの方法
病気・ケガ等	１週間未満	できるだけ診断書等を添えて、各自で担当教員に直接申し出てください。
交通機関遅延 （公共交通機関、スクールバス）	遅延があった日	交通機関の発行する遅延証明書を添えて、各自で担当教員に直接申し出てください。

学 籍

用語解説

▶ 学籍番号

新入生には、入学時に学籍番号が与えられます。学籍番号とは、学生証に印字されている７桁の番号です。通常、卒業するまで変更することはありません。卒業後においても証明書等の申請の際に必要です。

学内の事務処理は、全て学籍番号によって行われます。正確に記憶し、記入の際には省略することのないようにしてください。

学籍番号は、次のような意味を持っています。

例）2011 年度入学経済学部ヒューマンエコノミー学科の学生の場合

11EH789

１１・・・ 入学年度（西暦下２桁）
Ｅ・・・・ 学部記号
Ｈ・・・・ 学科記号
789・・・ 個人番号

経　済　学　部	E	経済学科	E
		ヒューマンエコノミー学科	H
経　営　学　部	M	経営学科	M
		マーケティング学科	A
心　理　学　部	P	心理学科	P
社　会　学　部	F	社会学科	S
国際教養学部	C	アジア学科	A
		英語コミュニケーション学科	E

▶ 学生証の常時携帯（不携帯や紛失に注意）

学生証は、本学の学生であることを証明する大事なものです。学内はもちろん、学外においても常時携帯し、いつでも呈示できるようにしてください。定期試験を受験する場合、携帯していなければ受験できなくなるなど、不利益を被ることがあります。紛失した場合は再発行の手続き費用（３，０００円）が必要です。

▶ 学籍情報の変更

現住所・電話番号（携帯番号）または保護者の住所・電話番号（携帯番号）が変更になった場合は、速やかに UNIVERSAL PASSPORT で変更してください。「改姓・改名」、「転籍」、「保護者の異動（死亡など）」があった場合は、学生課窓口で手続きを行ってください。

これらの変更が遅れると大学から皆さんへの連絡ができず、さまざまな面で支障をきたす恐れがありますので、速やかに変更手続きを行ってください。

▶ 修業年限

学部の修業年限は４年とし、在学できる年限は８年を越えることはできません。
編入学や再入学による入学の場合は、教務課で確認してください。

▶ 授業料等納付

授業料等の納付は春学期（４月２６日まで）および秋学期（９月２６日まで）の２回に分けて納付することとなっています。（２６日が金融機関営業日でないときは翌営業日まで）また、実験実習費は春学期の授業料とともに年額を納付しなければなりません。

納付期限に遅れると除籍（P. 32 参照）となります。期限内に納付が困難な場合、延納・分納の制度がありますので、詳細は財務課（P. 39 参照）まで問い合わせてください。申請手続き期間については、財務課掲示板に掲示します。

▶ 奨学金制度

奨学金制度は、経済的な理由で修学に支障をきたす場合、一定の金額を貸与・給付することにより、経済的な負担を軽減することを目的としたものです。

日本学生支援機構、各種民間育英団体のほか、本学独自の各種奨学金、教育後援会の奨学金のほか卒業生保護者の会からの奨励金などがあります。また、修学途中で家計が急変したり、災害に遭われた場合の学費支援制度については、学生課（P. 39 参照）へ問い合わせてください。

奨学金の募集については、説明会の開催等その都度学生課掲示板に掲示します。

休 学

やむを得ない理由[1]で引き続き６ヶ月以上修学できない場合は、保証人連署の上「休学願」（教務課備付）を提出し、教授会の承認を得て休学することができます。

「休学願」は、教務課所属学部係窓口で取り扱います。事情により来学できない場合は、電話連絡の上、簡易書留[2]で郵送してください。

病気による休学は医師の診断書が必要です。

▶ 休学期間と「休学願」の提出期限

休学の期間は、引き続き２年、通算３年までです。期間が年度をまたぐ場合[3]は、改めて休学願を提出し、許可を得なければなりません。

（提出期限が休日の場合は、その翌日になります。）

休学期間	提出期限
１年間（４月１日～３月31日）	５月末日
春学期（４月１日～９月20日）	５月末日
秋学期（９月21日～３月31日）	10月末日

提出期限を過ぎた「休学願」は受け付けません。

▶ 休学中の授業料等（期限までに納付しなかった場合、除籍となります。）

休学期間	授業料	実験実習費（心理学科のみ）	施設設備充実資金
１年間（４月１日～３月31日）	免除	免除	年額の２分の１を減額
春学期のみ（４月１日～９月20日） 秋学期のみ（９月21日～３月31日）	免除	年額の２分の１免除	年額の４分の１を減額

ただし、入学年度における休学については、春学期にかかる免除および減額はされません。

＊授業料等の詳細については、財務課に問い合わせてください。

▶ 休学する場合の注意

- 休学をしていても学年は進級します。また、学科によっては前年度中に演習（ゼミ）授業等の選択を行うことがあります。休学中でも担当教員と連絡を取り、UNIVERSAL PASSPORT の掲示等を確認してください。
- 休学期間中は各種証明書の発行ができませんので、注意してください。
- 休学期間は在学期間に含まれません。卒業のためには、休学期間を除いて通算４年間の在学期間が必要です。
- 休学期間中は、大学の活動（課外活動等）に参加することはできません。

用語解説

1. 休学の理由
一身上の都合、家庭の都合、海外留学、病気療養など。

2. 簡易書留
引き受けから配達までの郵便物等の送達過程を記録されます。郵便局の窓口で手続きしてください。

3. 期間が年度をまたぐ場合
「休学願」を２回提出する必要があります
（例）2011年９月21日～2012年９月20日まで休学する。
⇒（１回目）2011年９月21日～2012年３月31日（秋学期）分の「休学願」を2011年10月末までに提出する。
⇒（２回目）2012年４月１日～2012年９月20日（春学期）分の「休学願」を2012年５月末までに提出する。

用語解説

4.「休学願」の記入押印

本人記入欄・保証人記入欄それぞれ自署のうえ、別々の印鑑を押してください。

【休学手続きの流れ】

(1) 担当教員に相談する
(2) 教務課所属学部係窓口で「休学願」を受け取り、記入押印[4]する。
(3) 教務課所属学部係窓口に「休学願」を提出する（期限厳守）
(4) 担当教員から保証人に「休学願」について確認の連絡
(5) 教授会にて審議・承認
(6)「休学許可書」を教務課より簡易書留で保証人宛に郵送

【休学願】

休　　学　　願

追手門学院大学　　学部長殿

年　月　日

学部	学部	学科	学科	学年	年	組	組
学籍番号		ﾌﾘｶﾞﾅ 氏　名					男・女

※組は経済・経営学部1～2年生のみ

私は　　により　　年　　月　　日より

年　　月　　日まで　　間休学いたしたく保証人連署の上

お願いいたします。

本　人
〒
住　所
TEL（　　）　　－
氏　名　　印

保証人（父母）
〒
住　所
TEL（　　）　　－
氏　名　　印

注意：病気の場合は医師の診断書を添えること。

教務課記入欄			
点検	許可書	確定	先付

担当教員

※休学期間の記入について

休学期間については、必ず下記の日付を記入してください。

1年間	4月1日から翌年3月31日まで
春学期のみ	4月1日から9月20日まで
秋学期のみ	9月21日から翌年3月31日まで

復 学

休学の事由が解消し再び修学する場合は、保証人連署の上「復学願」（教務課備付）を提出し、教授会の承認を得て復学することができます。

「復学願」は、休学期間が終了する１か月前に教務課から郵送しますので、決められた期限までに提出してください。事情により来学できない場合は、電話連絡の上、簡易書留[1]で郵送してください。

病気休学で復学する場合は、医師の健康診断書その他事由解消の説明書が必要です。

年度始めに復学する場合は、３月末のオリエンテーションに参加してください。

【復学手続きの流れ】

(1)「復学願」を受け取り記入押印[2]する（教務課から郵送されます）
(2) 教務課所属学部係窓口に「復学願」を提出する（期限厳守）
(3) 教授会にて審議・承認
(4)「復学許可書」を教務課より簡易書留で保証人宛に郵送
(5) 授業料等を納付（期限厳守）

【復学願】

復　　学　　願

追手門学院大学　　学部長殿

年　　月　　日

学部	学部	学科	学科	学年	年	組	組
学籍番号		ﾌﾘｶﾞﾅ 氏　名					男・女

※組は経済・経営学部1～2年生のみ

私は　　により　　年　　月　　日より

年　　月　　日まで休学中のところ事由解消しましたので、

年　　月　　日より復学いたしたく保証人連署の上お願いいたします

本　　人
〒
住　所
ＴＥＬ（　　）　　－
氏　名　　印

保証人（父母）
〒
住　所
ＴＥＬ（　　）　　－
氏　名　　印

注意：病気休学中の場合は医師の健康診断書その他事由解消の説明書を添えること。

教務課記入欄			
点検	許可書	確定	先付

担当教員

用語解説

1. 簡易書留
引き受けから配達までの郵便物等の送達過程が記録されます。郵便局の窓口で手続きしてください。

2.「復学願」の記入押印
本人記入欄・保証人記入欄それぞれ自筆のうえ、別々の印鑑を押してください。

退 学

退学する場合は、理由[1]を明記し保証人連署の上「退学願」（教務課備付）を提出し、教授会の承認を得て退学が許可されます。

「退学願」は、教務課所属学部係窓口で取り扱います。事情により来学できない場合は、電話連絡の上、簡易書留[2]で郵送してください。

退学が許可された際は、学生証を必ず返却しなければなりません。

また、次の手続きをしてください。

(1) 奨学金を受けている場合は、学生課へ連絡してください。

(2) 図書館で本を借りている場合は、返却してください。

▶ 退学日付と「退学願」の提出期限

（提出期限が休日の場合は、その翌日になります。）

退学日付	提出期限
春学期末（9月20日）	11月末日
学年末（3月31日）	5月末日

※提出期限を過ぎた「退学願」は受け付けません。

用語解説

1. 退学の理由

一身上の都合、家庭の都合、他大学入学、進路変更、就職など。

2. 簡易書留

引き受けから配達までの郵便物等の送達過程が記録されます。郵便局の窓口で手続きしてください。

【退学手続きの流れ】

（1）担当教員に相談する
（2）教務課所属学部係窓口で「退学願」を受け取り記入押印[3]する
（3）教務課所属学部係窓口に「退学願」を提出する（期限厳守）
（4）担当教員から保証人に「退学願」について確認の連絡
（5）教授会にて審議・承認
（6）「退学許可書」を教務課より簡易書留で保証人宛に郵送

【退学願】

退　　学　　願

追手門学院大学長殿

年　　月　　日

学部	学部	学科	学科	学年	年
学籍番号		フリガナ 氏　名			男・女

私は　　により　　年　　月　　日をもって

退学いたしたく保証人連署の上お願いいたします。

本　　人
〒
住　所
TEL（　　）　　－
氏　名　　印

保証人（父母）
〒
住　所
TEL（　　）　　－
氏　名　　印

担当教員	教務課	学生課

※退学日の記入について

退学日については、必ず下記の日付を記入してください。

春学期末退学	9月20日
秋学期末退学	3月31日

用語解説

3.「退学願」の記入押印
本人記入欄・保証人記入欄それぞれ自署のうえ、別々の印鑑を押してください。

除 籍

用語解説

除籍とは本学学生の身分を失うことであり、次に該当する場合に除籍対象者となります。教授会の承認を得て、「除籍通知書」を教務課より簡易書留で郵送します。

(1) 在学８年を超える学生
(2) 休学期間が通算３年を超える学生
(3) 疾病その他の事故により成業の見込みがないと認められる学生
(4) 授業料等その他学費を督促しても期限までに納付しない学生 [1]

また、分納・延納手続者についても、春学期（6 月 26 日まで）、および秋学期（11 月 26 日まで）に授業料等を納付しなかった場合、除籍対象者となりますので注意してください。（２６日が金融機関営業日でないときは翌営業日まで）

1. 授業料未納により除籍になった場合

（4）により除籍になった場合は、授業料等を期日までに納入することにより除籍取消をすることができます。詳細は次ページを参照してください。

除籍取消

授業料等未納によって除籍された学生が除籍取消を希望する場合は、期限までに授業料等を速やかに納付し、学生納付金領収書のコピーとともに「除籍取消願」（教務課備付）を教務課所属学部係に提出してください。事情により来学できない場合は、電話連絡の上、簡易書留[1]で郵送してください。

教授会の承認を得て、除籍の取消を行います。

▶「除籍取消願」と「学生納付金領収書のコピー」の提出期限

（提出期限が休日の場合は、その翌日になります。）

	提出期限
春学期分授業料等	９ 月 ５ 日
秋学期分授業料等	２ 月 末 日

※提出期限を過ぎると除籍の取消はできなくなります。学業を続ける場合は、再入学[2]の方法しかありませんので、十分注意してください。

なお、修学の意思はあるが、やむを得ない理由で除籍された学生については、上記提出期限まで引き続き授業等を受講することができますが、除籍取消の手続きが終了するまでは、学割や証明書等の発行が受けられない等、不利益を被ることがありますので、早急に前述の取消手続きを行ってください。

用語解説

1. 簡易書留
引き受けから配達までの郵便物等の送達過程が記録されます。郵便局の窓口で手続きしてください。

2. 再入学
⇒ P. 36 を参照。

用語解説

3.「除籍取消願」の記入押印

本人記入欄・保証人記入欄それぞれ自署のうえ、別々の印鑑を押してください。

【除籍取消手続きの流れ】

(1) 期限までに授業料等を納付し、「学生納付金領収書」のコピーを取る
(2)「除籍取消願」を記入押印[3]する
(3) 教務課所属学部係に「除籍取消願」と「学生納付金領収書のコピー」を提出する(期限厳守)
(4) 教授会にて審議・承認
(5)「除籍取消通知書」を教務課より簡易書留で保証人宛に郵送

【除籍取消願】

除　籍　取　消　願

追手門学院大学長殿

年　月　日

学部	学部	学科	学科	学年	年	組	組
学籍番号		フリガナ 氏　名					男・女

※組は経済・経営学部1～2年生のみ

私は　年　月　日付　学則および学部規程により除籍になりましたが事由解消しましたので、何とぞ除籍を取り消して頂きたく保証人連署の上、お願いいたします。

本　人
〒
住　所
TEL (　　)　　-
氏　名　　印

保証人
〒
住　所
TEL (　　)　　-
氏　名　　印

教務課記入欄			
点検	許可書	確定	先付

転学部・転学科

用語解説

在学中に他の学部・学科にかわることを転学部または転学科といいます。

転学部・転学科については、新年度始めにおいて欠員のある第２年次および第３年次の学部・学科に限り、選考の上、許可することがあります。ただし、許可されればその学部・学科のカリキュラムに従って卒業要件単位を修得しなければならないため、入学後の４年間で卒業することが困難になることも考えられます。志願先の教務課各学部係で事前に相談し、十分に理解した上で出願するようにしてください。

出願については、１月上旬に転学部・転学科についての案内を掲示し、「出願要項」を配布しています。

【転学部・転学科手続きの流れ】

(1) 教務課各学部係窓口で「出願要項」を受け取る
(2)「転学部・転学科願」を記入する
(3) 教務課各学部係窓口に「転学部・転学科願」を提出する（締切厳守・郵送不可）
(4) 選考を受ける
(5)「選考結果通知書」を教務課より簡易書留で郵送
(6) ＜合格の場合＞３月末のオリエンテーションに参加する
（オリエンテーション開始前に教務課へ来ること）

再入学

用語解説

退学者および除籍者（在学８年を超え除籍された学生を除く）が、同一学科に再入学を志願する場合は、退学又は除籍後２年以内に限り定められた期間内に「再入学願」（教務課備付）を提出すれば選考の上、許可することがあります。再入学の時期は、毎学年の初め（４月１日）です。

出願については、１月上旬に再入学についての案内を掲示し、「出願要項」を配布しています。

▶ 再入学を許可する学年（新たに学籍番号を付与します。）

退学・除籍日付	学年
３月３１日付	在籍当時（３月３１日時点）の学年の次の学年 [1]
年度途中	在籍当時の学年 [2]

1.在籍当時(3月31日時点)の学年の次の学年
（例）２年生の年度末で退学または除籍となった場合は、３年生となります。

2. 在籍当時の学年
（例）２年生の年度途中で退学または除籍となった場合は、２年生となります。

▶ 既修得科目の単位認定および卒業要件

過去に単位を修得した科目は認定しますが、カリキュラムの改定により、卒業要件が変更されている場合には、再入学許可年次適用の学則、学部規定および学科履修細則に従わなければなりません。

▶ 再入学後の授業料等

許可された再入学年次の納付額となります。そのほかに入学金 50,000 円と諸費用が必要です。詳細は、教務課各学部係まで問い合わせてください。

【再入学手続きの流れ】

(1) 教務課各学部係窓口で「出願要項」を受け取る
(2)「再入学願」を記入し、審査料を振り込む
(3) 教務課･各学部係窓口に「再入学願」と「振込金通知書（申込書）」を提出する（締切厳守）
(4) 選考を受ける（出願書類、面接、筆記試験等）
(5)「選考結果通知書」を教務課より簡易書留で郵送
(6) ＜合格の場合＞入学手続きをする（締切厳守）
(7) ３月末のオリエンテーションに参加する

各種証明書について

用語解説

証明書の発行については、種類により発行窓口、取扱時間、手数料等が異なるので、下表を確認してください。学生証と証明書自動発行機用パスワードが必要です。

履修登録期間、成績処理期間、入学試験を含む大学行事などにより、取り扱いを停止する場合がありますので注意してください。取り扱いを停止する期間については、掲示板やUNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

証明書によっては日数を要するものがあります。十分に余裕をもって窓口に願い出てください。

▶ 証明書自動発行機の設置場所

学内・・・ 1号館1階教務課

学外・・・ サテライトオフィス茨木

茨木市永代町 4-202（阪急茨木市駅前ソシオ2　2階）

サテライトオフィス大手前

大阪市中央区大手前 1-3-20（追手門学院大手前中・高等学校本館6階）

※サテライトオフィスで取り扱う証明書（和文証明書のみ）

学業成績証明書、卒業見込証明書、学業成績・卒業見込証明書、健康診断証明書、卒業証明書

※サテライトオフィスでは学割証は発行できませんので注意してください。

▶ 発行窓口と取扱時間

発行窓口		取扱時間
教務課（1号館1階）	（授業期間中）	平日 9:20 ～ 18:20　土曜日 9:20 ～ 13:00
	（試験期間中）	平日 9:20 ～ 17:00　土曜日 9:20 ～ 13:00
	（夏期･冬期休業中）	平日 9:20 ～ 17:00
	（春期休業中）	平日 9:20 ～ 17:00　土曜日 9:20 ～ 13:00
サテライトオフィス茨木		平日 10:00 ～ 18:30　※土曜日 10:00 ～ 13:00
サテライトオフィス大手前		平日 10:00 ～ 18:30　※土曜日 10:00 ～ 13:00

※サテライトオフィスについては、土曜日は閉室している場合がありますので、事前に問い合わせてください。

▶ 証明書自動発行機で取得できる証明書

種別	種類	手数料	担当部署	摘要
証明書	学業成績証明書	200 円＊	教務課	
	学業成績・卒業見込証明書	400 円	教務課	備考 (1) 参照
	卒業見込証明書	200 円＊	教務課	備考 (2) 参照
	健康診断証明書	200 円	保健室	備考 (3) 参照
	在学証明書	200 円＊	学生課	
	通学証明書	無料	学生課	窓口で発行します
	学割証 （学校学生生徒旅客運賃割引証）	無料	学生課	年間 10 枚 （1 日 2 枚まで）
	履修（単位修得見込）証明書	200 円	教務課	
	履修確認書※	200 円	教務課	※証明書ではありません
	教員免許状取得見込証明書	200 円	教務課	
	修了見込証明書	200 円＊	教務課	大学院

＊それぞれ英文証明書の場合、手数料は１通５００円です。

▶ 証明書自動発行機で交付願を出力し、窓口で取得する証明書

種別	種類	手数料	担当部署	摘要
交付願	学芸員資格取得見込証明書	200 円	教務課	
	社会教育主事単位修得見込証明書	200 円	教務課	
	研究内容証明書	200 円	教務課	
	追試験願	500 円	教務課	備考 (4) 参照
	指定用紙健康診断書	200 円	保健室	
	調査書	200 円	教務課	備考 (5) 参照
	その他和文証明書	200 円	教務課	
	その他英文証明書	500 円	教務課	
	学生証再交付願	3,000 円	学生課	備考 (6) 参照

備考

(1) 学業成績・卒業見込証明書は、学業成績と卒業見込の両方が記載された証明書です。
(2) 卒業見込証明書は、４年生以上で卒業見込要件を満たしている場合のみ発行可。
(3) 定期健康診断受検者のみ発行可。
(4) 教務課教務係で説明を受けてから発行してください（１科目につき５００円）。
(5) 指導教員の署名・押印を事前にもらったうえで申し込むこと。
(6) 学生課で学生証再発行用 IC カードを受け取り、交付願を発行してください。

問合せ先一覧

部署名	電話番号	場所
教務課　教務係	072-641-9614	1号館　1階
経済学部係	072-641-9616	
経営学部係	072-641-9617	
心理学部係	072-641-9618	
社会学部係	072-641-9153	
国際教養学部係	072-641-9620	
学生課	072-641-9627	
保健室	072-641-9630	研究棟　1階
学生相談室	072-641-9628	2号館　1階
学習支援・教育開発センター	072-641-9671	中央棟　2階
総合情報教育センター	072-641-9635	5号館　4階
国際交流教育センター	072-641-9631	1号館　地下1階
図書館	072-641-9640	図書館
キャリア開発課	072-641-9632	1号館　1階
サテライトオフィス茨木	072-621-6015	阪急茨木市駅前　ソシオ2　2階
サテライトオフィス大手前	06-6942-7700	大阪城スクエア
財務課	072-641-9611	1号館　2階
総務課	072-641-9608	
庶務課	072-641-9668	
管財課	072-641-9612	

用語解説

授　業

授業について　P. 42
シラバス　P. 44
卒業に必要な単位　P. 46
共通科目　P. 55
学科科目　P. 63
副専攻　P. 92

授業について

用語解説

1. 履修登録について
⇒ P. 101 を参照

2. 教務課窓口での問い合わせ
⇒ P. 19 を参照

3. 行事予定
行事予定は、UNIVERSAL PASSPORT で確認することができます。

大学の授業は、高等学校までの授業とは大きく異なります。まず、大学では自分自身で「どの授業を受けるか」を選択し、履修登録[1]を行います。同じ学科、同じ学年でも、選ぶ授業によって時間割は違ってきます。

大学の授業はいくつかの種類に分けることができ、例えば「講義科目」では、大きな教室で数百人という受講生が集まる授業もあります。逆に、少人数の授業で受講生がそれぞれテーマを持って意見交換をしたり発表をしたりする「演習科目」や、より実践的な実習を行う「実習科目」などがあります。これらの授業を受講する場合は、積極的に授業へ参加する姿勢や、自分から内容を理解しようとする姿勢が重要です。また、休まずに授業に出席することも重要です。

▶ 授業期間

大学では、4月1日から翌年3月31日までを1年間の授業期間としており、春学期（4月1日～9月20日）と秋学期（9月21日～3月31日）に分かれています。

1年の間には、「夏期休業」「冬期休業」「春期休業」がそれぞれ定められており、この期間は授業や試験はありませんが、成績の発表や集中講義などが行われます。また、窓口業務の時間[2]も変わります。

学期ごとの授業開始日･授業終了日や、休業期間については、年度ごとに異なります。毎年、年度始めに発表される「行事予定[3]」を確認してください。

▶ 授業時間

大学の授業は1時限＝90分です。本学では1限から5限まであり、それぞれの開講時間は次のとおりです。

時限	授業時間
1時限	9:30 ～ 11:00
2時限	11:10 ～ 12:40
（昼休み）	12:40 ～ 13:20
3時限	13:20 ～ 14:50
4時限	15:00 ～ 16:30
5時限	16:40 ～ 18:10

▶ 休講、補講および教室変更について

大学または担当教員のやむを得ない事情により、授業が休講となることがあります。休講となった回の授業については、後日補講を行うことがあります。

→休講・補講については、P. 21、P. 22 を参照してください。

なお、交通機関のストライキや気象警報発令、災害等により休校となることもあります。

また、授業が行われる教室は変更となることがあります。一回の授業のみ教室が変更になる場合や、以降の授業すべて変更になる場合がありますので、教室変更の通知をよく確認してください。

休講・補講・教室変更については、事前または当日に、掲示板[4]および UNIVERSAL PASSPORT にてお知らせしますので、確認してから授業へ出席してください。

用語解説

4. 大学からの連絡
⇒ P. 18 を参照

▶ 授業を欠席する場合

大学での学修においては、すべての授業に出席しなければなりません。授業回数の３分の１以上欠席した場合は、単位が認められない場合があります。

病気やケガ、公共交通機関の遅れなどやむを得ない事情により授業を欠席する場合は、手続きが必要な場合です。

→手続きの詳細については、P. 23 ～ P. 24 を参照してください。

シラバス

用語解説

▶ シラバスとは？

大学の授業科目には、それぞれシラバスが公開されています。シラバスとは、その授業の内容や進め方について、詳細に記したものです。シラバスには、授業の担当教員名や単位数などの他、次のような事項が記載されています。

- その授業のテーマ
- 到達目標（この授業を受ける場合の目標）
- 講義概要（どういうことを学ぶのか）
- 授業計画（毎回の授業をどのように進めていくのか）
- 準備学習の内容
- 受講前、受講後または同時に受けたほうがよい他の授業
- 評価方法（試験やレポート、小テストなど、どのような基準で評価が決まるのか）
- 使用するテキスト（教科書）や、参考図書

授業科目名	英文学概論1	単位数	2
担当者	追大　太郎		
開講学期	春学期	授業形態	週間授業
開講年度	2011	授業コード	7080

テーマ	映像などの媒体を通じて、19世紀までの英文学の代表的作家と作品の特徴などを大雑把に理解する。
到達目標	英国の代表的な文学作品の特徴を把握し、その大雑把な特徴を説明できるようになることを目標とする。
講義概要	19世紀までの英国の代表的でポピュラーな文学作品を通じて、文学作品の生まれた社会的背景を紹介し、英文学に通底する様々な特性を考察する。そのため本科目で取り上げる文学作品の特徴に関連して、悲劇、喜劇、詩、宮廷文学、小説、風刺文学、短編小説、ゴシック小説、自叙伝形式などのあらましを概観する。 具体的には、上記の文学作品の特徴である、ゲルマン民族に見られる戦士の文化、カンタベリーへの巡礼の語る物語の特徴、悲劇の要因と和解、孤島での冒険物語『ロビンソン・クルーソー』の意味合い、風刺小説『ガリバー旅行記』、『第一印象』と名付けられた『自負と偏見』の語り口と書簡の使用の問題、『フランケンシュタイン』の中心的イメージ、『クリスマス・キャロル』に見られるクリスマス精神、ブロンテ姉妹に見られる人間観と自然観、推理小説の女主人公の残虐性と堕落、『北部と南部』に見られる労働者と社会問題などを通観する。
授業計画	第1回　授業紹介 第2回　Beowulf/The Canterbury Tales 第3回 Romeo and Juliet 第4回　Robinson Crusoe 第5回 Gulliver's Travels 第6回　Frankenstein 第7回　A Christmas Carol 第8回　Jane Eyre 第9回　Wuthering Heights 第10回　North and South 第11回　Pride and Prejudice 第12回　Basil 第13回　Alice's Adventures in Wonderland 第14回　まとめ
準備学習の内容	百科事典などで英国の文学の概要を調べ、おおまかな傾向を知る。あるいは代表的な作品で映画化されたものを観たりする。また、シラバスの「授業計画」の内容をあらかじめ調べておく。
関連講義	英米の文化・文学1A
評価方法	平常点、課題、試験を勘案して評価する。 〈平常点15% 課題15%　試験70%〉
テキスト	John Dougill, Popular Classics of English Literature〈英宝社〉
参考書	その都度プリントに掲載する。

▶ シラバスの見方

シラバスは、UNIVERSAL PASSPORT から確認することができます。

検索画面で、授業科目名や担当教員名を入力して検索することができます。検索機能の詳しい使い方については、新入生オリエンテーションで配布される『UNIVERSAL PASSPORT 利用ガイド』を参照してください。

▶ シラバスの使い方

シラバスを読むことによって、授業の詳細な内容を事前に知ることができます。「どの授業を履修するか」を決定する際に、シラバスでその授業の概要やテーマをよく確認して、授業を選択する参考にしてください。

卒業に必要な単位

用語解説

1. 学位について
⇒P. 12 を参照

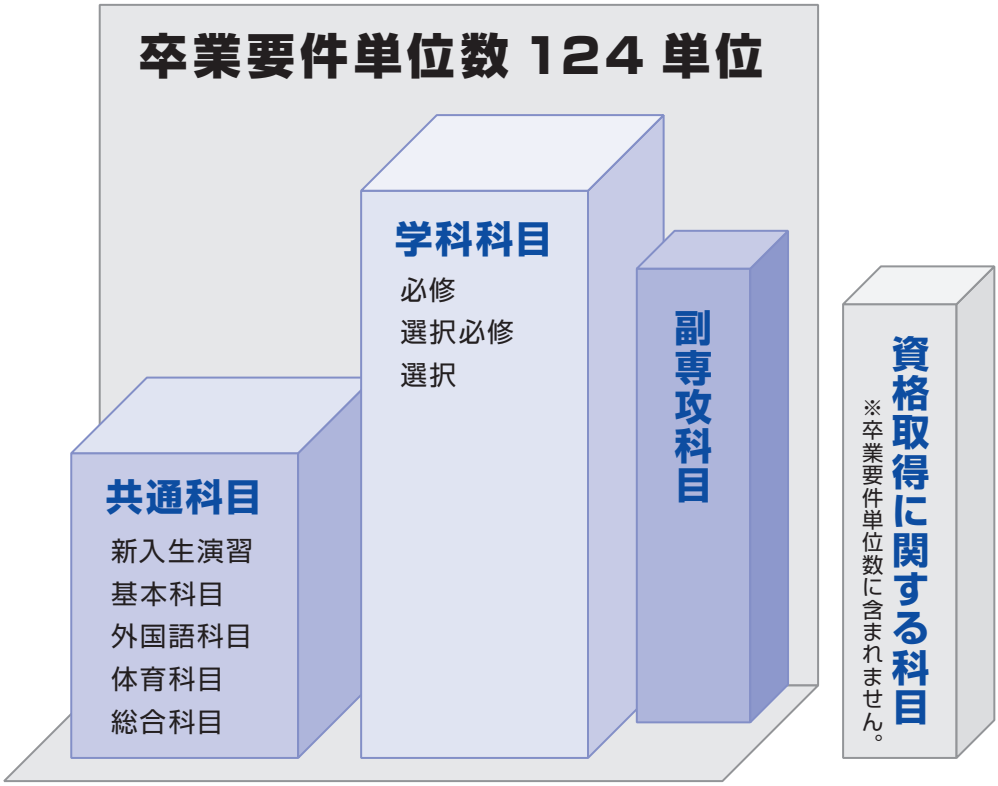
▶ 卒業要件単位数

大学を卒業して学位[1]を得るためには、４年以上在学していることの他、卒業するために必要と定められたとおりに単位を修得しなければなりません。これを「卒業要件単位数」といいます。

卒業要件単位数は、いずれの学部でも、合計で 124 単位と定められています。

ただし、各学部・学科ごとのカリキュラムに設けられた科目は分類され、さらに細かい要件が定められています。科目の分類は、全学部共通で開講される科目群である「共通科目」と、学科ごとにそれぞれ開講される「学科科目」とに大きく分けられます。

卒業要件単位数について、次のようなイメージで、それぞれ分類ごとの単位数を積み上げることにより卒業を目指します。



学科ごとの卒業要件単位数の詳細については、次ページ以降を参照してください。

▶ 学科ごとの卒業要件単位数

＜経済学部経済学科＞

<table>
<tr><th>履修区分</th><th>授業科目</th><th>分野</th><th colspan="3">卒業に必要な単位数</th></tr>
<tr><td>必修</td><td>学科科目</td><td>経済学</td><td>16 単位</td><td rowspan="10">76 単位以上</td><td rowspan="15">124 単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">選択・A</td><td rowspan="3">学科科目</td><td>経済理論・経済史</td><td rowspan="3">28 単位以上</td></tr>
<tr><td>経済政策</td></tr>
<tr><td>数理・情報</td></tr>
<tr><td rowspan="6">選択・B</td><td rowspan="6">学科科目</td><td>経済理論・経済史</td><td rowspan="6">選択のＡ・Ｂを合わせて 60 単位以上</td></tr>
<tr><td>経済政策</td></tr>
<tr><td>数理・情報</td></tr>
<tr><td>特殊講義</td></tr>
<tr><td>法学</td></tr>
<tr><td>経営学</td></tr>
<tr><td>全履</td><td></td><td>新入生演習</td><td colspan="2">全員履修科目（卒業に必要な単位として認める）</td></tr>
<tr><td rowspan="9">選択・C</td><td>基本科目</td><td></td><td colspan="2">12 単位以上
「キャリアデザイン論」は１年次に全員履修とする</td></tr>
<tr><td rowspan="5">外国語科目</td><td>英語</td><td rowspan="5" colspan="2">いずれか 1 の外国語 8 単位以上</td></tr>
<tr><td>ドイツ語</td></tr>
<tr><td>フランス語</td></tr>
<tr><td>中国語</td></tr>
<tr><td>日本語</td></tr>
<tr><td rowspan="2">体育科目</td><td>講義</td><td rowspan="2" colspan="2">2 単位以上</td></tr>
<tr><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="5">総合科目</td><td>追大ＵＩ科目</td><td colspan="2">卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td>追大プロジェクト科目</td><td colspan="2">最大 8 単位までを卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td>国際交流科目</td><td colspan="2">最大 4 単位までを卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td colspan="3">別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td colspan="3">大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める</td></tr>
</table>

【外国人および帰国生徒のうち指定された学生のみ】

基本科目 12 単位のうち8単位は、日本事情 1・2・3・4 を修得すること。

外国語科目は、日本語8単位を修得すること。

副専攻 [1]

授業科目	分野	必要な単位数
副専攻科目	履修可能な副専攻については別に定める	20 単位までを卒業に必要な単位として認める

用語解説

1. 副専攻

⇒ P. 92 を参照。

授業

用語解説

＜経済学部ヒューマンエコノミー学科＞

<table>
<tr><th>履修区分</th><th>授業科目</th><th>分野</th><th colspan="3">卒業に必要な単位数</th></tr>
<tr><td>必修</td><td>学科科目</td><td>経済学</td><td colspan="2">16 単位</td><td rowspan="7">76 単位以上</td><td rowspan="14">124 単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">選択・A</td><td rowspan="4">学科科目</td><td>経済理論・経済史</td><td rowspan="4">28 単位以上</td><td rowspan="10">選択のA・Bを合わせて 60 単位以上</td></tr>
<tr><td>経済政策</td></tr>
<tr><td>数理・情報</td></tr>
<tr><td>法学</td></tr>
<tr><td rowspan="6">選択・B</td><td rowspan="6">学科科目</td><td>経済理論・経済史</td></tr>
<tr><td>経済政策</td></tr>
<tr><td>数理・情報</td></tr>
<tr><td>特殊講義</td></tr>
<tr><td>法学</td></tr>
<tr><td>経営学</td></tr>
<tr><td>全履</td><td></td><td>新入生演習</td><td colspan="2">全員履修科目（卒業に必要な単位として認める）</td></tr>
<tr><td rowspan="9">選択・C</td><td>基本科目</td><td></td><td colspan="2">12 単位以上
「キャリアデザイン論」は 1 年次に全員履修とする</td></tr>
<tr><td rowspan="5">外国語科目</td><td>英語</td><td colspan="2" rowspan="5">いずれか 1 の外国語 8 単位以上</td></tr>
<tr><td>ドイツ語</td></tr>
<tr><td>フランス語</td></tr>
<tr><td>中国語</td></tr>
<tr><td>日本語</td></tr>
<tr><td rowspan="2">体育科目</td><td>講義</td><td colspan="2" rowspan="2">2 単位以上</td></tr>
<tr><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="4">総合科目</td><td>追大ＵＩ科目</td><td colspan="2">卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td>追大プロジェクト科目</td><td colspan="2">最大 8 単位までを卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td>国際交流科目</td><td colspan="2">最大 4 単位までを卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td colspan="3">別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td colspan="3">大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める</td></tr>
</table>

【外国人および帰国生徒のうち指定された学生のみ】

基本科目 12 単位のうち8単位は、日本事情 1・2・3・4 を修得すること。

外国語科目は、日本語8単位を修得すること。

副専攻 [1]

授業科目	分野	必要な単位数
副専攻科目	履修可能な副専攻については別に定める	20 単位までを卒業に必要な単位として認める

1. 副専攻

⇒ P. 92 を参照。

＜経営学部経営学科＞

履修区分	授業科目	分野	卒業に必要な単位数		
全履		新入生演習			
必修	学科科目	学科基礎Ａ	16 単位	76 単位以上	124 単位以上
		演習	12 単位		
選択必修	学科科目	学科基礎Ｂ	セットで 8 単位以上		
選択	学科科目	経営学	選択必修・選択を合わせて 48 単位以上		
		会計学			
		法学			
		経営外国語			
		経営特殊講義			
		経済学			
		マーケティング学科開講科目	30 単位までを卒業に必要な単位として認める		
	共通科目	基本科目	12 単位以上「キャリアデザイン論」は 1 年次に全員履修とする		
		外国語科目	英・独・仏・中国語から選択して 6 単位以上。		
		体育科目	2 単位以上		
		総合科目：追大ＵＩ科目			
		総合科目：追大プロジェクト科目	最大 8 単位までを卒業に必要な単位として認める		
		総合科目：国際交流科目	最大 4 単位までを卒業に必要な単位として認める		
		総合科目：別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める			
		総合科目：大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める			

【外国人および帰国生徒のうち指定された学生のみ】

基本科目 12 単位のうち8単位は、日本事情 1・2・3・4 を修得すること。

外国語科目は、日本語 6 単位を修得すること。

副専攻 [1]

授業科目	分野	必要な単位数
副専攻科目	履修可能な副専攻については別に定める	20 単位までを卒業に必要な単位として認める

用語解説

1. 副専攻

⇒ P. 92 を参照。

用語解説

＜経営学部マーケティング学科＞

履修区分	授業科目	分野		卒業に必要な単位数		
全履		新入生演習				
必修	学科科目	学科基礎Ａ		16 単位	76 単位以上	124 単位以上
		演習		12 単位		
選択必修	学科科目	学科基礎Ｂ		セットで８単位以上		
選択	学科科目	国際マーケティング		選択必修・選択を合わせて 48 単位以上		
		情報マーケティング				
		起業マーケティング				
		マーケティング特殊講義				
		経営外国語				
		地域経済論				
		経営学科開講科目		30 単位までを卒業に必要な単位として認める		
	共通科目	基本科目		12 単位以上「キャリアデザイン論」は１年次に全員履修とする		
		外国語科目		英・独・仏・中国語から選択して６単位以上。		
		体育科目		２単位以上		
		総合科目	追大ＵＩ科目			
			追大プロジェクト科目	最大８単位までを卒業に必要な単位として認める		
			国際交流科目	最大４単位までを卒業に必要な単位として認める		
			別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は最大４単位まで卒業に必要な単位として認める			
			大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位は最大４単位まで卒業に必要な単位として認める			

【外国人および帰国生徒のうち指定された学生のみ】

基本科目 12 単位のうち８単位は、日本事情１・２・３・４を修得すること。

外国語科目は、日本語６単位を修得すること。

1. 副専攻

⇒ P. 92 を参照。

副専攻 [1]

授業科目	分野	必要な単位数
副専攻科目	履修可能な副専攻については別に定める	20 単位までを卒業に必要な単位として認める

＜心理学部心理学科＞

<table>
<tr><th>履修区分</th><th>授業科目</th><th colspan="2">分野</th><th colspan="2">卒業に必要な単位数</th></tr>
<tr><td>全員履修</td><td>共通科目</td><td colspan="2">新入生演習</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>必修</td><td>学科科目</td><td colspan="2">研究</td><td>４単位</td><td rowspan="13">66 単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="12">選択必修</td><td rowspan="12">学科科目</td><td colspan="2">総合科目</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="5">概論科目</td><td>一般心理学系</td><td rowspan="5">14 単位以上</td></tr>
<tr><td>認知・脳科学系</td></tr>
<tr><td>生涯発達・生涯教育心理学系</td></tr>
<tr><td>臨床心理学系</td></tr>
<tr><td>社会・犯罪系</td></tr>
<tr><td colspan="2">特講</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">ライフスタイル演習</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">演習系</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">特殊演習</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">実践演習</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">研究法・技法</td><td>６単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">講読</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td>選択</td><td>学科科目</td><td colspan="2">卒業論文</td><td colspan="2">124 単位以上</td></tr>
<tr><td>選択</td><td>学科科目</td><td colspan="2">他学部開講科目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">選択必修</td><td rowspan="3">共通科目</td><td colspan="2">基本科目</td><td colspan="2">16 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">外国語科目</td><td colspan="2">英語・ドイツ語・フランス語・中国語の中から、４単位以上を修得すること</td></tr>
<tr><td colspan="2">体育科目</td><td colspan="2">２単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="5">選択</td><td rowspan="5">共通科目</td><td rowspan="5">総合科目</td><td>追大ＵＩ科目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>追大プロジェクト科目</td><td colspan="2">最大８単位までを卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td>国際交流科目</td><td colspan="2">最大４単位までを卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td colspan="3">別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は最大４単位まで卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td colspan="3">大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位は最大４単位まで卒業に必要な単位として認める</td></tr>
</table>

【外国人および帰国生徒のうち指定された学生のみ】

基本科目 16 単位のうち８単位は、日本事情１・２・３・４を修得すること。

外国語科目は、日本語４単位を修得すること。

＜社会学部社会学科＞

<table>
<tr><th colspan="2">履修区分</th><th colspan="2">分野</th><th colspan="3">卒業に必要な単位数</th></tr>
<tr><td>全員履修</td><td>共通科目</td><td colspan="2">新入生演習</td><td colspan="3" rowspan="15">124 単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">必修</td><td rowspan="2">学科科目</td><td colspan="2">演習</td><td>14 単位</td><td rowspan="8">66 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業論文</td><td>6 単位</td></tr>
<tr><td rowspan="6">選択必修</td><td rowspan="6">学科科目</td><td colspan="2">入門科目</td><td>4 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">実践科目</td><td rowspan="5">46 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">理論科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">現代文化群</td></tr>
<tr><td colspan="2">人間関係群</td></tr>
<tr><td colspan="2">社会環境群</td></tr>
<tr><td>選択</td><td>学科科目</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">選択必修</td><td rowspan="3">共通科目</td><td colspan="2">基本科目</td><td colspan="2">16 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">外国語科目</td><td colspan="2">英語・ドイツ語・フランス語・中国語の中から、4 単位以上を修得すること</td></tr>
<tr><td colspan="2">体育科目</td><td colspan="2">2 単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="5">選択</td><td rowspan="5">共通科目</td><td rowspan="5">総合科目</td><td>追大ＵＩ科目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>追大プロジェクト科目</td><td colspan="2">最大 8 単位までを卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td>国際交流科目</td><td colspan="2">最大 4 単位までを卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td colspan="3">別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td colspan="3">大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める</td></tr>
</table>

【外国人および帰国生徒のうち指定された学生のみ】

基本科目 16 単位のうち8単位は、日本事情 1・2・3・4 を修得すること。

外国語科目は、日本語 4 単位を修得すること。

＜国際教養学部アジア学科＞

<table>
<tr><th>科目</th><th>区分</th><th colspan="2">分類</th><th colspan="2">卒業に必要な単位数</th></tr>
<tr><td rowspan="13">共通科目</td><td>全員履修</td><td colspan="2">新入生演習</td><td colspan="2"></td><td rowspan="16">124 単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="6">選択必修</td><td colspan="2">基本科目</td><td colspan="2">16 単位以上
「キャリアデザイン論」は１年次に全員履修とする</td></tr>
<tr><td rowspan="5">外国語科目</td><td>中国語</td><td colspan="2" rowspan="5">２単位以上</td></tr>
<tr><td>英語</td></tr>
<tr><td>ドイツ語</td></tr>
<tr><td>フランス語</td></tr>
<tr><td>日本語</td></tr>
<tr><td colspan="2">体育科目</td><td colspan="2">２単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="5">選択</td><td rowspan="5">総合科目</td><td>追大ＵＩ科目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>追大プロジェクト科目</td><td colspan="2">最大８単位までを卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td>国際交流科目</td><td colspan="2">最大４単位までを卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td colspan="2">別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は最大４単位まで卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td colspan="2">大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位は最大４単位まで卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td colspan="4">基本科目、外国語科目、体育科目をあわせて 20 単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="7">学科科目</td><td rowspan="2">必修</td><td colspan="2">講義</td><td>４単位</td><td rowspan="2">16 単位</td><td rowspan="7"></td></tr>
<tr><td colspan="2">演習</td><td>12 単位</td></tr>
<tr><td rowspan="3">選択必修</td><td colspan="2">A（専修外国語群）</td><td>専修中国語または専修英語いずれかを選択し 16 単位以上</td><td rowspan="3">46 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">B（卒業論文）（講義科目）</td><td>24 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">C（講義･フィールドワーク科目）</td><td>６単位以上</td></tr>
<tr><td>選択</td><td colspan="2">他学科・他学部開講科目</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="4">演習、講義（現地演習科目を含む）をあわせて 62 単位以上</td></tr>
</table>

【外国人および帰国生徒のうち指定された学生のみ】

基本科目 16 単位のうち８単位は、日本事情１・２・３・４を修得すること。

外国語科目は、日本語８単位を修得すること。

専修外国語群については、学科の指定する専修外国語群から 16 単位を修得すること。

副専攻 [1]

授業科目	分野	必要な単位数
副専攻科目	履修可能な副専攻については別に定める	20 単位までを卒業に必要な単位として認める

用語解説

1. 副専攻

⇒ P. 92 を参照。

用語解説

＜国際教養学部英語コミュニケーション学科＞

科目	区分	分類		卒業に必要な単位数		
共通科目	全員履修	新入生演習				124 単位以上
	選択必修	基本科目		16 単位以上 「キャリアデザイン論」は１年次に全員履修とする		
	選択	外国語科目	中国語			
			英語			
			ドイツ語			
			フランス語			
			日本語			
	選択必修	体育科目		２単位以上		
	選択	総合科目	追大ＵＩ科目			
			追大プロジェクト科目	最大８単位までを卒業に必要な単位として認める		
			国際交流科目	最大４単位までを卒業に必要な単位として認める		
			別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は最大４単位まで卒業に必要な単位として認める			
			大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位は最大４単位まで卒業に必要な単位として認める			
	共通科目を 22 単位以上					
学科科目	必修	日本語能力強化科目		２単位	36 単位	
		専修英語		26 単位		
		演習		８単位		
	選択	卒業論文				
	選択必修	Ａ（実践英語）		８単位以上	20 単位以上	
		Ｂ（講義（現地演習科目含む））		12 単位以上		
	選択	講義［他学部･他学科開講科目］				
	専修英語、日本語能力強化科目、実践英語、演習、講義（現地演習科目含む）をあわせて 56 単位以上					

【外国人および帰国生徒のうち指定された学生のみ】

基本科目 16 単位のうち８単位は、日本事情１・２・３・４を修得すること。
外国語科目は、日本語４単位を修得すること。

1. 副専攻

⇒ P. 92 を参照。

副専攻 [1]

授業科目	分野	必要な単位数
副専攻科目	履修可能な副専攻については別に定める	20 単位までを卒業に必要な単位として認める

共通科目

用語解説

「共通科目」は、全学部共通で開講される授業科目です。卒業要件単位数については、学科ごとに異なりますので、前項（P. 47 ～ P. 54）の各学科の表を確認してください。

▶ 新入生演習

1 年次に全員が履修する演習科目です。これから４年間、大学での学修を行うにあたって必要となる基本的な知識を身につけることを目的とする授業科目です。

授業科目	単位数	配当年次				備考
	全員履修	1	2	3	4	
新入生演習	2	○				

▶ 基本科目

学科ごとの専門分野に関わらず、一般的で様々な分野の知識を広く得るための授業科目です。『言語と文化』『生活と社会』『自然と数理』『日本事情』の４分野に分かれています。

区分	分野	授業科目	単位数		配当年次				備考
			必修	選択	1	2	3	4	
基本科目	言語と文化	日本語の諸相１		2	○	○	○	○	
		日本語の諸相２		2	○	○	○	○	
		アジアの諸文化１		2	○	○	○	○	
		アジアの諸文化２		2	○	○	○	○	
		アジアの社会１		2	○	○	○	○	
		アジアの社会２		2	○	○	○	○	
		アジアと国際社会１		2	○	○	○	○	
		アジアと国際社会２		2	○	○	○	○	
		英米の文化・文学１		2	○	○	○	○	
		英米の文化・文学２		2	○	○	○	○	
		比較文化概論１		2	○	○	○	○	
		比較文化概論２		2	○	○	○	○	
		言語の科学１		2	○	○	○	○	
		言語の科学２		2	○	○	○	○	
		比較思想概論１		2	○	○	○	○	
		比較思想概論２		2	○	○	○	○	
		異文化交流の歴史		2	○	○	○	○	
		異文化交流とコミュニケーション		2	○	○	○	○	
		ヨーロッパの文学１		2	○	○	○	○	
		ヨーロッパの文学２		2	○	○	○	○	
		ヨーロッパの思想１		2	○	○	○	○	
		ヨーロッパの思想２		2	○	○	○	○	
		ことばと文化（ドイツ語）		2	○	○	○	○	
		ことばと文化（フランス語）		2	○	○	○	○	
		ことばと文化（韓国語・朝鮮語）１		2	○	○	○	○	
		ことばと文化（韓国語・朝鮮語）２		2	○	○	○	○	
		くらしと文化		2	○	○	○	○	

区分	分野	授業科目	単位数		配当年次				備考
			必修	選択	1	2	3	4	
基本科目	生活と社会	入門経済学１		2	○	○	○	○	
		入門経済学２		2	○	○	○	○	
		日本国憲法		2	○	○	○	○	
		市民生活と法１		2	○	○	○	○	
		市民生活と法２		2	○	○	○	○	
		家族と法１		2	○	○	○	○	
		家族と法２		2	○	○	○	○	
		近代日本社会と世界１		2	○	○	○	○	
		近代日本社会と世界２		2	○	○	○	○	
		市民社会と政治１		2	○	○	○	○	
		市民社会と政治２		2	○	○	○	○	
		生活と地理１		2	○	○	○	○	
		生活と地理２		2	○	○	○	○	
		社会学の考え方		2	○	○	○	○	
		福祉の諸問題		2	○	○	○	○	
		メディア論		2	○	○	○	○	
		現代社会と倫理		2	○	○	○	○	
		現代社会の諸問題		2	○	○	○	○	
		現代社会の人間関係		2	○	○	○	○	
		現代社会と人権１		2	○	○	○	○	
		現代社会と人権２		2	○	○	○	○	
		共生社会と人間		2	○	○	○	○	
		社会調査入門１		2	○	○	○	○	
		社会調査入門２		2	○	○	○	○	
		余暇とレクリエーション		2	○	○	○	○	
		ジェンダー論		2	○	○	○	○	
		女性学		2	○	○	○	○	
		心の科学		2	○	○	○	○	
		人間関係の心理学		2	○	○	○	○	
		人間性の形成		2	○	○	○	○	
		現代の子どもと教育１		2	○	○	○	○	
		現代の子どもと教育２		2	○	○	○	○	
		キャリアデザイン論		2	○	○	○	○	
		ファイナンス入門		2	○	○	○	○	
		オーストラリアと国際社会１		2	○	○	○	○	
		オーストラリアと国際社会２		2	○	○	○	○	

区分	分野	授業科目	単位数		配当年次				備考
			必修	選択	1	2	3	4	
基本科目	自然と数理	生物の科学		2	○	○	○	○	
		生物の進化		2	○	○	○	○	
		生物の多様性		2	○	○	○	○	
		入門物理学１		2	○	○	○	○	
		入門物理学２		2	○	○	○	○	
		入門化学１		2	○	○	○	○	
		入門化学２		2	○	○	○	○	
		入門数学１		2	○	○	○	○	
		入門数学２		2	○	○	○	○	
		入門統計学１		2	○	○	○	○	
		入門統計学２		2	○	○	○	○	
		入門コンピュータ１		2	○	○	○	○	
		入門コンピュータ２		2	○	○	○	○	
		組織と情報１		2	○	○	○	○	
		組織と情報２		2	○	○	○	○	
		科学技術史１		2	○	○	○	○	
		科学技術史２		2	○	○	○	○	
	日本事情	日本事情１		2	○	○	○	○	外国人特別学生、外国人留学生及び帰国生徒用
		日本事情２		2	○	○	○	○	
		日本事情３		2	○	○	○	○	
		日本事情４		2	○	○	○	○	

▶ 外国語科目

外国語科目には、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、日本語があります。学科ごとに卒業要件単位数が異なります。日本語は、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された学生のみ履修することができます。

区分	分野	授業科目	単位数		配当年次				備考
			必修	選択	1	2	3	4	
外国語科目	英語	英語講読１		1	○	○	○	○	
		英語講読２		1	○	○	○	○	
		英語Ｌ．Ｌ．１		1	○	○	○	○	
		英語Ｌ．Ｌ．２		1	○	○	○	○	
		英会話１		1	○	○	○	○	
		英会話２		1	○	○	○	○	
		英語講読３		1		○	○	○	
		英語講読４		1		○	○	○	
		英語Ｌ．Ｌ．３		1		○	○	○	
		英語Ｌ．Ｌ．４		1		○	○	○	
		英会話３		1		○	○	○	
		英会話４		1		○	○	○	
		英会話５		1			○	○	
		英会話６		1			○	○	
		検定英語１		1	○	○	○	○	
		検定英語２		1	○	○	○	○	
		検定英語３		1	○	○	○	○	
		検定英語４		1	○	○	○	○	

区分	分野	授業科目	単位数		配当年次				備考
			必修	選択	1	2	3	4	
外国語科目	ドイツ語	ドイツ語読解入門		1	○	○	○	○	
		ドイツ語読解初級		1	○	○	○	○	
		ドイツ語表現入門		1	○	○	○	○	
		ドイツ語表現初級		1	○	○	○	○	
		ドイツ語読解中級１		1		○	○	○	
		ドイツ語読解中級２		1		○	○	○	
		ドイツ語表現中級１		1		○	○	○	
		ドイツ語表現中級２		1		○	○	○	
		ドイツ語読解上級１		1			○	○	
		ドイツ語読解上級２		1			○	○	
		ドイツ語表現上級１		1			○	○	
		ドイツ語表現上級２		1			○	○	
		ドイツ語読解演習１		1			○	○	
		ドイツ語読解演習２		1			○	○	
		ドイツ語表現演習１		1			○	○	
		ドイツ語表現演習２		1			○	○	
	フランス語	フランス語読解入門		1	○	○	○	○	
		フランス語読解初級		1	○	○	○	○	
		フランス語表現入門		1	○	○	○	○	
		フランス語表現初級		1	○	○	○	○	
		フランス語読解中級１		1		○	○	○	
		フランス語読解中級２		1		○	○	○	
		フランス語表現中級１		1		○	○	○	
		フランス語表現中級２		1		○	○	○	
		フランス語読解上級１		1			○	○	
		フランス語読解上級２		1			○	○	
		フランス語表現上級１		1			○	○	
		フランス語表現上級２		1			○	○	
		フランス語読解演習１		1			○	○	
		フランス語読解演習２		1			○	○	
		フランス語表現演習１		1			○	○	
		フランス語表現演習２		1			○	○	

区分	分野	授業科目	単位数		配当年次				備考
			必修	選択	1	2	3	4	
外国語科目	中国語	中国語講読入門１		1	○	○	○	○	
		中国語講読入門２		1	○	○	○	○	
		中国語講読基礎１		1	○	○	○	○	
		中国語講読基礎２		1	○	○	○	○	
		中国語講読基礎３		1	○	○	○	○	
		中国語講読基礎４		1	○	○	○	○	
		中国語会話入門１		1	○	○	○	○	
		中国語会話入門２		1	○	○	○	○	
		中国語会話基礎１		1	○	○	○	○	
		中国語会話基礎２		1	○	○	○	○	
		中国語講読中級１		1		○	○	○	
		中国語講読中級２		1		○	○	○	
		中国語講読中級３		1		○	○	○	
		中国語講読中級４		1		○	○	○	
		中国語会話中級１		1		○	○	○	
		中国語会話中級２		1		○	○	○	
		中国語会話中級３		1		○	○	○	
		中国語会話中級４		1		○	○	○	
	日本語	日本語読解中級１		1	○	○	○	○	外国人特別学生、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者のみ
		日本語読解中級２		1	○	○	○	○	
		日本語聴解中級１		1	○	○	○	○	
		日本語聴解中級２		1	○	○	○	○	
		日本語読解上級１		1		○	○	○	
		日本語読解上級２		1		○	○	○	
		日本語聴解上級１		1		○	○	○	
		日本語聴解上級２		1		○	○	○	

▶ 体育科目

体育科目は、講義と実技の２種類があります。実技科目では、ゴルフやスキーなどの実習を行う科目もあります。全学科とも卒業要件単位数は２単位です。

区分	分野	授業科目	単位数		配当年次				備考
			必修	選択	1	2	3	4	
体育科目	講義	体育概論		2	○	○	○	○	
		スポーツ概論		2	○	○	○	○	
	実技	基礎体育１		1	○	○	○	○	
		基礎体育２		1	○	○	○	○	
		応用体育１		1	○	○	○	○	
		応用体育２		1	○	○	○	○	
		応用体育３		1	○	○	○	○	
		余暇生活実習１		1	○	○	○	○	
		余暇生活実習２		1	○	○	○	○	
		余暇生活実習３		1	○	○	○	○	

用語解説

1. 各学科の卒業要件単位数の表
⇒P. 47～54 参照。

▶ 総合科目

総合科目は、「追大ＵＩ科目」「追大プロジェクト科目」「国際交流科目」に分けられています。また、「放送大学の科目及び資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合」や「大学コンソーシアム大阪単位互換協定により単位を修得した場合」についても、総合科目の単位として認められます。総合科目では、卒業するために必ず修得しなければならない単位数は設定されていませんが、修得した単位は卒業要件単位として認められます。ただし、卒業要件単位として認められる単位数には上限がある場合がありますので、各学科の卒業要件単位数の表[1]を確認してください。

追大ＵＩ科目

追大ＵＩ科目は、追手門学院大学の教育理念を具現化するための科目です。大学生活のあり方を考えたり、大学の基盤である地域の特色について考えます。修得した単位は卒業に必要な単位として認められます。

区分	分野	授業科目	単位数		配当年次				備考
			必修	選択	1	2	3	4	
追大ＵＩ科目		学び論		2	○	○	○	○	
		北摂を学ぶ		2	○	○	○	○	

追大プロジェクト科目

追大プロジェクト科目は、講義や学外における実体験を通して大学と社会の関係について学ぶとともに、大学生として大学で学ばなければならないことを考える科目です。修得した単位は、最大８単位を上限に卒業要件単位として認められます。

区分	分野	授業科目	単位数		配当年次				備考
			必修	選択	1	2	3	4	
追大プロジェクト科目		インターンシップ１		2			○	○	
		インターンシップ２		2			○	○	
		経営力インターンシップ１		2			○	○	
		経営力インターンシップ２		2			○	○	
		キャリア形成論１		2		○	○	○	
		キャリア形成論２		2		○	○	○	
		社会人の基礎		2			○	○	
		ボランティア論		2	○	○	○	○	
		オーストラリアを学ぶ１		2	○	○	○	○	
		オーストラリアを学ぶ２		2	○	○	○	○	

国際交流科目

国際交流科目は、追手門学院大学の教育理念である国際性を養成するための科目であり、本学の主催する交換留学制度、海外セミナーや国際現地研修等に参加することにより、単位が認定されます。修得した単位は最大４単位を上限として卒業要件単位として認められます。なお、国際交流科目は履修単位制限[2]には含まれません。

区分	分野	授業科目	単位数		配当年次				備考
			必修	選択	1	2	3	4	
国際交流科目		交換留学インド		4	○	○	○	○	
		交換留学オーストラリア		4	○	○	○	○	
		交換留学アメリカ		4	○	○	○	○	
		交換留学中国		4	○	○	○	○	
		交換留学タイ		4	○	○	○	○	
		交換留学イギリス		4	○	○	○	○	
		交換留学韓国		4	○	○	○	○	
		交換留学オランダ		4	○	○	○	○	
		交換留学ドイツ		4	○	○	○	○	
		海外セミナー		4	○	○	○	○	
		短期海外セミナー		2	○	○	○	○	
		国際現地研修		4		○	○	○	

放送大学の科目及び資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合

放送大学の科目を修得した場合や、資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合、総合科目の単位として認定され、あわせて最大４単位を上限に卒業要件単位として認められます。なお、これにより認められた単位は履修単位制限には含まれません。

放送大学

本学と放送大学は単位互換協定を結んでおり、放送大学の提供するテレビ・ラジオやビデオによる学習にて取得した単位を認定します。放送大学の科目を履修するためには、毎学期実施される事前オリエンテーションに出席し、所定の手続きを行う必要があります。なお、４年次の秋学期については履修できません。

必要な手続きや履修できる科目など詳細については、各学期の初めに掲示にてお知らせします。

資格・検定

指定された資格・検定について、本学入学後に、定められた基準以上の成績を修めた場合に、単位を認定します。認定される資格・検定および等級については次ページの表を参照してください。

単位の認定のためには事前の登録が必要となり、各資格・検定を主催する団体の発行する証明書または合格通知の提出が必要です。詳細については、各学期の初めに掲示にてお知らせします。

用語解説

2. 履修単位制限

⇒ P. 99 を参照。

〔単位が認定される資格・検定の一覧〕

資格・検定の種類	単位認定基準
実用英語技能検定（英検）	２級以上
TOEIC®	500 点以上
TOEFL®	470 点（CBT148 点）以上
日本漢字能力検定	２級以上
日商簿記	３級以上
ドイツ語技能検定	５級以上
実用フランス語技能検定	４級以上
中国語検定	準４級以上
漢語水平考試 (HSK) 筆記試験	１級以上
漢語水平考試 (HSK) 口頭試験	初級以上

※ 2011 年４月１日現在

大学コンソーシアム大阪単位互換協定により単位を修得した場合

大学コンソーシアム大阪単位互換協定に基づいて、加盟大学の主催するオンキャンパス科目やコンソーシアムの主催するセンター科目を受講し単位を修得した場合、総合科目の単位として認定され、最大４単位を上限に卒業要件単位として認められます。なお、大学コンソーシアム大阪単位互換協定により認められた単位は履修単位制限に含まれません。

大学コンソーシアム大阪の科目を履修するためには、毎学期実施される事前オリエンテーションに出席し、必要な出願手続きを行う必要があります。詳細については、各学期の初めに掲示にてお知らせします。

学科科目

▶ 経済学部経済学科

用語解説

区分	分野	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次 1	配当年次 2	配当年次 3	配当年次 4	要件
必修	経済学	経済原論Ⅰ	4		○	○	○	○	１６単位
		経済学基礎演習１	2			○	○	○	
		経済学基礎演習２	2			○	○	○	
		演習Ⅰ－１	2				○	○	
		演習Ⅰ－２	2				○	○	
		演習Ⅱ－１	2					○	
		演習Ⅱ－２	2					○	
選択A	経済理論・経済史	経済史１		2	○	○	○	○	２８単位以上
		経済史２		2	○	○	○	○	
		経済原論Ⅱ		4		○	○	○	
		国際経済学		4		○	○	○	
		国際マクロ経済学１		2		○	○	○	
		国際マクロ経済学２		2		○	○	○	
		外書講読１		2		○	○	○	
		外書講読２		2		○	○	○	
		ミクロ経済学		4			○	○	
		マクロ経済学１		2			○	○	
		マクロ経済学２		2			○	○	
		計量経済学１		2			○	○	
		計量経済学２		2			○	○	
		経済変動論１		2			○	○	
		経済変動論２		2			○	○	
	経済政策	経済政策		4		○	○	○	
		日本経済論１		2		○	○	○	
		日本経済論２		2		○	○	○	
		比較公共政策１		2		○	○	○	
		比較公共政策２		2		○	○	○	
		財政学１		2		○	○	○	
		財政学２		2		○	○	○	
		公共経済学		4		○	○	○	
		金融論		4		○	○	○	
		国際貿易論		4		○	○	○	
		産業社会関係論１		2		○	○	○	
		産業社会関係論２		2		○	○	○	
		産業組織論１		2			○	○	
		産業組織論２		2			○	○	
		経済体制論１		2			○	○	
		経済体制論２		2			○	○	
		地方財政論		4			○	○	
		国際金融論１		2			○	○	
		国際金融論２		2			○	○	
		労働経済学１		2			○	○	
		労働経済学２		2			○	○	
		社会保障		4			○	○	
	数理・情報	経済数学１		2	○	○	○	○	
		経済数学２		2	○	○	○	○	
		経済情報処理		4		○	○	○	
		経済シミュレーション		2		○	○	○	
		統計学総論１		2		○	○	○	
		統計学総論２		2		○	○	○	
		ソフトウェア論		4		○	○	○	

区分	分野	授業科目	単位数		配当年次				要件
			必修	選択	1	2	3	4	
選択B	経済理論・経済史	社会思想史		4	○	○	○	○	選択Ａ及び選択Ｂ合わせて６０単位以上
		経済学史１		2		○	○	○	
		経済学史２		2		○	○	○	
		日本経済史１		2		○	○	○	
		日本経済史２		2		○	○	○	
		外国経済史１		2		○	○	○	
		外国経済史２		2		○	○	○	
	経済政策	租税論		4	○	○	○	○	
		地域と暮らし１		2	○	○	○	○	
		地域と暮らし２		2	○	○	○	○	
		オーストラリア経済論		4		○	○	○	
		アメリカ経済論１		2		○	○	○	
		アメリカ経済論２		2		○	○	○	
		ヨーロッパ経済論１		2		○	○	○	
		ヨーロッパ経済論２		2		○	○	○	
		アジア経済論１		2		○	○	○	
		アジア経済論２		2		○	○	○	
		貿易政策１		2		○	○	○	
		貿易政策２		2		○	○	○	
		オーストラリア産業論１		2		○	○	○	
		オーストラリア産業論２		2		○	○	○	
		食料経済論１		2		○	○	○	
		食料経済論２		2		○	○	○	
		環境経済学１		2		○	○	○	
		環境経済学２		2		○	○	○	
		国際経済政策１		2		○	○	○	
		国際経済政策２		2		○	○	○	
		経済地理１		2			○	○	
		経済地理２		2			○	○	
		開発経済学１		2			○	○	
		開発経済学２		2			○	○	
		地球環境論１		2			○	○	
		地球環境論２		2			○	○	
		国際労働経済論１		2			○	○	
		国際労働経済論２		2			○	○	
		福祉社会論１		2			○	○	
		福祉社会論２		2			○	○	
	数理・情報	データ分析ソフトウェア		2		○	○	○	
		経済データ分析		2		○	○	○	
		数理統計学		4			○	○	
		経済統計学１		2			○	○	
		経済統計学２		2			○	○	
		ファイナンス論１		2			○	○	
		ファイナンス論２		2			○	○	
		オペレーションズ・リサーチ１		2			○	○	
		オペレーションズ・リサーチ２		2			○	○	
		意思決定論１		2			○	○	
		意思決定論２		2			○	○	
		経営情報論１		2			○	○	
		経営情報論２		2			○	○	
	特殊講義	経済学特殊講義１		2		○	○	○	
		経済学特殊講義２		2		○	○	○	
		経済学特殊講義３		2		○	○	○	
		経済学特殊講義４		2		○	○	○	
		経済学特殊講義５		2		○	○	○	
		経済学特殊講義６		2		○	○	○	

区分	分野	授業科目	単位数		配当年次				要件
			必修	選択	1	2	3	4	
選択B	法学	民法（総則）		2		○	○	○	選択Ａ及び選択Ｂ合わせて６０単位以上
		民法（物権法）		2		○	○	○	
		商法（総則・商行為）		2		○	○	○	
		会社法１		2		○	○	○	
		市場競争法		2		○	○	○	
		行政法１		2		○	○	○	
		行政法２		2		○	○	○	
		税法１		2			○	○	
		税法２		2			○	○	
		労働法１		2			○	○	
		労働法２		2			○	○	
		社会保障法		2			○	○	
	経営学	入門簿記		2	○	○	○	○	
		初級簿記		2	○	○	○	○	
		ビジネス英語１		2		○	○	○	
		ビジネス英語２		2		○	○	○	
		国際ビジネスコミュニケーション１		2		○	○	○	
		国際ビジネスコミュニケーション２		2		○	○	○	
		中国語ビジネスコミュニケーション１		2		○	○	○	
		中国語ビジネスコミュニケーション２		2		○	○	○	
		経営学概論１		2		○	○	○	
		経営学概論２		2		○	○	○	
		企業論１		2		○	○	○	
		企業論２		2		○	○	○	
		マーケティング論１		2		○	○	○	
		マーケティング論２		2		○	○	○	
		会計学原理１		2		○	○	○	
		会計学原理２		2		○	○	○	
		ERP ビジネスプロセス１		2			○	○	
		ERP ビジネスプロセス２		2			○	○	
		ERP ビジネスプロセス演習１		2			○	○	
		ERP ビジネスプロセス演習２		2			○	○	
		貿易実務１		2			○	○	
		貿易実務２		2			○	○	
		国際取引論１		2			○	○	
		国際取引論２		2			○	○	
		貿易経営実務１		2			○	○	
		貿易経営実務２		2			○	○	
		国際経営論１		2			○	○	
		国際経営論２		2			○	○	

▶ 経済学部ヒューマンエコノミー学科

区分	分野	授業科目	単位数		配当年次				要件
			必修	選択	1	2	3	4	
必修	経済学	経済原論Ⅰ	4		○	○	○	○	１６単位
		経済学基礎演習１	2			○	○	○	
		経済学基礎演習２	2			○	○	○	
		演習Ⅰ－１	2				○	○	
		演習Ⅰ－２	2				○	○	
		演習Ⅱ－１	2					○	
		演習Ⅱ－２	2					○	
選択A	経済理論・経済史	経済史１		2	○	○	○	○	２８単位以上
		経済史２		2	○	○	○	○	
		社会思想史		4	○	○	○	○	
		経済原論Ⅱ		4		○	○	○	
		国際経済学１		2		○	○	○	
		国際経済学２		2		○	○	○	
		日本経済史１		2		○	○	○	
		日本経済史２		2		○	○	○	
		外国経済史１		2		○	○	○	
		外国経済史２		2		○	○	○	
		国際マクロ経済学１		2		○	○	○	
		国際マクロ経済学２		2		○	○	○	
		外書講読１		2		○	○	○	
		外書講読２		2		○	○	○	
		ミクロ経済学		4			○	○	
		マクロ経済学１		2			○	○	
		マクロ経済学２		2			○	○	
		経済変動論１		2			○	○	
		経済変動論２		2			○	○	
	経済政策	ヒューマンエコノミー概論１		2	○	○	○	○	
		ヒューマンエコノミー概論２		2	○	○	○	○	
		経済政策		4		○	○	○	
		日本経済論１		2		○	○	○	
		日本経済論２		2		○	○	○	
		財政学１		2		○	○	○	
		財政学２		2		○	○	○	
		産業社会関係論１		2		○	○	○	
		産業社会関係論２		2		○	○	○	
		金融論		4		○	○	○	
		公共経済学		4		○	○	○	
		食料経済論１		2		○	○	○	
		食料経済論２		2		○	○	○	
		比較公共政策１		2		○	○	○	
		比較公共政策２		2		○	○	○	
		環境経済学１		2		○	○	○	
		環境経済学２		2		○	○	○	
		社会保障		4			○	○	
		地方財政論		4			○	○	
		労働経済学１		2			○	○	
		労働経済学２		2			○	○	
		地球環境論１		2			○	○	
		地球環境論２		2			○	○	
		産業組織論１		2			○	○	
		産業組織論２		2			○	○	
		福祉社会論１		2			○	○	
		福祉社会論２		2			○	○	

区分	分野	授業科目	単位数		配当年次				要件
			必修	選択	1	2	3	4	
選択A	数理・情報	経済情報処理		4		○	○	○	２８単位以上
		経済シミュレーション		2		○	○	○	
		統計学総論１		2		○	○	○	
		統計学総論２		2		○	○	○	
		データ分析ソフトウェア		2		○	○	○	
		経済データ分析		2		○	○	○	
		ファイナンス論１		2			○	○	
		ファイナンス論２		2			○	○	
	法学	税法１		2			○	○	
		税法２		2			○	○	
		労働法１		2			○	○	
		労働法２		2			○	○	
選択B	経済理論・経済史	経済学史１		2		○	○	○	選択Ａ及び選択Ｂ合わせて６０単位以上
		経済学史２		2		○	○	○	
		計量経済学１		2			○	○	
		計量経済学２		2			○	○	
	経済政策	租税論		4	○	○	○	○	
		地域と暮らし１		2	○	○	○	○	
		地域と暮らし２		2	○	○	○	○	
		貿易政策１		2		○	○	○	
		貿易政策２		2		○	○	○	
		オーストラリア経済論		4		○	○	○	
		アメリカ経済論１		2		○	○	○	
		アメリカ経済論２		2		○	○	○	
		ヨーロッパ経済論１		2		○	○	○	
		ヨーロッパ経済論２		2		○	○	○	
		アジア経済論１		2		○	○	○	
		アジア経済論２		2		○	○	○	
		オーストラリア産業論１		2		○	○	○	
		オーストラリア産業論２		2		○	○	○	
		国際貿易論		4		○	○	○	
		国際経済政策１		2		○	○	○	
		国際経済政策２		2		○	○	○	
		地域開発論１		2		○	○	○	
		地域開発論２		2		○	○	○	
		アジア論 １		2		○	○	○	
		アジア論 ２		2		○	○	○	
		国際金融論１		2			○	○	
		国際金融論２		2			○	○	
		開発経済学１		2			○	○	
		開発経済学２		2			○	○	
		経済体制論１		2			○	○	
		経済体制論２		2			○	○	
		経済地理１		2			○	○	
		経済地理２		2			○	○	
		国際労働経済論１		2			○	○	
		国際労働経済論２		2			○	○	
	数理・情報	経済数学１		2	○	○	○	○	
		経済数学２		2	○	○	○	○	
		ソフトウェア論		4		○	○	○	
		数理統計学		4			○	○	
		経済統計学１		2			○	○	
		経済統計学２		2			○	○	
		オペレーションズ・リサーチ１		2			○	○	
		オペレーションズ・リサーチ２		2			○	○	
		意思決定論１		2			○	○	
		意思決定論２		2			○	○	
		経営情報論１		2			○	○	
		経営情報論２		2			○	○	

区分	分野	授業科目	単位数		配当年次				要件
			必修	選択	1	2	3	4	
選択B	特殊講義	経済学特殊講義１		2		○	○	○	選択Ａ及び選択Ｂ合わせて６０単位以上
		経済学特殊講義２		2		○	○	○	
		経済学特殊講義３		2		○	○	○	
		経済学特殊講義４		2		○	○	○	
		経済学特殊講義５		2		○	○	○	
		経済学特殊講義６		2		○	○	○	
	法学	民法（総則）		2		○	○	○	
		民法（物権法）		2		○	○	○	
		商法（総則・商行為）		2		○	○	○	
		会社法１		2		○	○	○	
		市場競争法		2		○	○	○	
		行政法１		2		○	○	○	
		行政法２		2		○	○	○	
		社会保障法		2			○	○	
	経営学	入門簿記		2	○	○	○	○	
		初級簿記		2	○	○	○	○	
		国際ビジネスコミュニケーション１		2		○	○	○	
		国際ビジネスコミュニケーション２		2		○	○	○	
		中国語ビジネスコミュニケーション１		2		○	○	○	
		中国語ビジネスコミュニケーション２		2		○	○	○	
		経営学概論１		2		○	○	○	
		経営学概論２		2		○	○	○	
		企業論１		2		○	○	○	
		企業論２		2		○	○	○	
		マーケティング論１		2		○	○	○	
		マーケティング論２		2		○	○	○	
		会計学原理１		2		○	○	○	
		会計学原理２		2		○	○	○	
		ERP ビジネスプロセス１		2			○	○	
		ERP ビジネスプロセス２		2			○	○	
		ERP ビジネスプロセス演習１		2			○	○	
		ERP ビジネスプロセス演習２		2			○	○	

演習Ⅰ及び演習Ⅱの履修に関する注意点

経済学部では、３年次配当の演習Ⅰ及び４年次配当の演習Ⅱを履修するためには、満たすべき条件があります。

３年次から始まる演習（ゼミ）は必修科目で、演習Ⅰ－１・Ⅰ－２及び演習Ⅱ－１・Ⅱ－２のすべての科目を修得できなければ卒業できません。２年次終了時点で演習Ⅰの履修条件をみたしていなければ、最低で１年間の留年が決定してしまいますので、履修条件を十分理解し、単位を修得する必要があります。

それぞれの演習（ゼミ）の履修に関する条件は下記の通りです。

●演習Ⅰ履修条件

履修区分	授業科目名	単位数
①必修・講義	経済原論Ⅰ（４単位）	４単位以上
	経済学基礎演習１（２単位）	
	経済学基礎演習２（２単位）	
②選択Ａ		８単位以上
③外国語科目		４単位以上
①②③合計		１６単位以上
上記①②③合計１６単位のほかに、学科科目・新入生演習・基本科目・外国語科目・体育科目・総合科目の中から		２８単位以上
総合計		４４単位以上

●演習Ⅱ履修条件

演習Ⅰ－１・Ⅰ－２の単位を修得済みであること。

演習Ⅰ－１の単位を修得できなかった場合においても、演習Ⅰ－２は履修可能である。演習Ⅱ－１・Ⅱ－２についても同様とする。

▶ 経営学部経営学科

区分	分野	授業科目	単位			配当年次				要件
			必修	選択必修	選択	1	2	3	4	
必修	学科基礎A	経営学概論１	2			○	○	○	○	16単位
		経営学概論２	2			○	○	○	○	
		入門簿記	2			○	○	○	○	
		初級簿記	2			○	○	○	○	
		ビジネス法基礎１	2			○	○	○	○	
		ビジネス法基礎２	2			○	○	○	○	
		情報リテラシー１	2			○	○	○	○	
		情報リテラシー２	2			○	○	○	○	
選択必修	学科基礎B	経営管理論１		2			○	○	○	１・２セットで８単位以上（経営倫理・経営組織で１セット、民法（総則）・民法（物権法）で１セット、商法（総則・商行為）・会社法１で１セットとする）
		経営管理論２		2			○	○	○	
		経営倫理		2			○	○	○	
		経営組織		2			○	○	○	
		会計学原理１		2			○	○	○	
		会計学原理２		2			○	○	○	
		原価計算論１		2			○	○	○	
		原価計算論２		2			○	○	○	
		民法（総則）		2			○	○	○	
		民法（物権法）		2			○	○	○	
		商法（総則・商行為）		2			○	○	○	
		会社法１		2			○	○	○	
必修	演習	基礎演習１	2				○			12単位 なお、発展演習１・２及び卒業演習１・２は先修条件を満たさないと履修できないので注意すること
		基礎演習２	2				○			
		発展演習１	2					○		
		発展演習２	2					○		
		卒業演習１	2						○	
		卒業演習２	2						○	
選択（自学科）	経営学	経営史１			2		○	○	○	選択必修及び選択（自学科・他学科）の分野を合わせて48単位以上 ただし、選択（他学科）分野の中から修得した場合は、30単位まで卒業に必要な単位として認める。
		経営史２			2		○	○	○	
		経営数学１			2		○	○	○	
		経営数学２			2		○	○	○	
		企業論１			2		○	○	○	
		企業論２			2		○	○	○	
		マーケティング論１			2		○	○	○	
		マーケティング論２			2		○	○	○	
		経営統計			2		○	○	○	
		経営データ分析			2		○	○	○	
		生産管理論１			2			○	○	
		生産管理論２			2			○	○	
		経営戦略論１			2			○	○	
		経営戦略論２			2			○	○	
		人的資源管理論１			2			○	○	
		人的資源管理論２			2			○	○	
		財務管理論１			2			○	○	
		財務管理論２			2			○	○	
		オペレーションズ・リサーチ１			2		○	○	○	
		オペレーションズ・リサーチ２			2		○	○	○	
		意思決定論１			2			○	○	
		意思決定論２			2			○	○	
		リスク・マネジメント１			2			○	○	
		リスク・マネジメント２			2			○	○	

区分	分野	授業科目	単位			配当年次				要件
			必修	選択必修	選択	1	2	3	4	
選択（自学科）	会計学	中級簿記１			2		○	○	○	選択必修及び選択（自学科・他学科）の分野を合わせて48単位以上ただし、選択（他学科）分野の中から修得した場合は、30単位まで卒業に必要な単位として認める。
		中級簿記２			2		○	○	○	
		上級簿記			2			○	○	
		連結会計論			2			○	○	
		財務諸表論１			2			○	○	
		財務諸表論２			2			○	○	
		管理会計論１			2			○	○	
		管理会計論２			2			○	○	
		経営分析論１			2			○	○	
		経営分析論２			2			○	○	
		監査論１			2			○	○	
		監査論２			2			○	○	
		国際会計学１			2			○	○	
		国際会計学２			2			○	○	
		会計学特殊講義１			2			○	○	
		会計学特殊講義２			2			○	○	
		会計学特殊講義３			2			○	○	
		会計学特殊講義４			2			○	○	
	法学	民法（債権法総論）			2		○	○	○	
		民法（債権法各論）			2		○	○	○	
		市場競争法			2		○	○	○	
		知的財産法			2		○	○	○	
		行政法１			2		○	○	○	
		行政法２			2		○	○	○	
		会社法２			2			○	○	
		商法（手形法・小切手法）			2			○	○	
		民事紛争処理			2			○	○	
		国際法務１			2			○	○	
		国際法務２			2			○	○	
		税法１			2			○	○	
		税法２			2			○	○	
		労働法１			2			○	○	
		労働法２			2			○	○	
		社会保障法			2			○	○	
		比較会社法			2			○	○	
	経営外国語	経営実務英語１			2		○	○	○	
		経営実務英語２			2		○	○	○	
		経営外国文献講読１			2		○	○	○	
		経営外国文献講読２			2		○	○	○	
		国際共同演習１			4		○	○	○	
		国際共同演習２			4		○	○	○	
		経営実務英語３			2			○	○	
		経営実務英語４			2			○	○	
	経営特殊講義	経営特殊講義１			2		○	○	○	
		経営特殊講義２			2		○	○	○	
		経営特殊講義３			2			○	○	
		経営特殊講義４			2			○	○	
	経済学	経済原論１			2	○	○	○	○	
		経済原論２			2	○	○	○	○	
		経済政策１			2		○	○	○	
		経済政策２			2		○	○	○	
		国際経済学１			2		○	○	○	
		国際経済学２			2		○	○	○	
		財政学１			2		○	○	○	
		財政学２			2		○	○	○	

区分	分野	授業科目	単位			配当年次				要件
			必修	選択必修	選択	1	2	3	4	
選択（他学科）	国際マーケティング	国際経営論１			2		○	○	○	選択（他学科）分野の中から修得した場合は、30 単位まで卒業に必要な単位として認める。
		国際経営論２			2		○	○	○	
		国際マーケティング゛論１			2			○	○	
		国際マーケティング゛論２			2			○	○	
		国際関係論１			2		○	○	○	
		国際関係論２			2		○	○	○	
		異文化間コミュニケーション１			2		○	○	○	
		異文化間コミュニケーション２			2		○	○	○	
		ネゴシエーション論１			2			○	○	
		ネゴシエーション論２			2			○	○	
		国際市場戦略			2			○	○	
		ＢＲＩＣｓ経営論１			2			○	○	
		ＢＲＩＣｓ経営論２			2			○	○	
		多国籍企業論１			2			○	○	
		多国籍企業論２			2			○	○	
		貿易実務１			2		○	○	○	
		貿易実務２			2		○	○	○	
	情報マーケティング	情報科学概論１			2		○	○	○	
		情報科学概論２			2		○	○	○	
		プログラミング演習１			2		○	○	○	
		プログラミング演習２			2		○	○	○	
		マネジメント・システム論１			2		○	○	○	
		マネジメント・システム論２			2		○	○	○	
		社会調査法			2		○	○	○	
		市場調査法			2		○	○	○	
		経営情報論１			2			○	○	
		経営情報論２			2			○	○	
		ソフトウェア・システム論１			2			○	○	
		ソフトウェア・システム論２			2			○	○	
		マーケティング情報システム論１			2			○	○	
		マーケティング情報システム論２			2			○	○	
		マルチメディア			2			○	○	
		通信ネットワーク			2			○	○	
		環境と経営			2			○	○	
		エコマーケティング論			2			○	○	
		ＮＰＯマネジメント			2			○	○	
		情報と職業			2		○	○	○	
		ＥＲＰビジネスプロセス１			2			○	○	
		ＥＲＰビジネスプロセス２			2			○	○	
		ＥＲＰビジネスプロセス演習１			2			○	○	
		ＥＲＰビジネスプロセス演習２			2			○	○	
	起業マーケティング	ベンチャービジネス論１			2		○	○	○	
		ベンチャービジネス論２			2		○	○	○	
		中小企業経営論１			2		○	○	○	
		中小企業経営論２			2		○	○	○	
		ベンチャーファイナンス論１			2		○	○	○	
		ベンチャーファイナンス論２			2		○	○	○	
		マーケティングインターンシップ１			2			○	○	
		マーケティングインターンシップ２			2			○	○	
		ベンチャーファイナンス演習１			2			○	○	
		ベンチャーファイナンス演習２			2			○	○	
		マーケティング演習１			2			○	○	
		マーケティング演習２			2			○	○	
		技術経営論１			2			○	○	
		技術経営論２			2			○	○	

区分	分野	授業科目	単位			配当年次				要件
			必修	選択必修	選択	1	2	3	4	
選択（他学科）	起業マーケティング	品質経営論１			2			○	○	選択（他学科）分野の中から修得した場合は、30 単位まで卒業に必要な単位として認める。
		品質経営論２			2			○	○	
		環境経営論１			2			○	○	
		環境経営論２			2			○	○	
		アントレプレナーシップ論			2			○	○	
		イノベーション論			2			○	○	
		知的財産戦略論			2			○	○	
		医療・福祉ビジネス論１			2			○	○	
		医療・福祉ビジネス論２			2			○	○	
	ビジネス心理	産業心理学概論１			2	○	○	○	○	
		産業心理学概論２			2	○	○	○	○	
		心理解析法１			2		○	○	○	
		心理解析法２			2		○	○	○	
		消費行動研究論１			2		○	○	○	
		消費行動研究論２			2		○	○	○	
		リーダーシップ論			2		○	○	○	
		リスクコミュニケーション論１			2			○	○	
		リスクコミュニケーション論２			2			○	○	
		産業組織心理学１			2			○	○	
		産業組織心理学２			2			○	○	
		消費者心理学１			2			○	○	
		消費者心理学２			2			○	○	
		広告心理学			2			○	○	
		アートマーケティング			2			○	○	
		画像心理学			2			○	○	
		メディア心理論			2			○	○	
		ファッションビジネス論			2			○	○	
		ブランド戦略論			2			○	○	
		ビジネス心理研究法演習１			2		○	○	○	
		ビジネス心理研究法演習２			2		○	○	○	
	マーケティング特殊講義	マーケティング特殊講義１			2		○	○	○	
		マーケティング特殊講義２			2		○	○	○	
	地域経済論	アメリカ経済論１			2		○	○	○	
		アメリカ経済論２			2		○	○	○	
		ヨーロッパ経済論１			2		○	○	○	
		ヨーロッパ経済論２			2		○	○	○	
		アジア経済論１			2		○	○	○	
		アジア経済論２			2		○	○	○	
		オーストラリア経済論			4		○	○	○	
		オーストラリア産業論１			2		○	○	○	
		オーストラリア産業論２			2		○	○	○	
		日本経済論１			2		○	○	○	
		日本経済論２			2		○	○	○	
		韓国の文化と社会１			2		○	○	○	
		韓国の文化と社会２			2		○	○	○	
		現代韓国事情			2		○	○	○	

▶ 経営学部マーケティング学科

区分	分野	授業科目	単位			配当年次				要件
			必修	選択必修	選択	1	2	3	4	
必修	学科基礎A	経営学概論１	2			○	○	○	○	16 単位
		経営学概論２	2			○	○	○	○	
		入門簿記	2			○	○	○	○	
		初級簿記	2			○	○	○	○	
		ビジネス法基礎１	2			○	○	○	○	
		ビジネス法基礎２	2			○	○	○	○	
		情報リテラシー１	2			○	○	○	○	
		情報リテラシー２	2			○	○	○	○	
選択必修	学科基礎B	国際経営論１		2			○	○	○	１・２セットで８単位以上（経営倫理・経営組織で１セットとする）
		国際経営論２		2			○	○	○	
		産業心理学概論１		2		○	○	○	○	
		産業心理学概論２		2		○	○	○	○	
		経営数学１		2			○	○	○	
		経営数学２		2			○	○	○	
		情報科学概論１		2			○	○	○	
		情報科学概論２		2			○	○	○	
		経営倫理		2			○	○	○	
		経営組織		2			○	○	○	
		マーケティング論１		2			○	○	○	
		マーケティング論２		2			○	○	○	
		心理解析法１		2			○	○	○	
		心理解析法２		2			○	○	○	
必修	演習	基礎演習１	2				○			12 単位 なお、発展演習１・２及び卒業演習１・２は先修条件を満たさないと履修できないので注意すること
		基礎演習２	2				○			
		発展演習１	2					○		
		発展演習２	2					○		
		卒業演習１	2						○	
		卒業演習２	2						○	
選択（自学科）	国際マーケティング	国際関係論１			2		○	○	○	選択必修及び選択（自学科・他学科）の分野を合わせて48 単位以上 ただし、選択（他学科）分野の中から修得した場合は、30 単位まで卒業に必要な単位として認める。
		国際関係論２			2		○	○	○	
		異文化間コミュニケーション１			2		○	○	○	
		異文化間コミュニケーション２			2		○	○	○	
		国際マーケティング論１			2			○	○	
		国際マーケティング論２			2			○	○	
		ネゴシエーション論１			2			○	○	
		ネゴシエーション論２			2			○	○	
		国際市場戦略			2			○	○	
		ＢＲＩＣｓ経営論１			2			○	○	
		ＢＲＩＣｓ経営論２			2			○	○	
		多国籍企業論１			2			○	○	
		多国籍企業論２			2			○	○	
		貿易実務１			2		○	○	○	
		貿易実務２			2		○	○	○	
	情報マーケティング	プログラミング演習１			2		○	○	○	
		プログラミング演習２			2		○	○	○	
		マネジメント・システム論１			2		○	○	○	
		マネジメント・システム論２			2		○	○	○	
		社会調査法			2		○	○	○	
		市場調査法			2		○	○	○	
		経営情報論１			2			○	○	
		経営情報論２			2			○	○	

区分	分野	授業科目	単位			配当年次				要件
			必修	選択必修	選択	1	2	3	4	
選択（自学科）	情報マーケティング	ソフトウェア・システム論１			2			○	○	選択必修及び選択（自学科・他学科）の分野を合わせて 48 単位以上 ただし、選択（他学科）分野の中から修得した場合は、30 単位まで卒業に必要な単位として認める。
		ソフトウェア・システム論２			2			○	○	
		マーケティング情報システム論１			2			○	○	
		マーケティング情報システム論２			2			○	○	
		通信ネットワーク			2			○	○	
		マルチメディア			2			○	○	
		環境と経営			2			○	○	
		エコマーケティング論			2			○	○	
		ＮＰＯマネジメント			2			○	○	
		情報と職業			2		○	○	○	
		ＥＲＰビジネスプロセス１			2			○	○	
		ＥＲＰビジネスプロセス２			2			○	○	
		ＥＲＰビジネスプロセス演習１			2			○	○	
		ＥＲＰビジネスプロセス演習２			2			○	○	
	起業マーケティング	ベンチャービジネス論１			2		○	○	○	
		ベンチャービジネス論２			2		○	○	○	
		中小企業経営論１			2		○	○	○	
		中小企業経営論２			2		○	○	○	
		ベンチャーファイナンス論１			2		○	○	○	
		ベンチャーファイナンス論２			2		○	○	○	
		マーケティングインターンシップ１			2			○	○	
		マーケティングインターンシップ２			2			○	○	
		ベンチャーファイナンス演習１			2			○	○	
		ベンチャーファイナンス演習２			2			○	○	
		マーケティング演習１			2			○	○	
		マーケティング演習２			2			○	○	
		技術経営論１			2			○	○	
		技術経営論２			2			○	○	
		品質経営論１			2			○	○	
		品質経営論２			2			○	○	
		環境経営論１			2			○	○	
		環境経営論２			2			○	○	
		アントレプレナーシップ論			2			○	○	
		イノベーション論			2			○	○	
		知的財産戦略論			2			○	○	
		医療・福祉ビジネス論１			2			○	○	
		医療・福祉ビジネス論２			2			○	○	
	ビジネス心理	消費行動研究論１			2		○	○	○	
		消費行動研究論２			2		○	○	○	
		リーダーシップ論			2		○	○	○	
		リスクコミュニケーション論１			2			○	○	
		リスクコミュニケーション論２			2			○	○	
		産業組織心理学１			2			○	○	
		産業組織心理学２			2			○	○	
		消費者心理学１			2			○	○	
		消費者心理学２			2			○	○	
		広告心理学			2			○	○	
		アートマーケティング			2			○	○	
		画像心理学			2			○	○	
		メディア心理論			2			○	○	
		ファッションビジネス論			2			○	○	
		ブランド戦略論			2			○	○	
		ビジネス心理研究法演習１			2		○	○	○	
		ビジネス心理研究法演習２			2		○	○	○	
	マーケティング特殊講義	マーケティング特殊講義１			2		○	○	○	
		マーケティング特殊講義２			2		○	○	○	

区分	分野	授業科目	単位			配当年次				要件
			必修	選択必修	選択	1	2	3	4	
選択（自学科）	経営外国語	経営実務英語１			2		○	○	○	選択必修及び選択（自学科・他学科）の分野を合わせて48単位以上ただし、選択（他学科）分野の中から修得した場合は、30単位まで卒業に必要な単位として認める。
		経営実務英語２			2		○	○	○	
		経営外国文献講読１			2		○	○	○	
		経営外国文献講読２			2		○	○	○	
		国際共同演習１			4		○	○	○	
		国際共同演習２			4		○	○	○	
		経営実務英語３			2			○	○	
		経営実務英語４			2			○	○	
	地域経済論	アメリカ経済論１			2		○	○	○	
		アメリカ経済論２			2		○	○	○	
		ヨーロッパ経済論１			2		○	○	○	
		ヨーロッパ経済論２			2		○	○	○	
		アジア経済論１			2		○	○	○	
		アジア経済論２			2		○	○	○	
		オーストラリア経済論			4		○	○	○	
		オーストラリア産業論１			2		○	○	○	
		オーストラリア産業論２			2		○	○	○	
		日本経済論１			2		○	○	○	
		日本経済論２			2		○	○	○	
		韓国の文化と社会１			2		○	○	○	
		韓国の文化と社会２			2		○	○	○	
		現代韓国事情			2		○	○	○	
選択（他学科）	経営学	経営史１			2		○	○	○	選択（他学科）分野の中から修得した場合は、30単位まで卒業に必要な単位として認める。
		経営史２			2		○	○	○	
		企業論１			2		○	○	○	
		企業論２			2		○	○	○	
		経営統計			2		○	○	○	
		経営データ分析			2		○	○	○	
		経営管理論１			2		○	○	○	
		経営管理論２			2		○	○	○	
		経営戦略論１			2			○	○	
		経営戦略論２			2			○	○	
		人的資源管理論１			2			○	○	
		人的資源管理論２			2			○	○	
		財務管理論１			2			○	○	
		財務管理論２			2			○	○	
		オペレーションズ・リサーチ１			2		○	○	○	
		オペレーションズ・リサーチ２			2		○	○	○	
		意思決定論１			2			○	○	
		意思決定論２			2			○	○	
		生産管理論１			2			○	○	
		生産管理論２			2			○	○	
		リスク・マネジメント１			2			○	○	
		リスク・マネジメント２			2			○	○	
	会計学	会計学原理１			2		○	○	○	
		会計学原理２			2		○	○	○	
		中級簿記１			2		○	○	○	
		中級簿記２			2		○	○	○	
		上級簿記			2			○	○	
		連結会計論			2			○	○	
		原価計算論１			2		○	○	○	
		原価計算論２			2		○	○	○	
		管理会計論１			2			○	○	
		管理会計論２			2			○	○	
		財務諸表論１			2			○	○	
		財務諸表論２			2			○	○	
		経営分析論１			2			○	○	
		経営分析論２			2			○	○	

区分	分野	授業科目	単位			配当年次				要件
			必修	選択必修	選択	1	2	3	4	
選択（他学科）	会計学	監査論１			2			○	○	選択（他学科）分野の中から修得した場合は、30 単位まで卒業に必要な単位として認める。
		監査論２			2			○	○	
		国際会計学１			2			○	○	
		国際会計学２			2			○	○	
		会計学特殊講義１			2			○	○	
		会計学特殊講義２			2			○	○	
		会計学特殊講義３			2			○	○	
		会計学特殊講義４			2			○	○	
	法学	民法（総則）			2		○	○	○	
		民法（物権法）			2		○	○	○	
		商法（総則・商行為）			2		○	○	○	
		会社法１			2		○	○	○	
		民法（債権法総論）			2		○	○	○	
		民法（債権法各論）			2		○	○	○	
		市場競争法			2		○	○	○	
		知的財産法			2		○	○	○	
		行政法１			2		○	○	○	
		行政法２			2		○	○	○	
		会社法２			2			○	○	
		商法（手形法・小切手法）			2			○	○	
		民事紛争処理			2			○	○	
		国際法務１			2			○	○	
		国際法務２			2			○	○	
		税法１			2			○	○	
		税法２			2			○	○	
		労働法１			2			○	○	
		労働法２			2			○	○	
		社会保障法			2			○	○	
		比較会社法			2			○	○	
	経営特殊講義	経営特殊講義１			2		○	○	○	
		経営特殊講義２			2		○	○	○	
		経営特殊講義３			2			○	○	
		経営特殊講義４			2			○	○	
	経済学	経済原論１			2	○	○	○	○	
		経済原論２			2	○	○	○	○	
		経済政策１			2		○	○	○	
		経済政策２			2		○	○	○	
		国際経済学１			2		○	○	○	
		国際経済学２			2		○	○	○	
		財政学１			2		○	○	○	
		財政学２			2		○	○	○	

発展演習１・２及び卒業演習１・２の履修に関する注意点

経営学部では、３年次配当の発展演習１・２及び４年次配当の卒業演習１・２を履修するためには、満たすべき条件があります。

２年次から始まる演習（ゼミ）は必修科目で、基礎演習１・２、発展演習１・２及び卒業演習１・２のすべての科目を修得できなければ卒業できません。２年次終了時点で発展演習１・２の履修条件をみたしていなければ、最低で１年間の留年が決定してしまいますので、履修条件を十分理解し、単位を修得する必要があります。

それぞれの演習（ゼミ）の履修に関する条件は下記の通りです。

	基礎演習１・２	発展演習１・２	卒業演習１・２
履修条件の判定時期	※１年次の秋学期に随時基礎演習選択の結果発表を行なう	２年次終了時点	３年次終了時点
履修条件	※履修条件なし １年次の秋学期に基礎演習選択を行ない決定する	基礎演習１もしくは基礎演習２を修得済みであり、卒業要件単位数が44単位以上修得済みであること	基礎演習１及び基礎演習２を修得済みであり、発展演習１もしくは発展演習２を修得済みであること

演習以外の科目に関する履修条件について

上記の演習以外の科目にも、履修条件が設定されている科目があります。これらの科目を履修する際には、履修条件を満たしているか確認が必要です。

	経営実務英語３・４
履修条件の判定時期	履修登録しようとする年度の前年度末まで
履修条件	経営実務英語１・２、経営外国文献講読１・２の４科目の中から、４単位以上を修得済みであること

▶ 心理学部心理学科

区分	分野	授業科目	単位			配当年次				要件
			必修	選択必修	選択	1	2	3	4	
必修	研究	卒業研究１	2						○	４単位
		卒業研究２	2						○	
選択	論文	卒業論文			4				○	
選択必修	総合科目	心理学の総合的理解		2		○	○	○	○	２単位以上
		心理学総合科目１		2			○	○	○	
		心理学総合科目２		2			○	○	○	
	一般心理学系 概論科目	人間学基礎論		2			○	○	○	14 単位以上
		家族の倫理学		2			○	○	○	
		倫理学概論１		2			○	○	○	
		倫理学概論２		2			○	○	○	
		心理学の歴史		2				○	○	
		心理学体系論		2				○	○	
		ジェンダーの人間学		2				○	○	
	認知・脳科学系 概論科目	認知・脳科学入門		2		○	○	○	○	
		感覚心理学		2			○	○	○	
		認知心理学		2			○	○	○	
		生理心理学		2			○	○	○	
		生物行動学		2			○	○	○	
		認知神経心理学		2				○	○	
		感情心理学		2				○	○	
		環境心理学		2				○	○	
	生涯発達・生涯教育 心理学系概論科目	生涯発達・生涯教育心理学入門		2		○	○	○	○	
		生涯発達心理学		2			○	○	○	
		教育心理学		2			○	○	○	
		子ども学		2			○	○	○	
		カウンセリング心理学		2			○	○	○	
		家族心理学		2			○	○	○	
		言語発達心理学		2				○	○	
		学校心理学		2				○	○	
		キャリアガイダンス		2				○	○	
	臨床心理学系概論科目	臨床心理学入門		2		○	○	○	○	
		臨床心理学基礎論		2			○	○	○	
		パーソナリティ心理学		2			○	○	○	
		生育史心理学		2			○	○	○	
		精神分析学		2			○	○	○	
		精神医学		2			○	○	○	
		心理療法		2			○	○	○	
		発達障害論		2			○	○	○	
		障害福祉心理学		2			○	○	○	
		介護心理学		2			○	○	○	
		遊戯療法論		2			○	○	○	
		メンタルヘルス論		2			○	○	○	
		心理検査学		2				○	○	
	社会・犯罪系 概論科目	社会・犯罪心理学入門		2		○	○	○	○	
		社会心理学		2			○	○	○	
		文化心理学		2			○	○	○	
		犯罪心理学		2			○	○	○	
		交通心理学		2			○	○	○	
		対人行動論		2			○	○	○	
		産業心理学		2			○	○	○	
		消費者行動論		2			○	○	○	

区分	分野	授業科目	単位			配当年次				要件
			必修	選択必修	選択	1	2	3	4	
選択必修	特講	感覚心理学特講		2				○	○	2単位以上
		認知心理学特講		2				○	○	
		認知神経心理学特講		2				○	○	
		生涯発達心理学特講1		2				○	○	
		生涯発達心理学特講2		2				○	○	
		生涯教育心理学特講		2				○	○	
		心理療法特講1		2				○	○	
		心理療法特講2		2				○	○	
		臨床心理面接特講1		2				○	○	
		臨床心理面接特講2		2				○	○	
		臨床心理査定特講1		2				○	○	
		臨床心理査定特講2		2				○	○	
		社会心理学特講		2				○	○	
		交通心理学特講		2				○	○	
		犯罪心理学特講		2				○	○	
	ライフスタイル	ライフスタイル演習1		2		○				2単位以上
		ライフスタイル演習2		2			○			
選択必修	演習系	感覚心理学演習		2			○	○	○	2単位以上
		認知心理学演習		2			○	○	○	
		認知神経心理学演習		2			○	○	○	
		生涯発達心理学演習1		2			○	○	○	
		生涯発達心理学演習2		2			○	○	○	
		生涯教育心理学演習1		2			○	○	○	
		生涯教育心理学演習2		2			○	○	○	
		臨床心理面接演習1		2			○	○	○	
		臨床心理面接演習2		2			○	○	○	
		臨床心理査定演習		2			○	○	○	
		社会心理学演習		2			○	○	○	
		交通心理学演習		2			○	○	○	
		犯罪心理学演習		2			○	○	○	
	特殊演習	特殊演習1		2			○			2単位以上
		特殊演習2		2				○		
	実践演習	心理現場へのインターンシップ		2				○	○	2単位以上
		メンタルケア演習		2				○	○	
		チャイルドサポート演習		2				○	○	
		ビジネスリサーチ演習		2				○	○	
	研究法・技法	心理統計法		2		○	○	○	○	6単位以上
		レポート・論文の書き方		2			○	○	○	
		プリゼンテーション法		2			○	○	○	
		心理測定法		2			○	○	○	
		心理学的データ解析		2			○	○	○	
		心理学研究法		2			○	○	○	
		面接調査法		2			○	○	○	
		実験心理学演習		2			○	○	○	
		心理検査法演習1		2				○	○	
		心理検査法演習2		2				○	○	
		心理療法演習1		2				○	○	
		心理療法演習2		2				○	○	
		心理療法演習3		2				○	○	
	講読	感覚心理学講読		2		○	○	○	○	2単位以上
		認知心理学講読		2				○	○	
		認知神経心理学講読		2		○	○	○	○	
		生涯発達心理学講読		2		○	○	○	○	
		生涯教育心理学講読		2				○	○	
		臨床心理基礎論講読		2		○	○	○	○	
		臨床心理学面接講読1		2		○	○	○	○	
		臨床心理学面接講読2		2		○	○	○	○	
		心理療法講読		2				○	○	
		臨床心理技法講読		2				○	○	
		社会心理学講読		2				○	○	
		交通心理学講読		2				○	○	
		犯罪心理学講読		2		○	○	○	○	

区分	分野	授業科目	単位			配当年次				要件
			必修	選択必修	選択	1	2	3	4	
選択	他学部開講科目	現代文化論			2			○	○	
		現代社会論			2			○	○	
		歴史社会学			2			○	○	
		メディア文化論			2		○	○	○	
		メディア環境論			2			○	○	
		支配と抵抗の社会学			2			○	○	
		宗教文化論			2		○	○	○	
		サブカルチャー論			2		○	○	○	
		コミュニケーション論			2	○	○	○	○	
		コミュニケーションの社会学			2		○	○	○	
		スポーツ社会学			2		○	○	○	
		社会学史			2			○	○	
		社会学理論			2			○	○	
		家族文化論			2		○	○	○	
		家族社会学			2		○	○	○	
		ジェンダーの社会学			2			○	○	
		環境倫理学			2		○	○	○	
		都市文化論			2			○	○	
		文化人類学			2			○	○	
		基礎生態学			2			○	○	
		生態・環境論			2			○	○	
		人間関係論			2		○	○	○	
		社会福祉概論１			2		○	○	○	
		社会福祉概論２			2		○	○	○	
		老人福祉論			2		○	○	○	
		障害学			2		○	○	○	
		児童福祉論			2		○	○	○	
		地域福祉論			2		○	○	○	
		現代文化の諸相			2	○	○	○	○	
		モードとスタイル			2	○	○	○	○	
		映像文化論			2		○	○	○	
		ポップカルチャー			2		○	○	○	
		路上観察学			2		○	○	○	
		ライフスタイル論			2		○	○	○	
		逸脱論			2		○	○	○	
		消費文化論			2		○	○	○	
		ライフコース論			2		○	○	○	
		福祉文化論			2		○	○	○	
		アート環境論			2			○	○	
		身体文化論			2			○	○	
		エイジングの社会学			2			○	○	
		仕事と遊びの社会学			2			○	○	
		学校の社会学			2			○	○	
		組織論			2			○	○	
		ソーシャルワーク論			2			○	○	
		ＥＲＰビジネスプロセス１			2			○	○	
		ＥＲＰビジネスプロセス２			2			○	○	
		ＥＲＰビジネスプロセス演習１			2			○	○	
		ＥＲＰビジネスプロセス演習２			2			○	○	

心理学部心理学科のカリキュラムの成り立ちとメジャーの説明

心理学部心理学科においては、単に心理学を学ぶというのではなく、自分の将来の目的に応じて多様な心理学の中から必要な心理学を選りだして学ぶという考えの基にカリキュラムが構成されている。そして、この生き方に応じた心理学の学習と習得をめざした点が、心理学部心理学科の学びの最大の特徴である。

心理学部心理学科のカリキュラムの基本方針は、以下のとおりである。

1　科目設定に関しては、５つの柱（系）を明確にする。

概論科目群、特殊講義、講読、演習科目については、基礎系、認知・脳科学系、生涯発達・生涯教育心理学系、臨床心理学系、社会・犯罪心理学系の５つの系の名称をつけることで、科目の特徴を明示する。

2　大学における目的・生涯の目的を考える科目を設定する。

ライフスタイル演習１（自分を知り、他者と関わり他者を知る）、ライフスタイル演習２（自己設計学（自分の将来設計・キャリアプランニング））、心理学総合科目１（職業としての心理学（心理職とその仕事内容、技能ガイダンス科目））、心理学総合科目２（人生を知る）など、自分を知り、将来を見据え、大学における学習の意味づけをすることで、計画的に大学で過ごし、学習の動機を高める。

3　ニーズに応える多様な心理学の科目を用意し、科目間の構造化を図る。

さまざまな生き方、興味、関心に応じて学ぶことを保証する多様で多彩な心理学の科目を用意している。どの科目をどのような順序で履修するかを学年配当により順序づけ、明確にする。

4　進路・目的に応じたメジャーの設定

科目履修を目的に応じて可能なように、人の心のケアと福祉に関わる心理学を学ぶメンタルケアーメジャー、子どもの発達と教育のサポートに関わる心理学を学ぶチャイルドサポートメジャー、企業に就職して種々の仕事に役に立つ心理学を学ぶビジネスリサーチメジャーに分け、それに対応するメジャー演習を設定した。

5　実践的科目の導入

心理現場へのインターンシップ、メジャー演習（メンタルケア演習、チャイルドサポート演習、ビジネスリサーチ演習）などの科目を設定し、実際的な心理学の導入の科目群（実践演習）を設定する。

6　総合科目の導入

心理学の総合的基礎教育を達成するために、総合科目群を導入する。ここでは、大学における目的・生涯の目的を考える科目、実践的科目、その他総合科目を配する。具体的には、心理学の総合的理解、心理学総合科目１（職業としての心理学）、心理学総合科目２（人生を知る）などである。

このように、心理学部心理学科においては学生の生き方を中心に、生き方に沿って意味のある心理学を学ぶことを目指す。このために、最初の１年半は広く教養を身につけるとともに、自分を知り、他者との関わり方を学び、いろいろな心理に関連する職業の特徴や心理学の種類について学習し、生涯の目的を考える科目を設定することにより自分の生き方を明確にして、２年次後半からはその生き方に沿って自分に必要な心理学を学ぶことを目指す。心理学科では、これを実現するための教育課程を編成した。

具体的には、教養のための科目として共通科目（新入生演習、語学、基本科目、体育など）の修得と心理学科における総合科目の一つである心理学の総合的理解、各系の入門科目（認知・脳科学入門、生涯発達・生涯教育心理学入門、臨床心理学入門、社会・犯罪心理学入門）による心理学への招待や心理学へのガイダンス、さらに生き方を考えるためのライフスタイル演習１（自分を知り、他者と関わり他者を知る）、ライフスタイル演習２（自己設計学（自分の将来設計・キャリアプランニング））、心理学総合科目１（職業としての心理学）、心理学総合科目２（人生を知る）など、自分を知り、将来を見据え、今の学習の意義づけをすることで、計画的に大学で過ごし、学習の動機を高めるための科目を用意し、これをはじめの１年半くらいで履修するカリキュラム構成にした。そして、将来をある程度決定した後、自分の進路に合わせて必要な科目を計画的に修得するために、心理現場へのインターンシップ、メンタルケア演習、チャイルドサポート演習、ビジネスリサーチ演習などの科目を設定し、より現実的に社会に出てから必要とする心理学の知識や技能を習得できるようにした。

そして、関心のあるより専門的に心理学を学ぶための科目として特殊演習を設定し、最終的には卒業研究において大学で学んだ心理学についての集大成を行う。

ところで、心理学部心理学科では生き方に応じた進路として、３つのメジャー（専攻領域）を設定している。３つのメジャーは、以下のとおりである。

（1）メンタルケアーメジャー

人の心のケアと福祉に関わる仕事に就く、もしくはこのようなことを専門に学ぶために大学院を目指す人のためのメジャー

（2）チャイルドサポートメジャー

子どもの発達と教育のサポートに関わる仕事に就く、もしくはこのようなことを専門に学ぶために大学院を目指す人のためのメジャー

（3）ビジネスリサーチメジャー

企業に就職して種々の仕事に役に立つ心理学を学ぶ、もしくはこのようなことを専門に学ぶために大学院を目指す人のためのメジャー；このメジャーは多様で、セールス、製造、企画、事務、あるいは人にやさしい技術、使いやすい機器、生活しやすい環境をつくるという機械や住みやすい環境、建物、部屋など生活場面のデザイン（人間工学）などが含まれる。

心理学科では、教学関係の相談などに応じるために、各学年に教員をアカデミックアドバイザーとして配置して、学習や修学に関する相談を受けている。

認定心理士資格取得のための科目と必要な単位について

社団法人日本心理学会が認定する「認定心理士」資格を取得するには、下記の科目を、それぞれの要件にしたがって、在学中に修得する必要があります。そして、卒業後、各自で所定の申請書類と審査料とともに認定委員会に送付し、審査を受ける必要があります。

1．基礎科目

以下のａ、ｂ領域それぞれが４単位以上、ｃ領域は３単位以上を修得し、計 12 単位以上修得すること。

（ａ）心理学概論

心理学の総合的理解・心理学体系論（心理学概論）・心の科学

（ｂ）心理学研究法

心理検査学・心理統計法・心理測定法・心理学研究法・心理学的データ解析

（ｃ）心理学実験・実習

感覚心理学演習・認知心理学演習・認知神経心理学演習・実験心理学演習

2．選択科目

以下の５領域中３領域以上で各領域が少なくとも４単位以上かつ５領域の計が 16 単位以上修得すること。

（ｄ）知覚心理学・学習心理学

感覚心理学・認知心理学・感情心理学・感覚心理学特講・認知心理学特講・感覚心理学演習・認知心理学演習

（ｅ）生理心理学・比較心理学

生理心理学・認知神経心理学・認知神経心理学特講・認知神経心理学演習

（ｆ）教育心理学・発達心理学

生涯発達心理学・教育心理学・子ども学・学校心理学・生涯発達心理学特講１、２・生涯教育心理学特講・生涯発達心理学演習１、２

（ｇ）臨床心理学・人格心理学

カウンセリング心理学・臨床心理学基礎論・パーソナリティ心理学・精神分析学・心理療法・発達障害論・生涯福祉心理学・介護心理学・遊戯療法論・メンタルヘルス論・臨床心理査定演習・臨床心理面接演習１、２・心理療法特講・臨床心理面接特講１、２・臨床心理査定特講・犯罪心理学・犯罪心理学特講

（ｈ）社会心理学・産業心理学

環境心理学・家族心理学・社会心理学・文化心理学・交通心理学・社会心理学演習・交通心理学演習・ビジネスリサーチ演習・人間関係の心理学

3．その他の科目

上記（ａ）～（ｈ）の複数領域に関わる心理学関連科目および「卒業論文」・「卒業研究」から最大４単位を修得すること。なお、「卒業論文」・「卒業研究」は心理学に関連したテーマであることが必要であり、認定に必要な単位としては最大４単位までを認める。

以上の各領域にあげた科目は「認定心理士」に求められる最も重要な必修的知識や技術を含む最も望ましいとされる標準的な科目です。なお、上記科目以外にも若干条件を緩くして各「領域」の必要単位にすることのできる科目も多数あります。それらについては心理学科で開催するオリエンテーションや社団法人日本心理学会のホームページを参照してください。

▶ 社会学部社会学科

区分	分野	授業科目	単位			配当年次				要件
			必修	選択必修	選択	1	2	3	4	
必修	演習	表現演習	2			○				１４単位
		基礎演習１	2				○			
		基礎演習２	2				○			
		専門演習１	2					○		
		専門演習２	2					○		
		卒論演習１	2						○	
		卒論演習２	2						○	
	論文	卒業論文	6						○	６単位
選択必修	入門科目	文化と社会１		2		○	○	○	○	選択必修から４６単位以上
		文化と社会２		2		○	○	○	○	
		現代文化の諸相		2		○	○	○	○	
		モードとスタイル		2		○	○	○	○	
		コミュニケーション論		2		○	○	○	○	
		社会のイメージ		2		○	○	○	○	
	実践科目	文化社会学演習		2			○	○	○	
		社会探偵学演習		2			○	○	○	
		人間学演習１		2			○	○	○	
		人間学演習２		2			○	○	○	
		生態学フィールドワーク１		2				○	○	
		生態学フィールドワーク２		2				○	○	
		自主企画演習１		2					○	
		自主企画演習２		2					○	
	理論科目	社会学的想像力		2			○	○	○	
		社会学的リテラシー		2			○	○	○	
		パラドックスの社会学		2				○	○	
		社会学史		2				○	○	
		社会学理論		2				○	○	
	現代文化群	メディア文化論		2			○	○	○	
		サブカルチャー論		2			○	○	○	
		映像文化論		2			○	○	○	
		路上観察学		2			○	○	○	
		消費文化論		2			○	○	○	
		ポップカルチャー		2			○	○	○	
		文化記号論		2			○	○	○	
		スポーツ社会学		2			○	○	○	
		文化社会学特殊講義１		2			○	○	○	
		文化社会学特殊講義２		2			○	○	○	
		現代文化論		2				○	○	
		メディア環境論		2				○	○	
		モノと技術の社会学		2				○	○	
		アート環境論		2				○	○	
		都市文化論		2				○	○	
		知識社会学		2				○	○	
	人間関係群	ライフスタイル論		2			○	○	○	
		コミュニケーションの社会学		2			○	○	○	
		逸脱論		2			○	○	○	
		家族文化論		2			○	○	○	
		家族社会学		2			○	○	○	
		ライフコース論		2			○	○	○	
		自己と感情の社会学		2			○	○	○	
		人間関係論		2			○	○	○	
		人間学		2			○	○	○	
		障害学		2			○	○	○	

区分	分野	授業科目	単位			配当年次				要件
			必修	選択必修	選択	1	2	3	4	
選択必修	人間関係群	人権教育論		2			○	○	○	４６単位以上
		社会福祉学特殊講義１		2			○	○	○	
		社会福祉学特殊講義２		2			○	○	○	
		社会的行為論		2				○	○	
		身体文化論		2				○	○	
		ジェンダーの社会学		2				○	○	
		エイジングの社会学		2				○	○	
		支配と抵抗の社会学		2				○	○	
		仕事と遊びの社会学		2				○	○	
		人間形成論		2				○	○	
		児童福祉論		2				○	○	
		老人福祉論		2				○	○	
	社会環境群	近代性の社会学		2			○	○	○	
		宗教文化論		2			○	○	○	
		学校の社会学		2			○	○	○	
		福祉文化論		2			○	○	○	
		地域福祉論		2			○	○	○	
		環境倫理学		2			○	○	○	
		社会問題論		2			○	○	○	
		現代社会特殊講義１		2			○	○	○	
		現代社会特殊講義２		2			○	○	○	
		現代社会論		2				○	○	
		組織論		2				○	○	
		ソーシャルワーク論		2				○	○	
		境界性の社会学		2				○	○	
		場所と移動の社会学		2				○	○	
		グローバル化の社会学		2				○	○	
		文化人類学		2				○	○	
		歴史社会学		2				○	○	
		基礎生態学		2				○	○	
		生態・環境論		2				○	○	
選択		社会学概論１			2		○	○	○	
		社会学概論２			2		○	○	○	
		哲学概論１			2		○	○	○	
		哲学概論２			2		○	○	○	
		社会福祉概論１			2		○	○	○	
		社会福祉概論２			2		○	○	○	
	他学部開講科目	人間学基礎論			2		○	○	○	
		家族の倫理学			2		○	○	○	
		生物行動学			2		○	○	○	
		認知心理学			2		○	○	○	
		生涯発達心理学			2		○	○	○	
		パーソナリティ心理学			2		○	○	○	
		カウンセリング心理学			2		○	○	○	
		臨床心理学基礎論			2		○	○	○	
		精神医学			2		○	○	○	
		心理療法			2		○	○	○	
		メンタルヘルス論			2		○	○	○	
		社会心理学			2		○	○	○	
		交通心理学			2		○	○	○	
		犯罪心理学			2		○	○	○	
		障害福祉心理学			2		○	○	○	
		介護心理学			2		○	○	○	
		教育心理学			2		○	○	○	
		子ども学			2		○	○	○	
		家族心理学			2		○	○	○	
		生育史心理学			2		○	○	○	
		発達障害論			2		○	○	○	
		文化心理学			2		○	○	○	
		地球環境論１			2			○	○	
		地球環境論２			2			○	○	

▶ 国際教養学部アジア学科

区分	分野	授業科目	単位			配当年次				要件
			必修	選択必修	選択	1	2	3	4	
必修	講義	アジア論１	2				○	○	○	１６単位
		アジア論２	2				○	○	○	
	演習	基礎演習１	2				○	○	○	
		基礎演習２	2				○	○	○	
		応用演習１	2					○	○	
		応用演習２	2					○	○	
		卒業演習１	2						○	
		卒業演習２	2						○	
選択必修A	専修中国語群	専修中国語初級講読１		2		○	○	○	○	専修中国語群または専修英語群のいずれかを 16 単位以上。ただし、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者については学科の指定する専修外国語群から16 単位以上。専修中国語初級講読１と専修中国語初級講読３、または専修中国語初級講読２と専修中国語初級講読４は、それぞれ必ずセットとして、なおかつ同じクラスで履修すること。
		専修中国語初級講読２		2		○	○	○	○	
		専修中国語初級講読３		2		○	○	○	○	
		専修中国語初級講読４		2		○	○	○	○	
		専修中国語初級会話１		2		○	○	○	○	
		専修中国語初級会話２		2		○	○	○	○	
		専修中国語中級講読１		2			○	○	○	
		専修中国語中級講読２		2			○	○	○	
		専修中国語中級作文１		2			○	○	○	
		専修中国語中級作文２		2			○	○	○	
		専修中国語中級会話１		2			○	○	○	
		専修中国語中級会話２		2			○	○	○	
		専修総合中国語１		2				○	○	
		専修総合中国語２		2				○	○	
		専修中国語上級会話１		2				○	○	
		専修中国語上級会話２		2				○	○	
		中国語現地演習		4			○	○	○	中国語現地演習と中国語文化演習は必ずセットで履修すること。
		中国語文化演習		4			○	○	○	
	専修英語群	英語リーディング１		2		○	○	○	○	
		英語リーディング２		2		○	○	○	○	
		英語ライティング１		2		○	○	○	○	
		英語ライティング２		2		○	○	○	○	
		英語発音クリニック		2		○	○	○	○	
		英語リーディング３		2			○	○	○	
		英語リーディング４		2			○	○	○	
		英語ライティング３		2			○	○	○	
		英語ライティング４		2			○	○	○	
		英語コミュニケーション１		2			○	○	○	
		英語コミュニケーション２		2			○	○	○	
		英語プレゼンテーション１		2				○	○	
		英語プレゼンテーション２		2				○	○	
		カナダ現地演習		4			○	○	○	カナダ現地演習とカナダ文化演習は必ずセットで履修すること。
		カナダ文化演習		4			○	○	○	
選択必修B	論文	卒業論文		6					○	２４単位以上
	講義	フィールドワーク論		2		○	○	○	○	
		東洋史概説１		2			○	○	○	
		東洋史概説２		2			○	○	○	
		西洋史概説１		2			○	○	○	
		西洋史概説２		2			○	○	○	
		日本史概説１		2			○	○	○	
		日本史概説２		2			○	○	○	
		考古学概説１		2			○	○	○	
		考古学概説２		2			○	○	○	
		人文地理学概説１		2			○	○	○	
		人文地理学概説２		2			○	○	○	
		自然地理学概説１		2			○	○	○	
		自然地理学概説２		2			○	○	○	

区分	分野	授業科目	単位			配当年次				要件
			必修	選択必修	選択	1	2	3	4	
選択必修B	講義	地誌学１		2			○	○	○	２４単位以上
		地誌学２		2			○	○	○	
		アジア研究入門１		2			○	○	○	
		アジア研究入門２		2			○	○	○	
		東南アジアの社会１		2			○	○	○	
		東南アジアの社会２		2			○	○	○	
		南・西南アジアの社会１		2			○	○	○	
		南・西南アジアの社会２		2			○	○	○	
		インドの思想と宗教１		2			○	○	○	
		インドの思想と宗教２		2			○	○	○	
		近現代の中国		2			○	○	○	
		現代中国の文芸１		2			○	○	○	
		現代中国の文芸２		2			○	○	○	
		漢文学		2			○	○	○	
		日本文学史１		2			○	○	○	
		日本文学史２		2			○	○	○	
		日本文学概説１		2			○	○	○	
		日本文学概説２		2			○	○	○	
		中国の思想１		2				○	○	
		中国の思想２		2				○	○	
		西南アジアの歴史１		2				○	○	
		西南アジアの歴史２		2				○	○	
		中国の文学１		2				○	○	
		中国の文学２		2				○	○	
		日本の芸能と文学１		2				○	○	
		日本の芸能と文学２		2				○	○	
		比較社会史１		2				○	○	
		比較社会史２		2				○	○	
		現代アジアの諸問題１		2				○	○	
		現代アジアの諸問題２		2				○	○	
		アジア・オーストラリア関係論１		2			○	○	○	
		アジア・オーストラリア関係論２		2			○	○	○	
選択必修C	講義	アジアフィールドワーク１		4			○	○	○	６単位以上 アジアフィールドワークとアジア社会演習は、必ず同一地域のもの（科目名番号の同じもの）をセットで履修すること。
		アジア社会演習１		4			○	○	○	
		アジアフィールドワーク２		4			○	○	○	
		アジア社会演習２		4			○	○	○	
		アジアフィールドワーク３		4			○	○	○	
		アジア社会演習３		4			○	○	○	
		アジアフィールドワーク４		4			○	○	○	
		アジア社会演習４		4			○	○	○	
		日本語のための古典１		2		○	○	○	○	
		日本語のための古典２		2		○	○	○	○	
		日本語学１		2		○	○	○	○	
		日本語学２		2		○	○	○	○	
		南・西南アジア諸語の世界１		2			○	○	○	
		南・西南アジア諸語の世界２		2			○	○	○	
		東南アジア諸語の世界１		2			○	○	○	
		東南アジア諸語の世界２		2			○	○	○	
		韓国語・朝鮮語の世界		2			○	○	○	
		国語学１		2			○	○	○	
		国語学２		2			○	○	○	
		応用日本語１		2			○	○	○	
		応用日本語２		2			○	○	○	
		国語学史		2				○	○	
		日本語教育演習１		2				○	○	
		日本語教育演習２		2				○	○	
		アジア英語１		2				○	○	
		アジア英語２		2				○	○	
	実習	日本語教育実習１		1					○	
		日本語教育実習２		1					○	

区分	分野	授業科目	単位			配当年次				要件
			必修	選択必修	選択	1	2	3	4	
選択	講義	イギリス文化講義			2		○	○	○	
		アメリカ文化講義			2		○	○	○	
		イギリス史			2		○	○	○	
		アメリカ史			2		○	○	○	
		英文学概論１			2		○	○	○	
		英文学概論２			2		○	○	○	
		米文学概論１			2		○	○	○	
		米文学概論２			2		○	○	○	
		英語学概論１			2		○	○	○	
		英語学概論２			2		○	○	○	
		英語学講義１			2		○	○	○	
		英語学講義２			2		○	○	○	
		英語音声学１			2		○	○	○	
		英語音声学２			2		○	○	○	
		英語コミュニケーション論１			2		○	○	○	
		英語コミュニケーション論２			2		○	○	○	
		情報科学各論１			2		○	○	○	
		情報科学各論２			2		○	○	○	
		言語情報処理概論１			2		○	○	○	
		言語情報処理概論２			2		○	○	○	
		コンピュータと英語研究			2		○	○	○	
		コンピュータと英語教育			2		○	○	○	
		異文化間コミュニケーション論１			2		○	○	○	
		異文化間コミュニケーション論２			2		○	○	○	
		日欧比較論１			2		○	○	○	
		日欧比較論２			2		○	○	○	
		美学美術史１			2		○	○	○	
		美学美術史２			2		○	○	○	
		文化人類学			2			○	○	
		経済原論１			2		○	○	○	
		経済原論２			2		○	○	○	
		アジア経済論１			2		○	○	○	
		アジア経済論２			2		○	○	○	
		オーストラリア経済論			4		○	○	○	
		オーストラリア産業論１			2		○	○	○	
		オーストラリア産業論２			2		○	○	○	
		韓国の文化と社会１			2		○	○	○	
		韓国の文化と社会２			2		○	○	○	
		現代韓国事情			2		○	○	○	
		社会学概論１			2		○	○	○	
		社会学概論２			2		○	○	○	
		哲学概論１			2		○	○	○	
		哲学概論２			2		○	○	○	
		日本経済史１			2			○	○	
		日本経済史２			2			○	○	
		外国経済史１			2			○	○	
		外国経済史２			2			○	○	
		経済地理１			2			○	○	
		経済地理２			2			○	○	
		中国語科教育研究１			2			○	○	
		中国語科教育研究２			2			○	○	
		国語科教育研究１			2			○	○	
		国語科教育研究２			2			○	○	
		ＥＲＰビジネスプロセス１			2			○	○	
		ＥＲＰビジネスプロセス２			2			○	○	
		ＥＲＰビジネスプロセス演習１			2			○	○	
		ＥＲＰビジネスプロセス演習２			2			○	○	

▶ 国際教養学部英語コミュニケーション学科

区分	分野	授業科目	単位			配当年次				要件
			必修	選択必修	選択	1	2	3	4	
必修	日本語能力強化科目	日本語ワークショップ	2				○	○	○	2単位
	専修英語	英語リーディング1	2			○	○	○	○	26単位
		英語リーディング2	2			○	○	○	○	
		英語ライティング1	2			○	○	○	○	
		英語ライティング2	2			○	○	○	○	
		英語発音クリニック	2			○	○	○	○	
		英語リーディング3	2				○	○	○	
		英語リーディング4	2				○	○	○	
		英語ライティング3	2				○	○	○	
		英語ライティング4	2				○	○	○	
		英語コミュニケーション1	2				○	○	○	
		英語コミュニケーション2	2				○	○	○	
		英語プレゼンテーション1	2					○	○	
		英語プレゼンテーション2	2					○	○	
選択	専修中国語群	専修中国語初級講読1			2	○	○	○	○	専修中国語初級講読1と専修中国語初級講読3、または専修中国語初級講読2と専修中国語初級講読4は、それぞれ必ずセットとして、なおかつ同じクラスで履修すること。
		専修中国語初級講読2			2	○	○	○	○	
		専修中国語初級講読3			2	○	○	○	○	
		専修中国語初級講読4			2	○	○	○	○	
		専修中国語初級会話1			2	○	○	○	○	
		専修中国語初級会話2			2	○	○	○	○	
		専修中国語中級講読1			2		○	○	○	
		専修中国語中級講読2			2		○	○	○	
		専修中国語中級作文1			2		○	○	○	
		専修中国語中級作文2			2		○	○	○	
		専修中国語中級会話1			2		○	○	○	
		専修中国語中級会話2			2		○	○	○	
		専修総合中国語1			2			○	○	
		専修総合中国語2			2			○	○	
		専修中国語上級会話1			2			○	○	
		専修中国語上級会話2			2			○	○	
選択必修A	実践英語	資格英語1		2				○	○	8単位以上
		資格英語2		2				○	○	
		資格英語3		2					○	
		資格英語4		2					○	
		トラベルイングリッシュ1		2				○	○	
		トラベルイングリッシュ2		2				○	○	
		観光ビジネス英語1		2				○	○	
		観光ビジネス英語2		2				○	○	
		秘書英語1		2				○	○	
		秘書英語2		2				○	○	
		通訳英語1		2				○	○	
		通訳英語2		2				○	○	
必修	演習	特論演習1	2					○	○	8単位
		特論演習2	2					○	○	
		卒業演習1	2						○	
		卒業演習2	2						○	
選択	論文	卒業論文			4				○	

区分	分野	授業科目	単位			配当年次				要件
			必修	選択必修	選択	1	2	3	4	
選択必修B	講義	イギリス文化講義		2			○	○	○	１２単位以上
		アメリカ文化講義		2			○	○	○	
		イギリス史		2			○	○	○	
		アメリカ史		2			○	○	○	
		英文学概論１		2			○	○	○	
		英文学概論２		2			○	○	○	
		米文学概論１		2			○	○	○	
		米文学概論２		2			○	○	○	
		英語学概論１		2			○	○	○	
		英語学概論２		2			○	○	○	
		英語学講義１		2			○	○	○	
		英語学講義２		2			○	○	○	
		英語音声学１		2			○	○	○	
		英語音声学２		2			○	○	○	
		英語コミュニケーション論１		2			○	○	○	
		英語コミュニケーション論２		2			○	○	○	
		情報科学各論１		2			○	○	○	
		情報科学各論２		2			○	○	○	
		言語情報処理概論１		2			○	○	○	
		言語情報処理概論２		2			○	○	○	
		コンピュータと英語教育		2			○	○	○	
		コンピュータと英語研究		2			○	○	○	
		異文化間コミュニケーション論１		2			○	○	○	
		異文化間コミュニケーション論２		2			○	○	○	
		日欧比較論１		2			○	○	○	
		日欧比較論２		2			○	○	○	
	現地演習	カナダ現地演習		4			○	○	○	現地演習と文化演習は、同一地域のものを必ずセットで履修すること。
		カナダ文化演習		4			○	○	○	
		中国語現地演習		4			○	○	○	
		中国語文化演習		4			○	○	○	
	講義	アジア論１		2			○	○	○	
		アジア論２		2			○	○	○	
		フィールドワーク論		2		○	○	○	○	
		東洋史概説１		2			○	○	○	
		東洋史概説２		2			○	○	○	
		日本史概説１		2			○	○	○	
		日本史概説２		2			○	○	○	
		考古学概説１		2			○	○	○	
		考古学概説２		2			○	○	○	
		人文地理学概説１		2			○	○	○	
		人文地理学概説２		2			○	○	○	
		自然地理学概説１		2			○	○	○	
		自然地理学概説２		2			○	○	○	
		地誌学１		2			○	○	○	
		地誌学２		2			○	○	○	
		アジア研究入門１		2			○	○	○	
		アジア研究入門２		2			○	○	○	
		東南アジアの社会１		2			○	○	○	
		東南アジアの社会２		2			○	○	○	
		南・西南アジアの社会１		2			○	○	○	
		南・西南アジアの社会２		2			○	○	○	
		インドの思想と宗教１		2			○	○	○	
		インドの思想と宗教２		2			○	○	○	
		近現代の中国		2			○	○	○	
		現代中国の文芸１		2			○	○	○	
		現代中国の文芸２		2			○	○	○	
		漢文学		2			○	○	○	
		日本文学史１		2			○	○	○	
		日本文学史２		2			○	○	○	
		日本文学概説１		2			○	○	○	
		日本文学概説２		2			○	○	○	

区分	分野	授業科目	単位			配当年次				要件
			必修	選択必修	選択	1	2	3	4	
選択必修B	講義	中国の思想１		2				○	○	１２単位以上
		中国の思想２		2				○	○	
		西南アジアの歴史１		2				○	○	
		西南アジアの歴史２		2				○	○	
		中国の文学１		2				○	○	
		中国の文学２		2				○	○	
		日本の芸能と文学１		2				○	○	
		日本の芸能と文学２		2				○	○	
		比較社会史１		2				○	○	
		比較社会史２		2				○	○	
		現代アジアの諸問題１		2				○	○	
		現代アジアの諸問題２		2				○	○	
		アジア・オーストラリア関係論１		2			○	○	○	
		アジア・オーストラリア関係論２		2			○	○	○	
		アジアフィールドワーク１		4			○	○	○	アジアフィールドワークとアジア社会演習は、必ず同一地域のもの（科目名番号の同じもの）をセットで履修すること。
		アジア社会演習１		4			○	○	○	
		アジアフィールドワーク２		4			○	○	○	
		アジア社会演習２		4			○	○	○	
		アジアフィールドワーク３		4			○	○	○	
		アジア社会演習３		4			○	○	○	
		アジアフィールドワーク４		4			○	○	○	
		アジア社会演習４		4			○	○	○	
		日本語のための古典１		2		○	○	○	○	
		日本語のための古典２		2		○	○	○	○	
		日本語学１		2		○	○	○	○	
		日本語学２		2		○	○	○	○	
		南・西南アジア諸語の世界１		2			○	○	○	
		南・西南アジア諸語の世界２		2			○	○	○	
		東南アジア諸語の世界１		2			○	○	○	
		東南アジア諸語の世界２		2			○	○	○	
		韓国語・朝鮮語の世界		2			○	○	○	
		国語学１		2			○	○	○	
		国語学２		2			○	○	○	
		国語学史		2				○	○	
		日本語教育演習１		2				○	○	
		日本語教育演習２		2				○	○	
		アジア英語１		2				○	○	
		アジア英語２		2				○	○	
		日本語教育実習１		1					○	
		日本語教育実習２		1					○	
選択	講義	西洋史概説１			2		○	○	○	
		西洋史概説２			2		○	○	○	
		応用日本語１			2		○	○	○	
		応用日本語２			2		○	○	○	
		心理学の歴史			2			○	○	
		心理学体系論			2			○	○	
		美学美術史１			2		○	○	○	
		美学美術史２			2		○	○	○	
		哲学概論１			2		○	○	○	
		哲学概論２			2		○	○	○	
		認知心理学			2		○	○	○	
		文化人類学			2			○	○	
		オーストラリア産業論１			2		○	○	○	
		オーストラリア産業論２			2		○	○	○	
		韓国の文化と社会１			2		○	○	○	
		韓国の文化と社会２			2		○	○	○	
		現代韓国事情			2		○	○	○	
		ＥＲＰビジネスプロセス１			2			○	○	
		ＥＲＰビジネスプロセス２			2			○	○	
		ＥＲＰビジネスプロセス演習１			2			○	○	
		ＥＲＰビジネスプロセス演習２			2			○	○	

副専攻

用語解説

副専攻とは、各学科の専門分野以外に、所属学科以外の科目や特定の分野に関する科目を系統的に学ぶことにより、広く基本的な知識を習得し、また専門的な内容を補完することで、より広い視野から物事を考察できる能力や実践的応用力を身につけることができる制度です（ただし、心理学部、社会学部は副専攻制度を導入していません）。

副専攻には、『経済学』『経営学』『キャリアデザイン』『英語』『ヨーロッパ』の５つの専攻があります。それぞれ、定められた科目から 20 単位を修得すれば、卒業時に分野を記載した副専攻修了証明書を取得することができます。なお、副専攻のために修得した他学科科目の単位については、最大 20 単位を上限として卒業に必要な単位として認められます。

副専攻を履修するためには、事前に教務課で所定の手続きを行う必要があります。手続きの詳細については、年度初めに配布する「履修登録ガイド」に記載されていますので、確認してください。

また、学部ごとに履修できる副専攻が定められていますので、下表を参照してください。

【学部ごとに履修できる副専攻】

	経済学	経営学	キャリアデザイン	英語	ヨーロッパ
経済学部		○	○	○	○
経営学部	○		○	○	○
心理学部					
社会学部					
国際教養学部	○	○	○		

心理学部・社会学部は副専攻を履修できません

各専攻に配置された科目および要件については、次ページ以降の表を参照してください。

▶ 経済学副専攻

受講可能学部：経営学部・国際教養学部

区分	授業科目	単位	配当			
			1	2	3	4
学科科目	ヒューマンエコノミー概論１	2	○	○	○	○
	ヒューマンエコノミー概論２	2	○	○	○	○
	マクロ経済学１	2			○	○
	マクロ経済学２	2			○	○
	経済政策	4		○	○	○
	日本経済論１	2		○	○	○
	日本経済論２	2		○	○	○
	アジア経済論１	2		○	○	○
	アジア経済論２	2		○	○	○
	アメリカ経済論１	2		○	○	○
	アメリカ経済論２	2		○	○	○
	ヨーロッパ経済論１	2		○	○	○
	ヨーロッパ経済論２	2		○	○	○
	オーストラリア経済論	4		○	○	○
	経済学史１	2		○	○	○
	経済学史２	2		○	○	○
	外国経済史１※	2		○	○	○
	外国経済史２※	2		○	○	○
	食料経済論１	2		○	○	○
	食料経済論２	2		○	○	○
	社会保障	4			○	○
	国際労働経済論１	2			○	○
	国際労働経済論２	2			○	○
	ファイナンス論１	2			○	○
	ファイナンス論２	2			○	○
	経済統計学１	2		○	○	○
	経済統計学２	2		○	○	○
	地域開発論１	2		○	○	○
	地域開発論２	2		○	○	○
	開発経済学１	2		○	○	○
	開発経済学２	2		○	○	○

※アジア学科での「外国経済史１・２」の配当は３年次以上です。

▶ 経営学副専攻

受講可能学部：経済学部・国際教養学部

区分	授業科目	単位	配当			
			1	2	3	4
学科科目	経営学概論１	2	○	○	○	○
	経営学概論２	2	○	○	○	○
	入門簿記	2	○	○	○	○
	初級簿記	2	○	○	○	○
	経営管理論１	2		○	○	○
	経営管理論２	2		○	○	○
	企業論１	2		○	○	○
	企業論２	2		○	○	○
	ベンチャービジネス論１	2		○	○	○
	ベンチャービジネス論２	2		○	○	○
	マーケティング論１	2		○	○	○
	マーケティング論２	2		○	○	○
	生産管理論１	2			○	○
	生産管理論２	2			○	○
	人的資源管理論１	2			○	○
	人的資源管理論２	2			○	○
	財務管理論１	2			○	○
	財務管理論２	2			○	○

▶ キャリアデザイン副専攻

受講可能学部：経済学部・経営学部・国際教養学部

区分	授業科目	単位	配当			
			1	2	3	4
総合科目	キャリアデザイン論	2	○	○	○	○
	ボランティア論	2	○	○	○	○
	キャリア形成論１	2		○	○	○
	キャリア形成論２	2		○	○	○
	社会人の基礎	2			○	○
	インターンシップ１	2			○	○
	インターンシップ２	2			○	○
学科科目	カウンセリング心理学	2		○	○	○
	キャリアガイダンス	2			○	○
	労働経済学１	2			○	○
	労働経済学２	2			○	○
	人的資源管理論１	2			○	○
	人的資源管理論２	2			○	○

▶ 英語副専攻

受講可能学部：経済学部・経営学部

区分	授業科目	単位	配当			
			1	2	3	4
学科科目	イギリス文化講義	2		○	○	○
	アメリカ文化講義	2		○	○	○
	イギリス史	2		○	○	○
	アメリカ史	2		○	○	○
	英文学概論１	2		○	○	○
	英文学概論２	2		○	○	○
	米文学概論１	2		○	○	○
	米文学概論２	2		○	○	○
	英語学概論１	2		○	○	○
	英語学概論２	2		○	○	○
	英語学講義１	2		○	○	○
	英語学講義２	2		○	○	○
	英語音声学１	2		○	○	○
	英語音声学２	2		○	○	○
	英語コミュニケーション論１	2		○	○	○
	英語コミュニケーション論２	2		○	○	○
	情報科学各論１	2		○	○	○
	情報科学各論２	2		○	○	○
	言語情報処理概論１	2		○	○	○
	言語情報処理概論２	2		○	○	○
	コンピュータと英語教育	2		○	○	○
	コンピュータと英語研究	2		○	○	○
	異文化間コミュニケーション論１	2		○	○	○
	異文化間コミュニケーション論２	2		○	○	○
	日欧比較論１	2		○	○	○
	日欧比較論２	2		○	○	○

▶ ヨーロッパ副専攻

受講可能学部：経済学部・経営学部

区分	授業科目	単位	配当			
			1	2	3	4
基本科目	ことばと文化（ドイツ語）	2	○	○	○	○
	ことばと文化（フランス語）	2	○	○	○	○
	比較思想概論１	2	○	○	○	○
	比較思想概論２	2	○	○	○	○
	比較文化概論１	2	○	○	○	○
	比較文化概論２	2	○	○	○	○
	ヨーロッパの思想１	2	○	○	○	○
	ヨーロッパの思想２	2	○	○	○	○
	ヨーロッパの文学１	2	○	○	○	○
	ヨーロッパの文学２	2	○	○	○	○
総合科目	海外セミナー（ロンドン）	4	○	○	○	○
外国語科目	ドイツ語読解中級１	1		○	○	○
	ドイツ語読解中級２	1		○	○	○
	ドイツ語表現中級１	1		○	○	○
	ドイツ語表現中級２	1		○	○	○
	ドイツ語読解上級１	1			○	○
	ドイツ語読解上級２	1			○	○
	ドイツ語表現上級１	1			○	○
	ドイツ語表現上級２	1			○	○
	ドイツ語読解演習１	1			○	○
	ドイツ語読解演習２	1			○	○
	ドイツ語表現演習１	1			○	○
	ドイツ語表現演習２	1			○	○
	フランス語読解中級１	1		○	○	○
	フランス語読解中級２	1		○	○	○
	フランス語表現中級１	1		○	○	○
	フランス語表現中級２	1		○	○	○
	フランス語読解上級１	1			○	○
	フランス語読解上級２	1			○	○
	フランス語表現上級１	1			○	○
	フランス語表現上級２	1			○	○
	フランス語読解演習１	1			○	○
	フランス語読解演習２	1			○	○
	フランス語表現演習１	1			○	○
	フランス語表現演習２	1			○	○
学科科目	日欧比較論１	2		○	○	○
	日欧比較論２	2		○	○	○
	西洋史概説１	2		○	○	○
	西洋史概説２	2		○	○	○
	ヨーロッパ経済論１	2		○	○	○
	ヨーロッパ経済論２	2		○	○	○

履　修

履修とは　P. 98
履修単位制限　P. 99
履修計画　P. 100
履修登録について　P. 101

履修とは

用語解説

履修とは、「履修しようとする科目について登録し、その後、授業・試験を受けて合格し、単位を修得する」までの一連の過程を意味します。

特に、履修登録は、その年度に自分が履修しようとする科目を登録する手続きで、学修計画の出発点となるものです。定められた期間内に履修登録を行わなければ、授業および試験を受けることができず、単位を修得できません。

したがって、その年度（春学期・秋学期）の学修方針を決定するだけでなく、翌年度以降の履修にも影響するこの手続きは、年間を通じてもっとも重要であることを認識し、計画的に行う必要があります。

本学での履修手続きは、インターネットを利用したWEBシステム「UNIVERSAL PASSPORT」で行います。

詳細は、別途配布する『履修登録ガイド』及び『UNIVERSAL PASSPORT 利用ガイド』をよく読んで取り組みましょう。

履修単位制限

各学期で履修登録することのできる単位数（履修単位制限）の上限は次のとおりです。

【履修単位制限の上限】

年　次	1年		2年		3年		4年	
学　期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
単位数	25	25	25	25	25	25	30	30
編入生					35	35	35	35

※通年科目の単位数については、春学期の制限に含まれます。

次にあげる科目は、上表の履修単位制限を越えて履修することができます。

(1) 国際交流科目[1]
(2) 放送大学の科目を修得した場合及び資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合[2]
(3) 大学コンソーシアム大阪単位互換協定により単位を修得した場合[3]
(4) 資格取得に関する科目等のうち、卒業要件とならない科目

なお、(1) ～ (3) については、履修登録とは別に、事前の手続きが必要です。
(4) の資格取得に関する科目および履修手続きについては、『履修登録ガイド』で確認してください。

用語解説

1．国際交流科目
⇒ P. 61 を参照。

2．資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合
⇒ P. 61 を参照。

3．大学コンソーシアム大阪単位互換協定により単位を修得した場合
⇒ P. 62 を参照。

履修計画

どの科目を履修するかについては、卒業までのプロセスを自分なりに考え、授業科目を体系づけて計画することが必要です。各自の履修計画を立てるには、「時間割作成の手引き[1]」、「履修登録ガイド」、「シラバス[2]」、「STUDY GUIDE（本書）」を参考にするとよいでしょう。

授業科目の中には、抽選登録を必要とする科目[3]があります。コンピュータを使う授業、外国語及び体育実技などは人数制限を行うために抽選となります。履修計画を立てる際に、抽選登録の必要な科目を確認しておく必要があります。

特に、履修科目の登録・確認は、卒業、履修条件等に関わる極めて重要な事項です。決して他人に代行させたり、人任せにしてはいけません。

用語解説

1. 時間割作成の手引き
学期・曜日・時限ごとに授業科目と担当者名が記載された、各学科別の時間割。

2. シラバス
⇒ P. 44 を参照。

3. 抽選科目
⇒履修登録ガイド参照。

4. 卒業要件単位
⇒ P. 47 ～ 54 を参照。

▶ 履修計画の立て方

1．履修に必要な資料を受け取ります。

オリエンテーションに参加するにあたり、まず資料を受け取ってください。１年次のみ配付される資料は、卒業するまで大切に保管してください。

【配付資料】

- STUDY GUIDE（１年次のみ配付）
- UNIVERSAL PASSPORT ガイド（１年次のみ配付）
- 履修登録ガイド
- 時間割作成の手引き

2．オリエンテーションに出席しましょう。

オリエンテーションでは、履修についての具体的な説明や指示がなされます。

3．履修相談を活用しましょう。

オリエンテーション期間中に履修相談を行っています。自分の履修計画をチェック、検討するために役立ててください。わからないことがあれば、この期間を活用するとよいでしょう。

4．時間割を考えます。

「時間割作成の手引き」を見て、履修登録ガイドの履修登録下書き用紙に時間割を作成していきます。その際に心がけるのは、次の (1) ～ (4) です。

(1) 卒業に必要な単位[4]（必修、選択必修、選択）の確認。
(2) まず必修、次に選択必修、それから選択科目と履修登録する科目の優先順位を考える。
(3) シラバスで授業の内容、評価方法等を確認する。
(4) 抽選登録の必要な科目があれば、履修登録ガイドの抽選登録下書き用紙にメモしておこう。

さぁ、いよいよ履修登録開始です。

履修登録について

春学期に必ず１年間（春学期＋秋学期）の履修登録を行います。

履修登録ガイドの履修登録下書き用紙を手元に準備します。

↓

抽選登録は必要ですか？

いいえ → 春学期授業開始

はい → 抽選登録[1]

当選した科目は、原則として取消できません。

↓

抽選結果発表

当選 → 春学期授業開始

落選 → 追加募集（先着順）

抽選の結果、定員に達しなかった科目（クラス）については先着順で追加募集を行います。

↓

春学期授業開始

↓

履修登録

春学期と秋学期の両方の履修登録をします。秋学期を忘れないように！！

【履修登録画面上に「履修登録済」として登録されている科目】

- あらかじめクラスが指定されている科目
- 抽選登録で当選した科目

↓

履修登録終了

履修登録終了後は、履修登録の修正が認められません。

～履修登録確認期間[2]

履修放棄

履修登録を取りやめたい場合、一部の科目を除いて春学期６単位までの履修放棄が認められます。履修放棄した科目はＧＰＡ[3]算出の対象になりません。

秋学期履修修正[4]

秋学期開講科目（一部を除く）について、履修制限単位数の範囲内であれば追加･削除が可能です。特に必要がない場合は、履修修正を行わなくてもかまいません。

↓

秋学期授業開始

↓

履修修正締め切り

～履修修正確認期間

履修放棄

履修登録を取りやめたい場合、一部の科目を除いて秋学期６単位までの履修放棄が認められます。履修放棄した科目はＧＰＡ算出の対象になりません。

用語解説

1. 抽選登録
春学期のみ実施。
履修者数に制限のある科目について、履修登録の前にコンピュータによる抽選で履修者を決定する制度。

2. 履修登録確認期間
登録した科目に誤り等がないか、最終確認を行う期間。

3.GPA
⇒P. 112を参照。

4. 秋学期履修修正
春学期の履修登録と同様に、UNIVERSAL PASSPORTより行います。
⇒履修登録ガイド参照。

試験・成績

試験　P. 104
授業中試験・レポート　P. 105
定期試験　P. 106
定期試験に代わるレポート　P. 108
追試験　P. 110
成績について　P. 112

試験

用語解説

試験には次の種類があります。

授業中試験・レポート	各科目の担当教員が平常の授業時間内で行う小テストやレポート課題のことです。
定期試験	春学期、秋学期の各学期末の定期試験期間中に実施する筆記試験です。
定期試験に代わるレポート	定期試験の代わりに課すレポート課題です。
追試験	病気等やむを得ない理由により定期試験期間中の筆記試験を受験できなかった場合に、所定の手続きをした上で受験することができる試験です。

授業中試験・レポート

科目によっては、平常の授業時間内に試験やレポートがあります。

授業中試験の実施要領や、レポート課題については、各科目の担当教員が指示します。

日程等は UNIVERSALPASSPORT や掲示板[1] でも確認できますが、すべて授業中に指示され、掲示されない場合もあります。

定期試験を行わず授業中試験の結果のみで成績評価を行う科目もあるので、普段から授業に出席しておくことが大切です。なお、授業中試験は、授業の一部とみなし、追試験の対象にはなりません。

また、授業中試験であっても学生証の提示が必要となることがありますので、学生証は常に携帯しておいてください。

用語解説

1. 掲示場所について

⇒ P. 18 を参照。

定期試験

用語解説

定期試験は年に２回、以下の期間内に実施します。

春学期末：７月中旬～７月下旬頃

秋学期末：１月下旬～２月中旬頃（入学試験日を除く）

各定期試験期間中には、予備日を設けています。予備日とは、気象警報発令等で試験が実施できない場合の振替日です。万一の場合に備えて、必ずスケジュールをあけておいてください。

定期試験期間の詳細は、別途掲示等[1]で通知します。

1. 掲示場所

⇒P. 18 を参照。

▶ 時間割発表

定期試験を実施する授業科目および時間割は、試験開始日の約２週間前に UNIVERSAL PASSPORT 及び学内掲示板で発表します。また「試験時間割表」を教務課で配布します。

UNIVERSAL PASSPORT の「試験時間割」機能[2]では、自分が履修登録している科目の試験が定期試験もしくは、定期試験に代わるレポート[3]で行われるのかを確認することができます。定期試験の場合は自分が受験する教室も表示されますので、試験日までに必ず確認しておきましょう。

試験に関わる重要なお知らせがある場合、UNIVERSAL PASSPORT の掲示機能を利用してお知らせをします。定期的に確認するようにしてください。

2.「試験時間割」機能

UNIVERSAL PASSPORT の操作方法は、「UNIVERSAL PASSPORT ガイド」を参照してください。

3. 定期試験に代わるレポート

⇒P. 108 を参照。

▶ 定期試験の受験について

定期試験を実施する曜日時限・教室は、普段の授業の曜日時限・教室と異なる場合があります。UNIVERSAL PASSPORT または学内掲示板[1]で確認しておきましょう。
受験の際は、着席表を確認し、指定された座席に着席しなければなりません。
着席表に学籍番号がない場合は、直ちに教務課教務係で確認してください。
また、定期試験は学生証がないと受験できません。必ず持参し、万一忘れた場合は、受験許可書[4]の発行を受けて下さい。

定期試験の時間帯は、下表のとおりです。通常の授業時間帯と異なりますので、注意してください。

時限	試験時間
Ⅰ時限	10：00～11：00
Ⅱ時限	11：20～12：20
昼休み	
Ⅲ時限	13：00～14：00
Ⅳ時限	14：20～15：20
Ⅴ時限	15：40～16：40

4. 受験許可証

受験許可証については、P. 107 を参照して下さい。

定期試験を受験するためには、以下の条件を満たさなければなりません。

- 履修登録をしている
- 学生証を携帯している
- 原則として各授業の出席すべき授業時数の３分の２以上に出席している。

▶ 受験にあたっての注意点

注意

- 受験に関係のない持ち物（携帯電話等）はかばんにしまい、指定された場所に置いてください。
- 試験中は、監督者の指示にしたがってください。
- 試験開始後２０分以上遅刻した場合は、受験できません。
（追試験[5]の理由に該当する場合は、教務課教務係へ申し出ること）

▶ 不正行為

試験場においては、静粛、厳正の態度で臨み、不正行為があってはなりません。もし、不正行為があると認めた場合は、厳重な処分が科されます。

カンニングペーパー、替え玉受験および答案交換等の不正行為については、原則として当該学期の全科目を無効として、その学期の単位を与えません。

▶ 受験許可証

学生証を忘れた場合は、試験開始前に教務課教務係で、受験許可証の貸出手続きをおこなってください。

受験許可証は、その日のすべての試験終了後、速やかに教務課教務係へ返却してください。当日中に返却しなかった場合、受験した科目はすべて無効となります。

また受験許可証は、各学期の定期試験期間中（追試験期間を含む）に一度しか発行できません（発行日のみ有効）。学生証を紛失した場合は、速やかに再発行の手続き[6]をしてください。

用語解説

5. 追試験

⇒P. 110 を参照。

6. 学生証の再発行

学生証の再発行については、学生課へ申し出ること。
再発行は、翌日となります。

定期試験に代わるレポート

用語解説

科目によっては、定期試験に代えてレポート課題を課すことがあります。

定期試験に代わるレポートの提出要領（テーマ、用紙の種類、枚数、提出期限等）は、試験時間割発表日に学内掲示板で発表します。UNIVERSAL PASSPORT には、科目と提出期限のみ掲載となりますので、必ず掲示板で提出要領を確認して下さい。

このレポートは定期試験と同様に重要なものですので、提出要領に記載されている内容をしっかり確認しましょう。提出期限を過ぎたレポートは一切受け付けません。提出日によって受付時間[1]が違うことがありますので、余裕をもってレポートを作成、提出するように努めてください。

なお、定期試験に代わるレポートは、追試験の対象にはなりません。

1. 窓口受付時間

⇒ P. 19 を参照。

▶ 提出場所

教務課内備え付けのレポート提出ボックス

▶ 提出方法

レポートを提出する際は、教務課備え付けの「レポート提出票」に記入をし、持参したレポート本体[2]とステイプラー（ホッチキス）でしっかり留めます。

提出期限間際は「レポート提出票」の記入場所が込み合いますので、必ず事前に記入しておいてください。

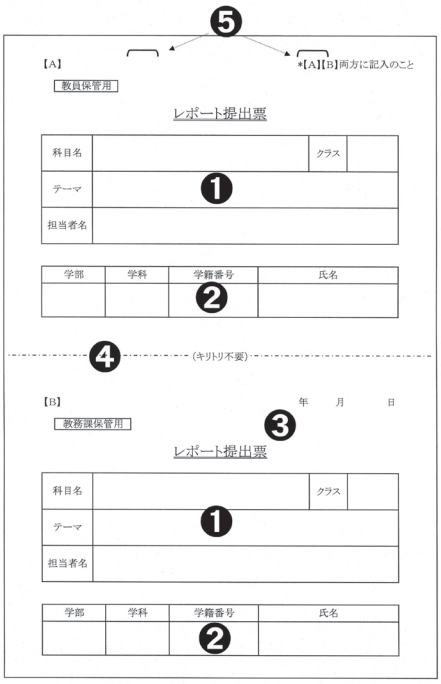
2. レポート本体

レポート本体にも、科目名・担当者・学部・学科・学籍番号・氏名を記入すること。

▶ レポート提出票記入方法

3. クラス

クラスとは、科目名の後ろのアルファベットです。



❶ 科目名とクラス[3]は正確に記入する。テーマには、作成したレポートの表題を記入し、担当者名は、フルネームで記入すること。

❷ 学部学科名、学籍番号は、正確に記入する。自分の名前を書き忘れないように注意すること。

❸ レポートを提出する日を記入する。

❹ 切取らずにそのまま提出すること。

❺ レポートから外れないよう、2 箇所をしっかりステイプラー（ホッチキス）で留めること。

▶ 提出上の注意点

注意

- レポートを投函する前に、レポート提出ボックスの科目名クラスと、自分の提出するレポートが合致しているかどうか、よく確認してください。
- 提出期限を厳守すること。提出期限を過ぎたレポートは一切受け付けません。
- 一度提出されたレポートは、返却しません。記入漏れのあるレポートや誤った提出ボックスへの投函がないように注意してください。

追試験

用語解説

定期試験をやむを得ない理由で受験できなかった学生のうち、定められた期間内に所定の手続きをした者には、追試験の受験が認められます。追試験の対象となるのは、定期試験期間中の筆記試験のみです。定期試験に代わるレポートや授業中試験・レポートは、追試験の対象となりません。なお、追試験は１回のみ行います。

追試験は、以下の時期に実施されます。日程の詳細は別途掲示します。

春学期末追試験：８月下旬
秋学期末追試験：２月下旬

※追試験は、追試験の申請をした学生のみが対象です。対象者がいない場合、追試験は行いません。

▶ 追試験を受験するためには

次ページの追試験理由を確認の上、当該科目試験実施日も含めて３日以内（大学休業日は除く）に教務課教務係で手続きしてください。けがや病気などにより学生本人が手続きできない場合は、代理人が申請をすることもできます。

▶ 手続きに必要なもの

- 学生証
- 証明書発行機用のパスワード

} 代理人が申請する場合も必要です

- 受験手数料：１科目につき 500 円
  ただし、法定伝染病罹患による出席停止の場合を除く
- 理由を証明する書類等　※次ページ表参照

追試験の理由として認められるのは、以下の場合に限ります。

欠席理由	追試験申請を認める日数	追試験申請時に必要な書類等
けが 病気	診断書に記載された期間	当該試験日に安静治療を要し、登校が不可能である旨を明記した医師の診断書
法定伝染病罹患[1]	大学が必要と認める期間	感染（または感染の疑い）が分かった時点で、ただちに教務課へ連絡すること
忌引[2]	大学が必要と認める期間※1	教務課へ申し出て、指示を受けること
交通機関	公共交通機関が事故等で遅延した当日のみ※2	遅延証明書
就職	就職活動で採用選考等を受験した当日のみ	就職採用試験等出席証明書[3]
災害	台風、水害、火災などに見舞われた場合で、大学が必要と認める期間	官公庁発行の罹災証明書
実習	教育実習および博物館実習期間と、その往復に要すると判断される期間	必ず事前に教務課へ申し出て、指示を受けること
裁判員に選出された場合	大学が必要と認める期間	必ず事前に教務課へ申し出て、指示を受けること
上記理由以外で、やむを得ない理由であると大学が認めた場合は、追試験申請を認めることがあります。理由を説明するに足る書類を持参の上、事前に教務課へ申し出てください。		

※1 2親等まで[4]の親族に限ります。ただし、帰省のための往復に要する期間を別途考慮します。

※2 大学スクールバスは、公共交通機関に準ずる扱いとします。自動車、自動二輪、自転車等で通学途中の事故等により遅刻した場合は、追試験の対象になりません。

用語解説

1. 法定伝染病とは
季節性インフルエンザ、百日咳、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎などの感染症のことです。詳細は保健室へ問い合わせてください。
問い合わせ先一覧
⇒ P. 39 を参照。

2. 忌引とは
近親者が死去した場合に喪に服すること。

3. 就職採用試験等出席証明書
キャリア開発課と相手先企業の証明印が必要です。

4. 2親等まで（1親等と2親等）
父・母・祖父・祖母・兄弟・姉妹・子・孫。

成績について

用語解説

1. シラバス
⇒ P. 44 を参照。

成績評価は、科目や担当者により評価方法、評価基準が異なります。
評価方法については、シラバス[1]を確認してください。

▶ 成績評価

成績の評価は、S～Eで表し、C以上が合格、D以下が不合格になります。

合・否	評価	成績	GP
合格	S	90-100	4.0
	A	80-89	3.0
	B	70-79	2.0
	C	60-69	1.0
不合格	D	0-59	0
	E	×（試験欠席など）	0
認定	F	－	対象外

不合格科目については、当該学期のUNIVERSAL PASSPORTの「成績照会」画面のみ表示し、成績証明書には記載しません。

▶ GPA（Grade Point Average）

GPAは、学生個人の成績を客観的・総合的に評価するための指標です。
各授業科目の5段階評価に対して4.0～0のグレード・ポイント（GP）を付与して算出する1単位あたりの平均値をいいます。[2]

2.GPAに算入されない科目
・卒業論文
・資格取得のために履修する科目（所属学科のカリキュラムに含まれていない科目）
・認定科目（入学前に取得し認定された単位、単位互換制度、検定により取得した単位など）

GPAは次のように算出されます。

$$\text{GPA} = \frac{\text{履修登録した全科目の〔単位数×GP〕の合計}}{\text{履修登録した全科目の単位数の合計}}$$

UNIVERSAL PASSPORTの成績照会画面、保護者に郵送される成績通知書および成績証明書にGPAを記載します。

ＧＰＡは、「履修した科目の中で、どれだけ多くの科目をどれだけ良い成績で合格したか」が数値で表されたものです。不合格科目が多ければ、合格した科目の成績がどれだけ良くても、ＧＰＡは上がりません。履修した科目を全部合格しても、成績が「C」ばかりだと、やはりＧＰＡが上がりません。GPA値を上げるためには、より計画的な学習計画を立てて取り組む必要があります。

▶ 成績発表

各学期の成績は、春学期（9月上旬）、秋学期（3月上旬）にUNIVERSAL PASSPORTの成績照会機能で発表します。発表日時の詳細は、事前に掲示します。書面等での成績通知は一切行いませんので、必ず各自で確認をしてください。

なお、成績の発表については、教務課窓口で成績通知書Ⅰ（各学期の成績）および成績通知書Ⅱ（入学後に修得した全ての成績）を交付する場合がありますので、下表を参照してください。

発表する成績	対象者	成績の発表方法
春学期の成績（9月上旬）	春学期末卒業見込者	教務課窓口で成績通知書を交付
	上記以外の学生	UNIVERSAL PASSPORTのみで発表
秋学期の成績（3月上旬）	学部4年生 大学院2年生	教務課窓口で成績通知書を交付
	上記以外の学生	UNIVERSAL PASSPORTのみで発表

▶ 成績問合せ

以下の条件に当てはまる科目については、発表された成績について、定められた期間中に「成績確認願」を教務課へ提出することで、担当教員へ成績の確認を申し出ることができます（本人の申し出に限る）。申請期間等は事前に掲示しますので、定められた期間以外は受け付けません。

【申請条件】

- 試験を受験したにも関わらず、成績欄に「E」と記載されている。
- レポートを提出したにも関わらず、成績欄に「E」と記載されている。
- その他、成績の確認を申し出るに足る理由がある場合。

【手続きに必要なもの】（全て揃わなければ申請できません）

- 学生証
- UNIVERSAL PASSPORTの成績照会画面をプリントアウトしたもの
  （春学期末卒業見込者・4回生については、交付した成績通知書でも可）

❗ 重要！　必ず本人が窓口で申請しなければなりません。

成績問合せは、成績について誤りがないかどうかを確認するための、とても重要な手続きですので、申請には必ず本人が直接窓口へ申し出ることが必要です。
万一成績に誤りがあった場合に、大学へ来ることができるようにしておいて下さい（旅行や帰省の計画など）。

進　学

大学院へ進学する　P. 116
その他の学生として大学に在籍する　P. 117

大学院へ進学する

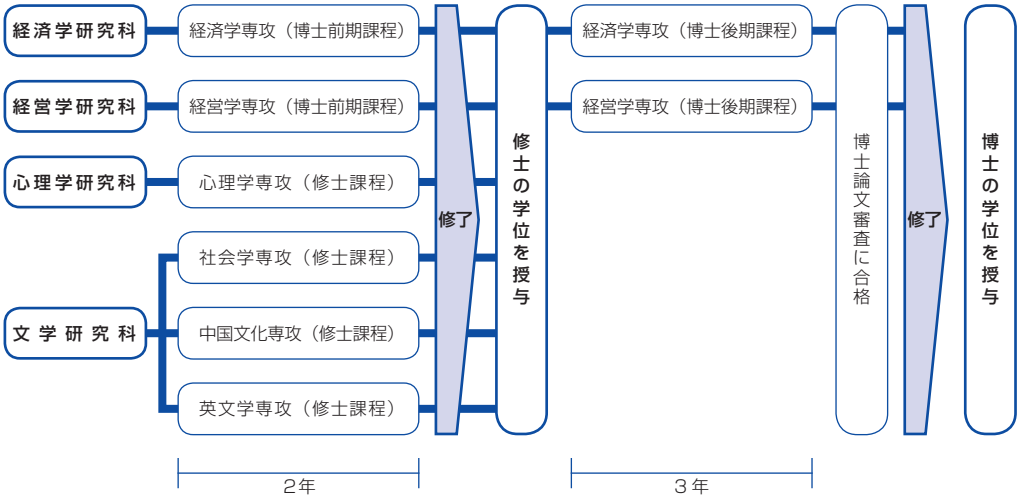
用語解説

本学では、みなさんの卒業後の進学にあたり、様々な要望・状況に応じて、次のような修学制度を設置しています。

大学院では、学部で学んだ知識についてさらに研究し、専門的な教養を身につけることを目指します。

本学の大学院は、経済学研究科、経営学研究科、心理学研究科および文学研究科の４つの研究科で構成されています。

経済学研究科には経済学専攻、経営学研究科には経営学専攻、心理学研究科には心理学専攻、文学研究科には社会学専攻、中国文化専攻および英文学専攻の各専攻があります。



経済学研究科と経営学研究科は博士前期課程と博士後期課程に分かれており、各専攻の博士課程前期課程（２年）を修了すれば修士の学位が、博士後期課程（３年）を修了（博士論文審査に合格）すれば博士の学位が、それぞれ授与されます。

心理学研究科および文学研究科は、各専攻の修士課程（２年）を修了すれば、修士の学位が授与されます。

また、中学校および高等学校教諭一種免許状授与の基礎資格を有し、教育職員免許法および同法施行規則に定める所要単位を修得した学生に限り、中学校および高等学校教諭の専修免許状の授与資格[1]を得ることができます。

1. 専修免許状の授与資格
専修免許状取得についての詳細は、教務課教務係へ相談してください。

大学院受験に関する問い合わせ先：入学試験課
大学院の授業内容に関する問い合わせ先：教務課

その他の学生として大学に在籍する

用語解説

本学では、学部･大学院の他に、学位取得を目的とせずに大学に在籍する制度があります。研究生、科目等履修生、聴講生がそれにあたり、それぞれ学部と大学院の区別があります。

▶ 研究生

特定のテーマに基づいて、指導教員のもとで授業を聴講しながら、専門的な研究を行います。「研究報告書」（本学所定用紙）を提出することで、研修終了となります。研究生は学部および大学院の講義を聴講し、演習に参加することができますが、単位は与えられません。

	学部研究生	大学院研究生
在籍期間	1 年間または秋学期のみ	1 年間
単位認定	なし	
聴講単位数上限※ 1	なし	
証明書	在学証明書（在学中のみ） 研究内容証明書 研究証明書	

※ 1　指導教員以外が担当する科目を聴講する場合は、別途聴講料が必要です。外国人留学生については、在籍期間が 1 年間の場合は 14 科目分（週 20 時間）以上の、秋学期の場合は 7 科目分（週 10 時間）以上の科目聴講をしなければなりません。

出願要項配布場所：教務課
配布時期：1 月上旬（秋学期研究生用は 5 月中旬）

▶ 科目等履修生

特定の科目の単位修得を目的とします。学部または大学院の授業を履修・受講し、試験等を経て合格評価を得れば、単位が与えられます。

	学部科目等履修生	大学院科目等履修生
在籍期間	1年間	
単位認定	あり	
履修単位数上限※1	30単位以内	10単位以内
証明書	在学証明書（在学中のみ） 単位修得証明書	

※1　履修科目は講義科目とし、外国語、体育実技、実験、実習および演習等、定員のある科目は、原則として履修できません。
また、教育職員免許状授与資格、学芸員または社会教育主事任用資格など、資格を取得することを目的とする場合は、必要な基礎資格を有することが条件となります。科目等履修生により資格を取得しようとする場合は、必ず事前に教務課へ相談してください。

出願要項配布場所：教務課
配布時期：1月上旬

▶ 聴講生

聴講生とは、学部または研究科で開講される授業のうち、特定の科目だけを受講することができる制度です。自己研鑽を目的としているため、単位は与えられません。

	学部聴講生	大学院聴講生
在籍期間	1年間	
単位認定	なし	
聴講単位数上限※1	20単位以内	
証明書	在学証明書（在学中のみ）	

※1　科目によっては聴講できない場合もあります。

出願要項配布場所：教務課
配布時期：1月上旬

大学院関係事項

経済学研究科　P. 120
経営学研究科　P. 125
心理学研究科　P. 130
文学研究科　P. 139

経済学研究科

用語解説

▶ 専攻履修及びその他についての諸注意（博士前期課程）

Ⅰ 一般的事項

（1）専攻履修については、大学院学則、学位規程、その他の規程を熟読の上、開講科目一覧表やシラバス等を参照し、履修科目を決定すること。

（2）履修登録は、所定の方法に従って、指定の期日までに行うこと。履修登録がされていないと、単位修了の認定を受けることができない。

Ⅱ 単位修得

（1）指導教員の演習Ⅰ、演習Ⅱ各４単位計８単位を必修とし、他の科目と合わせて 30 単位以上を修得しなければならない。ただし、指導教員以外の演習を履修した場合は合計８単位まで修了単位として認定する。

（2）経営学研究科の授業科目を履修することについては、指導教員が研究上特に必要と認めた場合、合計８単位まで履修することができることとし、修了単位として認定する。

（3）演習Ⅰの単位を修得しなければ演習Ⅱを履修することはできない。ただし、演習Ⅰ・Ⅱは同一科目でなければならない。

（4）学業成績は、100 点満点で 60 点以上を合格とする。

Ⅲ 修士論文

（1）修士論文計画書 (2,000 字以内) は、論文提出の６ヶ月前までに教務課へ提出しなければならない。

（2）修士論文を提出する者は、論文３部 (2 部はコピーでもよい) を提出期限 (1 月 14 日または６月 30 日) までに教務課に提出しなければならない。

※修士論文様式 (ワープロ使用の場合)

A4 版、40 字－ 30 行、横書、左綴じ、余白 (上 25mm･ 下 30mm･ 左 35mm･ 右 20mm)

（3）病気その他やむを得ない事情により修士論文を期日までに提出できないものは、その理由を証する書面を添えて、１月１４日までに研究科長に申し出た場合に限り、延期を許可することがある。

（4）修士論文については、専攻の学問分野について精深な学識と研究能力を確認するため審査委員による提出論文を中心とした口頭試問を実施し、厳格な審査を行う。

（5）審査にあたっては、以下の項目について評価を行う。

① 研究テーマについて、問題意識が明確であり、的確な分析･考察がなされていること。
② 論旨の展開が明確かつ一貫しており論文構成が体系的になされ、有意義な問題提起があること
③ 本文、図、表、引用、文献等の記述が十分かつ適切であること。

Ⅳ その他

（1）教務課において発行する下記の証明書の交付を希望する者は、あらかじめ交付願を教務課に提出すること。

ⅰ） 単位修得及び学業成績証明書
ⅱ） 修了見込証明書
ⅲ） 修了証明書
ⅳ） 在学証明書

(2) その他資格取得および学生生活一般のことについては「資格取得に関する事項、その他の規則・規程」を参照のこと。なお、その他は研究科委員会で決定し、必要と認めた場合はその都度掲示によって連絡する。

▶ 専攻履修及びその他についての諸注意（博士後期課程）

Ⅰ 一般的事項

(1) 専攻履修については、大学院学則、学位規程、その他の規程を熟読の上、開講科目一覧表やシラバス等を参照し、指導教授と相談の上、履修科目を決定すること。

(2) 履修登録は、所定の方法に従って、指定の期日までに行うこと。履修登録がされていないと、単位修了の認定を受けることができない。

Ⅱ 履修方法及び修了要件

(1) 指導教員の研究演習 12 単位を必修とし、特殊研究 2 科目 8 単位と合わせて 20 単位以上を修得し、かつ博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

(2) 学業成績は、100 点満点で 60 点以上を合格とする。

Ⅲ 博士論文

(1) 博士論文計画書は、論文提出の 1 か年前までに教務課を経由して指導教授に提出し、承認を得なければならない。

(2) 博士論文を提出する者は、論文 3 部、論文要旨 3 部、履歴書 3 部、研究業績一覧表 3 部、単位修得証明書 1 部を提出期限までに教務課に提出しなければならない。

(3) 博士論文については、精深な学識と研究能力を確認するための審査委員による提出論文を中心とした口頭試問等を実施し、厳格な審査を行う。

(4) 審査にあたっては、以下の項目について評価を行う。

① 研究テーマについて、学術的意義が明確であり、的確な分析・考察がなされていること。
② 研究テーマ沿って、論旨の展開が明確かつ一貫しており論文構成が体系的になされていること。
③ 先行研究や関連分野に関して、的確に理解されていること。
④ 本文、図、表、引用、文献等が的確に処理され、学術論文としての体裁が整っていること。
⑤ 研究方法や研究成果にオリジナリティがあり、学界への貢献があること。

Ⅳ その他

(1) 教務課において発行する証明書の交付を希望する者は、あらかじめ交付願を教務課に提出すること。なお、不明な点は教務課に問い合わせること。

▶ 開講科目一覧表

別表　経済学専攻（博士前期課程）(2011 年度入学生）

授業科目	単位	担当教員	備考
理論経済学特論Ⅰ	4	教授　福井　南海男	前期集中
理論経済学特論Ⅰ演習Ⅰ	4		
理論経済学特論Ⅰ演習Ⅱ	4		本年度不開講
理論経済学特論Ⅱ	4	教授　三﨑　一明	
理論経済学特論Ⅱ演習Ⅰ	4		
理論経済学特論Ⅱ演習Ⅱ	4		
理論経済学特論Ⅲ	4	博士（経済学） 教授　橋本　圭司	
理論経済学特論Ⅲ演習Ⅰ	4		
理論経済学特論Ⅲ演習Ⅱ	4		
国際経済論特論	4	博士（経済学） 教授　林原　正之	
国際経済論特論演習Ⅰ	4		
国際経済論特論演習Ⅱ	4		
経済学史特論	4	教授　島本　美智男	
経済学史特論演習Ⅰ	4		
経済学史特論演習Ⅱ	4		
外国経済史特論	4	非常勤講師　水原　正亨	
日本経済史特論	4	経済学博士 教授　畠山　秀樹	
日本経済史特論演習Ⅰ	4		
日本経済史特論演習Ⅱ	4		
経済政策特論Ⅰ	4	経済学博士 教授　村上　亨	
経済政策特論Ⅰ演習Ⅰ	4		
経済政策特論Ⅰ演習Ⅱ	4		
経済政策特論Ⅱ	4	教授　奥井　克美	
経済政策特論Ⅱ演習Ⅰ	4		
経済政策特論Ⅱ演習Ⅱ	4		
産業組織論特論	4	経済学博士 教授　箱田　昌平	
産業組織論特論演習Ⅰ	4		
産業組織論特論演習Ⅱ	4		
日本経済論特論	4	教授　白川　一郎	
日本経済論特論演習Ⅰ	4		
日本経済論特論演習Ⅱ	4		
オーストラリア経済論特論	4	教授　森島　覚	
オーストラリア経済論特論演習Ⅰ	4		本年度不開講
オーストラリア経済論特論演習Ⅱ	4		
農業経済論特論	4		本年度不開講
農業経済論特論演習Ⅰ	4		
農業経済論特論演習Ⅱ	4		

授業科目	単位	担当教員	備考
財政学特論	4	博士（経済学） 教授　衣笠　達夫	
財政学特論演習Ⅰ	4		
財政学特論演習Ⅱ	4		
租税論特論	4	准教授　細井　雅代	
租税論特論演習Ⅰ	4		本年度不開講
租税論特論演習Ⅱ	4		
金融論特論	4	教授　西村　和志	
金融論特論演習Ⅰ	4		
金融論特論演習Ⅱ	4		
国際金融論特論	4	博士（経済学） 教授　松本　直樹	
国際金融論特論演習Ⅰ	4		
国際金融論特論演習Ⅱ	4		
統計学特論	4		本年度不開講
統計学特論演習Ⅰ	4		
統計学特論演習Ⅱ	4		
経済統計学特論	4	教授　太田　拓男	
経済統計学特論演習Ⅰ	4		
経済統計学特論演習Ⅱ	4		
経済数学特論	4	理学博士　Ph.D 教授　難波　誠	
経済数学特論演習Ⅰ	4		
経済数学特論演習Ⅱ	4		
外国経済論特論	4		本年度不開講
労働経済論特論	4		本年度不開講
労働経済論特論演習Ⅰ	4		
労働経済論特論演習Ⅱ	4		
エネルギー経済論特論	4	博士（エネルギー科学） 准教授　松田　年弘	
エネルギー経済論特論演習Ⅰ	4		本年度不開講
エネルギー経済論特論演習Ⅱ	4		
社会保障特論	4		本年度不開講
社会保障特論演習Ⅰ	4		
社会保障特論演習Ⅱ	4		
福祉社会論特論	4	博士（経済学） 准教授　李　義昭	
福祉社会論特論演習Ⅰ	4		本年度不開講
福祉社会論特論演習Ⅱ	4		
ＮＰＯ特論	4	博士（工学） 准教授　今堀　洋子	
ＮＰＯ特論演習Ⅰ	4		本年度不開講
ＮＰＯ特論演習Ⅱ	4		
税法特論	4		本年度不開講
税法特論演習Ⅰ	4		
税法特論演習Ⅱ	4		

別表　経済学専攻（博士後期課程）

授業科目	単位	担当教員	備考
理論経済学特殊研究	4	博士（経済学） 教授　橋本　圭司	
国際経済論特殊研究	4	博士（経済学） 教授　林原　正之	
日本経済史特殊研究	4	経済学博士 教授　畠山　秀樹	
経済政策特殊研究Ⅰ	4	経済学博士 教授　村上　亨	
経済政策特殊研究Ⅱ	4		本年度不開講
産業組織論特殊研究	4	経済学博士 教授　箱田　昌平	
日本経済論特殊研究	4	教授　白川　一郎	
農業経済論特殊研究	4		本年度不開講
財政学特殊研究	4	博士（経済学） 教授　衣笠　達夫	
租税論特殊研究	4		本年度不開講
国際金融論特殊研究	4	博士（経済学） 教授　松本　直樹	
経済数学特殊研究	4	理学博士　Ph.D 教授　難波　誠	
社会保障特殊研究	4		本年度不開講
研究演習	12	博士（経済学） 教授　衣笠　達夫	
		経済学博士 教授　箱田　昌平	
		博士（経済学） 教授　橋本　圭司	
		経済学博士 教授　畠山　秀樹	
		博士（経済学） 教授　林原　正之	
		博士（経済学） 教授　松本　直樹	
		経済学博士 教授　村上　亨	

経営学研究科

▶ 専攻履修及びその他についての諸注意（博士前期課程）

用語解説

Ⅰ 一般的事項

（1）専攻履修については、大学院学則、学位規程、その他の規程を熟読の上、開講科目一覧表やシラバス等を参照し、履修科目を決定すること。

（2）履修登録は所定の方法に従って、指定の期日までに行うこと。履修登録がされていないと、単位修了の認定を受けることができない。

Ⅱ 単位修得

（1）指導教員の演習Ⅰ、演習Ⅱ各４単位計８単位を必修とし、他の科目と合わせて 30 単位以上を修得しなければならない。ただし、指導教員以外の演習を履修した場合は合計８単位まで修了単位として認定する。

（2）経済学研究科の授業科目を履修することについては、指導教員が研究上特に必要と認めた場合、合計８単位まで履修することができることとし、修了単位として認定する。

（3）演習Ⅰの単位を修得しなければ演習Ⅱを履修することはできない。ただし、演習Ⅰ・Ⅱは同一科目でなければならない。

（4）学業成績は、100 点満点で 60 点以上を合格とする。

Ⅲ 修士論文

（1）修士論文計画書 (2,000 字以内) は、論文提出の６ヶ月前までに教務課へ提出しなければならない。

（2）修士論文を提出する者は、論文３部 (2 部はコピーでもよい) を提出期限 (1 月 14 日または６月 30 日) までに教務課に提出しなければならない。

※修士論文様式 (ワープロ使用の場合)

A4 版、40 字－ 30 行、横書、左綴じ、余白 (上 25mm･ 下 30mm･ 左 35mm･ 右 20mm)

（3）審査にあたっては、以下の項目について評価を行う。

① 研究テーマについて、問題意識が的確に把握し、分析・考察がなされていること。

② 論旨の展開が明確かつ一貫しており論文構成が体系的になされ、有意義な問題提起があること。

③ 本文、図、表、引用、文献等の記述が十分かつ適切であること。

（4）病気その他やむを得ない事情により修士論文を期日までに提出できないものは、その理由を証する書面を添えて、１月１４日までに研究科長に申し出た場合に限り、延期を許可することがある。

（5）修士論文については、専攻の学問分野について精深な学識と研究能力を確認するため審査委員による提出論文を中心とした口頭試問を実施し、厳格な審査を行う。

Ⅳ その他

（1）教務課において発行する下記の証明書の交付を希望する者は、あらかじめ交付願（所定の様式は教務課にて交付）を提出すること。

ⅰ） 単位修得及び学業成績証明書

ⅱ） 修了見込証明書

ⅲ） 修了証明書

ⅳ） 在学証明書

（2）その他資格取得および学生生活一般のことについては「資格取得に関する事項、その他

の規則・規程」を参照のこと。なお、その他は研究科委員会で決定し、必要と認めた場合はその都度掲示によって連絡する。

▶ 専攻履修及びその他についての諸注意（博士後期課程）

Ⅰ 一般的事項

（1）専攻履修については、大学院学則、学位規程、その他の規程を熟読の上、開講科目一覧表や講義内容要旨等を参照し、指導教授と相談の上、履修科目を決定すること。

（2）履修登録は所定の方法に従って、指定の期日までに行うこと。この登録がされていないと、単位修了の認定を受けることができない。

Ⅱ 履修方法及び修了要件

（1）指導教員の研究演習 12 単位を必修とし、特殊研究 2 科目 8 単位と合わせて 20 単位以上を修得し、かつ博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

（2）学業成績は、100 点満点で 60 点以上を合格とする。

Ⅲ 博士論文

（1）博士論文計画書は、論文提出の 1 か年前までに教務課を経由して指導教授に提出し、承認を得なければならない。

（2）博士論文を提出する者は、論文 3 部、論文要旨 3 部、履歴書 3 部、研究業績一覧表 3 部、単位修得証明書 1 部を提出期限までに教務課に提出しなければならない。

（3）審査にあたっては、以下の項目について評価を行う。

① 研究テーマについて、学術的意義を的確に把握し、分析･考察がなされていること。
② 研究テーマ沿って、論旨の展開が明確かつ一貫しており論文構成が体系的になされていること。
③ 研究方法や研究成果にオリジナリティがあり、学界への貢献があること。
④ 先行研究や関連分野に関して、的確に理解されていること。
⑤ 本文、図、表、引用、文献等が的確に処理され、学術論文としての体裁が整っていること。

Ⅳ その他

（1）教務課において発行する証明書の交付を希望する者は、あらかじめ交付願を教務課に提出すること。

なお、不明な点は教務課に問い合わせること。

別表　経営学専攻（博士前期課程）（２０１１年度開講科目表）

授業科目	単位	担当教員	備考
経営学原理特論	4		本年度不開講
経営学特論	4	博士（経済学） 教授　西岡　健夫	
経営学特論演習Ⅰ	4		
経営学特論演習Ⅱ	4		
経営史特論	4	博士（経営学） 教授　植藤　正志	
経営史特論演習Ⅰ	4		
経営史特論演習Ⅱ	4		
企業論特論	4	博士（経営学） 教授　山中　雅夫 教授　米倉　穣	企業論特論演習Ⅰは 米倉　穣　教授のみ 開講
企業論特論演習Ⅰ	4		
企業論特論演習Ⅱ	4		
経営管理論特論	4		本年度不開講
経営管理論特論演習Ⅰ	4		
経営管理論特論演習Ⅱ	4		
人的資源管理論特論	4	教授　地代　憲弘 博士（経営学） 准教授　杤尾　安伸	
人的資源管理論特論演習Ⅰ	4	教授　地代　憲弘	
人的資源管理論特論演習Ⅱ	4		
マーケティング論特論	4	教授　小西　一彦	
マーケティング論特論演習Ⅰ	4		本年度不開講
マーケティング論特論演習Ⅱ	4	教授　小西　一彦	
財務管理論特論	4	准教授　岡崎　利美	
環境経営論特論	4	博士（工学） 教授　見市　晃	
環境経営論特論演習Ⅰ	4		本年度不開講
環境経営論特論演習Ⅱ	4	博士（工学） 教授　見市　晃	
国際経営論特論	4	経営学博士 教授　L.S.de Silva	
国際経営論特論演習Ⅰ	4		
国際経営論特論演習Ⅱ	4		
国際関係論特論	4	博士（社会学） 准教授　山口　公一	
異文化間コミュニケーション特論	4	教授　L.J.Viswat	
異文化間コミュニケーション特論演習Ⅰ	4		
異文化間コミュニケーション特論演習Ⅱ	4		
経営統計学特論	4	博士（経済学） 教授　坂上　佳隆	
経営統計学特論演習Ⅰ	4		
経営統計学特論演習Ⅱ	4		
オペレーションズ・リサーチ特論	4		本年度不開講
情報科学特論	4	博士（工学） 准教授　中野　統英	
情報科学特論演習Ⅰ	4		
情報科学特論演習Ⅱ	4		
システム科学特論	4	工学博士 教授　福田　得夫	
システム科学特論演習Ⅰ	4		
システム科学特論演習Ⅱ	4		

授業科目	単位	担当教員	備考
社会情報システム特論	4	博士（情報学） 教授　井出　明	
社会情報システム特論演習Ⅰ	4		
社会情報システム特論演習Ⅱ	4		
経営情報論特論	4	博士（経済学） 教授　井戸田　博樹	
経営情報論特論演習Ⅰ	4		
経営情報論特論演習Ⅱ	4		
ERP ビジネスプロセス特論	4	客員教授　酒井　哲夫	
社会情報学特論	4	博士（国際公共政策） 教授　篠原　健	
社会情報学特論演習Ⅰ	4		
社会情報学特論演習Ⅱ	4		
会計学原理特論	4		本年度不開講
会計学原理特論演習Ⅰ	4		
会計学原理特論演習Ⅱ	4		
会計学特論	4	Ph.D　博士（経営学） 教授　梶原　晃	
会計学特論演習Ⅰ	4		
会計学特論演習Ⅱ	4		
財務諸表論特論	4	教授　田淵　正信	
管理会計論特論	4		本年度不開講
情報会計論特論	4		本年度不開講
情報会計論特論演習Ⅰ	4		
情報会計論特論演習Ⅱ	4		
税務会計論特論	4		本年度不開講
税務会計論特論演習Ⅰ	4		
税務会計論特論演習Ⅱ	4		
民法特論	4	博士（法学） 教授　髙森　哉子	
民法特論演習Ⅰ	4		
民法特論演習Ⅱ	4		
商法特論	4	博士（法学） 教授　徐　治文	
商法特論演習Ⅰ	4		
商法特論演習Ⅱ	4		
経済法特論	4		本年度不開講
税法学特論	4		本年度不開講
国際法務特論	4		本年度不開講
産業社会心理学特論	4	博士（人間科学） 教授　金川　智恵	
産業社会心理学特論演習Ⅰ	4		
産業社会心理学特論演習Ⅱ	4		
産業組織心理学特論	4	教授　藤田　正	
産業組織心理学特論演習Ⅰ	4		
産業組織心理学特論演習Ⅱ	4		
産業心理解析特論	4	准教授　原田　章	
産業心理解析特論演習Ⅰ	4		
産業心理解析特論演習Ⅱ	4		

別表　経営学専攻　（博士後期課程）（２０１１年度開講科目表）

授業科目	単位	担当教員	備考
経営学特殊研究	4	博士（経済学） 教授　西岡　健夫	
経営史特殊研究	4	博士（経営学） 教授　植藤　正志	
国際比較経営論特殊研究	4	博士（経営学） 教授　山中　雅夫	
国際経営論特殊研究	4	経営学博士 教授　L.S.de Silva	
経営管理論特殊研究	4		本年度不開講
マーケティング論特殊研究	4	教授　小西　一彦	
環境経営論特殊研究	4	博士（工学） 教授　見市　晃	
オペレーションズ・リサーチ特殊研究	4		本年度不開講
情報科学特殊研究	4		本年度不開講
システム科学特殊研究	4	工学博士 教授　福田　得夫	
社会情報学特殊研究	4	博士（国際公共政策） 教授　篠原　健	
社会情報システム特殊研究	4	博士（情報学） 准教授　井出　明	
会計学特殊研究	4	Ph.D　博士（経営学） 教授　梶原　晃	
税務会計論特殊研究	4		本年度不開講
民法特殊研究	4	博士（法学） 教授　髙森　哉子	
商法特殊研究	4	博士（法学） 教授　徐　治文	
産業社会心理学特殊研究	4	博士（人間科学） 教授　金川　智恵	
産業組織心理学特殊研究	4	教授　藤田　正	
産業心理解析特殊研究	4	准教授　原田　章	
研究演習	12	博士（経済学） 教授　西岡　健夫	
		博士（経営学） 教授　植藤　正志	
		経営学博士 教授　L.S.de Silva	
		教授　小西　一彦	
		工学博士 教授　福田　得夫	
		博士（国際公共政策） 教授　篠原　健	
		博士（法学） 教授　徐　治文	
		博士（人間科学） 教授　金川　智恵	
		教授　藤田　正	
		准教授　原田　章	

心理学研究科

用語解説

▶ 専攻履修およびその他についての諸注意

Ⅰ 一般的事項

(1) 専攻履修については、大学院学則・学位規程・その他の規程を熟読の上、開講科目一覧表やシラバス等を参照し、履修科目を決定すればよい。

(2) 履修登録は指定の期日までに行わなければならない。履修登録がされていないと、単位修了の認定を受けることができない。

Ⅱ 履修及び単位修得

(1) 履修及び、単位修得については以下の通りである。

心理学研究科心理学専攻にあっては、臨床心理学コース、生涯発達・生涯教育心理学コースおよび社会・環境・犯罪心理学コースの 3 コースがあり、原則としてコースの変更は認めないが、入学後、臨床心理学コースから生涯発達・生涯教育心理学コースまたは社会・環境・犯罪心理学コースへの変更に関しては認める場合がある。

単位修得については、臨床心理学コースは必修、選択必修および選択を含めて、開講科目表の履修区分に従って、合計 30 単位以上を修得しなければならない。生涯発達・生涯教育心理学コースと社会・環境・犯罪心理学コースは演習および実習 6 単位以上、講義 24 単位以上、合計 30 単位以上を修得しなければならない。各コースの開講科目は、必修科目、選択必修科目、選択科目にわかれ、それぞれの専攻生は、当該コースの指定にしたがって修得すること。また開講科目には、学年指定、履修制限があるので、開講科目表を参照し、所定の方法により単位を修得しなければならない。なお、単位を修得した科目に対しては、再度履修しても単位を与えない。

所属コース以外のコースの特論科目については、8 単位を上限として履修を認める。ただし、これらの科目については、取得単位を修了要件としては認めない。

(2) 学業成績は、100 点満点で 60 点以上を合格とする。

Ⅲ 修士論文

(1) 修士論文計画書 (2,000 字以内) は、論文提出の 6 ヶ月前までに教務課へ提出しなければならない。

(2) 修士論文を提出するものは、論文 3 部 (2 部はコピーでもよい) を提出期限 (1 月 14 日あるいは 6 月 30 日) までに教務課に提出しなければならない。なお、期日に遅れたものは受理しない。

(3) 修士論文は次の事項を基準として、厳格に審査する。

① 研究テーマが独創的でありその設定が妥当なものであるか。そのテーマについて問題意識を的確に把握しているか。
② 設定した研究テーマに合致した方法論、調査・実験方法あるいは論証方法を選択しており、それに即した資料の取り扱いが適切であり、具体的な分析・考察がなされているか。
③ 心理学研究における倫理規定は遵守されているか。
④ 論旨の展開が明確かつ一貫しており、論文構成が体系的になされているか。
⑤ 論文の記述（本文、図、表、引用、文献表など）が十分かつ適切であるか。
⑥ 先行研究との関連の位置づけが妥当であるか。

(4) 修士論文は、20,000 字以上とする。

(5) 論文の審査は口頭試問とし、３名の教員が担当する。（臨床心理学コースにおいては１名は臨床心理士資格保持者であること）

(6) 病気その他やむをえない事情により修士論文を期日までに提出できないものは、その理由を証する書面を添えて１月１４日までに研究科長に願い出た場合に限り、延期を許可することがある。

(7) 修士論文の審査に不合格の場合、あるいは提出しなかった場合には、次年度の春学期に提出することができる。この場合には、6 月 30 日までに修士論文を教務課に提出しなければいけない。
ただし、病気その他やむをえない事情により修士論文を期日までに提出できないものは、その理由を証する書面を添えて研究科長に願い出た場合に限り、延期を許可することがある。

Ⅳ その他

(1) 教務課において発行する以下の証明書の交付を希望する者は、あらかじめ交付願 (所定の様式は教務課にて交付) を提出すること。

ⅰ） 単位修得および学業成績証明書
ⅱ） 修了見込証明書
ⅲ） 修了証明書
ⅳ） 在学証明書

(2) その他資格取得および学生生活一般のことについては「資格取得に関する事項、その他の規則・規程」を参照のこと。なお、その他は研究科委員会で決定し、必要と認めた場合はその都度掲示等によって連絡する。

▶ 開講科目一覧表（2011 年度）

別表Ⅰ　心理学専攻

【臨床心理学コース】

履修区分		授業科目	単位	担当者	配当年次	学期	備考
必修		臨床心理学特論1	2	中村　このゆ　教授	1年次以上	前期	臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理学特論2	2	橋本　秀美　教授	同	後期	臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理面接特論1	2	倉戸　由紀子　教授 橋本　秀美　教授	同	前期	臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理面接特論2	2	永野　浩二　准教授 駿地　眞由美　准教授	同	後期	臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理アセスメント演習1	2	中村　このゆ　教授 辻　潔　准教授	同	前期	臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理アセスメント演習2	2	中鹿　彰　准教授 馬場　天信　准教授	同	後期	臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理基礎実習	2	中鹿　彰　准教授 辻　潔　准教授 永野　浩二　准教授 駿地　眞由美　准教授	1年次	通年	2時限連続開講 臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理実習 A B C D E	2	倉戸　由紀子　教授 中村　このゆ　教授 橋本　秀美　教授 溝部　宏二　准教授 馬場　天信　准教授	2年次	通年	2時限連続開講 臨床心理学コース専攻生のみ 臨床心理基礎実習を修得した者のみ
選択必修	A	臨床心理学研究法特論1	2	倉戸　由紀子　教授 中村　このゆ　教授 橋本　秀美　教授 中鹿　彰　准教授 辻　潔　准教授 永野　浩二　准教授 駿地　眞由美　准教授 馬場　天信　准教授	1年次以上	前期	
		臨床心理学研究法特論2	2	倉戸　由紀子　教授 中村　このゆ　教授 橋本　秀美　教授 中鹿　彰　准教授 辻　潔　准教授 永野　浩二　准教授 駿地　眞由美　准教授 馬場　天信　准教授	同	後期	
		心理統計法特論	2	東　正訓　教授	同	不開講	（隔年開講）
	B	人格心理学特論	2	井上　知子　教授	同	不開講	（隔年開講）
		認知心理学特論	2	石王　敦子　教授	同	前期	
		教育心理学特論	2	三川　俊樹　教授	同	前期	
	C	社会心理学特論	2	東　正訓　教授	同	前期	（隔年開講）
		犯罪心理学特論	2	松野　凱典　教授	同	後期	（隔年開講）
		臨床心理関連行政論	2	田中　耕二郎　教授	同	後期	
	D	精神医学特論	2	溝部　宏二　准教授	同	後期	
		神経生理学特論	2	田中　秀明　准教授	同	前期	
		障害者（児）心理学特論	2	中鹿　彰　准教授	同	不開講	（隔年開講）
	E	投映法特論	2	馬場　天信　准教授	同	不開講	
		臨床心理地域援助特論	2	森田　喜治　講師	同	前期	
		心理療法特論1	2	久野　能弘　講師	同	前期	集中（隔年開講）臨床心理学コースのみ
		心理療法特論2	2	佐野　直哉　講師	同	不開講	集中（隔年開講）臨床心理学コースのみ
		学校臨床心理学特論	2	倉戸　由紀子　教授	同	後期	臨床心理学コース専攻生のみ

履修区分	授業科目	単位	担当者	配当年次	学期	備考
選択必修	心理療法実習１	1	加藤　敬　講師	１年次	後期	臨床心理学コース専攻生で、臨床心理基礎実習を修得した者のみ学外スーパービジョン
	心理療法実習２	1	加藤　敬　講師	２年次	前期	
	臨床心理学研究法演習Ⅰ１	1	中鹿　彰　准教授 辻　潔　准教授	１年次	前期	
	臨床心理学研究法演習Ⅰ２	1	永野　浩二　准教授 駿地　眞由美　准教授	１年次	後期	
	臨床心理学研究法演習Ⅱ１	1	倉戸　由紀子　教授 橋本　秀美　教授	２年次	前期	
	臨床心理学研究法演習Ⅱ２	1	中村　このゆ　教授 馬場　天信　准教授	２年次	後期	
	臨床心理学コース演習１ A B C D E F G H	1	倉戸　由紀子　教授 中村　このゆ　教授 橋本　秀美　教授 中鹿　彰　准教授 辻　潔　准教授 永野　浩二　准教授 駿地　眞由美　准教授 馬場　天信　准教授	２年次	前期	（修士論文指導） 臨床心理学コース専攻生のみ
	臨床心理学コース演習２ A B C D E F G H	1	倉戸　由紀子　教授 中村　このゆ　教授 橋本　秀美　教授 中鹿　彰　准教授 辻　潔　准教授 永野　浩二　准教授 駿地　眞由美　准教授 馬場　天信　准教授	２年次	後期	（修士論文指導） 臨床心理学コース専攻生のみ
上記のＡ～Ｅの科目群から、それぞれ２単位以上、計１０単位以上を修得し、選択必修の区分から計１４単位以上を修得すること。						
選択	進路指導特論	2	三川　俊樹　教授	１年次以上	不開講	（隔年開講）
	言語発達支援論	2	高橋　登　講師	１年次以上	後期	（隔年開講）
	学校カウンセリング特論	2	三川　俊樹　教授	１年次以上	前期	（隔年開講）
	育児支援特論	2	井上　知子　教授	１年次以上	後期	（隔年開講）
	保育支援特論	2	石王　敦子　教授	１年次以上	不開講	（隔年開講）
	生涯教育心理学演習	2	河﨑　美保　講師	１年次以上	前期	
	生涯発達心理学演習	2	河合　優年　講師	１年次以上	後期	集中
	心理アセスメント演習１	2	井上　知子　教授	１年次以上	前期	
	心理アセスメント演習２	2	井上　知子　教授	１年次以上	後期	
	上級社会心理学演習	2	東　正訓　教授	１年次以上	前期	（隔年開講）
上記の必修科目、選択必修科目および選択科目を含めて、合計 30 単位以上を修得すること。						

【生涯発達・生涯教育心理学コース】

履修区分	授業科目	単位	担当者	配当年次	学期	備考
必修	生涯発達・生涯教育心理学コース演習１C A B D E	1	井上　知子　教授 落合　正行　教授 石王　敦子　教授 三川　俊樹　教授 田中　秀明　准教授	２年次	前期	(修士論文指導)
	生涯発達・生涯教育心理学コース演習２C A B D E	1	井上　知子　教授 落合　正行　教授 石王　敦子　教授 三川　俊樹　教授 田中　秀明　准教授	２年次	後期	(修士論文指導)
選択必修	記憶と言語	2	石王　敦子　教授	１年次以上	後期	(隔年開講)
	認知心理学特論	2	石王　敦子　教授	同	前期	
	臨床発達心理学特論	2	井上　知子　教授	同	不開講	(隔年開講)
	教育臨床心理学特論	2	永野　浩二　准教授	同	不開講	(隔年開講)
	神経生理学特論	2	田中　秀明　准教授	同	前期	
	人格心理学特論	2	井上　知子　教授	同	不開講	(隔年開講)
	言語発達特論	2	石王　敦子　教授	同	不開講	
	言語発達支援論	2	高橋　登　講師	同	後期	(隔年開講)
	育児支援特論	2	井上　知子　教授	同	後期	(隔年開講)
	保育支援特論	2	石王　敦子　教授	同	不開講	(隔年開講)
	教育心理学特論	2	三川　俊樹　教授	同	前期	
	進路指導特論	2	三川　俊樹　教授	同	不開講	(隔年開講)
	学校カウンセリング特論	2	三川　俊樹　教授	同	前期	(隔年開講)
	生涯教育心理学演習	2	河﨑　美保　講師	同	後期	
	生涯発達心理学演習	2	河合　優年　講師	同	後期	集中
	心理アセスメント演習１	2	井上　知子　教授	同	前期	
	心理アセスメント演習２	2	井上　知子　教授	同	後期	
	臨床発達心理実習	2	井上　知子　教授 落合　正行　教授 石王　敦子　教授 三川　俊樹　教授 田中　秀明　准教授 河﨑　美保　講師	同	通年	
	以上の科目から、16 単位以上を修得すること。					
選択	精神医学特論	2	溝部　宏二　准教授	１年次以上	後期	
	障害者（児）心理学特論	2	中鹿　彰　准教授	同	不開講	(隔年開講)
	社会心理学特論	2	東　正訓　教授	同	前期	(隔年開講)
	環境心理学特論	2	加藤　徹　教授	同	前期	(隔年開講)
	犯罪心理学特論	2	松野　凱典　教授	同	後期	(隔年開講)
	対人行動学特論	2	金政　祐司　准教授	同	前期	
	交通心理学特論	2	(不開講)	同	不開講	
	心理統計法特論	2	東　正訓　教授	同	不開講	(隔年開講)
上記の必修科目、選択必修科目および選択科目を含めて、講義 24 単位以上、演習 6 単位以上、合計 30 単位以上を修得すること。						

【社会・環境・犯罪心理学コース】

履修区分	授業科目	単位	担当者	配当年次	学期	備考
必修	社会・環境・犯罪心理学コース演習Ⅰ A B C D	2	金政　祐司　准教授 松野　凱典　教授 加藤　　徹　教授 東　　正訓　教授	1年次	通年	
	社会・環境・犯罪心理学コース演習Ⅱ A B C D	2	金政　祐司　准教授 松野　凱典　教授 加藤　　徹　教授 東　　正訓　教授	2年次	通年	(修士論文指導)
選択必修	社会心理学特論	2	東　正訓　教授	1年次以上	前期	(隔年開講)
	環境心理学特論	2	加藤　徹　教授	同	前期	(隔年開講)
	犯罪心理学特論	2	松野　凱典　教授	同	後期	(隔年開講)
	対人行動学特論	2	金政　祐司　准教授	同	前期	
	交通心理学特論	2	(不開講)	同	不開講	
	心理統計法特論	2	東　正訓　教授	同	不開講	(隔年開講)
	以上の講義科目から、4科目8単位以上を修得すること。					
	上級社会心理学演習	2	東　正訓　教授	同	前期	
	上級環境心理学演習	2	加藤　徹　教授	同	不開講	
	上級犯罪心理学演習	2	松野　凱典　教授	同	前期	
	上級対人行動学演習	2	金政　祐司　准教授	同	不開講	
	交通心理学演習1	1	(不開講)	同	不開講	
	交通心理学演習2	1	(不開講)	同	不開講	
	以上の演習科目から、2科目2単位以上を修得すること。					
選択	精神医学特論	2	溝部　宏二　准教授	1年次以上	後期	
	障害者(児)心理学特論	2	中鹿　　彰　准教授	同	不開講	(隔年開講)
	記憶と言語	2	石王　敦子　教授	同	後期	(隔年開講)
	認知心理学特論	2	石王　敦子　教授	同	前期	
	臨床発達心理学特論	2	井上　知子　教授	同	不開講	(隔年開講)
	教育臨床心理学特論	2	永野　浩二　准教授	同	不開講	
	神経生理学特論	2	田中　秀明　准教授	同	前期	
	認知発達支援論	2	落合　正行　教授	同	不開講	(隔年開講)
	人格心理学特論	2	井上　知子　教授	同	不開講	(隔年開講)
	言語発達特論	2	石王　敦子　教授	同	不開講	(隔年開講)
	言語発達支援論	2	高橋　　登　講師	同	後期	(隔年開講)
	育児支援特論	2	井上　知子　教授	同	後期	(隔年開講)
	保育支援特論	2	石王　敦子　教授	同	不開講	(隔年開講)
	教育心理学特論	2	三川　俊樹　教授	同	前期	
	進路指導特論	2	三川　俊樹　教授	同	不開講	(隔年開講)
	学校カウンセリング特論	2	三川　俊樹　教授	同	前期	(隔年開講)
	生涯教育心理学演習	2	河﨑　美保　講師	同	後期	
	生涯発達心理学演習	2	河合　優年　講師	同	後期	集中
	心理アセスメント演習1	1	井上　知子　教授	同	前期	
	心理アセスメント演習2	1	井上　知子　教授	同	後期	
	臨床発達心理実習	2	井上　知子　教授 落合　正行　教授 石王　敦子　教授 三川　俊樹　教授 田中　秀明　准教授 河﨑　美保　講師	同	通年	
上記の必修科目、選択必修科目および選択科目を含めて、講義24単位以上、演習6単位以上、合計30単位以上を修得すること。						

▶ 臨床心理士受験資格に関する指定科目

区分		開講科目名	単位	担当者	備考
必修		臨床心理学特論1	2	中村　このゆ　教授	前期　臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理学特論2	2	橋本　秀美　教授	後期　臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理面接特論1	2	倉戸　由紀子　教授 橋本　秀美　教授	前期　臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理面接特論2	2	永野　浩二　准教授 駿地　眞由美　准教授	後期　臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理アセスメント演習1	2	中村　このゆ　教授 辻　潔　准教授	前期　臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理アセスメント演習2	2	中鹿　彰　准教授 馬場　天信　准教授	後期　臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理基礎実習	2	中鹿　彰　准教授 辻　潔　准教授 永野　浩二　准教授 駿地　眞由美　准教授	2時限連続開講 臨床心理学コース専攻生のみ
		臨床心理実習A 臨床心理実習B 臨床心理実習C 臨床心理実習D 臨床心理実習E	2	倉戸　由紀子　教授 中村　このゆ　教授 橋本　秀美　教授 溝部　宏二　准教授 馬場　天信　准教授	2時限連続開講 臨床心理学コース専攻生のみ 臨床心理基礎実習を修得した者のみ
選択必修	A	臨床心理学研究法特論1	2	倉戸　由紀子　教授 中村　このゆ　教授 橋本　秀美　教授 中鹿　彰　准教授 辻　潔　准教授 永野　浩二　准教授 駿地　眞由美　准教授 馬場　天信　准教授	前期
	A	臨床心理学研究法特論2	2	倉戸　由紀子　教授 中村　このゆ　教授 橋本　秀美　教授 中鹿　彰　准教授 辻　潔　准教授 永野　浩二　准教授 駿地　眞由美　准教授 馬場　天信　准教授	後期
	A	心理統計法特論	2	東　正訓　教授	不開講　（隔年開講）
	B	人格心理学特論	2	井上　知子　教授	不開講　（隔年開講）
	B	認知心理学特論	2	石王　敦子　教授	前期
	B	教育心理学特論	2	三川　俊樹　教授	前期
	C	社会心理学特論	2	東　正訓　教授	前期（隔年開講）
	C	犯罪心理学特論	2	松野　凱典　教授	後期（隔年開講）
	C	臨床心理関連行政論	2	田中　耕二郎　教授	後期
	D	精神医学特論	2	溝部　宏二　准教授	後期
	D	神経生理学特論	2	田中　秀明　准教授	前期
	D	障害者（児）心理学特論	2	中鹿　彰　准教授	不開講　（隔年開講）
	E	投映法特論	2	馬場　天信　准教授	不開講
	E	臨床心理地域援助特論	2	森田　喜治　講師	前期
	E	心理療法特論1	2	久野　能弘　講師	前期（隔年開講）臨床心理学コースのみ
	E	心理療法特論2	2	佐野　直哉　講師	不開講　（隔年開講）臨床心理学コースのみ
	E	学校臨床心理学特論	2	倉戸　由紀子　教授	後期　臨床心理学コース専攻生のみ
	心理療法実習1		1	加藤　敬　講師	後期　臨床心理学コース専攻生で、臨床心理基礎実習を修得した者のみ、学外スーパービジョン
	心理療法実習2		1		前期

区分	開講科目名	単位	担当者	備考
選択必修	臨床心理学研究法演習Ⅰ1	1	中鹿　彰　准教授 辻　潔　准教授	前期
	臨床心理学研究法演習Ⅰ2	1	永野　浩二　准教授 駿地　眞由美　准教授	後期
	臨床心理学研究法演習Ⅱ1	1	倉戸　由紀子　教授 橋本　秀美　教授	前期
	臨床心理学研究法演習Ⅱ2	1	中村　このゆ　教授 馬場　天信　准教授	後期
	臨床心理学コース演習1A	1	倉戸　由紀子　教授	前期（修士論文指導） 臨床心理学コース専攻生のみ
	同　B		中村　このゆ　教授	
	同　C		橋本　秀美　教授	
	同　D		中鹿　彰　准教授	
	同　E		辻　潔　准教授	
	同　F		永野　浩二　准教授	
	同　G		駿地　眞由美　准教授	
	同　H		馬場　天信　准教授	
	臨床心理学コース演習2A	1	倉戸　由紀子　教授	後期（修士論文指導） 臨床心理学コース専攻生のみ
	同　B		中村　このゆ　教授	
	同　C		橋本　秀美　教授	
	同　D		中鹿　彰　准教授	
	同　E		辻　潔　准教授	
	同　F		永野　浩二　准教授	
	同　G		駿地　眞由美　准教授	
	同　H		馬場　天信　准教授	
上記のA～Eの科目群から、それぞれ2単位以上、計10単位以上を修得し、選択必修の区分から計14単位以上を修得すること。				
選択	進路指導特論	2	三川　俊樹　教授	不開講（隔年開講）
	言語発達支援論	2	高橋　登　講師	後期（隔年開講）
	学校カウンセリング特論	2	三川　俊樹　教授	前期（隔年開講）
	育児支援特論	2	井上　知子　教授	後期（隔年開講）
	保育支援特論	2	石王　敦子　教授	不開講（隔年開講）
	生涯教育心理学演習	2	河﨑　美保　講師	後期
	生涯発達心理学演習	2	河合　優年　講師	後期（集中）
	心理アセスメント演習1	2	井上　知子　教授	前期
	心理アセスメント演習2	2	井上　知子　教授	後期
	上級社会心理学演習	2	東　正訓　教授	前期
上記の必修科目、選択必修科目及び選択科目を含めて、合計30単位以上を修得すること。				

【臨床心理士受験資格】

（1）臨床心理学コースで修士課程を修了した者

（2）上記の指定科目の修得要件を充たしていること

（3）臨床心理学に関連したテーマと内容の修士論文を提出していること

以上の全ての要件を充たしていなければならない。

▶ 臨床発達心理士申請条件に関する指定科目

「臨床発達心理士」認定運営機構指定科目及び単位数		本学開講科目及び単位数	
臨床発達心理学の基礎に関する科目	4	臨床発達心理学特論	2
		生涯発達心理学演習	2
認知発達とその支援に関する科目	4	神経生理学特論	2
		障害者(児)心理学特論	2
社会・情動の発達とその支援に関する科目	4	人格心理学特論	2
		心理アセスメント演習1	2
		心理アセスメント演習2	2
言語発達とその支援に関する科目	4	言語発達特論	2
		言語発達支援論	2
育児・保育現場での発達とその支援に関する科目	4	育児支援特論	2
		保育支援特論	2

(1) 本学大学院心理学研究科心理学専攻生涯発達・生涯教育心理学コース又は社会・環境・犯罪心理学コースを修了していること

(2) 5つの指定科目(1科目4単位)全ての単位を修得していること

(3) 200時間以上の臨床実習の経験を有すること

▶ 学校心理士申請条件　類型1

「学校心理士」認定運営機構において定めた科目			対応する本学科目	単位数
コアとなる学問領域	学校心理士とそれを支える心理学的基盤	学校心理学	教育心理学特論	2
		教授・学習心理学	生涯教育心理学演習	2
			認知心理学特論	2
		発達心理学	臨床発達心理学特論	2
			言語発達特論	2
		臨床心理学	教育臨床心理学特論	2
実務の領域	学校心理学的援助の実際	特別支援教育	障害者(児)心理学特論	2
		生徒指導・教育相談、キャリア教育	進路指導特論	2
援助スキル領域	心理教育的援助サービスの理論と技法	心理教育的アセスメント(実習を含む)	心理アセスメント演習1	2
			心理アセスメント演習2	2
		学校カウンセリング・コンサルテーション(実習を含む)	学校カウンセリング特論	2

(1) 本学大学院修士課程を修了していること

(2) 学校心理学に関する所定11科目22単位以上を修得していること

(3) 1年以上の学校心理学に関する専門的実務経験を有すること

文学研究科

▶ 専攻履修及びその他についての諸注意

用語解説

Ⅰ 一般的事項

1) 専攻履修については、大学院学則・学位規程・その他の規程を熟読の上、開講科目一覧表やシラバス等を参照し、履修科目を決定すればよい。

2) 履修登録は、指定の期日までに行わなければならない。履修登録がされていないと、単位修了の認定を受けることができない。

Ⅱ 履修及び単位修得

1) 各専攻の履修及び単位修得については、以下の通りである。

社会学専攻

社会学専攻にあっては、甲類科目中より演習 6 単位以上 (選択必修)、乙類科目中より講義 24 単位以上 (選択必修)、合計 30 単位以上を修得しなければならない。

ただし、本研究科の他専攻の講義を 8 単位の限度内で修得した場合は、これを講義 24 単位中に加えることができる。

中国文化専攻

中国文化専攻にあっては、甲類科目中より演習 6 単位以上 (選択必修)、甲類・乙類科目中より講義 24 単位以上 (選択必修)、合計 30 単位以上を修得しなければならない。

ただし、本研究科の他専攻の講義を 8 単位の限度内で修得した場合は、これを講義 24 単位中に加えることができる。

英文学専攻

英文学専攻にあっては、英文学専攻の開講科目の中から、演習 6 単位以上 (選択必修)、特論・研究 24 単位以上 (選択必修)、合計 30 単位以上を修得しなければならない。本研究科の他専攻の講義を 8 単位の限度内で修得した場合は、これを特論・研究 24 単位の中に加えることができる。

2) 学業成績は、100 点満点で 60 点以上を合格とする。

Ⅲ 修士論文

1) 修士論文計画書 (2,000 字以内) は、論文提出の 6 ヵ月前までに教務課へ提出しなければならない。

2) 修士論文を提出するものは、論文 3 部 (2 部はコピーでもよい) を提出期限 (1 月 14 日あるいは 6 月 30 日) までに教務課に提出しなければならない。

3) 修士論文は以下の基準に照らして、厳正に審査を行う。

① テーマの設定は適切か。
② 構成のしかたは適当か。
③ 論旨に適合した方法が用いられているか。
④ 先行研究を踏まえたうえで、独自性・独創性が打ちだされているか。

⑤　資料は正確かつ適切に取り扱われているか。
⑥　論旨を明確に伝える表現がなされているか。
⑦　指導教員による指導を適切に受けているか。

4）病気その他やむをえない事情により修士論文を期日までに提出できないものは、その理由を証する書面を添えて１月１４日までに研究科長に願い出た場合に限り、延期を許可することがある。

5）修士論文の審査に不合格の場合、あるいは修士論文を提出しなかった場合には、次年度の前期に提出することができる。この場合には、６月 30 日までに修士論文を教務課に提出しなければならない。ただし、病気その他やむをえない事情により期日までに提出できないものは、その理由を証する書面を添えて６月 30 日までに研究科長に願い出た場合に限り、延期を許可することがある。

Ⅳ その他

1）教務課において発行する以下の証明書の交付を希望する者は、あらかじめ交付願（所定の様式の書類は教務課にて交付）を提出すること。

ⅰ）単位修得および学業成績証明書
ⅱ）修了見込証明書
ⅲ）修了証明書
ⅳ）在学証明書

2）その他資格取得および学生生活一般のことについては「資格取得に関する事項、その他の規則・規程」を参照のこと。 なお、その他は研究科委員会で決定し、必要と認めた場合はその都度掲示等によって連絡する。

▶ 大学院科目一覧表　2011 年４月１日現在

別表Ⅰ　社会学専攻

種別	授業科目	単位	担当者	備考
甲類	社会学理論演習	2	沼尻　正之　准教授	
	現代社会学演習	2	新野　三四子　教授 善積　京子　教授	
	文化社会学演習	2	清水　学　准教授	
乙類	現代社会研究	4	善積　京子　教授 沼尻　正之　准教授	
	現代家族研究	4	善積　京子　教授	
	社会福祉学特講	4	新野　三四子　教授 古川　隆司　准教授	
	現代社会学特講	4	柏原　全孝　准教授	
	文化社会学特講	4		
	表象文化論特講	4	清水　学　准教授	
	文化人間学特論	4	山本　博史　教授	
	社会学的人間論特論	4		
	社会学フィールドスタディ	4	城野　充　准教授	
	人間学フィールドスタディ	4	加村　隆英　教授	

別表Ⅱ　中国文化専攻

種別	授業科目	単位	担当者	備考
甲類	中国哲学講義	4	武田　秀夫　教授	
	中国史学講義	4	田口　宏二朗　准教授	
	中国文学講義	4	松家　裕子　教授	
	中国哲学演習	2	松家　裕子　教授	
	中国文化演習	2	李　慶国　教授	
	中国史学演習	2	田口　宏二朗　准教授	
	中国文学演習	2	高橋　文治　講師	
	東洋文化演習1	2		
	東洋文化演習2	2	正信　公章　教授	
	東洋文化演習3	2	筒井　由起乃　准教授	
	東洋文化演習4	2	永吉　雅夫　教授	
乙類	中国文化特殊講義(1)	4	奥田　尚　教授	
	中国文化特殊講義(2)	4	南出　眞助　教授	
	中国文化特殊講義(3)	4	磯貝　健一　准教授	
	中国文化特殊講義(4)	4	重松　伸司　教授	
	中国文化特殊講義(5)	4		

別表Ⅲ　英文学専攻

種別	授業科目	単位	担当者	備考
甲類	英米文学演習	2	新谷　好　教授	
	英語教育演習	2	佐藤　恭子　教授	
	英語学演習	2	稲木　昭子　教授	
	英米文学特論	4	新谷　好　教授	
	英語教育特論	4	佐藤　恭子　教授	
	英語学特論	4	高尾　典史　教授	
乙類	英米文学研究	4	J. Herrick　教授	
	英語表現法研究	4	J. Herrick　教授	
	英語史研究	4		
	英語コーパス研究	4	稲木　昭子　教授	
	英語語法文法研究	4	佐藤　恭子　教授	
	言語理論研究	4	高尾　典史　教授	
	自然言語処理研究	4	福島　孝博　准教授	

資格取得

本学で取得できる資格について　P. 144
教職課程に関する規程　P. 146
学芸員資格取得に関する履修規程　P. 158
社会教育主事の資格取得に関する規程　P. 160
レクリエーション・インストラクターの資格取得に関する規程　P. 162
開講科目一覧表　P. 163

本学で取得できる資格について

用語解説

本学では、教職、博物館学芸員、社会教育主事、レクリエーション・インストラクターの資格を取得するための課程が用意されています。

資格取得を目的とした履修に際しては、年度始めにオリエンテーションが実施されますので、希望者は必ず出席をしなければなりません。

▶ 教職課程

中学校や高等学校等の教員になるためには、教育職員免許法に定められた科目を履修し、教育職員免許状[1]（略称：教員免許状）を取得しなければなりません。この教員免許状を取得するまでの課程が教職課程と呼ばれるものです。この教職課程では、各学部の卒業に必要な単位の修得のほかに、教職に関する特別な科目を修得しなければなりません。教職科目は１年次から順次開講されるため、将来教員になりたいと考えている学生は１年次から計画的に科目を履修する必要があります。さらに、教育実習や介護等体験では事前・事後指導やオリエンテーションなどに参加する必要があります。

具体的な日程や履修に関する連絡事項については、教職課程の掲示板[2]に掲示しますので、必ず確認するようにしてください。

1. 教育職員免許状
学科・専攻ごとに取得できる免許状の種類は P. 146 を参照。

2. 教職課程の掲示板
⇒ P. 18 を参照。

１年次

（1）履修計画を立てる
（2）教職課程履修オリエンテーション（学年始め）に参加する
（3）１年次配当の教職課程関係科目を履修する

２年次

（1）教職等資格オリエンテーション（学年始め）に参加する
（2）２年次配当の教職課程関係科目を履修、本格的に教職課程に取り組む

３年次

（1）教育実習に行く前年度までに先修科目を履修する
（2）教育実習内諾オリエンテーション（４月）で配布した書類を持って、出身校などへ教育実習の依頼に行き、内諾を得る
（3）介護等体験オリエンテーション（９月）に参加し、福祉施設等で介護等の体験をする

４年次

（1）教育実習を行う
（2）教育実習の事前・事後指導を受ける
（3）教員免許状一括申請オリエンテーション（10 月・11 月の両方に参加する必要がある）に参加し、必要な書類等を提出する
（4）卒業要件を満たし、卒業する（学士の学位を取得）
（5）卒業式以降に教員免許状を受領する[3]

3. 教員として働くには
免許状を取得した後に、自治体等で実施される教員採用試験に合格することで、教員として働くことができます。

▶ 博物館学芸員課程

博物館法に基づき、博物館や博物館相当施設において、資料の収集・保管・展示及び調査研究などの業務を行う博物館学芸員を養成します。

「学芸員資格取得に関する履修規程」（P. 158）に記載する科目・単位を修得すれば、資格証明書が授与されます。

資格取得希望者は、教職等資格オリエンテーション（2 年次始め）に参加してください。

▶ 社会教育主事課程

都道府県および市町村の教育委員会事務局に置かれ、青年教育、婦人教育、成人教育などの社会教育を行う者に、専門的技術的な助言と指導を与えることを職務とする地方公務員です。

大学において、社会教育法に定める必要な科目・単位を修得し、卒業後、1 年以上、社会教育主事補の職にあった者は、社会教育主事になる資格[4]が得られます。

▶ レクリエーション・インストラクター課程

（財）日本レクリエーション協会の公認資格です。余暇やレクリエーションに関する理論と実技を学び、レクリエーションを楽しく教える指導者として、地域を中心に社会福祉や企業などのあらゆる領域で活動します。所定科目の単位を修得するとともに、（財）日本レクリエーション協会などが関係する事業へ参加すると取得できます[5]。（協会への資格登録手続きが必要です。）

資格取得希望者は、レクリエーション・インストラクターオリエンテーション（2 年次始め）に参加してください。

※資格課程（教職課程、博物館学芸員課程、社会教育主事課程、レクリエーション・インストラクター課程）の科目を履修するためには、UNIVERSAL PASSPORT で「希望資格登録[6]」をする必要があります。

用語解説

4. 社会教育主事資格
P. 160 の「社会教育主事の資格取得に関する規程」を参照。

5. レクリエーション・インストラクターの資格
P. 162 の「レクリエーション・インストラクターの資格取得に関する規程」を参照。

6. 希望資格登録
「希望資格登録」については「履修登録ガイド」を参照。

教職課程に関する規程

用語解説

（総　則）

第１条　卒業後中学校又は高等学校の教員の免許状（以下「免許状」という。）の授与を受けようとする者は、次条以下に定める方法によって教職課程を履修しなければならない。

（免許状の種類）

第２条　本学の各学部・研究科がそれぞれ学科・専攻ごとに教職課程として認定を受けている免許状の種類及び教科は次のとおりである。

学部・研究科		学科・専攻	免許状の種類	教科
学部	経済学部	経済学科	中学校教諭一種免許状	社会
			高等学校教諭一種免許状	地理歴史 公民 商業
		ヒューマンエコノミー学科	中学校教諭一種免許状	社会
			高等学校教諭一種免許状	地理歴史 公民 商業
	経営学部	経営学科	中学校教諭一種免許状	社会
			高等学校教諭一種免許状	公民 商業
		マーケティング学科	中学校教諭一種免許状	社会
			高等学校教諭一種免許状	公民 商業 情報
	心理学部	心理学科	中学校教諭一種免許状	社会
			高等学校教諭一種免許状	公民
	社会学部	社会学科	中学校教諭一種免許状	社会
			高等学校教諭一種免許状	公民
	国際教養学部	アジア学科	中学校教諭一種免許状	社会 中国語 国語
			高等学校教諭一種免許状	地理歴史 公民 中国語 国語
		英語コミュニケーション学科	中学校教諭一種免許状	英語
			高等学校教諭一種免許状	英語
大学院	経済学研究科	経済学専攻	中学校教諭専修免許状	社会
			高等学校教諭専修免許状	公民
	経営学研究科	経営学専攻	中学校教諭専修免許状	社会
			高等学校教諭専修免許状	公民 商業 情報
	心理学研究科	心理学専攻	中学校教諭専修免許状	社会
			高等学校教諭専修免許状	公民
	文学研究科	社会学専攻	中学校教諭専修免許状	社会
			高等学校教諭専修免許状	公民
		中国文化専攻	中学校教諭専修免許状	社会
			高等学校教諭専修免許状	地理歴史 公民
		英文学専攻	中学校教諭専修免許状	英語
			高等学校教諭専修免許状	英語

（一種免許状）

第３条　中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状の授与を受けるためには、本条の定めるところにより、所定の単位を修得しなければならない。

１　共通科目（基本科目、外国語科目、体育科目）

（1）共通科目は、教員には高い見識と豊かな教養が求められることに鑑み、自発的に幅広く履修するものとする。

（2）共通科目のうち、次の各号に定める科目については、次の指示に従って所定の単位を修得しなければならない。

①　日本国憲法に関する科目２単位以上修得すること。
②　体育に関する科目の講義及び実技の両方を履修し、２単位以上修得すること。
③　外国語コミュニケーションに関する科目２単位以上修得すること。
④　情報機器の操作に関する科目２単位以上修得すること。

２　教職に関する科目

教職に関する科目は、次表に従って履修するものとする。

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	本学開講科目及び単位数		履修方法	配当年次
教職の意義等に関する科目	教職概論	2	必修	１年以上
教育の基礎理論に関する科目	教育原論	2	必修	１年以上
	教育史	2	選択	２年以上
	教育心理学	2	必修	２年以上
	障害児教育論１	2	選択	２年以上
	障害児教育論２	2	選択	２年以上
	教育行政学	2	必修	１年以上
	比較教育学	2	選択	２年以上
	教育法学	2	選択	２年以上
教育課程及び指導法に関する科目	教育課程論	2	必修	２年以上
	社会科教育論１（地理歴史分野）	2	選択必修	２年以上
	社会科教育論２（公民分野）	2		２年以上
	社会科・地理歴史科教育論	2		２年以上
	社会科・公民科教育論	2		２年以上
	商業科教育論１	2		２年以上
	商業科教育論２	2		２年以上
	情報科教育論１	2		２年以上
	情報科教育論２	2		２年以上
	英語科教育論１	2		２年以上
	英語科教育論２	2		２年以上
	英語科教育研究１	2		３年以上
	英語科教育研究２	2		３年以上
	中国語科教育論１	2		２年以上
	中国語科教育論２	2		２年以上
	中国語科教育研究１	2		３年以上
	中国語科教育研究２	2		３年以上
	国語科教育論１	2		２年以上
	国語科教育論２	2		２年以上
	国語科教育研究１	2		３年以上
	国語科教育研究２	2		３年以上
	道徳教育論	2	中一種免のみ必修	２年以上
	特別活動論	2	必修	２年以上
	教育方法学	2	必修	１年以上
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導論	2	必修	２年以上
	教育相談	2	必修	２年以上
教育実習	教育実習１	2	必修	４年
	教育実習２	2	中一種のみ必修	４年
	教育実習事前・事後指導	2	必修	４年
教職実践演習	教職実践演習（中・高）	2	必修	４年

備考１　教科教育論、教科教育研究は、受けようとする免許状の教科ごとに単位を修得しなければならない。

２　教育実習の履修方法については、別に本規程第５条に定めるところによるものとする。

３　選択科目は、障害児教育論１、障害児教育論２、社会問題論のいずれか２単位を含めて、８単位以上を修得するものとする。

用語解説

3　教科又は教職に関する科目

教科又は教職に関する科目は、次表に従って履修するものとする。なお、介護等体験の履修方法については、別に本規程第６条に定めるところによるものとする。

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	本学開講科目及び単位数		履修方法	配当年次
教科又は教職に関する科目	道徳教育論	2	高一種免のみでも履修可	２年以上
	介護等体験	2	中一種免のみ必修	３年以上
	教職教養演習１	2		３年以上
	教職教養演習２	2		３年以上
	社会問題論	2		２年以上
	社会教育概論１	2		２年以上
	社会教育概論２	2		２年以上

備考　道徳教育論は、中学校教諭一種免許状の授与を受けようとする者の場合、前掲の教職に関する科目として必ず単位を修得しなければならない。

4　教科に関する科目

教科に関する科目は、受けようとする免許状の教科ごとに次表に従って履修するものとする。

①　中学校教諭一種免許状（社会）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	本学開講科目及び単位数		履修方法
日本史及び外国史	日本史概説１	2	必修
	日本史概説２	2	必修
	西洋史概説１	2	必修
	西洋史概説２	2	必修
	東洋史概説１	2	必修
	東洋史概説２	2	必修
地理学（地誌を含む。）	人文地理学概説１	2	必修
	人文地理学概説２	2	必修
	自然地理学概説１	2	必修
	自然地理学概説２	2	必修
	地誌学１	2	必修
	地誌学２	2	必修
「法律学、政治学」	法律学概論１	2	必ずセットで履修すること　４単位以上選択
	法律学概論２	2	
	政治学概論１	2	必ずセットで履修すること　４単位以上選択
	政治学概論２	2	
「社会学、経済学」	社会学概論１	2	４単位以上選択（各学科ごとに指定）
	社会学概論２	2	
	経済原論１	2	
	経済原論２	2	
	経済原論Ⅰ	4	
「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概論１	2	４単位以上選択
	哲学概論２	2	
	倫理学概論１	2	
	倫理学概論２	2	
計	履修方法に従って 36 単位以上修得すること		

② 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	本学開講科目及び単位数		履修方法
日本史	日本史概説1	2	必修
	日本史概説2	2	必修
外国史	西洋史概説1	2	必修
	西洋史概説2	2	必修
	東洋史概説1	2	必修
	東洋史概説2	2	必修
人文地理学及び自然地理学	人文地理学概説1	2	必修
	人文地理学概説2	2	必修
	自然地理学概説1	2	必修
	自然地理学概説2	2	必修
地誌	地誌学1	2	必修
	地誌学2	2	必修
計	履修方法に従って24単位以上修得すること		

③ 高等学校教諭一種免許状（公民）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	本学開講科目及び単位数		履修方法
「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	法律学概論1	2	必ずセットで履修すること
	法律学概論2	2	
	政治学概論1	2	必ずセットで履修すること
	政治学概論2	2	
			4単位以上選択
「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	社会学概論1	2	4単位以上選択（各学科ごとに指定）
	社会学概論2	2	
	経済原論1	2	
	経済原論2	2	
	経済原論Ⅰ	4	
	国際経済学1	2	
	国際経済学2	2	
	国際経済学	4	
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	哲学概論1	2	4単位以上選択
	哲学概論2	2	
	倫理学概論1	2	
	倫理学概論2	2	
	心理学の歴史	2	
	心理学体系論	2	
計	履修方法に従って24単位以上修得すること（上記の表に掲げる科目で単位が不足する場合は、所属学科の学科科目のうち、公民に関する科目を以て充当すること）		

④　高等学校教諭一種免許状（商業）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	本学開講科目及び単位数		履修方法
商業の関係科目	経営学概論1	2	必修
	経営学概論2	2	必修
	入門簿記	2	必修
	初級簿記	2	必修
	会計学原理1	2	必修
	会計学原理2	2	必修
	財政学1	2	左記に示す科目のほか、所属学科の学科科目のうち商業に関する科目より選択（学科により指定科目あり）
	財政学2	2	
	ファイナンス論1	2	
	ファイナンス論2	2	
	商法（総則・商行為）	2	
	会社法1	2	
	会社法2	2	
	商法（手形法・小切手法）	2	
職業指導	職業指導論	2	必修
計	履修方法に従って24単位以上修得すること		

⑤　高等学校教諭一種免許状（情報）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	本学開講科目及び単位数		履修方法	
情報社会及び情報倫理	情報リテラシー1	2	必修	
	情報リテラシー2	2	必修	
	経営情報論1	2	必修	
	経営情報論2	2	必修	
コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）	プログラミング演習1	2	必修	必修科目を含め10単位以上選択
	情報科学概論1	2		
	情報科学概論2	2		
情報システム（実習を含む。）	プログラミング演習2	2	必修	
	マネジメント・システム論2	2		
	ソフトウェア・システム論1	2		
	ソフトウェア・システム論2	2		
情報通信ネットワーク（実習を含む。）	通信ネットワーク	2	必修	
マルチメディア表現及び技術（実習を含む。）	マルチメディア	2	必修	
情報と職業	情報と職業	2	必修	
計	履修方法に従って24単位以上修得すること			

⑥　中学校教諭一種免許（英語）及び高等学校教諭一種免許状（英語）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	本学開講科目及び単位数		履修方法
英語学	英語学概論1	2	必修
	英語学概論2	2	必修
	英語音声学1	2	必修
	英語音声学2	2	必修
英米文学	英文学概論1	2	どちらか1科目を必ず履修すること
	英文学概論2	2	
	米文学概論1	2	どちらか1科目を必ず履修すること
	米文学概論2	2	
英語コミュニケーション	英語コミュニケーション1	2	必修
	英語コミュニケーション2	2	必修
異文化理解	イギリス文化講義	2	4単位以上選択
	アメリカ文化講義	2	
	イギリス史	2	
	アメリカ史	2	
計	履修方法に従って24単位以上修得すること （上記の表に掲げる科目で単位が不足する場合は、所属学科の学科科目のうち、英語に関する科目を以て充当すること）		

⑦　中学校教諭一種免許（中国語）及び高等学校教諭一種免許状（中国語）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	本学開講科目及び単位数		履修方法
中国語学	専修中国語中級講読1	2	必修
	専修中国語中級講読2	2	必修
	専修総合中国語1	2	必修
	専修総合中国語2	2	必修
中国文学	中国の文学1	2	4単位以上選択
	中国の文学2	2	
	現代中国の文芸1	2	
	現代中国の文芸2	2	
中国語コミュニケーション	専修中国語中級会話1	2	4単位以上選択
	専修中国語中級会話2	2	
	専修中国語上級会話1	2	
	専修中国語上級会話2	2	
異文化理解	アジア研究入門1	2	4単位以上選択
	アジア研究入門2	2	
	アジアフィールドワーク1	4	
計	履修方法に従って24単位以上修得すること （上記の表に掲げる科目で単位が不足する場合は、所属学科の学科科目のうち、中国語に関する科目を以て充当すること）		

⑧　中学校教諭一種免許（国語）及び高等学校教諭一種免許状（国語）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	本学開講科目及び単位数		履修方法
国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	国語学1	2	必修
	国語学2	2	必修
	国語学史	2	必修
	日本語学1	2	必修
	日本語学2	2	必修
	応用日本語1	2	
	応用日本語2	2	
	日本語の諸相1	2	
	日本語の諸相2	2	
	言語の科学1	2	
	言語の科学2	2	
国文学（国文学史を含む。）	日本文学史1	2	必修
	日本文学史2	2	必修
	日本文学概説1	2	必修
	日本文学概説2	2	必修
	日本の芸能と文学1	2	
	日本の芸能と文学2	2	
漢文学	漢文学	2	必修
	日本語のための古典1	2	必修
	日本語のための古典2	2	
書道（書写を中心とする。）	書道1	2	中一種免のみ必修（高一種免のみの場合は、履修不可）
	書道2	2	
計	履修方法に従って中一種免は 26 単位以上、高一種免は 22 単位以上修得すること		

（専修免許状）

第４条　中学校教諭専修免許状及び高等学校教諭専修免許状の授与を受けるためには、本条に定める以下の要件をすべて満たさなければならない。

１　当該学校及び教科について、一種免許状の授与資格を有すること。

２　修士の学位を有すること。

３　本大学院において、当該教科に関する科目又は教職に関する科目について、24 単位以上を修得すること。なお、心理学専攻において「学校心理学」、「臨床心理学」、「発達心理学・教育心理学」、「社会心理学」のいずれかの分野の記入を受けることができる。分野の記入を受ける場合の科目・単位数並びに履修方法は別表のとおりとする。

（教育実習）

第５条　本規程第３条２に規定する教職に関する科目のうち、教育実習の履修方法については、本条の定めるところによるものとする。

１　教育実習を４年次において履修するためには、以下の要件をすべて満たさなければならない。

（1）当該年度において、卒業見込みであること。

（2）前年度までに、教職に関する科目のうち、教職概論２単位並びに、教育原論、教育行政学、教育方法学の３科目から４単位以上、及び教育実習に係る教科教育論４単位以上、計 10 単位以上を修得し、かつ選択科目については障害児教育論 1、障害児教育論 2、社会問題論のいずれか２単位を含めて８単位以上を修得していること。

（3）前年度までに教科に関する科目について、社会科については２４単位以上、その他の科目については１６単位以上を修得し、かつ当該年度において、免許状授与に必要な単位をすべて修得見込みであること。

２　教育実習の要件のうち一部を欠く者については、教職課程委員会で協議の上、教育実習の履修を認めることがある。

３　教育実習は、追手門学院中学校、同高等学校もしくは本学の指定する学校において実施する。

４　教育実習を履修する者は、実習費として所定の額を納付しなければならない。

５　その他、教育実習の実施に関する詳細は、その都度これを定める。

（介護等体験）

第６条　介護等体験の履修方法については、本条の定めるところによるものとする。

１　介護等体験は、特別支援学校、社会福祉施設等において実施する。

２　介護等体験を履修する者は、実習費として所定の額を納付しなければならない。

３　その他、介護等体験の実施に関する詳細は、その都度これを定める。

附則
この規程は、昭和52年4月1日から施行する。
附則
この規程は、昭和56年4月1日から施行する。
附則
この規程は、昭和57年4月1日から施行する。
附則
この規程は、昭和58年4月1日から施行する。
附則
この規程は、昭和59年4月1日から施行する。
附則
この規程は、昭和60年4月1日から施行する。
附則
この規程は、平成2年4月1日から施行する。ただし、平成2年3月31日以前の入学者及び編入学者については、従来の規程を適用する。
附則
この規程は、平成3年4月1日から施行する。ただし、第2条及び第3条の規程については、平成2年度入学者から適用する。
附則
この規程は、平成4年4月1日から施行する。
附則
この規程は、1993年4月1日から施行する。
附則
この規程は、1994年4月1日から施行する。
附則
この規程は、1995年4月1日から施行する。ただし、1995年3月31日以前の入学者及び編入学者については、従来の規程を適用する。
附則
この規程は、1996年4月1日から施行する。ただし、1996年3月31日以前の入学者及び編入学者については、従来の規程を適用する。
附則
この規程は、1998年4月1日から施行する。ただし、1998年3月31日以前の入学者及び編入学者については、従来の規程を適用する。
附則
この規程は、1999年4月1日から施行する。ただし、1999年3月31日以前の入学者及び編入学者については、従来の規程を適用する。
附則
この規程は、2000年4月1日から施行する。ただし、2000年3月31日以前の入学者及び編入学者については、従来の規程を適用する。
附則
この規程は、2001年4月1日から施行する。ただし、2001年3月31日以前の入学者及び編入学者については、従来の規程を適用する。
附則
この規程は、2002年4月1日から施行する。ただし、2002年3月31日以前の入学者及び2002年3月31日以前の編入学者については、従来の規程を適用する。

附則
この規程は、2003年4月1日から施行する。ただし、2003年3月31日以前の入学者及び2003年3月31日以前の編入学者については、従来の規程を適用する。
附則
この規程は、2004年4月1日から施行する。ただし、2004年3月31日以前の入学者及び2006年3月31日以前の編入学者については、従来の規程を適用する。
附則
この規程は、2005年4月1日から施行する。ただし、2005年3月31日以前の入学者及び2007年3月31日以前の編入学者については、従来の規程を適用する。
附則
この規程は、2006年4月1日から施行する。ただし、2006年3月31日以前の入学者及び2008年3月31日以前の編入学者については、従来の規程を適用する。
附則
この規程は、2007年4月1日から施行する。ただし、2007年3月31日以前の入学者及び2009年3月31日以前の編入学者については、従来の規程を適用する。
附則
この規程は、2008年4月1日から施行する。ただし、2008年3月31日以前の入学者及び2010年3月31日以前の編入学者については、従来の規程を適用する。
附則
この規程は、2009年4月1日から施行する。
附則
この規程は、2010年4月1日から施行する。ただし、2010年3月31日以前の入学者及び2012年3月31日以前の編入学者については、従来の規程を適用する。
附則
この規程は、2011年4月1日から施行する。

別表

「学校心理学」分野の記入に関する科目

本学開講科目	単位数	履修方法
教育心理学特論	2	必修
生涯教育心理学演習	2	選択必修
認知心理学特論	2	
臨床発達心理学特論	2	選択必修
言語発達特論	2	
教育臨床心理学特論	2	必修
心理アセスメント演習１	2	選択必修
心理アセスメント演習２	2	
学校カウンセリング特論	2	必修
障害者（児）心理学特論	2	必修
進路指導特論	2	必修
計	履修方法に従って１６単位以上修得すること	

「臨床心理学」分野の記入に関する科目

本学開講科目	単位数	履修方法
臨床心理学特論１	2	必修
臨床心理学特論２	2	必修
臨床心理面接特論１	2	必修
臨床心理面接特論２	2	必修
臨床心理アセスメント演習１	2	必修
臨床心理アセスメント演習２	2	必修
臨床心理学研究法特論１	2	必修
臨床心理学研究法特論２	2	必修
精神医学特論	2	必修
計	18	すべての科目を修得すること

「発達心理学・教育心理学」分野の記入に関する科目

本学開講科目	単位数	履修方法
教育心理学特論	2	必修
生涯教育心理学演習	2	必修
臨床発達心理学特論	2	必修
生涯発達心理学演習	2	必修
認知心理学特論	2	必修
記憶と言語	2	必修
計	12	すべての科目を修得すること

「社会心理学」分野の記入に関する科目

本学開講科目	単位数	履修方法
社会心理学特論	2	必修
上級社会心理学演習	2	必修
人格心理学特論	2	必修
環境心理学特論	2	必修
犯罪心理学特論	2	必修
心理統計法特論	2	必修
計	12	すべての科目を修得すること

【2011 年度以降入学生に対する特別措置】

（1）高等学校一種免許状・地理歴史

所属する学科・専攻以外が認定を受けている免許状の授与資格の取得については、第 1 欄に定める学部・学科に所属する者にがぎり、第 2 欄に定める種類及び教科の免許状について認められる。

第 1 欄		第 2 欄	
経営学部	経営学科	高等学校教諭第一種免許状	地理歴史
	マーケティング学科	高等学校教諭第一種免許状	地理歴史
心理学部	心理学科	高等学校教諭第一種免許状	地理歴史
社会学部	社会学科	高等学校教諭第一種免許状	地理歴史
備考：この取扱いを希望する者は、履修時に別途教務課に届け出が必要である。			

（2）中学校一種免許状・英語、高等学校一種免許状・英語

所属する学科・専攻以外が認定を受けている免許状の授与資格の取得については、第 1 欄に定める学部・学科に所属する者が、第 2 欄に定める種類及び教科について希望した場合、選考の上、科目の受講を認めることがある。

第 1 欄		第 2 欄	
経済学部	経済学科	中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状	英語
	ヒューマンエコノミー学科	中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状	英語
経営学部	経営学科	中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状	英語
	マーケティング学科	中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状	英語
心理学部	心理学科	中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状	英語
社会学部	社会学科	中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状	英語
国際教養学部	アジア学科	中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状	英語
備考：この取扱いを希望する者は、履修時に別途教務課に届け出が必要である。			

（3）中学校一種免許状・国語、高等学校一種免許状・国語

所属する学科・専攻以外が認定を受けている免許状の授与資格の取得については、第 1 欄に定める学部・学科に所属する者にかぎり、第 2 欄に定める種類及び教科の免許状について認められる。

第 1 欄		第 2 欄	
経済学部	経済学科	中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状	国語
	ヒューマンエコノミー学科	中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状	国語
経営学部	経営学科	中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状	国語
	マーケティング学科	中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状	国語
心理学部	心理学科	中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状	国語
社会学部	社会学科	中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状	国語
国際教養学部	英語コミュニケーション学科	中学校教諭一種・高等学校教諭一種免許状	国語
備考：この取扱いを希望する者は、履修時に別途教務課に届け出が必要である。			

学芸員資格取得に関する履修規程

用語解説

第１条　卒業後、学芸員の資格を得ようとする者は、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）の定めるところにより、必要な科目を履修しなければならない。

第２条　前条に定める科目は、次のとおりとする。ただし、年度により開講しない科目がある。

法定科目名及び最低修得単位数			本学開講科目名及び単位数		配当年次	履修方法
必修科目	博物館概論	2	博物館学１	2	1・2・3年次	必修
	博物館資料論	2	博物館学２	2	1・2・3年次	必修
	博物館経営論	1	博物館学３	2	2・3年次	必修
	博物館情報論	1				
	教育学概論	1	教育原論	2	1年次以上	2科目の履修をもって代える。
			教育行政学	2	1年次以上	
			教育方法学	2	1年次以上	
	生涯学習概論	1	社会教育概論１	2	2年次以上	必修
			社会教育概論２	2	2年次以上	必修
	視聴覚教育メディア論	1	視聴覚教育論	2	2年次以上	必修
	博物館実習	3	博物館実習	3	3年次以上	必修
選択科目	文化史	4	西洋史概説１	2	2年次以上	2分野以上にまたがって8単位以上選択
			西洋史概説２	2	2年次以上	
			東洋史概説１	2	2年次以上	
			東洋史概説２	2	2年次以上	
			日本史概説１	2	2年次以上	
			日本史概説２	2	2年次以上	
			人文地理学概説１	2	2年次以上	
			人文地理学概説２	2	2年次以上	
			地誌学１	2	2年次以上	
			地誌学２	2	2年次以上	
	美術史	4	美学美術史１	2	2年次以上	
			美学美術史２	2	2年次以上	
	考古学	4	考古学概説１	2	2年次以上	
			考古学概説２	2	2年次以上	
	民俗学	4	くらしと文化	2	1年次以上	
			文化人類学	2	3年次以上	
	生物学	4	生物行動学	2	2年次以上	不開講
			生涯教育心理学演習１	2	2年次以上	
			基礎生態学	2	3年次以上	
			生態・環境論	2	3年次以上	
			生態学フィールドワーク１	2	3年次以上	
			生態学フィールドワーク２	2	3年次以上	

第３条　博物館実習は博物館に依頼して次の要領で行う。

（1）実習は、第３年次及び第４年次の学生で学芸員の資格取得に必要な履修科目届を提出した者について行う。

（2）実習を行う時期は、博物館と打ち合わせて定める。

（3）実習生は、実習費として 16,000 円を納付しなければならない。

（4）その他実習に関する実習方法は、その都度定める。

第４条　学芸員資格取得に必要な科目の単位を修得した者には、資格証明書を交付する。

附則

この規程は、昭和 46 年４月１日から施行する。

附則

この規程は、昭和 52 年４月１日から施行する。

附則

この規程は、昭和 54 年４月１日から施行する。

附則

この規程は、昭和 58 年４月１日から施行する。

附則

この規程は、昭和 61 年４月１日から施行する。

附則

この規程は、1993 年４月１日から施行する。

附則

この規程は、1997 年４月１日から施行する。

附則

この規程は、1998 年４月１日から施行する。ただし、1998 年３月 31 日以前の入学者及び編入学者については、従来の規程を適用する。

附則

この規程は、2000 年４月１日から施行する。ただし、2000 年３月 31 日以前の入学者及び編入学者については、従来の規程を適用する。

附則

この規程は、2002 年４月１日から施行する。ただし、2002 年３月 31 日以前の入学者及び編入学者については、従来の規程を適用する。

附則

この規程は、2003 年４月１日から施行する。ただし、2003 年３月 31 日以前の入学者及び編入学生については、従来の規程を適用する。

附則

この規程は、2006 年４月１日から施行する。ただし、2006 年３月 31 日以前の入学者及び 2008 年３月 31 日以前の編入学生については、従来の規程を適用する。

附則

この規程は、2011 年４月１日から施行する。

社会教育主事の資格取得に関する規程

用語解説

第１条　卒業後、社会教育主事となる資格を得ようとする者は、社会教育法（昭和 24 年法律第 207 号）の定めるところにより、必要な科目を履修しなければならない。

第２条　前条の科目は、次のとおりとする。

法定科目名及び最低修得単位数		本学開講科目名及び単位数		履修方法
生涯学習概論	4	社会教育概論１	2	必修
		社会教育概論２	2	必修
社会教育計画	4	社会教育計画１	2	必修
		社会教育計画２	2	必修
社会教育課題研究	4	社会教育課題研究１	2	必修
		社会教育課題研究２	2	必修
社会教育特講Ⅰ（現代社会と社会教育）	12	社会問題論	2	6 科目以上 12 単位以上選択
		人権教育論	2	
		比較教育学	2	
社会教育特講義Ⅱ（社会教育活動・事業・施設）		社会教育行政	2	
		博物館学１	2	
		博物館学２	2	
		視聴覚教育論	2	
		職業指導論	2	
社会教育特講Ⅲ（その他の必要な科目）		余暇とレクリエーション	2	
		教育原論	2	
		教育心理学	2	
		教育行政学	2	
		教育方法学	2	

社会教育特講は、Ⅰ、Ⅱ及びⅢにわたって履修することが望ましい。

第３条　社会教育主事となるために必要な科目及び単位を修得した者には、願い出により単位修得証明書を交付する。

附則
この規程は、昭和 47 年４月１日から施行する。
附則
この規程は、昭和 63 年４月１日から施行する。
附則
この規程は、平成２年４月１日から施行する。
附則
この規程は、1993 年４月１日から施行する。
附則
この規程は、1997 年４月１日から施行する。
附則
この規程は、1998 年４月１日から施行する。
附則
この規程は、1999 年４月１日から施行する。

附則
この規程は、2000 年 4 月 1 日から施行する。
附則
この規程は、2003 年 4 月 1 日から施行する。
附則
この規程は、2006 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2006 年 3 月 31 日以前の入学者及び 2008 年 3 月 31 日以前の編入学者については、従来の規程を適用する。
附則
この規程は、2007 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2007 年 3 月 31 日以前の入学者及び 2008 年 3 月 31 日以前の編入学者については、従来の規程を適用する。
附則
この規程は、2011 年 4 月 1 日から施行する。

レクリエーション・インストラクターの資格取得に関する規程

用語解説

第１条　本学は、レクリエーション・インストラクターとなる資格を得ようとする者に対して、財団法人日本レクリエーション協会の定めるところにより、必要な科目を履修させるものとする。

第２条　前条の科目は、次のとおりとする。

協会が定める科目		本学開講科目	単位数	履修方法	配当年次	備考
レクリエーション理論	2	余暇とレクリエーション	2	必修	１年以上	
レクリエーション実技	2	レクリエーション実技	1	必修	２年以上	
		余暇生活実習１	1	１科目選択必修	１年以上	ゴルフ
		余暇生活実習２	1		１年以上	キャンプ
		余暇生活実習３	1		１年以上	スキー
現場実習	1	レクリエーション実習	1	必修	３年以上	別に定める

第３条　レクリエーション実習は、別に定めるとおり、教育実習１、教育実習２、介護等体験、博物館実習、インターンシップ１、インターンシップ２等のいずれかの科目、または指定する学外実習と同時に履修しなければならない。

第４条　教育実習１、教育実習２、介護等体験、博物館実習等、資格課程の科目の履修については、教員免許状、博物館学芸員及び社会教育主事の資格を取得することを目的とする者に限る。

第５条　資格取得に関わる実習費等の費用については、必要に応じて実費を徴収する。

第６条　レクリエーション・インストラクターとなるために必要な科目及び単位を修得した者は、レクリエーション・インストラクター公認・登録手続きを行うことができる。
なお、登録には定められた費用を必要とする。

附則
この規程は、2003年４月１日から施行する。

開講科目一覧表

▶ 教職課程に関する科目

用語解説

免許法別表第一に規定する科目	授業科目	単位	履修区分	配当年次	備考
教職に関する科目	教職概論A	2	必修	1年次以上	春期 A 経済学科・ヒューマンエコノミー学科・心理学科・アジア学科
	教職概論B				同 B 経営学科・マーケティング学科・社会学科・英語コミュニケーション学科
	教育原論A	2	必修	同	春期 一つ選択
	教育原論B				同
	教育史	2	選択	2年次以上	春期
	教育心理学A	2	必修	同	秋期 一つ選択 ただし、Aクラスは心理・社会学科のみ
	教育心理学B				春期
	障害児教育論1	2	選択	同	春期
	障害児教育論2	2	選択	同	秋期
	教育行政学A	2	必修	1年次以上	秋期 一つ選択
	教育行政学B				同
	比較教育学	2	選択	2年次以上	春期
	教育法学	2	選択	同	春期
	教育課程論	2	必修	同	春期
	社会科教育論1（地理歴史分野）	2	選択必修	同	春期 中学校社会科免許の取得を希望する者は、1・2とも履修すること
	社会科教育論2（公民分野）	2	選択必修	同	春期
	社会科・地理歴史科教育論	2	選択必修	同	秋期 高校地理歴史科免許の取得を希望する者は、社会科教育論1と併せて2科目履修すること
	社会科・公民科教育論	2	選択必修	同	秋期 高校公民科免許の取得を希望する者は、社会科教育論2と併せて2科目履修すること
	商業科教育論1	2	選択必修	同	春期 1・2とも履修すること ただし商業科免許の取得を希望する者のみ
	商業科教育論2	2	選択必修	同	秋期
	情報科教育論1	2	選択必修	同	春期 1・2とも履修すること ただし情報科免許の取得を希望する者のみ
	情報科教育論2	2	選択必修	同	秋期
	英語科教育論1	2	選択必修	同	春期 1・2とも履修すること ただし英語科免許の取得を希望する者のみ
	英語科教育論2	2	選択必修	同	秋期
	英語科教育研究1	2	選択必修	3年次以上	春期 1・2とも履修すること ただし英語科免許の取得を希望する者のみ
	英語科教育研究2	2	選択必修	同	秋期
	中国語科教育論1	2	選択必修	2年次以上	春期 1・2とも履修すること ただし中国語科免許の取得を希望する者のみ
	中国語科教育論2	2	選択必修	同	秋期
	中国語科教育研究1	2	選択必修	3年次以上	春期 1・2とも履修すること ただし中国語科免許の取得を希望する者のみ
	中国語科教育研究2	2	選択必修	同	秋期
	国語科教育論1	2	選択必修	2年次以上	春期 1・2とも履修すること ただし国語科免許の取得を希望する者のみ
	国語科教育論2	2	選択必修	同	秋期
	国語科教育研究1	2	選択必修	3年次以上	春期 1・2とも履修すること ただし国語科免許の取得を希望する者のみ
	国語科教育研究2	2	選択必修	同	秋期

免許法別表第一に規定する科目	授業科目	単位	履修区分	配当年次	備考
教職に関する科目	道徳教育論A	2	中一種免のみ必修	2年次以上	秋期 一つ選択 ただし高免のみの場合は不要（履修した場合は、教科又は教職に関する科目として認める）
	道徳教育論B			同	秋期
	特別活動論A	2	必修	同	春期 一つ選択
	特別活動論B				春期
	教育方法学A	2	必修	1年次以上	秋期 一つ選択
	教育方法学B				秋期
	生徒指導論A	2	必修	2年次以上	春期 一つ選択
	生徒指導論B				春期
	教育相談	2	必修	同	秋期
	教育実習1	2	必修	4年次	集中
	教育実習2	2	中一種免のみ必修	同	集中
	教育実習事前・事後指導A	2	必修	同	春期 社会、地理歴史および公民で教育実習を希望する者のみ
	教育実習事前・事後指導B				春期
	教育実習事前・事後指導C				春期
	教育実習事前・事後指導D				春期 英語で教育実習を希望する者のみ
	教育実習事前・事後指導E				春期 商業または情報で教育実習を希望する者のみ
	教育実習事前・事後指導F				春期 中国語で教育実習を希望する者のみ
	教職実践演習（中・高）	2	必修	同	不開講
教科又は教職に関する科目	介護等体験	2	中一種免のみ必修	3年次以上	通年 高免のみの場合は不要
	教職教養演習1	2		同	不開講
	教職教養演習2	2		同	不開講
	社会問題論	2		2年次以上	春期
	社会教育概論1	2		同	春期
	社会教育概論2	2		同	秋期

▶ 学芸員資格取得のための科目

履修区分	授業科目	単位	配当年次	備考
必修科目	博物館学1	2	1年次以上	春期　ただし社会教育主事の資格取得の場合に限り、4年次での履修を認める
	博物館学2	2	同	秋期
	博物館学3	2	2年次以上	春期
	教育原論A	2	1年次以上	春期　一つ選択　4単位以上選択
	教育原論B			同
	教育行政学A	2	同	秋期　一つ選択
	教育行政学B			同
	教育方法学A	2	同	秋期　一つ選択
	教育方法学B			同
	社会教育概論1	2	2年次以上	春期
	社会教育概論2	2	同	秋期
	視聴覚教育論	2	同	秋期
	博物館実習	3	3年次以上	春期＋集中　「博物館学1・2・3」を修得した者のみ
選択科目	西洋史概説1	2	2年次以上	春期　一つ選択　2分野以上※ 8単位以上を選択。
	西洋史概説2	2	同	秋期
	東洋史概説1	2	同	春期
	東洋史概説2	2	同	秋期
	日本史概説1	2	同	春期
	日本史概説2	2	同	秋期
	人文地理学概説1	2	同	春期
	人文地理学概説2	2	同	秋期
	地誌学1	2	同	春期
	地誌学2	2	同	秋期
	美学美術史1	2	同	春期
	美学美術史2	2	同	秋期
	考古学概説1	2	同	春期
	考古学概説2	2	同	秋期
	くらしと文化A	2	1年次以上	春期　一つ選択
	くらしと文化B		同	秋期
	文化人類学	2	3年次以上	春期
	生物行動学	2	2年次以上	秋期
	生涯教育心理学演習1	2	同	
	基礎生態学	2	3年次以上	春期
	生態・環境論	2	同	秋期
	生態学フィールドワーク1	2	同	春期
	生態学フィールドワーク2		同	秋期

※選択科目の分野については、P. 158 を参照。

▶ 社会教育主事資格取得のための科目

履修区分	授業科目	単位	配当年次	備考	
必修科目	社会教育概論1	2	2年次以上	春期	
	社会教育概論2	2	同	秋期	
	社会教育計画1	2	同	春期	
	社会教育計画2	2	同	秋期	
	社会計画課題研究1A	2	同	春期	一つ選択
	社会計画課題研究1B			春期	
	社会計画課題研究2A	2	同	秋期	一つ選択
	社会計画課題研究2B			秋期	
選択科目	比較教育学	2	2年次以上	春期	一つ選択
	社会問題論	2	同	春期	
	人権教育論	2	同	秋期	
	社会教育行政	2	同	秋期	
	博物館学1	2	1・2・3年次	春期	
	博物館学2	2	同	秋期	
	視聴覚教育論	2	2年次以上	秋期	
	職業指導論	2	同	春期	
	余暇とレクリエーションA	2	1年次以上	春期	一つ選択
	余暇とレクリエーションB			春期	
	余暇とレクリエーションC			秋期	
	余暇とレクリエーションD			秋期	
	教育原論A	2	同	春期	一つ選択
	教育原論B			同	
	教育心理学A	2	2年次以上	秋期	一つ選択 ただし、Aクラスは心理・社会学科のみ
	教育心理学B			春期	
	教育行政学A	2	1年次以上	秋期	一つ選択
	教育行政学B			秋期	
	教育方法学A	2	同	秋期	一つ選択
	教育方法学B			秋期	

6科目以上12単位以上選択

▶ レクリエーション・インストラクター資格取得のための科目

履修区分	授業科目	単位	配当年次	備考		
必修科目	余暇とレクリエーションA	2	1年次以上	春期	一つ選択	
	余暇とレクリエーションB	2	同	春期		
	余暇とレクリエーションC	2	同	秋期		
	余暇とレクリエーションD	2	同	秋期		
	レクリエーション実技	1	2年次以上	春期		
	レクリエーション実習	1	3年次以上	秋期	別に定める	
選択科目	余暇生活実習1	1	1年次以上	集中	1科目以上選択	ゴルフ
	余暇生活実習2	1	同	集中		キャンプ
	余暇生活実習3	1	同	集中		スキー

規程等

経済学部関連規程等　P. 170
経営学部関連規程等　P. 180
心理学部関連規程等　P. 191
社会学部関連規程等　P. 195
国際教養学部関連規程等　P. 199
学科共通履修細則　P. 207

経済学部関連規程等

追手門学院大学経済学部規程

昭和41年4月1日
制定

（総則）
第1条　追手門学院大学学則（以下「学則」という。）に基づいて、追手門学院大学経済学部規程を次のように定める。

（学部・学科の目的）
第2条　経済学部に、経済学科とヒューマンエコノミー学科を置く。
経済学科では、経済学の理論、政策、歴史の各領域に係る幅広い学識の涵養を図り、経済分析力と問題解決能力を有する人材を育成することを目的とする。
ヒューマンエコノミー学科では、経済学とそれに関連する生活経済、環境経済、比較経済社会の各領域に係る幅広い学識の涵養を図り、経済分析力と構想力を有する人材を育成することを目的とする。

（定員）
第3条　本学部の各学科の学生定員は、次のとおりとする。

学科	入学定員	編入学定員	収容定員
経済学科	200名	5名	810名
ヒューマンエコノミー学科	140名	5名	570名
計	340名	10名	1,380名

（学年及び学期）
第4条　学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。
2　学年を分けて2学期とする。
春学期4月1日から9月20日まで
秋学期9月21日から翌年3月31日まで

（休業日）
第5条　休業日は、次のとおりとする。
（1）　日曜日
（2）　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
（3）　学院創立記念日（5月29日）
（4）　本学が定めた夏期、冬期及び春期休業日
2　前項第4号の休業期間は、本学学年暦による。
3　学長は、休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

（授業科目及び履修方法）
第6条　授業科目は、共通科目、学科科目及び資格取得に関する科目に分ける。共通科目は、新入生演習、基本科目、外国語科目、体育科目及び総合科目に区分する。
2　前項とは別に副専攻科目を設ける。副専攻科目については、別に定める。

第7条　授業科目ごとの卒業に必要な単位数及び1年次全員履修科目は、次のとおりとする。
経済学科
①　新入生演習及びキャリアデザイン論は、1年次に全員履修しなければならない。
②　基本科目は、12単位以上を修得しなければならない。
③　外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語のうち、いずれか1の外国語8単位以上を修得しなければならない。
なお、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、外国語科目として日本語8単位を修得しなければならない。
④　体育科目は、2単位以上を修得しなければならない。
⑤　学科科目は、76単位以上を修得しなければならない。
⑥　卒業に必要な単位は、本規程に基づいて124単位以上を修得しなければならない。
ヒューマンエコノミー学科
①　新入生演習及びキャリアデザイン論は、1年次に全員履修しなければならない。
②　基本科目は、12単位以上を修得しなければならない。
③　外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語のうち、いずれか1の外国語8単位以上を修得しなければならない。
なお、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、外国語科目として日本語8単位を修得しなければならない。
④　体育科目は、2単位以上を修得しなければならない。
⑤　学科科目は、76単位以上を修得しなければならない。
⑥　卒業に必要な単位は、本規程に基づいて124単位以上を修得しなければならない。

第8条　授業科目は、必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

第9条　本学部における授業科目及びその単位数は、別表Ⅰのとおりとする。

第10条　本学部における授業科目の履修については、次のとおりとする。
経済学科

履修区分	授業科目	分野	卒業に必要な単位数		
必修	学科科目	経済学	16単位	76単位以上	124単位以上
選択・A	学科科目	経済理論・経済史	28単位以上		
		経済政策			
		数理・情報			
選択・B	学科科目	経済理論・経済史	選択のA・Bを合わせて60単位以上		
		経済政策			
		数理・情報			
		特殊講義			
		法学			
		経営学			
全履		新入生演習	全員履修科目（卒業に必要な単位として認める）		
選択・C	基本科目		12単位以上 「キャリアデザイン論」は1年次に全員履修とする		
	外国語科目	英語	いずれか1の外国語8単位以上 日本語は外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者に適用		
		ドイツ語			
		フランス語			
		中国語			
		日本語			
	体育科目	講義	2単位以上		
		実技			
	総合科目	追大UI科目	卒業に必要な単位として認める		
		追大プロジェクト科目	最大8単位までを卒業に必要な単位として認める		
		国際交流科目	最大4単位までを卒業に必要な単位として認める		
		別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は最大4単位まで卒業に必要な単位として認める			
		大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位は最大4単位まで卒業に必要な単位として認める			

授業科目	分野	必要な単位数
副専攻科目	履修可能な副専攻については別に定める	20単位までを卒業に必要な単位として認める

①　必修の学科科目は、経済学分野の（経済原論Ⅰ・経済学基礎演習1・経済学基礎演習2・演習Ⅰ―1・演習Ⅰ―2・演習Ⅱ―1・演習Ⅱ―2）16単位を指定年次に修得すること。
②　選択Aの学科科目は、経済理論・経済史、経済政策及び数理・情報分野から、28単位以上を修得すること。
③　選択A及び選択Bの学科科目は、経済理論・経済史、経済政策、数理・情報、特殊講義、法学及び経営学の分野から、合計60単位以上を修得すること。
④　上記の必修、選択A及び選択Bの学科科目は、合計76単位以上修得すること。
⑤　全履の新入生演習は、1年次に全員履修すること。
⑥　選択Cの基本科目は、12単位以上を修得すること。
また、キャリアデザイン論は、1年次に全員履修すること。
なお、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者の履修については別に定める。
⑦　選択Cの外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語のうち、いずれか1の外国語8単位以上を第1年次及び第2年次に修得すること。
なお、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、外国語科目として日本語8単位を修得しなければならない。
⑧　選択Cの体育科目は、2単位以上を修得すること。
⑨　選択Cの総合科目のうち、追大UI科目については全てを、追大プロジェクト科目については最大8単位まで、国際交流科目については最大4単位まで、卒業に必要な単位として認める。また、別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は最大4単位まで卒業に必要な単位として認める。大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位については最大4単位まで、卒業に必要な単位として認める。
⑩　副専攻科目は、修了要件単位を20単位とし、最大20単位を卒業に必要な単位として認める。
⑪　卒業に必要な単位数は、124単位以上とする。

ヒューマンエコノミー学科

<table>
<tr><th>履修区分</th><th>授業科目</th><th>分野</th><th colspan="2">卒業に必要な単位数</th><th></th></tr>
<tr><td>必修</td><td>学科科目</td><td>経済学</td><td colspan="2">16 単位</td><td rowspan="11">124 単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">選択・A</td><td rowspan="4">学科科目</td><td>経済理論・経済史</td><td rowspan="4">28 単位以上</td><td rowspan="8">76 単位以上</td></tr>
<tr><td>経済政策</td></tr>
<tr><td>数理・情報</td></tr>
<tr><td>法学</td></tr>
<tr><td rowspan="6">選択・B</td><td rowspan="6">学科科目</td><td>経済理論・経済史</td><td rowspan="6">選択の A・B を合わせて 60 単位以上</td></tr>
<tr><td>経済政策</td></tr>
<tr><td>数理・情報</td></tr>
<tr><td>特殊講義</td></tr>
<tr><td>法学</td></tr>
<tr><td>経営学</td></tr>
<tr><td>全履</td><td></td><td>新入生演習</td><td colspan="2">全員履修科目 (卒業に必要な単位として認める)</td></tr>
<tr><td rowspan="10">選択・C</td><td>基本科目</td><td></td><td colspan="2">12 単位以上
「キャリアデザイン論」は 1 年次に全員履修とする</td></tr>
<tr><td rowspan="5">外国語科目</td><td>英語</td><td colspan="2" rowspan="5">いずれか 1 の外国語 8 単位以上
日本語は外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者に適用</td></tr>
<tr><td>ドイツ語</td></tr>
<tr><td>フランス語</td></tr>
<tr><td>中国語</td></tr>
<tr><td>日本語</td></tr>
<tr><td rowspan="2">体育科目</td><td>講義</td><td colspan="2" rowspan="2">2 単位以上</td></tr>
<tr><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="4">総合科目</td><td>追大 UI 科目</td><td colspan="2">卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td>追大プロジェクト科目</td><td colspan="2">最大 8 単位までを卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td>国際交流科目</td><td colspan="2">最大 4 単位までを卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td colspan="3">別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める</td></tr>
<tr><td colspan="3">大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める</td></tr>
</table>

授業科目	分野	必要な単位数
副専攻科目	履修可能な副専攻については別に定める	20 単位までを卒業に必要な単位として認める

① 必修の学科科目は、経済学分野の (経済原論Ⅰ・経済学基礎演習 1・経済学基礎演習 2・演習Ⅰ—1・演習Ⅰ—2・演習Ⅱ—1・演習Ⅱ—2)16 単位を指定年次に修得すること。
② 選択 A の学科科目は、経済理論･経済史、経済政策、数理･情報及び法学分野から、28 単位以上を修得すること。
③ 選択 A 及び選択 B の学科科目は、経済理論・経済史、経済政策、数理・情報、特殊講義、法学及び経営学の分野から、合計 60 単位以上を修得すること。
④ 上記の必修、選択 A 及び選択 B の学科科目は、合計 76 単位以上修得すること。
⑤ 全履の新入生演習は、1 年次に全員履修すること。
⑥ 選択 C の基本科目は、12 単位以上を修得すること。
また、キャリアデザイン論は、1 年次に全員履修すること。
なお、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者の履修については別に定める。
⑦ 選択 C の外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語のうち、いずれか 1 の外国語 8 単位以上を第 1 年次及び第 2 年次に修得すること。
なお、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、外国語科目として日本語 8 単位を修得しなければならない。
⑧ 選択 C の体育科目は、2 単位以上を修得すること。
⑨ 選択 C の総合科目のうち、追大 UI 科目については全てを、追大プロジェクト科目については最大 8 単位まで、国際交流科目については最大 4 単位まで、卒業に必要な単位として認める。また、別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める。大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位については最大 4 単位まで、卒業に必要な単位として認める。
⑩ 副専攻科目は、修了要件単位を 20 単位とし、最大 20 単位を卒業に必要な単位として認める。
⑪ 卒業に必要な単位数は、124 単位以上とする。

第 11 条　第 1 年次及び第 2 年次において履修すべき授業科目の単位を修得しない者に関しては、別に定める。

（教職課程）
第 12 条　卒業後、中学校又は高等学校の教員免許状の授与を受けようとする者のために教職課程を置く。
2　教職課程の履修方法は、別に定める。

(学芸員の資格)
第 13 条　卒業後、学芸員の資格を得ようとする者は、別に指定された科目を履修しなければならない。
2　履修方法は、別に定める。

(社会教育主事の資格)
第 14 条　卒業後、社会教育主事の資格を得ようとする者は、別に指定された科目を履修しなければならない。
2　履修方法は、別に定める。

(レクリエーション・インストラクターの資格)
第 15 条　卒業後、レクリエーション・インストラクターの資格を得ようとする者は、別に指定された科目を履修しなければならない。
2　履修方法は、別に定める。

第 16 条　その年度に開講する授業科目及びその単位数は、学年の始めに発表する。

(単位の計算)
第 17 条　授業科目の単位の計算については、次の基準による。
（1）　講義及び演習については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。
（2）　外国語については、30 時間の授業をもって 1 単位とする。
（3）　実験、実習及び実技については、30 時間の授業をもって 1 単位とする。

（1 年間の授業期間)
第 18 条　1 年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを原則とする。

(履修の制限)
第 19 条　各学期において履修できる単位数の制限は、別に定める。

(履修の届出)
第 20 条　学生は、その年度に履修を希望する科目を所定の期日までに届け出なければならない。
2　履修登録手続きをしない者は、当該科目の授業及び試験を受けることができない。

(科目修了の認定)
第 21 条　科目修了の認定は、試験によるほか、出席その他平素の成績を考慮して行う。
2　試験は、定期試験のほか随時に行うことがある。
3　成績評点は、以下のとおりとし、S、A、B、C を合格とする。

評価	点数
S	90 ～ 100
A	80 ～ 89
B	70 ～ 79
C	60 ～ 69
D	0 ～ 59
E	×

4　合格を得た科目に対しては、所定の単位を与える。

第 22 条　原則として各科目とも出席すべき授業時数の 3 分の 1 以上欠席した者は、科目修了の認定を受けることができない。

第 23 条　科目修了の認定を得た科目に対しては、再度履修しても単位を与えない。

(追試験)
第 24 条　病気その他やむを得ない事由によって定期試験を受験できなかった者に対しては、願い出によって追試験を行う。

(追試験の受験料)
第 25 条　追試験の受験者は、別に定める受験料を納めなければならない。

(卒業及び学位)
第 26 条　本大学に 4 年以上在学し、所定の課程を修めた者をもって、卒業したものとする。
2　本大学を卒業した者には、次のとおり学位を授与する。
経済学部
経済学科　学士 (経済学)
ヒューマンエコノミー学科　学士 (経済学)
2　春学期末において所定の卒業要件が充足された場合には、春学期末の卒業を認める。

(入学)
第 27 条　入学の時期は、毎学年の始めとする。

第 28 条　入学は、検定によって決定する。
2　入学検定の方法は、別に定める。

第 29 条　所定の期日までに定められた入学手続を履行しない者は、入学の許可を取り消す。

(編入学及び他大学からの転学)
第 30 条　本大学の第 3 年次へ編入学又は他大学から本大学に転学することのできる者は、次の各号の一に該当するものとし、選考の上、これを許可する。
（1）　大学を卒業した者又は学校教育法 (昭和 22 年法律第 26 号) 第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者
（2）　短期大学を卒業した者
（3）　高等専門学校を卒業した者
（4）　大学に 2 年以上在学し、所定の単位を修得した者
（5）　専修学校の専門課程 (修業年限が 2 年以上であること、その他文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。) を修了した者 (学校教育法第 90 条に規定する者に限る。)
（6）「共同教育プログラム実施ガイドライン」に定める課程を修了した者
2　前項により入学した者の既修得単位の認定に関する事項については、別に定める。

第 31 条　前条により編入学又は転学を許可された者は、学則第 5 条の規定にかかわらず修業年限は、2 年とし、在学年限は 4 年を超えることができない。

(休学)
第 32 条　病気その他やむを得ない理由で引き続き 6 か月以上修学できない場合は、保証人連署の上、休学願を学部長に提出し、その許可を得て休学することができる。ただし、病気の場合は、医師の診断書を添えなければならない。
2　休学の期間は、引き続き 2 年を超えることができない。
3　休学の期間は、通算して 3 年を超えることができない。
4　休学の期間は、在学年数に算入しない。

第 33 条　休学の理由が消滅し、復学しようとするときは、復学願を学部長に提出し、その承認を得なければならない。

第 34 条　休学中は、授業料その他の学費を減免する。
2　前項により減免する授業料その他の学費及びその額は、別にこれを定める。

（退学）
第 35 条　退学しようとする者は、その事由を具して保証人連署の上、学長に願い出で許可を受けなければならない。

第 36 条　前条により退学した者又は除籍された者が再入学を願い出たときは、退学又は除籍後 2 年以内に限り、選考の上、許可することがある。ただし、学則第 66 条第 1 号の規定により除籍された者は、再入学を許可しない。

（転学部・転学科）
第 37 条　在学中転学部・転学科は、原則として許可しない。ただし、特別の事情がある場合は、選考の上、第 2 年次又は第 3 年次の始めに限り、これを許可することがある。

（他大学への入学及び転学）
第 38 条　他の大学へ入学又は転学を志望するときは、学長の許可を受けなければならない。

（委託生）
第 39 条　学校、官庁その他公共団体等から特定の授業科目を指定して修学を委託されたときは、選考の上、委託生として入学を許可することがある。

（科目等履修生）
第 40 条　本大学の学生以外の者で、特定の授業科目を指定して履修を願い出る者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。
2　科目等履修生の履修科目は、当該年度 30 単位以内とする。

第 41 条　科目等履修生が、その履修した授業科目の試験を受け、合格した授業科目については、単位を与える。
2　科目等履修生に対しては、合格した授業科目につき願い出により、単位修得証明書を交付する。

（聴講生）
第 42 条　本大学の学生以外の者で、特定の授業科目を指定して聴講を願い出る者があるときは、選考の上、聴講生として入学を許可することがある。
2　聴講生の聴講科目は、当該年度 20 単位以内とする。

第 43 条　委託生及び聴講生に対しては、その履修した授業科目につき願い出により試験の上、証明書を交付する。ただし、単位は与えない。

（委託生、科目等履修生及び聴講生の入学資格）
第 44 条　委託生、科目等履修生及び聴講生の入学資格は、学則第 29 条の定めるところによる。

（研究生）
第 45 条　本学部において研究を希望する者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することがある。研究生はその研修修了時に研究報告書を提出しなければならない。なお、願い出により研究証明書を交付する。ただし、単位は与えない。

（外国人特別学生）
第 46 条　外国人で、学則第 29 条に定める資格を有する者が、学則第 30 条によらないで本邦所在の外国公館の推薦により出願するときは、選考の上、外国人特別学生として入学を許可することがある。

第 47 条　外国人特別学生で、学則第 5 章に規定する科目修了の認定を受け、所定の課程を修めた者には、学位を授与する。

第 48 条　委託生、科目等履修生、聴講生、研究生及び外国人特別学生に関する規則は、学則及びこの規程に定めるもののほか、別に定める。

（入学金、授業料等）
第 49 条　本大学に入学を許可された者は、入学金及び所定の学費を納付しなければならない。

第 50 条　学生は、授業料その他所定の学費を納付しなければならない。

第 51 条　委託生は研修指導費、科目等履修生は履修料、聴講生は聴講料、研究生は研究指導費を納付しなければならない。

第 52 条　入学金、授業料、実験実習費、研修指導費、履修料、聴講料、研究指導費の金額及び徴収については、別にこれを定める。

第 53 条　既納の入学金、授業料その他の学費、研修指導費、履修料、聴講料、審査料及び研究指導費は、いかなる事情があっても返付しない。

（教授会及び委員会）
第 54 条　本学部に教授会及び必要に応じ各種委員会を置く。
2　教授会及び各種委員会に関する規程は、別に定める。

（表彰）
第 55 条　学生で特に他の学生の模範とすべき行為のあったときは、表彰することがある。

（懲戒）
第 56 条　学生で本大学の規則若しくは命令に違背し、又は学生の本分に反する行為があったときは、その軽重に従ってこれを懲戒する。
2　懲戒は、戒告、停学及び退学とする。
3　前項の退学は、次の各号の一に該当する者について行う。
（1）　性行不良で改善の見込みがないと認められる者
（2）　本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

（退学）
第 57 条　学生で学力劣等にして成業の見込みがないと認められる者又は正当の理由がなく出席が常でない者は、教授会の議を経て、これを退学させる。

（除籍）
第 58 条　学生で次の各号の一に該当する者は、これを除籍する。
（1）　在学 8 年を超える者
（2）　休学期間が通算 3 年を超える者
（3）　疾病その他の事故により成業の見込みがないと認められる者
（4）　授業料その他学費を督促しても納付しない者

（その他）
第 59 条　学則及びこの規程に定めのない事項については、教授会がこれを定める。

附則
この規程は、昭和 41 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、昭和 43 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、昭和 46 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、昭和 47 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、昭和 48 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、昭和 49 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、昭和 50 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、昭和 52 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、昭和 53 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、昭和 54 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、昭和 55 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、昭和 56 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、昭和 57 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、昭和 58 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、昭和 60 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、昭和 61 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 2 条の規定にかかわらず昭和 61 年度から昭和 70 年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学科	入学定員
経済学科	300 名
経営学科	300 名
計	600 名

附則
この規程は、昭和 62 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、昭和 63 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、平成 2 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 2 条の規定にかかわらず平成 2 年度から平成 10 年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学科	入学定員	
	平成 2 年度～平成 7 年度	平成 8 年度～平成 10 年度
経済学科	350 名	300 名
経営学科	350 名	300 名
計	700 名	600 名

附則
この規程は、平成 3 年 12 月 13 日から施行する。

附則
この規程は、平成４年４月１日から施行する。

附則
この規程は、1993 年４月１日から施行する。

附則
この規程は、1994 年４月１日から施行する。

附則
この規程は、1995 年４月１日から施行する。ただし、第２条の規定にかかわらず 1995 年度から 1998 年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学科	入学定員	
	1995 年度	1996 年度～ 1998 年度
経済学科	350 名	300 名

附則
この規程は、1996 年４月１日から施行する。ただし、第２条の規定にかかわらず 1996 年度から 1999 年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学科	入学定員	
	1996 年度～ 1998 年度	1999 年度
経済学科	350 名	300 名

附則
この規程は、1998 年４月１日から施行する。ただし、第２条の規定にかかわらず 1998 年度から 1999 年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学科	入学定員	
	1998 年度	1999 年度
経済学科	230 名	200 名
国際経済学科	160 名	140 名

附則
この規程は、1999 年４月１日から施行する。ただし、第２条の規定にかかわらず、1999 年度の入学定員は次のとおりとする。

学科	入学定員
	1999 年度
経済学科	230 名
国際経済学科	160 名
計	390 名

附則
この規程は、2000 年４月１日から施行する。ただし、第２条の規定にかかわらず、2000 年度から 2003 年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学科	入学定員			
	2000 年度	2001 年度	2002 年度	2003 年度
経済学科	224 名	218 名	212 名	206 名
国際経済学科	156 名	152 名	148 名	144 名

附則
この規程は、2001 年４月１日から施行する。

附則
この規程は、2002 年４月１日から施行する。

附則
この規程は、2003 年４月１日から施行する。

附則
この規程は、2004 年４月１日から施行する。

附則
この規程は、2005 年４月１日から施行する。

附則
この規程は、2006 年４月１日から施行する。

附則
この規程は、2006 年４月１日から施行する。

附則
この規程は、2007 年４月１日から施行する。

附則
この規程は、2008 年４月１日から施行する。

附則
この規程は、2008 年４月１日から施行する。

附則
この規程は、2008 年４月１日から施行する。

附則
この規程は、2009 年４月１日から施行する。

附則
この規程は、2010 年４月１日から施行する。

別表Ⅰ（第９条関係）

1　共通科目
（1）　新入生演習

授業科目	単位数	配当年次	備考
	全員履修		
新入生演習	2	1	新入生は全員履修すること。

（2）　基本科目

分類	授業科目	単位数		配当年次	備考
		必修	選択		
言語と文化	日本語の諸相１		2	1	12 単位以上を修得すること。
	日本語の諸相２		2	1	
	アジアの諸文化１		2	1	
	アジアの諸文化２		2	1	
	アジアの社会１		2	1	
	アジアの社会２		2	1	
	アジアと国際社会１		2	1	
	アジアと国際社会２		2	1	
	英米の文化・文学１		2	1	
	英米の文化・文学２		2	1	
	比較文化概論１		2	1	
	比較文化概論２		2	1	
	言語の科学１		2	1	
	言語の科学２		2	1	
	比較思想概論１		2	1	
	比較思想概論２		2	1	
	異文化交流の歴史		2	1	
	異文化交流とコミュニケーション		2	1	
	ヨーロッパの文学１		2	1	
	ヨーロッパの文学２		2	1	
	ヨーロッパの思想１		2	1	
	ヨーロッパの思想２		2	1	
	ことばと文化（ドイツ語）		2	1	
	ことばと文化（フランス語）		2	1	
	くらしと文化		2	1	
生活と社会	入門経済学１		2	1	
	入門経済学２		2	1	
	日本国憲法		2	1	
	市民生活と法１		2	1	
	市民生活と法２		2	1	
	家族と法１		2	1	
	家族と法２		2	1	
	近代日本社会と世界１		2	1	
	近代日本社会と世界２		2	1	
	市民社会と政治１		2	1	
	市民社会と政治２		2	1	
	生活と地理１		2	1	
	生活と地理２		2	1	
	社会学の考え方		2	1	
	福祉の諸問題		2	1	
	メディア論		2	1	
	現代社会と倫理		2	1	
	現代社会の諸問題		2	1	
	現代社会の人間関係		2	1	
	現代社会と人権１		2	1	
	現代社会と人権２		2	1	
	共生社会と人間		2	1	
	社会調査入門１		2	1	
	社会調査入門２		2	1	
	余暇とレクリエーション		2	1	
	女性学		2	1	
	心の科学		2	1	
	人間関係の心理学		2	1	
	人間性の形成		2	1	
	現代の子どもと教育１		2	1	
	現代の子どもと教育２		2	1	
	キャリアデザイン論		2	1	
	ファイナンス入門		2	1	
	オーストラリアと国際社会１		2	1	
	オーストラリアと国際社会２		2	1	
自然と数理	生物の科学		2	1	
	生物の進化		2	1	
	生物の多様性		2	1	
	入門物理学１		2	1	
	入門物理学２		2	1	
	入門化学１		2	1	
	入門化学２		2	1	
	入門数学１		2	1	
	入門数学２		2	1	
	入門統計学１		2	1	
	入門統計学２		2	1	
	入門コンピュータ１		2	1	
	入門コンピュータ２		2	1	

分類	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	備考
自然と数理	組織と情報 1		2	1	
	組織と情報 2		2	1	
	科学技術史 1		2	1	
	科学技術史 2		2	1	
日本事情	日本事情 1		2	1	外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者に適用する。
	日本事情 2		2	1	
	日本事情 3		2	1	
	日本事情 4		2	1	

（3） 外国語科目

分類	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	備考
英語	英語講読 1		1	1	英語、ドイツ語、フランス語及び中国語の中から、いずれか 1 の外国語を 8 単位以上修得すること。
	英語講読 2		1	1	
	英語 L.L.1		1	1	
	英語 L.L.2		1	1	
	英会話 1		1	1	
	英会話 2		1	1	
	英語講読 3		1	2	
	英語講読 4		1	2	
	英語 L.L.3		1	2	
	英語 L.L.4		1	2	
	英会話 3		1	2	
	英会話 4		1	2	
	英会話 5		1	3	
	英会話 6		1	3	
	検定英語 1		1	1	
	検定英語 2		1	1	
	検定英語 3		1	1	
	検定英語 4		1	1	
ドイツ語	ドイツ語読解入門		1	1	
	ドイツ語読解初級		1	1	
	ドイツ語表現入門		1	1	
	ドイツ語表現初級		1	1	
	ドイツ語読解中級 1		1	2	
	ドイツ語読解中級 2		1	2	
	ドイツ語表現中級 1		1	2	
	ドイツ語表現中級 2		1	2	
	ドイツ語読解上級 1		1	3	
	ドイツ語読解上級 2		1	3	
	ドイツ語表現上級 1		1	3	
	ドイツ語表現上級 2		1	3	
	ドイツ語読解演習 1		1	3	
	ドイツ語読解演習 2		1	3	
	ドイツ語表現演習 1		1	3	
	ドイツ語表現演習 2		1	3	
フランス語	フランス語読解入門		1	1	
	フランス語読解初級		1	1	
	フランス語表現入門		1	1	
	フランス語表現初級		1	1	
	フランス語読解中級 1		1	2	
	フランス語読解中級 2		1	2	
	フランス語表現中級 1		1	2	
	フランス語表現中級 2		1	2	
	フランス語読解上級 1		1	3	
	フランス語読解上級 2		1	3	
	フランス語表現上級 1		1	3	
	フランス語表現上級 2		1	3	
	フランス語読解演習 1		1	3	
	フランス語読解演習 2		1	3	
	フランス語表現演習 1		1	3	
	フランス語表現演習 2		1	3	
中国語	中国語講読入門 1		1	1	
	中国語講読入門 2		1	1	
	中国語講読基礎 1		1	1	
	中国語講読基礎 2		1	1	
	中国語講読基礎 3		1	1	
	中国語講読基礎 4		1	1	
	中国語会話入門 1		1	1	
	中国語会話入門 2		1	1	
	中国語会話基礎 1		1	1	
	中国語会話基礎 2		1	1	
	中国語講読中級 1		1	2	
	中国語講読中級 2		1	2	
	中国語講読中級 3		1	2	
	中国語講読中級 4		1	2	
	中国語会話中級 1		1	2	
	中国語会話中級 2		1	2	
	中国語会話中級 3		1	2	
	中国語会話中級 4		1	2	

分類	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	備考
日本語	日本語読解中級 1		1	1	外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者に適用する。
	日本語読解中級 2		1	1	
	日本語聴解中級 1		1	1	
	日本語聴解中級 2		1	1	
	日本語読解上級 1		1	2	
	日本語読解上級 2		1	2	
	日本語聴解上級 1		1	2	
	日本語聴解上級 2		1	2	

（4） 体育科目

		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	備考
健康科学群	実技	基礎体育 1		1	1	講義及び実技から 2 単位以上を修得すること。
		基礎体育 2		1	1	
	講義	体育概論		2	1	
スポーツ科学群	実技	応用体育 1		1	1	
		応用体育 2		1	1	
		応用体育 3		1	1	
	講義	スポーツ概論		2	1	
ネイチャーアクティビティ	実技	余暇生活実習 1		1	1	
		余暇生活実習 2		1	1	
		余暇生活実習 3		1	1	

（5） 総合科目

分類	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	備考
追大 UI 科目	学び論		2	1	
	北摂を学ぶ		2	1	
追大プロジェクト科目	インターンシップ 1		2	3	最大 8 単位まで卒業に必要な単位として認める。
	インターンシップ 2		2	3	
	経営力インターンシップ 1		2	3	
	経営力インターンシップ 2		2	3	
	キャリア形成論 1		2	2	
	キャリア形成論 2		2	2	
	社会人の基礎		2	1	
	ボランティア論		2	1	
	オーストラリアを学ぶ 1		2	1	
	オーストラリアを学ぶ 2		2	1	
国際交流科目	交換留学インド		4	1	最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める。
	交換留学オーストラリア		4	1	
	交換留学アメリカ		4	1	
	交換留学中国		4	1	
	交換留学タイ		4	1	
	交換留学イギリス		4	1	
	交換留学韓国		4	1	
	交換留学オランダ		4	1	
	交換留学ドイツ		4	1	
	海外セミナー		4	1	
	短期海外セミナー		2	1	
	国際現地研修		4	2	
別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める。					
大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める。					

2 学科科目

（1） 経済学科

必修	16 単位
選択 A	28 単位以上
選択 B	選択 A 及び選択 B 合わせて 60 単位以上
卒業必要単位数	76 単位以上

履修区分	分野	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	備考
必修	経済学	経済原論Ⅰ	4		1	16 単位
		経済学基礎演習 1	2		2	
		経済学基礎演習 2	2		2	
		演習Ⅰ—1	2		3	
		演習Ⅰ—2	2		3	
		演習Ⅱ—1	2		4	
		演習Ⅱ—2	2		4	
選択 A	経済理論・経済史	経済史 1		2	1	28 単位以上
		経済史 2		2	1	
		経済原論Ⅱ		4	2	
		国際経済学		4	2	
		国際マクロ経済学 1		2	2	
		国際マクロ経済学 2		2	2	
		外書講読 1		2	2	
		外書講読 2		2	2	
		ミクロ経済学		4	3	

履修区分	分野	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	備考
選択 A	経済理論・経済史	マクロ経済学 1		2	3	28 単位以上
		マクロ経済学 2		2	3	
		計量経済学 1		2	3	
		計量経済学 2		2	3	
		経済変動論 1		2	3	
		経済変動論 2		2	3	
	経済政策	経済政策		4	2	
		日本経済論 1		2	2	
		日本経済論 2		2	2	
		比較公共政策 1		2	2	
		比較公共政策 2		2	2	
		財政学 1		2	2	
		財政学 2		2	2	
		公共経済学		4	2	
		金融論		4	2	
		国際貿易論		4	2	
		産業社会関係論 1		2	2	
		産業社会関係論 2		2	2	
		産業組織論 1		2	3	
		産業組織論 2		2	3	
		経済体制論 1		2	3	
		経済体制論 2		2	3	
		地方財政論		4	3	
		国際金融論 1		2	3	
		国際金融論 2		2	3	
		労働経済学 1		2	3	
		労働経済学 2		2	3	
		社会保障		4	3	
	数理・情報	経済数学 1		2	1	
		経済数学 2		2	1	
		経済シミュレーション		2	2	
		統計学総論 1		2	2	
		統計学総論 2		2	2	
		ソフトウェア論		4	2	
選択 B	経済理論・経済史	社会思想史		4	1	選択 A 及び選択 B 合わせて 60 単位以上
		経済学史 1		2	2	
		経済学史 2		2	2	
		日本経済史 1		2	2	
		日本経済史 2		2	2	
		外国経済史 1		2	2	
		外国経済史 2		2	2	
	経済政策	租税論		4	1	
		地域と暮らし 1		2	1	
		地域と暮らし 2		2	1	
		オーストラリア経済論		4	2	
		アメリカ経済論 1		2	2	
		アメリカ経済論 2		2	2	
		ヨーロッパ経済論 1		2	2	
		ヨーロッパ経済論 2		2	2	
		アジア経済論 1		2	2	
		アジア経済論 2		2	2	
		貿易政策 1		2	2	
		貿易政策 2		2	2	
		オーストラリア産業論 1		2	2	
		オーストラリア産業論 2		2	2	
		食料経済論 1		2	2	
		食料経済論 2		2	2	
		環境経済学 1		2	2	
		環境経済学 2		2	2	
		国際経済政策 1		2	2	
		国際経済政策 2		2	2	
		経済地理 1		2	3	
		経済地理 2		2	3	
		開発経済学 1		2	3	
		開発経済学 2		2	3	
		地球環境論 1		2	3	
		地球環境論 2		2	3	
		国際労働経済論 1		2	3	
		国際労働経済論 2		2	3	
		福祉社会論 1		2	3	
		福祉社会論 2		2	3	
	数理・情報	データ分析ソフトウェア		2	2	
		経済データ分析		2	2	
		数理統計学		4	3	
		経済統計学 1		2	3	
		経済統計学 2		2	3	
		ファイナンス論 1		2	3	
		ファイナンス論 2		2	3	
		オペレーションズ・リサーチ 1		2	3	
		オペレーションズ・リサーチ 2		2	3	
		意思決定論 1		2	3	
		意思決定論 2		2	3	
		経営情報論 1		2	3	
		経営情報論 2		2	3	

履修区分	分野	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	備考
選択 B	特殊講義	経済学特殊講義 1		2	2	選択 A 及び選択 B 合わせて 60 単位以上
		経済学特殊講義 2		2	2	
		経済学特殊講義 3		2	2	
		経済学特殊講義 4		2	2	
		経済学特殊講義 5		2	2	
		経済学特殊講義 6		2	2	
	法学	民法 (総則)		2	2	
		民法 (物権法)		2	2	
		商法 (総則・商行為)		2	2	
		会社法 1		2	2	
		市場競争法		2	2	
		行政法 1		2	2	
		行政法 2		2	2	
		税法 1		2	3	
		税法 2		2	3	
		労働法 1		2	3	
		労働法 2		2	3	
		社会保障法		2	3	
	経営学	入門簿記		2	1	
		初級簿記		2	1	
		ビジネス英語 1		2	2	
		ビジネス英語 2		2	2	
		国際ビジネスコミュニケーション 1		2	2	
		国際ビジネスコミュニケーション 2		2	2	
		中国語ビジネスコミュニケーション 1		2	2	
		中国語ビジネスコミュニケーション 2		2	2	
		経営学概論 1		2	2	
		経営学概論 2		2	2	
		企業論 1		2	2	
		企業論 2		2	2	
		マーケティング論 1		2	2	
		マーケティング論 2		2	2	
		会計学原理 1		2	2	
		会計学原理 2		2	2	
		ERP ビジネスプロセス 1		2	3	
		ERP ビジネスプロセス2		2	3	
		ERP ビジネスプロセス演習 1		2	3	
		ERP ビジネスプロセス演習 2		2	3	
		貿易実務 1		2	3	
		貿易実務 2		2	3	
		国際取引論 1		2	3	
		国際取引論 2		2	3	
		貿易経営実務 1		2	3	
		貿易経営実務 2		2	3	
		国際経営論 1		2	3	
		国際経営論 2		2	3	

(2) ヒューマンエコノミー学科

必修	16 単位
選択 A	28 単位以上
選択 B	選択 A 及び選択 B 合わせて 60 単位以上
卒業必要単位数	76 単位以上

履修区分	分野	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	備考
必修	経済学	経済原論 I	4		1	16 単位
		経済学基礎演習 1	2		2	
		経済学基礎演習 2	2		2	
		演習 I —1	2		3	
		演習 I —2	2		3	
		演習 II —1	2		4	
		演習 II —2	2		4	
選択 A	経済理論・経済史	経済史 1		2	1	28 単位以上
		経済史 2		2	1	
		社会思想史		4	1	
		経済原論 II		4	2	
		国際経済学 1		2	2	
		国際経済学 2		2	2	
		日本経済史 1		2	2	
		日本経済史 2		2	2	
		外国経済史 1		2	2	
		外国経済史 2		2	2	
		国際マクロ経済学 1		2	2	
		国際マクロ経済学 2		2	2	
		外書講読 1		2	2	
		外書講読 2		2	2	
		ミクロ経済学		4	3	
		マクロ経済学 1		2	3	
		マクロ経済学 2		2	3	
		経済変動論 1		2	3	
		経済変動論 2		2	3	

履修区分	分野	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	備考
選択 A	経済政策	ヒューマンエコノミー概論 1		2	1	28 単位以上
		ヒューマンエコノミー概論 2		2	1	
		経済政策		4	2	
		日本経済論 1		2	2	
		日本経済論 2		2	2	
		財政学 1		2	2	
		財政学 2		2	2	
		産業社会関係論 1		2	2	
		産業社会関係論 2		2	2	
		金融論		4	2	
		公共経済学		4	2	
		食料経済論 1		2	2	
		食料経済論 2		2	2	
		比較公共政策 1		2	2	
		比較公共政策 2		2	2	
		環境経済学 1		2	2	
		環境経済学 2		2	2	
		社会保障		4	3	
		地方財政論		4	3	
		労働経済学 1		2	3	
		労働経済学 2		2	3	
		地球環境論 1		2	3	
		地球環境論 2		2	3	
		産業組織論 1		2	3	
		産業組織論 2		2	3	
		福祉社会論 1		2	3	
		福祉社会論 2		2	3	
	数理・情報	経済情報処理		4	2	
		経済シミュレーション		2	2	
		統計学総論 1		2	2	
		統計学総論 2		2	2	
		データ分析ソフトウェア		2	2	
		経済データ分析		2	2	
		ファイナンス論 1		2	3	
		ファイナンス論 2		2	3	
	法学	税法 1		2	3	
		税法 2		2	3	
		労働法 1		2	3	
		労働法 2		2	3	
選択 B	経済理論・経済史	経済学史 1		2	2	選択 A 及び選択 B 合わせて 60 単位以上
		経済学史 2		2	2	
		計量経済学 1		2	3	
		計量経済学 2		2	3	
	経済政策	租税論		4	1	
		地域と暮らし 1		2	1	
		地域と暮らし 2		2	1	
		貿易政策 1		2	2	
		貿易政策 2		2	2	
		オーストラリア経済論		4	2	
		アメリカ経済論 1		2	2	
		アメリカ経済論 2		2	2	
		ヨーロッパ経済論 1		2	2	
		ヨーロッパ経済論 2		2	2	
		アジア経済論 1		2	2	
		アジア経済論 2		2	2	
		オーストラリア産業論 1		2	2	
		オーストラリア産業論 2		2	2	
		国際貿易論		4	2	
		国際経済政策 1		2	2	
		国際経済政策 2		2	2	
		地域開発論 1		2	2	
		地域開発論 2		2	2	
		アジア論 1		2	2	
		アジア論 2		2	2	
		国際金融論 1		2	3	
		国際金融論 2		2	3	
		開発経済学 1		2	3	
		開発経済学 2		2	3	
		経済体制論 1		2	3	
		経済体制論 2		2	3	
		経済地理 1		2	3	
		経済地理 2		2	3	
		国際労働経済論 1		2	3	
		国際労働経済論 2		2	3	
	数理・情報	経済数学 1		2	1	
		経済数学 2		2	1	
		ソフトウェア論		4	2	
		経済統計学 1		2	3	
		経済統計学 2		2	3	
		オペレーションズ・リサーチ 1		2	3	
		オペレーションズ・リサーチ 2		2	3	
		意思決定論 1		2	3	
		意思決定論 2		2	3	
		経営情報論 1		2	3	
		経営情報論 2		2	3	

履修区分	分野	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	備考
選択 B	特殊講義	経済学特殊講義 1		2	2	選択 A 及び選択 B 合わせて 60 単位以上
		経済学特殊講義 2		2	2	
		経済学特殊講義 3		2	2	
		経済学特殊講義 4		2	2	
		経済学特殊講義 5		2	2	
		経済学特殊講義 6		2	2	
	法学	民法 (総則)		2	2	
		民法 (物権法)		2	2	
		商法 (総則・商行為)		2	2	
		会社法 1		2	2	
		市場競争法		2	2	
		行政法 1		2	2	
		行政法 2		2	2	
		社会保障法		2	3	
	経営学	入門簿記		2	1	
		初級簿記		2	1	
		国際ビジネスコミュニケーション 1		2	2	
		国際ビジネスコミュニケーション 2		2	2	
		中国語ビジネスコミュニケーション 1		2	2	
		中国語ビジネスコミュニケーション 2		2	2	
		経営学概論 1		2	2	
		経営学概論 2		2	2	
		企業論 1		2	2	
		企業論 2		2	2	
		マーケティング論 1		2	2	
		マーケティング論 2		2	2	
		会計学原理 1		2	2	
		会計学原理 2		2	2	
		ERP ビジネスプロセス 1		2	3	
		ERP ビジネスプロセス 2		2	3	
		ERP ビジネスプロセス演習 1		2	3	
		ERP ビジネスプロセス演習 2		2	3	

（3） 副専攻

副専攻科目については、別に定める。

経済学科履修細則

2011 年度入学生に適用

Ⅰ 一般的事項

履修関係諸規則

1　履修にあたって、各自が主体的に決定し、所定の履修登録をすること。
（1）　学則・経済学部規程・履修細則などを熟読すること。
（2）　カリキュラムの全体像を把握すること。
（3）　講義内容要旨を熟読して、主体的に学修計画を立てること。
（4）　時間割作成の手引きを基に履修科目を決めること。
（5）　経済学部が定める通りに履修登録をすること。
（6）　オリエンテーションに必ず出席すること。

履修に関する諸規則

関係諸規則		概　　要
学　　則	第 10 条～第 14 条	授業科目・単位数・履修方法
経済学部規程	第 6 条～第 11 条	授業科目・履修方法
	第 16 条	開講する授業科目・単位数
	第 17 条	単位の計算
	第 19 条	履修の制限
	第 20 条	履修の届出
	第 21 条～第 23 条	科目修了の認定

教職課程に関する規程	教育職員免許法の定めにより、教諭免許を得ようとしている者を対象にしている。
博物館学芸員資格取得に関する履修規程	博物館法の定めにより、学芸員の資格を得ようとする者を対象にしている。
社会教育主事の資格取得に関する規程	社会教育法の定めにより、社会教育主事となる資格を得ようとする者を対象にしている。
レクリエーション・インストラクター	（財）日本レクリエーション協会の定めるところにより、レクリエーション・インストラクターとなる資格を得ようとする者を対象にしている。

教育課程と学修計画

2　経済学部のカリキュラムは、学修の指針になるように編成されている。
（1）　授業科目は、学科科目・新入生演習・基本科目・外国語科目・体育科目・総合科目から構成されている。
（2）　教育課程により、必修科目・選択科目・自由科目に区分されている。
（3）　授業科目は、履修指針になるよう基礎・基幹・展開として 4 年間に配分されている。
（4）　各自の学修計画にそって、定められた授業科目を履修すること。
（5）　必ず授業に出席し、科目修了の認定を受けて、単位を必ず修得すること。
（6）　社会への適応力を向上させるため、資格取得科目が設けられている。

演習の選択

3　経済学科では、第 3 年次に必修の演習Ⅰ-1・Ⅰ-2 を修得し、第 4 年次に継続して演習Ⅱ-1・Ⅱ-2 を履修すること。
（1）　演習（ゼミナール）の選択は、第 2 年次の秋学期に行う。
（2）　演習Ⅰ-1・Ⅰ-2 の履修資格を満たしていること。

演習Ⅰ-1・Ⅰ-2 の履修資格

4　経済学科では、第 1 年次及び第 2 年次に、次の授業科目の単位を合計 44 単位以上を修得していない者は、第 3 年次に必修の演習Ⅰ-1、Ⅰ-2 を履修できない。
（1）　学科科目のうち、必修の経済原論 1・経済学基礎演習 1・2 のいずれか 4 単位以上
（2）　学科科目の履修区分の選択 A の科目の中から、8 単位以上
（3）　外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語の中から 4 単位以上
なお、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、日本語 4 単位以上
（4）　上記（1）（2）（3）で修得した合計 16 単位のほかに、学科科目･新入生演習･基本科目・外国語科目・体育科目・総合科目の中から、合計 28 単位以上

演習Ⅱ-Ⅰ、Ⅱ-2 の履修資格

5　演習Ⅱ-1・Ⅱ-2 は、第 4 年次の配当とし、演習Ⅰ-1・Ⅰ-2 の単位を修得しなければ履修できない。

演習の履修について

6　演習Ⅰ-1 の単位を修得できなかった場合においても、演習Ⅰ-2 は履修可能である。演習Ⅱ-1・Ⅱ-2 についても同様とする。

7　履修単位制限

各学期において履修することができる単位数の上限は、次のとおりとする。

年　　次	1 年		2 年		3 年		4 年	
学　　期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
セメスター	第 1	第 2	第 3	第 4	第 5	第 6	第 7	第 8
制限単位数	25	25	25	25	25	25	30	30
編入学生					35	35	35	35

ただし、総合科目のうち、国際交流科目、別に定める放送大学の科目を修得した場合、別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合及び大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位数については、この制限を受けない。
また、資格取得に関する科目等のうち、卒業の要件とならない科目の単位数についても、制限を受けない。
なお、通年科目の単位数は春学期の制限単位数に含まれる。

履修登録の方法

8　履修登録は、次の手続きによるものとする。
（1）　既に単位を修得した授業科目は、再履修できない。
（2）　同一時限に同時に開講されている授業科目は、重複して履修することができない。
（3）　事前に履修許可（抽選登録）を必要とする授業科目は、所定の抽選登録を行い、その結果により履修登録をすること。
（4）　履修登録は、所定の方法に従って、所定の期日までに行うこと。
（5）　UNIVERSAL PASSPORT により、必ず登録内容の確認をすること。
（6）　所定の方法によらない履修内容の変更、追加は原則として認めない。
（7）　履修登録をしていない場合、その授業科目の授業及び試験は受けることができない。

Ⅱ 共通科目

新入生演習

1　経済学部規程第 9 条の別表Ⅰに掲げられている新入生演習は、1 年次に全員履修するものとする。修得した単位は、卒業に必要な単位として認める。

基本科目

1　履修及び単位の修得方法
経済学部規程第 9 条の別表Ⅰに掲げられている基本科目は、同第 10 条に定める履修方法にしたがって、12 単位以上を修得すること。
キャリアデザイン論は 1 年次に全員履修するものとする。

授業科目の区別

2　授業科目のうちで、A、B、C 等の区別があるものは、そのいずれか一つだけについて履修することができる。

クラス指定

3　年次または学科・組別等の指定がある場合は、それに従うこと。

外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者

4　外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、日本事情 1・2・3・4 を含めて 12 単位以上を修得すること。

外国語科目

履修及び単位の修得方法

1　経済学部規程第 9 条の別表Ⅰに掲げられている外国語科目は、同第 10 条に定める方法にしたがって、英語、ドイツ語、フランス語、中国語の中から、いずれか 1 の外国語 8 単位を原則として第 1 年次及び第 2 年次において修得すること。
なお、この 8 単位を超えて修得する外国語科目は、第 10 条に規定されている範囲で卒業に必要な単位として認める。

外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者

2　外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、日本語 8 単位を原則として第 1 年次及び第 2 年次において修得すること。
なお、この 8 単位を超えて修得する外国語科目は、第 10 条に規定されている範囲で卒業に必要な単位として認める。

再履修の方法

3　単位を修得できなかった外国語については、指定のクラスで再履修すること。

抽選登録

4　授業科目のうち事前に履修許可（抽選登録）を必要とする授業科目は、所定の抽選登録を行い、その結果により履修登録をすること。

クラス指定

5　年次または学科・組別等の指定がある場合は、それに従うこと。
6　学科共通履修細則の外国語科目の項を参照すること。

体育科目

履修及び単位の修得方法

1　経済学部規程第 9 条の別表Ⅰに掲げられている体育科目は、2 単位以上を修得すること。
2　年次または学科・組別等の指定がある場合には、それに従うこと。
3　実技科目は、所定の抽選登録を行い、その結果により履修登録をすること。
4　学科共通履修細則の体育科目の項を参照すること。

総合科目

履修及び単位の修得方法

1　経済学部規程第 9 条の別表Ⅰに掲げられている総合科目は、「追大ＵⅠ科目」については全ての単位を、「追大プロジェクト科目」は最大 8 単位を、「国際交流科目」「放送大学の科目を修得した場合及び資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合」及び「大学コンソーシアム大阪単位互換協定により単位を修得した場合」は、各々最大 4 単位を卒業に必要な単位として認める。
2　学科共通履修細則の総合科目の項を参照すること。

Ⅲ学科科目

履修及び単位の修得方法

1　経済学部規程第 9 条の別表Ⅰに掲げられている学科科目は、同第 10 条に定める履修方法にしたがって、次のとおり履修し、所定の単位を修得すること。
（1）　必修の学科科目は、経済学分野の（経済原論Ⅰ・経済学基礎演習 1・経済学基礎演習 2・演習Ⅰ-1・演習Ⅰ-2・演習Ⅰ-1・演習Ⅰ-2）16 単位を指定年次に修得すること。
（2）　選択 A の学科科目は、経済理論・経済史、経済政策及び数理・情報分野の指定科目から、28 単位以上を修得すること。
（3）　選択 A 及び選択 B の学科科目は、経済理論・経済史、経済政策、数理・情報、特殊講義、法学及び経営学の分野から、合計 60 単位以上を修得すること。
（4）　上記の必修（16 単位）及び選択 A・B（60 単位）の学科科目は、合計 76 単位以上修得すること。

授業科目の区別

2　授業科目のうちで、A、B、C 等の区別があるものは、そのいずれか一つだけについて履修することができる。

クラス指定
3　年次または学科・組別等の指定がある場合は、それに従うものとする。

先修科目
4　次の授業科目は、指定の先修科目の単位を修得しなければ履修できない。

授業科目	単位数	配当年次	先修科目	単位数	備考
演習Ⅰ-1 演習Ⅰ-2	4	3年	指定の科目	44	人数制限
演習Ⅱ-1 演習Ⅱ-2	4	4年	演習Ⅰ-1 演習Ⅰ-2	4	人数制限

Ⅳ副専攻科目
1　所属学部以外の科目や特定の分野に関する科目を系統的に学ぶことで、基礎知識を確立し、学術的見地から考察できる能力や実践的応用力を身につけるために副専攻科目を開設する。
2　詳細については、学科共通履修細則を参照すること。

ヒューマンエコノミー学科履修細則

2011年度入学生に適用

Ⅰ一般的事項
履修関係諸規則
1　履修にあたって、各自が主体的に決定し、所定の履修登録をすること。
（1）　学則・経済学部規程・履修細則などを熟読すること。
（2）　カリキュラムの全体像を把握すること。
（3）　講義内容要旨を熟読して、主体的に学修計画を立てること。
（4）　時間割作成の手引きを基に履修科目を決めること。
（5）　経済学部が定める通りに履修登録をすること。
（6）　オリエンテーションに必ず出席すること。履修に関する諸規則

【履修に関する諸規則】

関係諸規則		概　　要
学　　則	第10条～第14条	授業科目・単位数・履修方法
経済学部規程	第6条～第11条	授業科目・履修方法
	第16条	開講する授業科目・単位数
	第17条	単位の計算
	第19条	履修の制限
	第20条	履修の届出
	第21条～第23条	科目修了の認定

教職課程に関する規程	教育職員免許法の定めにより、教諭免許を得ようとしている者を対象にしている。
博物館学芸員資格取得に関する履修規程	博物館法の定めにより、学芸員の資格を得ようとする者を対象にしている。
社会教育主事の資格取得に関する規程	社会教育法の定めにより、社会教育主事となる資格を得ようとする者を対象にしている。
レクリエーション・インストラクター	（財）日本レクリエーション協会の定めるところにより、レクリエーション・インストラクターとなる資格を得ようとする者を対象にしている

教育課程と学修計画
2　経済学部のカリキュラムは、学修の指針になるように編成されている。
（1）　授業科目は、学科科目・新入生演習・基本科目・外国語科目・体育科目・総合科目から構成されている。
（2）　教育課程により、必修科目・選択科目・自由科目に区分されている。
（3）　授業科目は、履修指針になるよう基礎・基幹・展開として4年間に配分されている。
（4）　各自の学修計画にそって、定められた授業科目を履修すること。
（5）　必ず授業に出席し、科目修了の認定を受けて、単位を必ず修得すること。
（6）　社会への適応力を向上させるため、資格取得科目が設けられている。

演習の選択
3　ヒューマンエコノミー学科では、第3年次に必修の演習Ⅰ-1・Ⅰ-2を修得し、第4年次に継続して演習Ⅱ-1・Ⅱ-2を履修すること。
（1）　演習（ゼミナール）の選択は、第2年次の秋学期に行う。
（2）　演習Ⅰ-1・Ⅰ-2の履修資格を満たしていること。

演習Ⅰ-1、Ⅰ-2の履修資格
4　ヒューマンエコノミー学科では、第1年次及び第2年次に、次の授業科目の単位を合計44単位以上を修得していない者は、第3年次に必修の演習Ⅰ-1、Ⅰ-2を履修できない。
（1）　学科科目のうち、必修の経済原論Ⅰ、経済学基礎演習1・2のいずれか4単位以上
（2）　学科科目の履修区分の選択Aの科目の中から、8単位以上
（3）　外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語の中から4単位以上
なお、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、日本語4単位以上
（4）　上記（1）（2）（3）で修得した合計16単位のほかに、学科科目･新入生演習･基本科目・外国語科目・体育科目・総合科目の中から、合計28単位以上

演習Ⅱ-1、Ⅱ-2の履修資格
5　演習Ⅱ-1、Ⅱ-2は、第4年次の配当とし、演習Ⅰ-1・Ⅰ-2の単位を修得しなければ履修できない。

演習の履修について
6　演習Ⅰ-1の単位を修得できなかった場合においても、演習Ⅰ-2は履修可能である。演習Ⅱ-1・Ⅱ-2についても同様とする。

履修単位制限
7　各学期において履修することができる単位数の上限は、次のとおりとする。

年　　次	1年		2年		3年		4年	
学　　期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
セメスター	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
制限単位数	25	25	25	25	25	25	30	30
編入学生					35	35	35	35

ただし、総合科目のうち、国際交流科目、別に定める放送大学の科目を修得した場合、別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合及び大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位数については、この制限を受けない。
また、資格取得に関する科目等のうち、卒業の要件とならない科目の単位数についても、制限を受けない。
なお、通年科目の単位数は春学期の制限単位数に含まれる。

履修登録の方法
8　履修登録は、次の手続きによるものとする。
（1）　既に単位を修得した授業科目は、再履修できない。

（2） 同一時限に同時に開講されている授業科目は、重複して履修することができない。
（3） 事前に履修許可（抽選登録）を必要とする授業科目は、所定の抽選登録を行い、その結果により履修登録をすること。
（4） 履修登録は、所定の方法に従って、指定の期日までに行うこと。
（5） UNIVERSAL PASSPORT により、必ず登録内容の確認をすること。
（6） 所定の方法によらない履修内容の変更、追加は原則として認めない。
（7） 履修登録をしていない場合、その授業科目の授業及び試験は受けることができない。

Ⅱ共通科目
新入生演習
1 経済学部規程第９条の別表Ⅰに掲げられている新入生演習は、１年次に全員履修するものとする。修得した単位は、卒業に必要な単位として認める。

基本科目
履修及び単位の修得方法
1 経済学部規程第９条の別表Ⅰに掲げられている基本科目は、同第 10 条に定める履修方法にしたがって、１２単位以上を修得すること。
キャリアデザイン論は１年次に全員履修するものとする。

授業科目の区別
2 授業科目のうちで、A、B、C 等の区別があるものは、そのいずれか一つだけについて履修することができる。

クラス指定
3 年次または学科・組別等の指定がある場合は、それに従うこと。

外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者
4 外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、日本事情１・２・３・４を含めて 12 単位以上を修得すること。

外国語科目
履修及び単位の修得方法
1 経済学部規程第９条の別表Ⅰに掲げられている外国語科目は、同第 10 条に定める方法にしたがって、英語、ドイツ語、フランス語、中国語の中から、いずれか１の外国語８単位を原則として第１年次及び第２年次において修得すること。
なお、この８単位を超えて修得する外国語科目は、第 10 条に規定されている範囲で卒業に必要な単位として認める。

外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者
2 外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、日本語８単位を原則として第１年次および第２年次において修得すること。
なお、この８単位を超えて修得する外国語科目は、第 10 条に規定されている範囲で卒業に必要な単位として認める。

再履修の方法
3 単位を修得できなかった外国語については、指定のクラスで再履修すること。

抽選登録
4 授業科目のうち事前に履修許可（抽選登録）を必要とする授業科目は、所定の抽選登録を行い、その結果により履修登録をすること。

クラス指定
5 年次または学科・組別等の指定がある場合は、それに従うこと。
6 学科共通履修細則の外国語科目の項を参照すること。

体育科目
履修及び単位の修得方法
1 経済学部規程第９条の別表Ⅰに掲げられている体育科目は、２単位以上を修得すること。
2 年次または学科・組別等の指定がある場合には、それに従うこと。
3 実技科目は、所定の抽選登録を行い、その結果により履修登録すること。
4 学科共通履修細則の体育科目の項を参照すること。

総合科目
履修及び単位の修得方法
1 経済学部規程第９条の別表Ⅰに掲げられている総合科目は、「追大 UI 科目」については全ての単位を、「追大プロジェクト科目」は最大８単位を、「国際交流科目」「放送大学の科目を修得した場合及び資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合」及び「大学コンソーシアム大阪単位互換協定により単位を修得した場合」は、各々最大４単位を卒業に必要な単位として認める。
2 学科共通履修細則の総合科目の項を参照すること。

Ⅲ学科科目
履修及び単位の修得方法
1 経済学部規程第９条の別表Ⅰに掲げられている学科科目は、同第 10 条に定める履修方法にしたがって、次のとおり履修し、所定の単位を修得すること。
（1） 必修の学科科目は、経済学分野の（経済原論Ⅰ・経済学基礎演習１・経済学基礎演習２・演習Ⅰ-1・演習Ⅰ-2・演習Ⅱ-1・演習Ⅱ-2）16 単位を指定年次に修得すること。
（2） 選択 A の学科科目は、経済理論・経済史、経済政策及び数理・情報分野の指定科目から、28 単位以上を修得すること。
（3） 選択 A 及び選択 B の学科科目は、経済理論・経済史、経済政策、数理・情報、特殊講義、法学及び経営学の分野から、合計 60 単位以上を修得すること。
（4） 上記の必修（16 単位）及び選択 A・B（60 単位）の学科科目は、合計 76 単位以上修得すること。

授業科目の区別
1 授業科目のうちで、A、B、C 等の区別があるものは、そのいずれか一つだけについて履修することができる。

クラス指定
2 年次または学科・組別等の指定がある場合は、それに従うものとする。

先修科目
3 次の授業科目は、指定の先修科目の単位を修得しなければ履修できない。

授業科目	単位数	配当年次	先修科目	単位数	備考
演習Ⅰ-1 演習Ⅰ-2	4	３年	指定の科目	44	人数制限
演習Ⅱ-1 演習Ⅱ-2	4	４年	演習Ⅰ-1 演習Ⅰ-2	4	人数制限

Ⅳ副専攻科目
1 所属学部以外の科目や特定の分野に関する科目を系統的に学ぶことで、基礎知識を確立し、学術的見地から考察できる能力や実践的応用力を身につけるために副専攻科を開設する。
2 詳細については、学科共通履修細則を参照すること。

経営学部関連規程等

追手門学院大学経営学部規程

1995 年 2 月 13 日
制定

（総則）
第 1 条　追手門学院大学学則（以下「学則」という。）に基づいて、追手門学院大学経営学部規程を次のように定める。

（学部学科の目的）
第 2 条　経営学部に、経営学科とマーケティング学科を置く。
3　経営学部では、豊かな教養を培ったうえに、経営学の教育を通して、企業・組織を分析し、その組織体の所期の目的を達成するために自立的かつ柔軟に思考し行動できる人材を育成することを目的とする。
4　専門分野として、経営学科では特に経営、会計、ビジネス法分野を、また、マーケティング学科では国際、情報、起業、ビジネス心理分野を重点的に学ばせることにより、社会の中での自らの役割と責任について自覚し、かつ、自己実現を図りうる人材の育成を行う。

（定員）
第 3 条　本学部の各学科の学生定員は、次のとおりとする。

学　　科	入学定員	編入学定員	収容定員
経　営　学　科	200 名	7 名	814 名
マーケティング学科	200 名	6 名	812 名
計	400 名	13 名	1,626 名

（学年及び学期）
第 4 条　学年は、4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。
2　学年を分けて 2 学期とする。
　　春学期 4 月 1 日から 9 月 20 日まで
　　秋学期 9 月 21 日から翌年 3 月 31 日まで

（休業日）
第 5 条　休業日は、次のとおりとする。
（1）　日曜日
（2）　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日
（3）　学院創立記念日（5 月 29 日）
（4）　本学が定めた夏期、冬期及び春期休業日
2　前項第 4 号の休業期間は、本学学年暦による。
3　学長は、休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

（授業科目及び履修方法）
第 6 条　授業科目は、共通科目、学科科目及び資格取得に関する科目に分ける。共通科目は、新入生演習、基本科目、外国語科目、体育科目及び総合科目に区分する。
2　前項とは別に副専攻科目を設ける。副専攻科目については、別に定める。

第 7 条　授業科目ごとの卒業に必要な単位数は、次のとおりとする。
経営学科
①　新入生演習及びキャリアデザイン論は、1 年次に全員履修しなければならない。
②　基本科目は、12 単位以上を修得しなければならない。
③　外国語科目は、6 単位以上を修得しなければならない。
なお、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、外国語科目として日本語 6 単位を修得しなければならない。
④　体育科目は、2 単位以上を修得しなければならない。
⑤　学科科目は、76 単位以上を修得しなければならない。
⑥　卒業に必要な単位は、本規程に基づいて 124 単位以上を修得しなければならない。
マーケティング学科
①　新入生演習及びキャリアデザイン論は、1 年次に全員履修しなければならない。
②　基本科目は、12 単位以上を修得しなければならない。
③　外国語科目は、6 単位以上を修得しなければならない。
なお、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、外国語科目として日本語 6 単位を修得しなければならない。
④　体育科目は、2 単位以上を修得しなければならない。
⑤　学科科目は、76 単位以上を修得しなければならない。
⑥　卒業に必要な単位は、本規程に基づいて 124 単位以上を修得しなければならない。

第 8 条　授業科目は、必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

第 9 条　本学部における授業科目及びその単位数は、別表 I のとおりとする。

第 10 条　本学部における授業科目の履修については、次のとおりとする。
経営学科

履修区分	授業科目	分野		卒業に必要な単位数	
全履		新入生演習			
必修	学科科目	学科基礎 A		16 単位	76 単位以上
		演習		12 単位	
選択必修	学科科目	学科基礎 B		セットで 8 単位以上	
選択	学科科目	経営学 会計学 法学 経営外国語 経営特殊講義 経済学		学科科目は選択必修・選択を合わせて 48 単位以上	
		マーケティング学科開講科目		30 単位までを卒業に必要な単位として認める	
	共通科目	基本科目		12 単位以上 「キャリアデザイン論」は 1 年次に全員履修とする	124 単位以上
		外国語科目		英・独・仏・中国語から選択して 6 単位以上。ただし、指定された外国人留学生及び帰国生徒は日本語 6 単位以上	
		体育科目		2 単位以上	
		総合科目	追大 UI 科目		
			追大プロジェクト科目	最大 8 単位まで卒業に必要な単位として認める	
			国際交流科目	最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める	
			別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める		
			大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める		

副専攻

授業科目	分野	単位数
副専攻科目	履修可能な副専攻については別に定める	20 単位を卒業に必要な単位として認める

①　新入生演習は全員第 1 年次に履修すること。
②　必修の学科科目は、学科基礎 A（経営学概論 1・経営学概論 2・入門簿記・初級簿記・ビジネス法基礎 1・ビジネス法基礎 2・情報リテラシー 1・情報リテラシー 2）16 単位及び演習分野 12 単位を指定年次に修得すること。
③　選択必修の学科科目は、学科基礎 B（経営管理論 1・経営管理論 2・経営倫理・経営組織・会計学原理 1・会計学原理 2・原価計算論 1・原価計算論 2・民法（総則）・民法（物権法）・商法（総則・商行為）・会社法 1）の中から 1・2 をセットで 8 単位以上を第 2 年次に修得すること。（経営倫理・経営組織、民法（総則）・民法（物権法）、商法（総則・商行為）・会社法 1 でそれぞれ 1 セットとする）
④　選択必修及び選択の学科科目は、合わせて 48 単位以上を修得すること。
⑤　選択の基本科目は、12 単位以上を修得すること。
また、キャリアデザイン論は、1 年次に全員履修とすること。
⑥　選択の体育科目は、2 単位以上を修得すること。
⑦　選択の外国語科目は、英語・独語・仏語・中国語の中から 6 単位以上を修得すること。なお、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された学生は、外国語科目として指定の日本語 6 単位を修得しなければならない。
⑧　選択の総合科目は、追大 UI 科目については全ての単位を、追大プロジェクト科目については、最大 8 単位まで、国際交流科目については、最大 4 単位まで、卒業に必要な単位として認める。また、別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める。大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位については最大 4 単位まで、卒業に必要な単位として認める。
⑨　学科科目の必修・選択必修・選択を合わせて 76 単位以上修得すること。
⑩　副専攻科目は、修了要件単位を 20 単位とし、最大 20 単位を卒業に必要な単位として認める。
⑪　卒業に必要な単位数は、以上の科目を合わせて、124 単位以上とする。

マーケティング学科

履修区分	授業科目	分野		卒業に必要な単位数	
全履		新入生演習			
必修	学科科目	学科基礎 A		16 単位	76 単位以上
		演習		12 単位	
選択必修	学科科目	学科基礎 B		セットで 8 単位以上	
選択	学科科目	国際マーケティング 情報マーケティング 起業マーケティング マーケティング特殊講義 経営外国語 地域経済論		学科科目は選択必修・選択を合わせて 48 単位以上	
		経営学科開講科目		30 単位までを卒業に必要な単位として認める	
	共通科目	基本科目		12 単位以上 *「キャリアデザイン論」は 1 年次全員履修とする	124 単位以上
		外国語科目		英・独・仏・中国語から選択して 6 単位以上。ただし、指定された外国人留学生及び帰国生徒は日本語 6 単位以上	
		体育科目		2 単位以上	
		総合科目	追大 UI 科目		
			追大プロジェクト科目	最大 8 単位まで卒業に必要な単位として認める	
			国際交流科目	最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める	
			別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める		
			大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める		

副専攻

授業科目	分野	単位数
副専攻科目	履修可能な副専攻については別に定める	20 単位を卒業に必要な単位として認める

① 新入生演習は全員第 1 年次に履修すること。
② 必修の学科科目は、学科基礎 A(経営学概論 1・経営学概論 2・入門簿記・初級簿記・ビジネス法基礎 1・ビジネス法基礎 2・情報リテラシー 1・情報リテラシー 2)16 単位及び演習分野 12 単位を指定年次に修得すること。
③ 選択必修の学科科目は、学科基礎 B(国際経営論 1・国際経営論 2・産業心理学概論 1・産業心理学概論 2・経営数学 1・経営数学 2・情報科学概論 1・情報科学概論 2・経営倫理・経営組織・マーケティング論 1・マーケティング論 2・心理解析法 1・心理解析法 2) の中から 1・2 をセットで 8 単位以上を第 2 年次に修得すること。(経営倫理・経営組織で 1 セットとする)
④ 選択必修及び選択の学科科目は、合わせて 48 単位以上を修得すること。
⑤ 選択の基本科目は、12 単位以上を修得すること。
また、キャリアデザイン論は、1 年次に全員履修とすること。
⑥ 選択の体育科目は、2 単位以上を修得すること。
⑦ 選択の外国語科目は、英語・独語・仏語・中国語の中から 6 単位以上を修得すること。なお、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された学生は、外国語科目として指定の日本語 6 単位を修得しなければならない。
⑧ 選択の総合科目は、追大 UI 科目については全ての単位を、追大プロジェクト科目については、最大 8 単位まで、国際交流科目については、最大 4 単位まで、卒業に必要な単位として認める。また、別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める。大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位については最大 4 単位まで、卒業に必要な単位として認める。
⑨ 学科科目の必修・選択必修・選択を合わせて 76 単位以上修得すること。
⑩ 副専攻科目は、修了要件単位を 20 単位とし、最大 20 単位を卒業に必要な単位として認める。
⑪ 卒業に必要な単位数は、以上の科目を合わせて、124 単位以上とする。

第 11 条　第 1 年次及び第 2 年次において履修すべき授業科目の単位を修得しない者に関しては、別に定める。

(教職課程)
第 12 条　卒業後、中学校又は高等学校の教員免許状の授与を受けようとする者のために教職課程を置く。
2　教職課程の履修方法は、別に定める。

(学芸員の資格)
第 13 条　卒業後、学芸員の資格を得ようとする者は、別に指定された科目を履修しなければならない。
2　履修方法は、別に定める。

(社会教育主事の資格)
第 14 条　卒業後、社会教育主事の資格を得ようとする者は、別に指定された科目を履修しなければならない。
2　履修方法は、別に定める。

(レクリエーション・インストラクターの資格)
第 15 条　卒業後、レクリエーション・インストラクターの資格を得ようとする者は、別に指定された科目を履修しなければならない。
2　履修方法は、別に定める。

第 16 条　その年度に開講する授業科目及びその単位数は、学年の始めに発表する。

(単位の計算)
第 17 条　授業科目の単位の計算については、次の基準による。
（1）　講義及び演習については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。
（2）　外国語については、30 時間の授業をもって 1 単位とする。
（3）　実験、実習及び実技については、30 時間の授業をもって 1 単位とする。

(1 年間の授業期間)
第 18 条　1 年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを原則とする。

(履修の制限)
第 19 条　各学期において履修できる単位数の制限は、別に定める。

(履修の届出)
第 20 条　学生は、その年度に履修を希望する科目を所定の期日までに届け出なければならない。
2　履修登録手続きをしない者は、当該科目の授業及び試験を受けることができない。

(科目修了の認定)
第 21 条　科目修了の認定は、試験によるほか、出席その他平素の成績を考慮して行う。
2　試験は、定期試験のほか随時に行うことがある。
3　成績評点は、以下のとおりとし、S、A、B、C の評価を合格とする。

評価	点数
S	90～100
A	80～89
B	70～79
C	60～69
D	0～59
E	×

4　合格を得た科目に対しては、所定の単位を与える。

第 22 条　原則として各科目とも出席すべき授業時数の 3 分の 1 以上欠席した者は、科目修了の認定を受けることができない。

第 23 条　科目修了の認定を得た科目に対しては、再度履修しても単位を与えない。

(追試験)
第 24 条　病気その他やむを得ない事由によって定期試験を受験できなかった者に対しては、願い出によって追試験を行う。

(追試験の受験料)
第 25 条　追試験の受験者は、別に定める受験料を納めなければならない。

(卒業及び学位)
第 26 条　本大学に 4 年以上在学し、所定の課程を修めた者をもって、卒業したものとする。
2　本大学を卒業した者には、次のとおり学位を授与する。
経営学部
経営学科　学士 (経営学)
マーケティング学科　学士 (経営学)
3　春学期末において所定の卒業要件が充足された場合には、春学期末の卒業を認める。

(入学)
第 27 条　入学の時期は、毎学年の始めとする。

第 28 条　入学は、検定によって決定する。
2　入学検定の方法は、別に定める。

第 29 条　所定の期日までに定められた入学手続を履行しない者は、入学の許可を取り消す。

(編入学及び他大学からの転学)
第 30 条　本大学の第 3 年次へ編入学又は他大学から本大学に転学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とし、選考の上、これを許可する。
（1）　大学を卒業した者又は学校教育法 (昭和 22 年法律第 26 号) 第 68 条の 2 第 4 項の規定により学士の学位を授与された者
（2）　短期大学を卒業した者
（3）　高等専門学校を卒業した者
（4）　大学に 2 年以上在学し、所定の単位を修得した者
（5）　専修学校の専門課程 (修業年限が 2 年以上であること、その他文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。) を修了した者 (学校教育法第 56 条に規定する者に限る。)
（6）「共同教育プログラム実施ガイドライン」に定める課程を修了した者
2　前項により入学した者の既修得単位の認定に関する事項については、別に定める。

第 31 条　前条により編入学又は転学を許可された者の修業年限は 2 年とし、在学年限は 4 年を超えることができない。

(休学)
第 32 条　病気その他やむを得ない理由で引き続き 6 か月以上修学できない場合は、保証人連署の上、休学願を学部長に提出し、その許可を得て休学することができる。ただし、病気の場合は、医師の診断書を添えなければならない。
2　休学の期間は、引き続き 2 年を超えることができない。
3　休学の期間は、通算して 3 年を超えることができない。
4　休学の期間は、在学年数に算入しない。

第 33 条　休学の理由が消滅し、復学しようとするときは、復学願を学部長に提出し、その承認を得なければならない。

第 34 条　休学中は、授業料その他の学費を減免する。
2　前項により減免する授業料その他の学費及びその額は、別にこれを定める。

（退学）
第 35 条　退学しようとする者は、その事由を具して保証人連署の上、学長に願い出て許可を受けなければならない。

第 36 条　前条により退学した者又は除籍された者が再入学を願い出たときは、退学又は除籍後 2 年以内に限り、選考の上、許可することがある。ただし、学則第 66 条第 1 号の規定により除籍された者は、再入学を許可しない。

（転学部及び転学科）
第 37 条　在学中転学部又は転学科は、原則として許可しない。ただし、特別の事情がある場合は、選考の上、第 2 年次又は第 3 年次の始めに限り、これを許可することがある。

（他大学への入学及び転学）
第 38 条　他の大学へ入学又は転学を志望するときは、学長の許可を受けなければならない。

（委託生）
第 39 条　学校、官庁その他公共団体等から特定の授業科目を指定して修学を委託されたときは、選考の上、委託生として入学を許可することがある。

（科目等履修生）
第 40 条　本大学の学生以外の者で、特定の授業科目を指定して履修を願い出る者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。
2　科目等履修生の履修科目は、当該年度 30 単位以内とする。

第 41 条　科目等履修生が、その履修した授業科目の試験を受け、合格した授業科目については、単位を与える。
2　科目等履修生に対しては、合格した授業科目につき願い出により、単位修得証明書を交付する。

（聴講生）
第 42 条　本大学の学生以外の者で、特定の授業科目を指定して聴講を願い出る者があるときは、選考の上、聴講生として入学を許可することがある。
2　聴講生の聴講科目は、当該年度 20 単位以内とする。

第 43 条　委託生及び聴講生に対しては、その履修した授業科目につき願い出により試験の上、証明書を交付する。ただし、単位は与えない。

（委託生、科目等履修生及び聴講生の入学資格）
第 44 条　委託生、科目等履修生及び聴講生の入学資格は、学則第 29 条の定めるところによる。

（研究生）
第 45 条　本学部において研究を希望する者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することがある。
2　研究生は、その研修修了時に研究報告書を提出しなければならない。なお、願い出により研究証明書を交付する。ただし、単位は与えない。

（外国人特別学生）
第 46 条　外国人で、学則第 29 条に定める資格を有する者が、学則第 30 条によらないで本邦所在の外国公館の推薦により出願するときは、選考の上、外国人特別学生として入学を許可することがある。

第 47 条　外国人特別学生で、学則第 5 章に規定する科目修了の認定を受け、所定の課程を修めた者には、学位を授与する。

第 48 条　委託生、科目等履修生、聴講生、研究生及び外国人特別学生に関する規則は、学則及びこの規程に定めるもののほか、別に定める。

（入学金、授業料等）
第 49 条　本大学に入学を許可された者は、入学金及び所定の学費を納付しなければならない。

第 50 条　学生は、授業料その他所定の学費を納付しなければならない。

第 51 条　委託生は研修指導費、科目等履修生は履修料、聴講生は聴講料、研究生は研究指導費を納付しなければならない。

第 52 条　入学金、授業料、実験実習費、研修指導費、履修料、聴講料、研究指導費の金額及び徴収については、別にこれを定める。

第 53 条　既納の入学金、授業料、その他の学費、研修指導費、履修料、聴講料、審査料及び研究指導費は、いかなる事情があっても返付しない。

（教授会及び委員会）
第 54 条　本学部に教授会及び必要に応じ各種委員会を置く。
2　教授会及び各種委員会に関する規程は、別に定める。

（表彰）
第 55 条　学生で特に他の学生の模範とすべき行為のあったときは、表彰することがある。

（懲戒）
第 56 条　学生で本大学の規則若しくは命令に違背し、又は学生の本分に反する行為があったときは、その軽重に従ってこれを懲戒する。
2　懲戒は、戒告、停学及び退学とする。
3　前項の退学は、次の各号の一に該当する者について行う。
（1）　性行不良で改善の見込みがないと認められる者
（2）　本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

（退学）
第 57 条　学生で学力劣等にして成業の見込みがないと認められる者又は正当の理由がなく出席が常でない者は、教授会の議を経て、これを退学させる。

（除籍）
第 58 条　学生で次の各号の一に該当する者は、これを除籍する。
（1）　在学 8 年を超える者
（2）　休学期間が通算 3 年を超える者
（3）　疾病その他の事故により成業の見込みがないと認められる者
（4）　授業料その他学費を督促しても納付しない者

（その他）
第 59 条　学則及びこの規程に定めのない事項については、教授会がこれを定める。

附則
この規程は、1995 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 2 条の規定にかかわらず 1995 年度から 1998 年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学　　科	入学定員	
	1995 年度	1996 年度～ 1998 年度
経営学科	350 名	300 名

附則
この規程は、1996 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 2 条の規定にかかわらず 1996 年度から 1999 年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学　　科	入学定員	
	1996 年度～ 1998 年度	1999 年度
経営学科	350 名	300 名

附則
この規程は、1998 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、1999 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 2 条の規定にかかわらず 1999 年度の入学定員は、次のとおりとする。

学　　科	入学定員
	1999 年度
経　営　学　科	230 名
国 際 経 営 学 科	160 名

附則
この規程は、2000 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 2 条の規定にかかわらず 2000 年度から 2003 年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学　　科	入学定員			
	2000 年度	2001 年度	2002 年度	2003 年度
経 営 学 科	224 名	218 名	212 名	206 名
国際経営学科	156 名	152 名	148 名	144 名

附則
この規程は、2001 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、2002 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、2003 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、2004 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、2005 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、2006 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、2006 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、2007 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、2007 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、2008 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、2008 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、2008 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、2009 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、2009 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、2010 年 4 月 1 日から施行する。

附則
この規程は、2011 年 4 月 1 日から施行する。

別表Ⅰ（第 9 条関係）
1　共通科目
（1）　新入生演習

授業科目	単位数	配当年次	備考
	全員履修		
新入生演習	2	1	新入生は全員履修すること

（2）　基本科目

分類	授業科目	単位数		配当年次	備考
		必修	選択		
言語と文化	日本語の諸相 1		2	1	経営学科・マーケティング学科12 単位以上修得すること。外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された学生は、日本事情1・2・3・4 を含むものとする。
	日本語の諸相 2		2	1	
	アジアの諸文化 1		2	1	
	アジアの諸文化 2		2	1	
	アジアの社会 1		2	1	
	アジアの社会 2		2	1	
	アジアと国際社会 1		2	1	
	アジアと国際社会 2		2	1	
	英米の文化・文学 1		2	1	
	英米の文化・文学 2		2	1	
	比較文化概論 1		2	1	
	比較文化概論 2		2	1	
	言語の科学 1		2	1	
	言語の科学 2		2	1	
	比較思想概論 1		2	1	
	比較思想概論 2		2	1	
	異文化交流の歴史		2	1	
	異文化交流とコミュニケーション		2	1	
	ヨーロッパの文学 1		2	1	
	ヨーロッパの文学 2		2	1	
	ヨーロッパの思想 1		2	1	
	ヨーロッパの思想 2		2	1	
	ことばと文化（ドイツ語）		2	1	
	ことばと文化（フランス語）		2	1	
	ことばと文化（韓国語・朝鮮語）1		2	1	
	ことばと文化（韓国語・朝鮮語）2		2	1	
	くらしと文化		2	1	
生活と社会	入門経済学 1		2	1	
	入門経済学 2		2	1	
	日本国憲法		2	1	
	市民生活と法 1		2	1	
	市民生活と法 2		2	1	
	家族と法 1		2	1	
	家族と法 2		2	1	
	近代日本社会と世界 1		2	1	
	近代日本社会と世界 2		2	1	
	市民社会と政治 1		2	1	
	市民社会と政治 2		2	1	
	生活と地理 1		2	1	
	生活と地理 2		2	1	
	社会学の考え方		2	1	
	福祉の諸問題		2	1	
	メディア論		2	1	
	現代社会と倫理		2	1	
	現代社会の諸問題		2	1	
	現代社会の人間関係		2	1	
	現代社会と人権 1		2	1	
	現代社会と人権 2		2	1	
	社会調査入門 1		2	1	
	社会調査入門 2		2	1	
	共生社会と人間		2	1	
	余暇とレクリエーション		2	1	
	ジェンダー論		2	1	
	女性学		2	1	
	心の科学		2	1	
	人間関係の心理学		2	1	
	人間性の形成		2	1	
	現代の子どもと教育 1		2	1	
	現代の子どもと教育 2		2	1	
	キャリアデザイン論		2	1	キャリアデザイン論は 1 年次に全員履修とする。
	ファイナンス入門		2	1	
	オーストラリアと国際社会 1		2	1	
	オーストラリアと国際社会 2		2	1	
自然と数理	生物の科学		2	1	
	生物の進化		2	1	
	生物の多様性		2	1	
	入門物理学 1		2	1	
	入門物理学 2		2	1	
	入門化学 1		2	1	
	入門化学 2		2	1	
	入門数学 1		2	1	
	入門数学 2		2	1	
	入門統計学 1		2	1	
	入門統計学 2		2	1	
	入門コンピュータ 1		2	1	
	入門コンピュータ 2		2	1	

分類	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	備考
自然と数理	組織と情報 1		2	1	
	組織と情報 2		2	1	
	科学技術史 1		2	1	
	科学技術史 2		2	1	
日本事情	日本事情 1		2	1	外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された学生のみに適用する。
	日本事情 2		2	1	
	日本事情 3		2	1	
	日本事情 4		2	1	

（3） 外国語科目

分類	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	備考
英語	英語講読 1		1	1	経営学科・マーケティング学科英語・ドイツ語・フランス語及び中国語の中から、6 単位を修得すること。外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された学生は、指定の日本語 (日本語読解中級 1・2、日本語聴解中級 1・2、日本語読解上級 1・2)6 単位に替える。
	英語講読 2		1	1	
	英語 L.L.1		1	1	
	英語 L.L.2		1	1	
	英会話 1		1	1	
	英会話 2		1	1	
	英語講読 3		1	2	
	英語講読 4		1	2	
	英語 L.L.3		1	2	
	英語 L.L.4		1	2	
	英会話 3		1	2	
	英会話 4		1	2	
	英会話 5		1	3	
	英会話 6		1	3	
	検定英語 1		1	1	
	検定英語 2		1	1	
	検定英語 3		1	1	
	検定英語 4		1	1	
ドイツ語	ドイツ語読解入門		1	1	
	ドイツ語読解初級		1	1	
	ドイツ語表現入門		1	1	
	ドイツ語表現初級		1	1	
	ドイツ語読解中級 1		1	2	
	ドイツ語読解中級 2		1	2	
	ドイツ語表現中級 1		1	2	
	ドイツ語表現中級 2		1	2	
	ドイツ語読解上級 1		1	3	
	ドイツ語読解上級 2		1	3	
	ドイツ語表現上級 1		1	3	
	ドイツ語表現上級 2		1	3	
	ドイツ語読解演習 1		1	3	
	ドイツ語読解演習 2		1	3	
	ドイツ語表現演習 1		1	3	
	ドイツ語表現演習 2		1	3	
フランス語	フランス語読解入門		1	1	
	フランス語読解初級		1	1	
	フランス語表現入門		1	1	
	フランス語表現初級		1	1	
	フランス語読解中級 1		1	2	
	フランス語読解中級 2		1	2	
	フランス語表現中級 1		1	2	
	フランス語表現中級 2		1	2	
	フランス語読解上級 1		1	3	
	フランス語読解上級 2		1	3	
	フランス語表現上級 1		1	3	
	フランス語表現上級 2		1	3	
	フランス語読解演習 1		1	3	
	フランス語読解演習 2		1	3	
	フランス語表現演習 1		1	3	
	フランス語表現演習 2		1	3	
中国語	中国語講読入門 1		1	1	
	中国語講読入門 2		1	1	
	中国語講読基礎 1		1	1	
	中国語講読基礎 2		1	1	
	中国語講読基礎 3		1	1	
	中国語講読基礎 4		1	1	
	中国語会話入門 1		1	1	
	中国語会話入門 2		1	1	
	中国語会話基礎 1		1	1	
	中国語会話基礎 2		1	1	
	中国語講読中級 1		1	2	
	中国語講読中級 2		1	2	
	中国語講読中級 3		1	2	
	中国語講読中級 4		1	2	
	中国語会話中級 1		1	2	
	中国語会話中級 2		1	2	
	中国語会話中級 3		1	2	
	中国語会話中級 4		1	2	

分類	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	備考
日本語	日本語読解中級 1	1		1	外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された学生のみに適用する。
	日本語読解中級 2	1		1	
	日本語聴解中級 1	1		1	
	日本語聴解中級 2	1		1	
	日本語読解上級 1	1		2	
	日本語読解上級 2	1		2	
	日本語聴解上級 1		1	2	
	日本語聴解上級 2		1	2	

（4） 体育科目

		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	備考
健康科学群	実技	基礎体育 1		1	1	講義及び実技から 2 単位以上を修得すること。
		基礎体育 2		1	1	
	講義	体育概論		2	1	
スポーツ科学群	実技	応用体育 1		1	1	
		応用体育 2		1	1	
		応用体育 3		1	1	
	講義	スポーツ概論		2	1	
ネイチャーアクティビティ	実技	余暇生活実習 1		1	1	
		余暇生活実習 2		1	1	
		余暇生活実習 3		1	1	

（5） 総合科目

分野	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	備考
追大 UI 科目	学び論		2	1	
	北摂を学ぶ		2	1	
追大プロジェクト科目	インターンシップ 1		2	3	最大 8 単位までを卒業に必要な単位として認める
	インターンシップ 2		2	3	
	経営力インターンシップ 1		2	3	
	経営力インターンシップ 2		2	3	
	キャリア形成論 1		2	2	
	キャリア形成論 2		2	2	
	社会人の基礎		2	3	
	ボランティア論		2	1	
	オーストラリアを学ぶ 1		2	1	
	オーストラリアを学ぶ 2		2	1	
国際交流科目	交換留学インド		4	1	最大 4 単位までを卒業に必要な単位として認める
	交換留学オーストラリア		4	1	
	交換留学アメリカ		4	1	
	交換留学中国		4	1	
	交換留学タイ		4	1	
	交換留学イギリス		4	1	
	交換留学韓国		4	1	
	交換留学オランダ		4	1	
	交換留学ドイツ		4	1	
	海外セミナー		4	1	
	短期海外セミナー		2	1	
	国際現地研修		4	2	
別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める					
大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める					

2 学科科目

（1） 経営学科

必修	28 単位
選択必修	8 単位以上
選択	選択必修を合わせて 48 単位以上
卒業必要単位数	76 単位以上

分野	授業科目	単位数 必修	単位数 選択必修	単位数 選択	配当年次	備考
学科基礎 A	経営学概論 1	2			1	16 単位
	経営学概論 2	2			1	
	入門簿記	2			1	
	初級簿記	2			1	
	ビジネス法基礎 1	2			1	
	ビジネス法基礎 2	2			1	
	情報リテラシー 1	2			1	
	情報リテラシー 2	2			1	

分野	授業科目	単位数			配当年次	備考
		必修	選択必修	選択		
学科基礎 B	経営管理論 1		2		2	1・2 セットで 8 単位以上（経営倫理・経営組織で 1 セット、民法（総則）・民法（物権法）で 1 セット、商法（総則・商行為）・会社法 1 で 1 セットとする）
	経営管理論 2		2		2	
	経営倫理		2		2	
	経営組織		2		2	
	会計学原理 1		2		2	
	会計学原理 2		2		2	
	原価計算論 1		2		2	
	原価計算論 2		2		2	
	民法（総則）		2		2	
	民法（物権法）		2		2	
	商法（総則・商行為）		2		2	
	会社法 1		2		2	
演習	基礎演習 1	2			2	12 単位
	基礎演習 2	2			2	
	発展演習 1	2			3	
	発展演習 2	2			3	
	卒業演習 1	2			4	
	卒業演習 2	2			4	
経営学	経営史 1			2	2	選択必修及び選択の分野を合わせて 48 単位以上
	経営史 2			2	2	
	経営数学 1			2	2	
	経営数学 2			2	2	
	企業論 1			2	2	
	企業論 2			2	2	
	マーケティング論 1			2	2	
	マーケティング論 2			2	2	
	経営統計			2	2	
	経営データ分析			2	2	
	生産管理論 1			2	3	
	生産管理論 2			2	3	
	経営戦略論 1			2	3	
	経営戦略論 2			2	3	
	人的資源管理論 1			2	3	
	人的資源管理論 2			2	3	
	財務管理論 1			2	3	
	財務管理論 2			2	3	
	オペレーションズ・リサーチ 1			2	2	
	オペレーションズ・リサーチ 2			2	2	
	意思決定論 1			2	3	
	意思決定論 2			2	3	
	リスク・マネジメント 1			2	3	
	リスク・マネジメント 2			2	3	
会計学	中級簿記 1			2	2	
	中級簿記 2			2	2	
	上級簿記			2	3	
	連結会計論			2	3	
	財務諸表論 1			2	3	
	財務諸表論 2			2	3	
	管理会計論 1			2	3	
	管理会計論 2			2	3	
	経営分析論 1			2	3	
	経営分析論 2			2	3	
	監査論 1			2	3	
	監査論 2			2	3	
	国際会計学 1			2	3	
	国際会計学 2			2	3	
	会計学特殊講義 1			2	3	
	会計学特殊講義 2			2	3	
	会計学特殊講義 3			2	3	
	会計学特殊講義 4			2	3	
法学	民法（債権法総論）			2	2	
	民法（債権法各論）			2	2	
	市場競争法			2	2	
	知的財産法			2	2	
	行政法 1			2	2	
	行政法 2			2	2	
	会社法 2			2	3	
	商法（手形法・小切手法）			2	3	
	民事紛争処理			2	3	
	国際法務 1			2	3	
	国際法務 2			2	3	
	税法 1			2	3	
	税法 2			2	3	
	労働法 1			2	3	
	労働法 2			2	3	
	社会保障法			2	3	
	比較会社法			2	3	
経営外国語	経営実務英語 1			2	2	
	経営実務英語 2			2	2	
	経営外国文献講読 1			2	2	
	経営外国文献講読 2			2	2	
	国際共同演習 1			4	2	
	国際共同演習 2			4	2	
	経営実務英語 3			2	3	
	経営実務英語 4			2	3	

分野	授業科目	単位数			配当年次	備考
		必修	選択必修	選択		
経営特殊講義	経営特殊講義 1			2	2	選択必修及び選択の分野を合わせて 48 単位以上
	経営特殊講義 2			2	2	
	経営特殊講義 3			2	3	
	経営特殊講義 4			2	3	
経済学	経済原論 1			2	1	
	経済原論 2			2	1	
	経済政策 1			2	2	
	経済政策 2			2	2	
	国際経済学 1			2	2	
	国際経済学 2			2	2	
	財政学 1			2	2	
	財政学 2			2	2	
国際マーケティング	国際経営論 1			2	2	30 単位まで卒業に必要な単位として認める
	国際経営論 2			2	2	
	国際マーケティング論 1			2	3	
	国際マーケティング論 2			2	3	
	国際関係論 1			2	2	
	国際関係論 2			2	2	
	異文化間コミュニケーション 1			2	2	
	異文化間コミュニケーション 2			2	2	
	ネゴシエーション論 1			2	3	
	ネゴシエーション論 2			2	3	
	国際市場戦略			2	3	
	BRICs 経営論 1			2	3	
	BRICs 経営論 2			2	3	
	多国籍企業論 1			2	3	
	多国籍企業論 2			2	3	
	貿易実務 1			2	2	
	貿易実務 2			2	2	
情報マーケティング	情報科学概論 1			2	2	
	情報科学概論 2			2	2	
	プログラミング演習 1			2	2	
	プログラミング演習 2			2	2	
	マネジメント・システム論 1			2	2	
	マネジメント・システム論 2			2	2	
	社会調査法			2	2	
	市場調査法			2	2	
	経営情報論 1			2	3	
	経営情報論 2			2	3	
	ソフトウェア・システム論 1			2	3	
	ソフトウェア・システム論 2			2	3	
	マーケティング情報システム論 1			2	3	
	マーケティング情報システム論 2			2	3	
	マルチメディア			2	3	
	通信ネットワーク			2	3	
	環境と経営			2	3	
	エコマーケティング論			2	3	
	NPO マネジメント			2	3	
	情報と職業			2	2	
	ERP ビジネスプロセス 1			2	3	
	ERP ビジネスプロセス 2			2	3	
	ERP ビジネスプロセス演習 1			2	3	
	ERP ビジネスプロセス演習 2			2	3	
起業マーケティング	ベンチャービジネス論 1			2	2	
	ベンチャービジネス論 2			2	2	
	中小企業経営論 1			2	2	
	中小企業経営論 2			2	2	
	ベンチャーファイナンス論 1			2	2	
	ベンチャーファイナンス論 2			2	2	
	マーケティングインターンシップ 1			2	3	
	マーケティングインターンシップ 2			2	3	
	ベンチャーファイナンス演習 1			2	3	
	ベンチャーファイナンス演習 2			2	3	
	マーケティング演習 1			2	3	
	マーケティング演習 2			2	3	
	技術経営論 1			2	3	
	技術経営論 2			2	3	
	品質経営論 1			2	3	
	品質経営論 2			2	3	
	環境経営論 1			2	3	
	環境経営論 2			2	3	
	アントレプレナーシップ論			2	3	
	イノベーション論			2	3	
	知的財産戦略論			2	3	
	医療・福祉ビジネス論 1			2	3	
	医療・福祉ビジネス論 2			2	3	
ビジネス心理	産業心理学概論 1			2	1	
	産業心理学概論 2			2	1	
	心理解析法 1			2	2	
	心理解析法 2			2	2	
	消費行動研究論 1			2	2	
	消費行動研究論 2			2	2	
	リーダーシップ論			2	2	

分野	授業科目	単位数			配当年次	備考
		必修	選択必修	選択		
ビジネス心理	リスクコミュニケーション論 1			2	3	30 単位まで卒業に必要な単位として認める
	リスクコミュニケーション論 2			2	3	
	産業組織心理学 1			2	3	
	産業組織心理学 2			2	3	
	消費者心理学 1			2	3	
	消費者心理学 2			2	3	
	広告心理学			2	3	
	アートマーケティング			2	3	
	画像心理学			2	3	
	メディア心理論			2	3	
	ファッションビジネス論			2	3	
	ブランド戦略論			2	3	
	ビジネス心理研究法演習 1			2	2	
	ビジネス心理研究法演習 2			2	2	
マーケティング特殊講義	マーケティング特殊講義 1			2	2	
	マーケティング特殊講義 2			2	2	
地域経済論	アメリカ経済論 1			2	2	
	アメリカ経済論 2			2	2	
	ヨーロッパ経済論 1			2	2	
	ヨーロッパ経済論 2			2	2	
	アジア経済論 1			2	2	
	アジア経済論 2			2	2	
	オーストラリア経済論			4	2	
	オーストラリア産業論 1			2	2	
	オーストラリア産業論 2			2	2	
	日本経済論 1			2	2	
	日本経済論 2			2	2	
	韓国の文化と社会 1			2	2	
	韓国の文化と社会 2			2	2	
	現代韓国事情			2	2	

（2） マーケティング学科

必修	28 単位
選択必修	8 単位以上
選択	選択必修を合わせて 48 単位以上
卒業必要単位数	76 単位以上

分野	授業科目	単位数			配当年次	備考
		必修	選択必修	選択		
学科基礎 A	経営学概論 1	2			1	16 単位
	経営学概論 2	2			1	
	入門簿記	2			1	
	初級簿記	2			1	
	ビジネス法基礎 1	2			1	
	ビジネス法基礎 2	2			1	
	情報リテラシー 1	2			1	
	情報リテラシー 2	2			1	
学科基礎 B	国際経営論 1		2		2	1・2 セットで 8 単位以上（経営倫理・経営組織で 1 セットとする）
	国際経営論 2		2		2	
	産業心理学概論 1		2		1	
	産業心理学概論 2		2		1	
	経営数学 1		2		2	
	経営数学 2		2		2	
	情報科学概論 1		2		2	
	情報科学概論 2		2		2	
	経営倫理		2		2	
	経営組織		2		2	
	マーケティング論 1		2		2	
	マーケティング論 2		2		2	
	心理解析法 1		2		2	
	心理解析法 2		2		2	
演習	基礎演習 1	2			2	12 単位
	基礎演習 2	2			2	
	発展演習 1	2			3	
	発展演習 2	2			3	
	卒業演習 1	2			4	
	卒業演習 2	2			4	
国際マーケティング	国際関係論 1			2	2	選択必修及び選択の分野を合わせて 48 単位以上
	国際関係論 2			2	2	
	異文化間コミュニケーション 1			2	2	
	異文化間コミュニケーション 2			2	2	
	国際マーケティング論 1			2	3	
	国際マーケティング論 2			2	3	
	ネゴシエーション論 1			2	3	
	ネゴシエーション論 2			2	3	
	国際市場戦略			2	3	
	BRICs 経営論 1			2	3	
	BRICs 経営論 2			2	3	
	多国籍企業論 1			2	3	
	多国籍企業論 2			2	3	
	貿易実務 1			2	2	
	貿易実務 2			2	2	

分野	授業科目	単位数			配当年次	備考
		必修	選択必修	選択		
情報マーケティング	プログラミング演習 1			2	2	選択必修及び選択の分野を合わせて 48 単位以上
	プログラミング演習 2			2	2	
	マネジメント・システム論 1			2	2	
	マネジメント・システム論 2			2	2	
	社会調査法			2	2	
	市場調査法			2	2	
	経営情報論 1			2	3	
	経営情報論 2			2	3	
	ソフトウェア・システム論 1			2	3	
	ソフトウェア・システム論 2			2	3	
	マーケティング情報システム論 1			2	3	
	マーケティング情報システム論 2			2	3	
	通信ネットワーク			2	3	
	マルチメディア			2	3	
	環境と経営			2	3	
	エコマーケティング論			2	3	
	NPO マネジメント			2	3	
	情報と職業			2	2	
	ERP ビジネスプロセス 1			2	3	
	ERP ビジネスプロセス 2			2	3	
	ERP ビジネスプロセス演習 1			2	3	
	ERP ビジネスプロセス演習 2			2	3	
起業マーケティング	ベンチャービジネス論 1			2	2	
	ベンチャービジネス論 2			2	2	
	中小企業経営論 1			2	2	
	中小企業経営論 2			2	2	
	ベンチャーファイナンス論 1			2	2	
	ベンチャーファイナンス論 2			2	2	
	マーケティングインターンシップ 1			2	3	
	マーケティングインターンシップ 2			2	3	
	ベンチャーファイナンス演習 1			2	3	
	ベンチャーファイナンス演習 2			2	3	
	マーケティング演習 1			2	3	
	マーケティング演習 2			2	3	
	技術経営論 1			2	3	
	技術経営論 2			2	3	
	環境経営論 1			2	3	
	環境経営論 2			2	3	
	品質経営論 1			2	3	
	品質経営論 2			2	3	
	アントレプレナーシップ論			2	3	
	イノベーション論			2	3	
	知的財産戦略論			2	3	
	医療・福祉ビジネス論 1			2	3	
	医療・福祉ビジネス論 2			2	3	
ビジネス心理	消費行動研究論 1			2	2	
	消費行動研究論 2			2	2	
	リーダーシップ論			2	2	
	リスクコミュニケーション論 1			2	3	
	リスクコミュニケーション論 2			2	3	
	産業組織心理学 1			2	3	
	産業組織心理学 2			2	3	
	消費者心理学 1			2	3	
	消費者心理学 2			2	3	
	広告心理学			2	3	
	アートマーケティング			2	3	
	画像心理学			2	3	
	メディア心理論			2	3	
	ファッションビジネス論			2	3	
	ブランド戦略論			2	3	
	ビジネス心理研究法演習 1			2	2	
	ビジネス心理研究法演習 2			2	2	
マーケティング特殊講義	マーケティング特殊講義 1			2	2	
	マーケティング特殊講義 2			2	2	
経営外国語	経営実務英語 1			2	2	
	経営実務英語 2			2	2	
	経営外国文献講読 1			2	2	
	経営外国文献講読 2			2	2	
	国際共同演習 1			4	2	
	国際共同演習 2			4	2	
	経営実務英語 3			2	3	
	経営実務英語 4			2	3	
地域経済論	アメリカ経済論 1			2	2	
	アメリカ経済論 2			2	2	
	ヨーロッパ経済論 1			2	2	
	ヨーロッパ経済論 2			2	2	
	アジア経済論 1			2	2	
	アジア経済論 2			2	2	
	オーストラリア経済論			4	2	
	オーストラリア産業論 1			2	2	
	オーストラリア産業論 2			2	2	
	日本経済論 1			2	2	
	日本経済論 2			2	2	
	韓国の文化と社会 1			2	2	
	韓国の文化と社会 2			2	2	
	現代韓国事情			2	2	

分野	授業科目	単位数			配当年次	備考
		必修	選択必修	選択		
経営学	経営史 1			2	2	30 単位まで卒業に必要な単位として認める
	経営史 2			2	2	
	企業論 1			2	2	
	企業論 2			2	2	
	経営統計			2	2	
	経営データ分析			2	2	
	経営管理論 1			2	2	
	経営管理論 2			2	2	
	経営戦略論 1			2	3	
	経営戦略論 2			2	3	
	人的資源管理論 1			2	3	
	人的資源管理論 2			2	3	
	財務管理論 1			2	3	
	財務管理論 2			2	3	
	オペレーションズ・リサーチ 1			2	2	
	オペレーションズ・リサーチ 2			2	2	
	意思決定論 1			2	3	
	意思決定論 2			2	3	
	生産管理論 1			2	3	
	生産管理論 2			2	3	
	リスク・マネジメント 1			2	3	
	リスク・マネジメント 2			2	3	
会計学	会計学原理 1			2	2	
	会計学原理 2			2	2	
	中級簿記 1			2	2	
	中級簿記 2			2	2	
	上級簿記			2	3	
	連結会計論			2	3	
	原価計算論 1			2	2	
	原価計算論 2			2	2	
	管理会計論 1			2	3	
	管理会計論 2			2	3	
	財務諸表論 1			2	3	
	財務諸表論 2			2	3	
	経営分析論 1			2	3	
	経営分析論 2			2	3	
	監査論 1			2	3	
	監査論 2			2	3	
	国際会計学 1			2	3	
	国際会計学 2			2	3	
	会計学特殊講義 1			2	3	
	会計学特殊講義 2			2	3	
	会計学特殊講義 3			2	3	
	会計学特殊講義 4			2	3	
法学	民法（総則）			2	2	
	民法（物権法）			2	2	
	商法（総則・商行為）			2	2	
	会社法 1			2	2	
	民法（債権法総論）			2	2	
	民法（債権法各論）			2	2	
	市場競争法			2	2	
	知的財産法			2	2	
	行政法 1			2	2	
	行政法 2			2	2	
	会社法 2			2	3	
	商法（手形法・小切手法）			2	3	
	民事紛争処理			2	3	
	国際法務 1			2	3	
	国際法務 2			2	3	
	税法 1			2	3	
	税法 2			2	3	
	労働法 1			2	3	
	労働法 2			2	3	
	社会保障法			2	3	
	比較会社法			2	3	
経営特殊講義	経営特殊講義 1			2	2	
	経営特殊講義 2			2	2	
	経営特殊講義 3			2	3	
	経営特殊講義 4			2	3	
経済学	経済原論 1			2	1	
	経済原論 2			2	1	
	経済政策 1			2	2	
	経済政策 2			2	2	
	国際経済学 1			2	2	
	国際経済学 2			2	2	
	財政学 1			2	2	
	財政学 2			2	2	

3　副専攻科目
副専攻科目は別に定める。

経営学科履修細則

Ⅰ 一般的事項
履修関係諸規則
1　履修にあたっては、各自が主体的に決定し、所定の履修登録をすること。
（1）　学則・経営学部規程・履修細則・開講科目表などを熟読すること。
（2）　カリキュラムの全体像を把握すること。
（3）　講義内容要旨を熟読して、主体的に学修計画を立てること。
（4）　時間割作成の手引きをもとに履修科目を決めること。
（5）　経営学部が定めるとおりに履修登録をすること。
（6）　オリエンテーションに必ず出席すること。

【履修に関する諸規則】

関係諸規則		概要
学則	第 10 条～第 14 条	授業科目・単位数・履修方法
経営学部規程	第 6 条～第 11 条	授業科目・履修方法
	第 17 条	単位の計算
	第 19 条	履修の制限
	第 20 条	履修の届出
	第 21 条～第 23 条	科目修了の認定

教職課程に関する規程	教育職員免許法の定めにより、教諭免許を得ようとする者を対象にしている。
博物館学芸員資格取得に関する履修規程	博物館法の定めにより、学芸員の資格を得ようとする者を対象にしている。
社会教育主事の資格取得に関する規程	社会教育法の定めにより、社会教育主事となる資格を得ようとする者を対象にしている。
レクリエーション・インストラクターの資格取得に関する規程	（財）日本レクリエーション協会の定めるところにより、レクリエーション・インストラクターとなる資格を得ようとする者を対象にしている。

教育課程と学修計画
2　経営学部のカリキュラムは、学修の指針になるように編成されている。
（1）　授業科目は、学科科目･新入生演習･基本科目･外国語科目･体育科目･総合科目･副専攻科目から構成されている。
（2）　教育課程により、必修科目・選択科目・自由科目に区分されている。
（3）　授業科目は、履修指針になるよう基礎・基幹・展開として 4 年間に配分されている。
（4）　各自の学修計画にそって、各学科ごとに定められた授業科目を履修すること。
（5）　必ず授業に出席し、主体的に予習・復習を行い、科目修了の認定を受けて、単位を必ず修得すること。
（6）　社会への適応力を向上させるため、資格取得科目が設けられている。

演習の選択
3　第 2 年次に基礎演習 1 及び基礎演習 2 を修得し、第 3 年次に発展演習 1 及び発展演習 2、第 4 年次に卒業演習 1 及び卒業演習 2 を履修すること。
尚、基礎演習 1 及び基礎演習 2 の選択は第 1 年次の秋学期に行う。

発展演習の履修資格
4　発展演習 1 及び発展演習 2 を履修するためには、次の条件を充足していなければならない。
①　基礎演習 1 又は基礎演習 2 のいずれか 2 単位を修得していること。
②　上記（1）の基礎演習 1 又は基礎演習 2 を含めて、学科科目・新入生演習・基本科目・外国語科目・体育科目・総合科目・副専攻科目の中から、合計 44 単位以上を修得していること。

卒業演習の履修資格
5　卒業演習 1 及び卒業演習 2 は、第 4 年次の配当とし、基礎演習 1 及び基礎演習 2 合わせて 4 単位を修得し、発展演習 1 又は発展演習 2 のいずれか 2 単位を修得しなければ履修できない。

履修単位制限
6　各学年次において履修できる単位数は、次のとおりとする。

年次	第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次	
学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
セメスター	第 1	第 2	第 3	第 4	第 5	第 6	第 7	第 8
制限単位数	25	25	25	25	25	25	30	30
編入生					35	35	35	35

ただし、総合科目のうち国際交流科目、別に定める放送大学の科目を修得した場合、別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合及び大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位数については、上記の制限を受けない。
また、資格取得に関する授業科目等のうち、卒業要件とならない授業科目の単位数についても、この制限を受けない。
なお、通年科目の単位数は春学期の制限単位数に含まれる。

履修登録の方法
7　履修登録は、次の手続きによるものとする。
（1）　既に単位を修得した授業科目は、再履修できない。
（2）　同一時限に同時に開講されている授業科目は、重複して履修することができない。
（3）　抽選登録の指定がある授業科目は、所定の手続きを行い、その結果により履修登録をすること。
（4）　履修登録は、所定の方法に従って、指定の期日までに行うこと。
（5）　所定の方法によらない履修内容の変更、追加は原則として認めない。
（6）　履修登録をしていない場合、その授業科目の授業及び試験は受けることができない。

Ⅱ 共通科目
1. 新入生演習
履修及び単位の修得方法
1　経営学部規程第９条の別表Ⅰに掲げられている新入生演習は、１年次に全員履修するものとする。修得した単位は、卒業に必要な単位として認める。

2. 基本科目
履修及び単位の修得方法
1　経営学部規程第９条の別表Ⅰに掲げられている基本科目は、同第 10 条に定める履修方法にしたがって、12 単位以上を修得すること。
キャリアデザイン論は１年次に全員履修とする。
2　外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された学生は、日本事情１・２・３・４を含めて、合計 12 単位以上を修得すること。

授業科目の区別
3　授業科目のうちで、A、B、C 等の区別があるものは、そのいずれか一つだけについて履修することができる。

クラス指定
4　年次または学科・組別等の指定がある場合は、それに従うこと。

3. 外国語科目
履修及び単位の修得方法
1　経営学部規程第９条の別表Ⅰに掲げられている外国語科目は、同第 10 条に定める履修方法にしたがって、英語・ドイツ語・フランス語及び中国語の中から６単位を原則として第１年次及び第２年次において修得すること。
なお、上記６単位を超えて修得する外国語科目は、第 10 条に規定されている範囲でこれを卒業に必要な単位として認める。

外国人留学生及び帰国生徒
2　外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された学生は、指定の日本語 (日本語読解中級１・2、日本語聴解中級１・2、日本語読解上級１・2)6 単位を原則として第１年次及び第２年次において修得すること。
なお、英語、ドイツ語、フランス語及び中国語の単位を修得した場合は、経営学部規程第 10 条に規定されている範囲でこれを卒業に必要な単位として認める。

再履修の方法
3　単位を修得できなかった外国語については、指定のクラスで再履修すること。

抽選登録
4　授業科目のうち抽選登録の指定があるものは、手続き及び日程等に注意し、所定の抽選登録を行い、その結果により履修登録をすること。

クラス指定
5　年次または学科・組別等の指定がある場合は、それに従うこと。
6　学科共通履修細則の外国語科目の項を参照すること。

4. 体育科目
履修及び単位の修得方法
1　経営学部規程第９条の別表Ⅰに掲げられている体育科目は、２単位以上を修得すること。
2　年次または学科・組別等の指定がある場合には、それに従うこと。
3　実技科目は、手続き及び日程等に注意し、所定の抽選登録を行い、その結果により履修登録をすること。
4　学科共通履修細則の体育科目の項を参照すること。

5. 総合科目
履修及び単位の修得方法
1　経営学部規程第９条の別表Ⅰに掲げられている総合科目は、「追大 UI 科目」についてはすべての単位を、「追大プロジェクト科目」については、最大８単位まで、「国際交流科目」「放送大学の科目を修得した場合及び資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合」及び「大学コンソーシアム大阪単位互換協定により単位を修得した場合」は、各々最大４単位を卒業に必要な単位として認める。
2　学科共通履修細則の総合科目の項を参照すること。

Ⅲ 学科科目
履修及び単位の修得方法
1　経営学部規程第９条の別表Ⅰに掲げられている学科科目は、同第 10 条に定める履修方法にしたがって、次のとおり履修し、所定の単位を修得すること。
①　必修の学科科目は、学科基礎分野の指定科目 (経営学概論１・2、入門簿記・初級簿記、ビジネス法基礎１・2、情報リテラシー１・2)16 単位及び演習分野 (基礎演習１・2、発展演習１・2、卒業演習１・2)12 単位を指定年次に修得すること。
②　選択必修の学科科目は、指定の学科基礎科目 (経営管理論１・2、経営倫理・経営組織、会計学原理 1･2、原価計算論 1･2、民法 (総則)･民法 (物権法)、商法 (総則・商行為)・会社法 1) から２セット８単位以上を修得すること。
③　選択必修及び選択の学科科目は、合計 48 単位以上を修得すること。
④　選択の学科科目のうち、国際マーケティング、情報マーケティング、起業マーケティング、ビジネス心理、マーケティング特殊講義及び地域経済論の分野については、合わせて 30 単位までを卒業に必要な単位として認める。

授業科目の区別
2　授業科目のうちで、A、B、C 等の区別があるものは、そのいずれか一つだけについて履修することができる。

クラス指定
3　年次または学科・組別等の指定がある場合は、それに従うものとする。
4　次の授業科目は、指定の先修科目の単位を修得しなければ履修できない。

授業科目	単位数	先修科目	単位数
経営実務英語３	2	経営実務英語１ 経営実務英語２ 経営外国文献講読１ 経営外国文献講読２	合計４
経営実務英語４	2	経営実務英語１ 経営実務英語２ 経営外国文献講読１ 経営外国文献講読２	合計４
発展演習１	2	基礎演習１又は基礎演習２(他)	合計 44
発展演習２	2	基礎演習１又は基礎演習２(他)	合計 44
卒業演習１	2	基礎演習１及び基礎演習２ 発展演習１又は発展演習２	6
卒業演習２	2	基礎演習１及び基礎演習２ 発展演習１又は発展演習２	6

Ⅳ 副専攻科目
1　所属学部以外の科目や特定の分野に関する科目を系統的に学ぶことで、基礎知識を確立し、学術的見地から考察できる能力や実践的応用力を身につけるために副専攻を開設する。
2　詳細については、学科共通履修細則を参照すること。

マーケティング学科履修細則

Ⅰ 一般的事項

履修関係諸規則

1　履修にあたっては、各自が主体的に決定し、所定の履修登録をすること。

（1）　学則・経営学部規程・履修細則・開講科目表などを熟読すること。

（2）　カリキュラムの全体像を把握すること。

（3）　講義内容要旨を熟読して、主体的に学修計画を立てること。

（4）　時間割作成の手引きをもとに履修科目を決めること。

（5）　経営学部が定めるとおりに履修登録をすること。

（6）　オリエンテーションに必ず出席すること。

履修に関する諸規則

関係諸規則		概要
学則	第 10 条～第 14 条	授業科目・単位数・履修方法
経営学部規程	第 6 条～第 11 条	授業科目・履修方法
	第 17 条	単位の計算
	第 19 条	履修の制限
	第 20 条	履修の届出
	第 21 条～第 23 条	科目修了の認定

教職課程に関する規程	教育職員免許法の定めにより、教諭免許を得ようとする者を対象にしている。
博物館学芸員資格取得に関する履修規程	博物館法の定めにより、学芸員の資格を得ようとする者を対象にしている。
社会教育主事の資格取得に関する規程	社会教育法の定めにより、社会教育主事となる資格を得ようとする者を対象にしている。
レクリエーション・インストラクターの資格取得に関する規程	（財）日本レクリエーション協会の定めるところにより、レクリエーション・インストラクターとなる資格を得ようとする者を対象にしている。

教育課程と学修計画

2　経営学部のカリキュラムは、学修の指針になるように編成されている。

（1）　授業科目は、学科科目･新入生演習･基本科目･外国語科目･体育科目･総合科目･副専攻科目から構成されている。

（2）　教育課程により、必修科目・選択科目・自由科目に区分されている。

（3）　授業科目は、履修指針になるよう基礎・基幹・展開として 4 年間に配分されている。

（4）　各自の学修計画にそって、各学科ごとに定められた授業科目を履修すること。

（5）　必ず授業に出席し、主体的に予習・復習を行い、科目修了の認定を受けて、単位を必ず修得すること。

（6）　社会への適応力を向上させるため、資格取得科目が設けられている。

演習の選択

3　第 2 年次に基礎演習 1 及び基礎演習 2 を修得し、第 3 年次に発展演習 1 及び発展演習 2、第 4 年次に卒業演習 1 及び卒業演習 2 を履修すること。

尚、基礎演習 1 及び基礎演習 2 の選択は第 1 年次の秋学期に行う。

発展演習の履修資格

4　発展演習 1 及び発展演習 2 を履修するためには、次の条件を充足していなければならない。

①　基礎演習 1 又は基礎演習 2 のいずれか 2 単位を修得していること。

②　上記（1）の基礎演習 1 又は基礎演習 2 を含めて、学科科目・新入生演習・基本科目・外国語科目・体育科目・総合科目・副専攻科目の中から、合計 44 単位以上を修得していること。

卒業演習の履修資格

5　卒業演習 1 及び卒業演習 2 は、第 4 年次の配当とし、基礎演習 1 及び基礎演習 2 合わせて 4 単位を修得し、発展演習 1 又は発展演習 2 のいずれか 2 単位を修得しなければ履修できない。

履修単位制限

6　各学年次において履修できる単位数は、次のとおりとする。

年　　次	第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次	
学　　期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
セメスター	第 1	第 2	第 3	第 4	第 5	第 6	第 7	第 8
制限単位数	25	25	25	25	25	25	30	30
編　入　生					35	35	35	35

ただし、総合科目のうち国際交流科目、別に定める放送大学の科目を修得した場合、別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合及び大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位数については、上記の制限を受けない。

また、資格取得に関する授業科目等のうち、卒業要件とならない授業科目の単位数についても、この制限を受けない。

なお、通年科目の単位数は春学期の制限単位数に含まれる。

履修登録の方法

7　履修登録は、次の手続きによるものとする。

（1）　既に単位を修得した授業科目は、再履修できない。

（2）　同一時限に同時に開講されている授業科目は、重複して履修することができない。

（3）　抽選登録の指定がある授業科目は、所定の手続きを行い、その結果により履修登録をすること。

（4）　履修登録は、所定の方法に従って、指定の期日までに行うこと。

（5）　所定の方法によらない履修内容の変更、追加は原則として認めない。

（6）　履修登録をしていない場合、その授業科目の授業及び試験は受けることができない。

Ⅱ 共通科目

1. 新入生演習

履修及び単位の修得方法

1　経営学部規程第 9 条の別表Ⅰに掲げられている新入生演習は、1 年次に全員履修するものとする。修得した単位は、卒業に必要な単位として認める。

2. 基本科目

履修及び単位の修得方法

1　経営学部規程第 9 条の別表Ⅰに掲げられている基本科目は、同第 10 条に定める履修方法にしたがって、12 単位以上を修得すること。

キャリアデザイン論は、1 年次に全員履修とする。

2　外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された学生は、日本事情 1・2・3・4 を含めて、合計 12 単位以上を修得すること。

授業科目の区別

3　授業科目のうちで、A、B、C 等の区別があるものは、そのいずれか一つだけについて履修することができる。

クラス指定

4　年次または学科・組別等の指定がある場合は、それに従うこと。

3. 外国語科目

履修及び単位の修得方法

1　経営学部規程第 9 条の別表Ⅰに掲げられている外国語科目は、同第 10 条に定める履修方法にしたがって、英語・ドイツ語・フランス語及び中国語の中から 6 単位を原則として第 1 年次及び第 2 年次において修得すること。

なお、上記 6 単位を超えて修得する外国語科目は、第 10 条に規定されている範囲でこれを卒業に必要な単位として認める。

外国人留学生及び帰国生徒

2　外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された学生は、指定の日本語 (日本語読解中級 1・2、日本語聴解中級 1・2、日本語読解上級 1・2)6 単位を原則として第 1 年次及び第 2 年次において修得すること。

なお、英語、ドイツ語、フランス語及び中国語の単位を修得した場合は、経営学部規程第 10 条に規定されている範囲でこれを卒業に必要な単位として認める。

再履修の方法

3　単位を修得できなかった外国語については、指定のクラスで再履修すること。

抽選登録

4　授業科目のうち抽選登録の指定があるものは、手続き及び日程等に注意し、所定の抽選登録を行い、その結果により履修登録をすること。

クラス指定

5　年次または学科・組別等の指定がある場合は、それに従うこと。

6　学科共通履修細則の外国語科目の項を参照すること。

4. 体育科目

履修及び単位の修得方法

1　経営学部規程第 9 条の別表Ⅰに掲げられている体育科目は、2 単位以上を修得すること。

2　年次または学科・組別等の指定がある場合には、それに従うこと。

3　実技科目は、手続き及び日程等に注意し、所定の抽選登録を行い、その結果により履修登録をすること。

4　学科共通履修細則の体育科目の項を参照すること。

5. 総合科目

履修及び単位の修得方法

1　経営学部規程第 9 条の別表Ⅰに掲げられている総合科目は、「追大 UI 科目」についてはすべての単位を、「追大プロジェクト科目」については、最大 8 単位まで、「国際交流科目」「放送大学の科目を修得した場合及び資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合」及び「大学コンソーシアム大阪単位互換協定により単位を修得した場合」は、各々最大 4 単位を卒業に必要な単位として認める。

2　学科共通履修細則の総合科目の項を参照すること。

Ⅲ 学科科目

履修及び単位の修得方法

1　経営学部規程第 9 条の別表Ⅰに掲げられている学科科目は、同第 10 条に定める履修方法にしたがって、次のとおり履修し、所定の単位を修得すること。

①　必修の学科科目は、学科基礎分野の指定科目 (経営学概論 1・2、入門簿記・初級簿記、ビジネス法基礎 1・2、情報リテラシー 1・2)16 単位及び演習分野 (基礎演習 1・2、発展演習 1・2、卒業演習 1・2)12 単位を指定年次に修得すること。

②　選択必修の学科科目は、指定の学科基礎科目 (国際経営論 1・2、産業心理学概論 1・2、経営数学 1・2、情報科学概論 1・2、経営倫理・経営組織、マーケティング論 1・2、心理解析法 1・2) から 2 セット 8 単位以上を修得すること。

③　選択必修の学科科目は、合計 48 単位以上を修得すること。

④　選択の学科科目のうち、経営学、会計学、法学、経営特殊講義及び経済学の分野については、合わせて 30 単位までを卒業に必要な単位として認める。

授業科目の区別

2　授業科目のうちで、A、B、C 等の区別があるものは、そのいずれか一つだけについて履修することができる。

クラス指定

3　年次または学科・組別等の指定がある場合は、それに従うものとする。

4　次の授業科目は、指定の先修科目の単位を修得しなければ履修できない。

授業科目	単位数	先修科目	単位数
経営実務英語 3	2	経営実務英語 1 経営実務英語 2 経営外国文献講読 1 経営外国文献講読 2	合計 4
経営実務英語 4	2	経営実務英語 1 経営実務英語 2 経営外国文献講読 1 経営外国文献講読 2	合計 4
発展演習 1	2	基礎演習 1 又は基礎演習 2(他)	合計 44
発展演習 2	2	基礎演習 1 又は基礎演習 2(他)	合計 44
卒業演習 1	2	基礎演習 1 及び基礎演習 2 発展演習 1 又は発展演習 2	6
卒業演習 2	2	基礎演習 1 及び基礎演習 2 発展演習 1 又は発展演習 2	6

Ⅳ 副専攻科目

1　所属学部以外の科目や特定の分野に関する科目を系統的に学ぶことで、基礎知識を確立し、学術的見地から考察できる能力や実践的応用力を身につけるために副専攻を開設する。

2　詳細については、学科共通履修細則を参照すること。

心理学部関連規程等

追手門学院大学心理学部規程

2006年3月13日
制定

（総則）
第1条　追手門学院大学学則（以下「学則」という。）に基づいて、追手門学院大学心理学部規程を次のように定める。

（学部・学科の目的）
第2条　心理学部に、心理学科を置く。
　心理学科では、幅広い教養的基礎のうえに、認知・脳科学系心理学、生涯発達・生涯教育系心理学、臨床系心理学、及び社会・犯罪系心理学にわたる心理学の基礎知識を学ばせるとともに、専門領域として、人の心のケアと福祉に関わるメンタルケア、人の生涯の発達と教育のサポートに関わるチャイルドサポート、又は企業に就職して種々の仕事に役立てるビジネスリサーチの各メジャーのいずれかを重点的に学ばせ、心理学の知識及び方法を様々な職業に生かし、自己実現をめざす豊かな人間性を持つ人材の育成を目的とする。

（定員）
第3条　本学部に置く学科の学生定員は、次のとおりとする。

学科	入学定員	編入学定員	収容定員
心理学科	200名	10名	820名
計	200名	10名	820名

（学年及び学期）
第4条　学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。
2　学年を分けて2学期とする。
　　春学期　4月1日から9月20日まで
　　秋学期　9月21日から翌年3月31日まで

（休業日）
第5条　休業日は、次のとおりとする。
（1）　日曜日
（2）　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
（3）　学院創立記念日（5月29日）
（4）　本学が定めた夏期、冬期及び春期休業日
2　前項第4号の休業期間は、本学学年暦による。
3　学長は、休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

（授業科目及び履修方法）
第6条　授業科目は、各学問の基本をなし、かつ幅広く深い教養・総合的な判断力・豊かな人間性を形成するための共通科目（新入生演習・基本科目・外国語科目・体育科目・総合科目）と、各学科の専門の学芸にかかわる学科科目及び資格取得に関する科目に区分する。

第7条　授業科目は、履修方法上の区分として、必修科目、選択科目（選択必修科目、選択科目）及び自由科目に分ける。
2　自由科目は、必修科目及び選択科目（選択必修科目、選択科目）以外の科目であり、卒業に必要な単位とはならない科目である。

第8条　心理学科の卒業に必要な単位数は、次表のとおりである。

学科	単位数
心理学科	124単位

　なお、共通科目及び学科科目の最低修得単位数は、心理学部規程並びに心理学科の履修細則に定める。

第9条　共通科目のうち、新入生演習は、1年生全員が履修するものとする。
2　共通科目のうち、基本科目は、16単位以上を修得するものとする。
3　共通科目のうち、外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語あるいは中国語の中から、4単位以上を修得するものとする。なお、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、外国語科目として日本語を修得しなければならない。
4　共通科目のうち、体育科目は、2単位以上を修得するものとする。
5　共通科目のうち、総合科目は、追大UI科目におけるすべての単位を、追大プロジェクト科目は最大8単位までを、国際交流科目においては、最大4単位までを卒業に必要な単位として認める。また、別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合においては、最大4単位までを卒業に必要な単位として認める。大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位においては、最大4単位までを卒業に必要な単位として認める。

第10条　学科科目は、必修科目及び選択科目（選択必修科目、選択科目）に分ける。なお、心理学科における学科科目の最低修得単位数は、次のとおりとする。

学科	単位数
心理学科	66単位

2　心理学科における学科科目及び単位数は、心理学科履修細則に定める。

第11条　その年度に開講する授業科目は、毎学年始めに発表する。

（教職課程）
第12条　卒業後中学校、高等学校の教員免許状の授与を受けようとする者のために教職課程を設ける。
2　教職課程の履修方法は、別に定める。

（学芸員、社会教育主事及びレクリエーション・インストラクターの資格取得）
第13条　卒業後、学芸員、社会教育主事及びレクリエーション・インストラクターとなる資格を得ようとする者は、これに必要な科目の単位を修得しなければならない。
2　履修方法は、別に定める。

（単位の計算）
第14条　授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目には45時間の学修を要することを標準とし、次の基準によるものとする。
（1）　講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。
（2）　外国語科目については、30時間の授業をもって1単位とする。
（3）　実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。
（4）　卒業論文については、4単位とする。

第15条　各授業科目に対する単位数は、学年の始めに発表する。

（1年間の授業期間）
第16条　1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

（履修の制限）
第17条　各学年次において履修できる単位数の制限は別に定める。

（履修の届出）
第18条　学生は、その年度に履修を希望する科目を所定の期日までに届け出なければならない。
2　履修登録手続をしない者は、当該科目の授業及び試験を受けることができない。

（科目修了の認定）
第19条　科目修了の認定は、試験によるほか、出席その他平素の成績を考慮して行う。
2　試験は、定期試験のほか随時に行うことがある。
3　成績評点は、100点を満点とし、60点以上を合格とする。
4　合格を得た科目に対して、所定の単位を与える。

第20条　原則として各科目とも出席すべき授業時数の3分の1以上欠席した者は、科目修了の認定を受けることができない。

第21条　科目修了の認定を得た科目に対しては、再度履修しても単位を与えない。

（追試験）
第22条　病気その他やむを得ない事由によって定期試験を受験できなかった者に対しては、願い出によって追試験を行う。なお、追試験については、別にこれを定める。

（追試験の受験料）
第23条　追試験の受験者は、別に定める受験料を納めなければならない。

（卒業及び学位）
第24条　本大学に4年以上在学し、所定の課程を修めた者をもって、卒業したものとする。
2　本大学を卒業した者には、次のとおり学位を授与する。
　　心理学部
　　心理学科　学士（心理学）

（入学）
第25条　入学の時期は、毎学年の始めとする。

第26条　入学は、検定によって決定する。
2　入学検定の方法は、別に定める。

第27条　入学を希望する者は、学科を指定しなければならない。

第28条　所定の期日までに定められた入学手続を履行しない者は、入学の許可を取り消す。

（編入学及び他大学からの転学）
第29条　編入学又は他の大学からの転学は、選考の上、これを許可することがある。
2　選考の方法は、別に定める。

第30条　前条により編入学又は転学を許可された者の修業年限は2年とし、在学年限は4年を超えることができない。

（転学部及び転学科）
第31条　本大学の他学部への転学部及び他学科への転学科は、欠員がある場合に限り、選考の上、第2年次又は第3年次の始めにおいて許可することがある。

（休学）
第 32 条　病気その他やむを得ない事由で引き続き六か月以上修学できない場合は、保証人連署の上、休学願を学部長に提出し、その許可を得て休学することができる。ただし、病気の場合は、医師の診断書を添えなければならない。
2　休学の期間は、引き続き 2 年を超えることができない。
3　休学の期間は、通算して 3 年を超えることができない。
4　休学の期間は、在学年数に算入しない。

第 33 条　休学の理由が消滅し、復学しようとするときは、復学願を学部長に提出し、その承認を得なければならない。

第 34 条　休学中は、授業料その他の学費を減免する。
2　前項により減免する授業料その他の学費及びその額は、別にこれを定める。

（退学）
第 35 条　退学しようとする者はその事由を具して保証人連署の上、学長に願い出て許可を受けなければならない。ただし病気の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

第 36 条　前条により退学した者又は除籍された者が同一の学科に再入学を願い出た時は、退学又は除籍後 2 年以内に限り、選考の上、許可することがある。ただし、第 58 条第 1 号の規定により除籍された者は、再入学を許可しない。

（他大学への入学及び転学）
第 37 条　他の大学へ入学又は転学を志望するときは、学長の許可を受けなければならない。

（委託生）
第 38 条　学校、官庁その他の公共団体から特定の学科目を指定して修学を委託されたときは、選考の上、委託生として入学を許可することがある。その履修した科目につき試験の上、証明書を交付するが、単位は与えない。

（科目等履修生）
第 39 条　本大学の学生以外の者で、特定の学科目を指定して履修を願い出る者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。
2　科目等履修生の履修科目は、当該年度 30 単位以内とする。

第 40 条　科目等履修生が、その履修した授業科目の試験を受け、合格した授業科目については、単位を与える。
2　科目等履修生に対しては、合格した授業科目につき願い出により、単位修得証明書を交付する。

（聴講生）
第 41 条　本大学の学生以外の者で、特定の授業科目を指定して聴講を願い出る者があるときは、選考の上、聴講生として入学を許可することがある。
2　聴講生の聴講科目は、当該年度 20 単位以内とする。

第 42 条　委託生及び聴講生に対しては、その履修した授業科目につき願い出により試験の上、証明書を交付する。ただし、単位は与えない。

（委託生、科目等履修生及び聴講生の入学資格）
第 43 条　委託生、科目等履修生及び聴講生の入学資格は、学則第 29 条の定めるところによる。

（研究生）
第 44 条　本学部において研究を希望する者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することがある。
2　研究生は、研修修了時に研究報告書を提出しなければならない。なお、願い出により研究証明書を交付する。ただし、単位は与えない。

（外国人特別学生）
第 45 条　外国人で、学則第 29 条に定める資格を有する者が、学則第 30 条によらないで、本邦所在の外国公館の推薦により入学を出願するときは、選考の上、外国人特別学生として入学を許可することがある。

第 46 条　外国人特別学生で、学則第 5 章に規定する科目修了の認定を受け、所定の課程を修めた者には、学位を授与する。

第 47 条　委託生、科目等履修生、聴講生、研究生及び外国人特別学生に関する規則は、学則及び本規程に定めるもののほか、別に定める。

（入学金及び授業料等）
第 48 条　本大学に入学を許可された者は、入学金及び所定の学費を納付しなければならない。

第 49 条　学生は、授業料その他所定の学費を納付しなければならない。

第 50 条　委託生は研修指導費、科目等履修生は履修料、聴講生は聴講料、研究生は研究指導費を納付しなければならない。

第 51 条　入学金、授業料、実験実習費、研修指導費、履修料、聴講料、研究指導費の金額及び徴収については別にこれを定める。

第 52 条　既納の入学金、授業料その他の学費、研修指導費、履修料、聴講料、審査料及び研究指導費は、いかなる事情があっても返付しない。

第 53 条　本大学に入学を許可された者が入学時に指定の期日までに入学辞退を申し出た場合は、前条の規定にかかわらず、その請求により授業料その他の学費を返付する。

（教授会及び委員会）
第 54 条　本学部に教授会及び必要に応じ各種委員会を置く。
2　教授会及び各種委員会に関する規程は、別に定める。

（表彰）
第 55 条　学生で特に他の学生の模範とすべき行為のあったときは、表彰することがある。

（懲戒）
第 56 条　学生で本大学の規則若しくは命令に違背し、又は学生の本分に反する行為のあったときは、その軽重に従ってこれを懲戒する。
2　懲戒は、戒告、停学及び退学とする。
3　前項の退学は、次の各号の一に該当する者について行う。
（1）　性行不良で改善の見込みがないと認められる者
（2）　本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

（退学）
第 57 条　学生で学力劣等にして成業の見込みがないと認められる者又は正当の理由がなく出席が常でない者は、これを退学させる。

（除籍）
第 58 条　学生が次の各号の一に該当する者は、これを除籍する。
（1）　在学 8 年を超える者
（2）　休学期間が通算 3 年を超える者
（3）　疾病その他の事故により成業の見込みがないと認められる者
（4）　授業料その他学費を督促しても納付しない者

（その他）
第 59 条　学則及びこの規程に定めのない事項については、教授会がこれを定める。

附　則
この規程は、2006 年 4 月 1 日から施行する。

附　則
この規程は、2007 年 4 月 1 日から施行する。

附　則
この規程は、2008 年 4 月 1 日から施行する。

附　則
この規程は、2008 年 4 月 1 日から施行する。

附　則
この規程は、2009 年 4 月 1 日から施行する。

心理学科履修細則

Ⅰ 一般的事項

1) 科目履修に関する基本的事項は、学則、心理学部規程、学科履修細則、学科共通履修細則及び教職課程･学芸員･社会教育主事･レクリエーションインストラクターの資格取得に関する規程等に掲げられている。これらを熟読の上、以下に述べる諸項目や各科目表・講義内容要旨等を参考にして、時間割作成の手引き及び各学科等の開講科目一覧表により、本学年度における履修科目を決定する事。
2) 同一時限に同時に開講されている科目は、重複して履修することができない。
3) 授業科目のうちで、A、B、C 等の区別のあるものは、そのいずれか一つを選択履修すること。
4) 各学期において履修することができる単位数の上限は、次のとおりとする。

年次		1 年		2 年		3 年		4 年	
学期		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
セメスター		第 1	第 2	第 3	第 4	第 5	第 6	第 7	第 8
単位数制限	2003 年度以降入学生	25	25	25	25	25	25	30	30
	編入学生					35	35	35	35

ただし、総合科目のうち、国際交流科目、別に定める放送大学の科目を修得した場合、別に定める資格・検定試験で一定の成績を修めた場合及び大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位については、この制限を受けない。
また、資格取得に関する科目等のうち、卒業要件とならない科目についてもこの制限を受けない。
なお、卒業論文は春学期の履修制限単位に含まれる。
履修登録を所定の方法に従って、指定の期日までに行うこと。この手続きをしない場合には、授業及び試験を受けることも、単位を修得することもできない。

Ⅱ 共通科目

1 新入生演習

1) 新入生演習は、1 年生全開が履修するものとする。修得した単位は、卒業要件単位として認める。
2) 心理学科開講科目表及び学科共通履修細則の新入生演習の項を参照すること。

2 基本科目

1) 基本科目は、16 単位以上を修得しなければならない。
なお、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された学生は、日本事情 1・2・3・4 を含めて 16 単位以上を修得しなければならない。
2) 16 単位を超えて修得した基本科目の単位は、卒業要件単位として認める。
3) 学科共通履修細則の基本科目の項を参照すること。

3 外国語科目

1) 外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語及び中国語の中から、4 単位以上を修得しなければならない。なお、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された学生は、外国語科目として日本語を修得しなければならない。
2) 4 単位を超えて修得した外国語科目の単位は、卒業要件単位として認める。
3) 学科共通履修細則の外国語科目の項を参照すること。

4 体育科目

1) 体育科目は、2 単位以上を修得しなければならない。
2) 2 単位を超えて修得した体育科目の単位は、卒業要件単位として認める。
3) 学科共通履修細則の体育科目の項を参照すること。

5 総合科目

1) 総合科目のうち、追大 UI 科目については全ての単位を、追大プロジェクト科目については最大 8 単位までを、国際交流科目、放送大学の科目を修得した場合及び資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合及び大学コンソーシアム大阪単位互換協定により単位を修得した場合、各々最大 4 単位までを卒業に必要な単位として認める。
2) 学科共通履修細則の総合科目の項を参照すること。

Ⅲ 学科科目

1) 心理学科における学科科目は、必修科目、選択必修科目及び選択科目に分かれる。また、学科科目には、学年指定のある科目があるので、心理学科開講科目表を参照し、所定の方法により単位を修得しなければならない。
2) 心理学科が開設する学科科目については、必修科目、選択必修科目及び卒業論文から 66 単位以上を修得しなければならない。
3) 選択科目については、心理学科開講科目表を参照すること。また、心理学科が開設する学科科目のうち、最低修得単位数 (66 単位) を超えて修得した科目の単位は、卒業要件単位として認める。

Ⅳ 卒業論文

1) 卒業論文は、選択科目 4 単位とする。心理学科第 4 年次に在学する者は、担当教員の指導のもとに、所定の手続きを経て、所定の期日までに卒業論文を提出することができる。
2) 卒業論文は、心理学科の専攻に関連する研究成果を選び、論述するものとする。
3) 卒業論文は、12,000 字以上とする。
4) 卒業論文は、12 月 15 日までに教務課に提出しなければならない。
なお、期日に遅れた者は受理しない。ただし、病気その他やむを得ない事情により期日までに提出できない者は、その理由を証する書面を添えて 12 月 15 日までに願い出た場合に限り、1 月 10 日を提出限度として延期を許可することがある。
5) 卒業論文の審査は論文審査及び口頭試問とし、複数の教員が担当する。
6) 卒業論文の審査に不合格の場合、あるいは提出しなかった場合には、次年度の春学期に提出することができる。この場合には、6 月 15 日までに卒業論文を教務課に提出しなければならない。
なお、期日に遅れた者は受理しない。ただし病気その他やむを得ない事情により期日までに提出できない者は、その理由を証する書面を添えて 6 月 15 日までに願い出た場合に限り、7 月 10 日を提出限度として延期を許可することがある。

別表Ⅰ　心理学科開講科目表

履修区分		科目	授業科目	単位 必修	単位 選択必修	単位 選択	配当年次 1	配当年次 2	配当年次 3	配当年次 4	要件
必修	学科科目	研究	卒業研究 1	2						○	4 単位
			卒業研究 2	2						○	
選択		論文	卒業論文			4				○	
全員履修	共通科目		新入生演習			2	○				
選択必修		基本科目	心理学科履修細則Ⅱ－2に従い、16 単位以上を修得すること。								学科履修細則及び学科共通履修細則参照
		外国語科目	英語・ドイツ語・フランス語・中国語の中から、4 単位以上を修得すること。								学科共通履修細則参照
		体育科目	2 単位以上を修得すること。								
選択必修	学科科目	総合科目	心理学の総合的理解		2		○	○	○	○	2 単位以上
			心理学総合科目 1		2			○	○	○	
			心理学総合科目 2		2			○	○	○	
		一般心理学系概論科目	人間学基礎論		2			○	○	○	14 単位以上
			家族の倫理学		2			○	○	○	
			倫理学概論 1		2			○	○	○	
			倫理学概論 2		2			○	○	○	
			心理学の歴史		2				○	○	
			心理学体系論		2				○	○	
			ジェンダーの人間学		2				○	○	
		認知・脳科学系概論科目	認知・脳科学入門		2		○	○	○	○	
			感覚心理学		2			○	○	○	
			認知心理学		2			○	○	○	
			生理心理学		2			○	○	○	
			生物行動学		2			○	○	○	
			認知神経心理学		2				○	○	
			感情心理学		2				○	○	
			環境心理学		2				○	○	
		生涯発達・生涯教育心理学系概論科目	生涯発達・生涯教育心理学入門		2		○	○	○	○	
			生涯発達心理学		2			○	○	○	
			教育心理学		2			○	○	○	
			子ども学		2			○	○	○	
			カウンセリング心理学		2			○	○	○	
			家族心理学		2			○	○	○	
			言語発達心理学		2				○	○	
			学校心理学		2				○	○	
			キャリアガイダンス		2				○	○	
		臨床心理学系概論科目	臨床心理学入門		2		○	○	○	○	
			臨床心理学基礎論		2			○	○	○	
			パーソナリティ心理学		2			○	○	○	
			生育史心理学		2			○	○	○	
			精神分析学		2			○	○	○	
			精神医学		2			○	○	○	
			心理療法		2			○	○	○	
			発達障害論		2			○	○	○	
			障害福祉心理学		2			○	○	○	
			介護心理学		2			○	○	○	
			遊戯療法論		2			○	○	○	
			メンタルヘルス論		2			○	○	○	
			心理検査学		2				○	○	
		社会・犯罪心理学系概論科目	社会・犯罪心理学入門		2		○	○	○	○	
			社会心理学		2			○	○	○	
			文化心理学		2			○	○	○	
			犯罪心理学		2			○	○	○	
			交通心理学		2			○	○	○	
			対人行動論		2			○	○	○	
			産業心理学		2			○	○	○	
			消費者行動論		2			○	○	○	
		特講	感覚心理学特講		2				○	○	2 単位以上
			認知心理学特講		2				○	○	
			認知神経心理学特講		2				○	○	
			生涯発達心理学特講 1		2				○	○	
			生涯発達心理学特講 2		2				○	○	
			生涯教育心理学特講		2				○	○	
			心理療法特講 1		2				○	○	
			心理療法特講 2		2				○	○	
			臨床心理面接特講 1		2				○	○	
			臨床心理面接特講 2		2				○	○	
			臨床心理査定特講 1		2				○	○	
			臨床心理査定特講 2		2				○	○	
			社会心理学特講		2				○	○	
			交通心理学特講		2				○	○	
			犯罪心理学特講		2				○	○	
		ライフスタイル演習	ライフスタイル演習 1		2		○				2 単位以上
			ライフスタイル演習 2		2			○			

履修区分		科目	授業科目	単位 必修	単位 選択必修	単位 選択	配当年次 1	配当年次 2	配当年次 3	配当年次 4	要件
選択必修	学科科目	演習系	感覚心理学演習		2			○	○	○	2 単位以上
			認知心理学演習		2			○	○	○	
			認知神経心理学演習		2			○	○	○	
			生涯発達心理学演習１		2			○	○	○	
			生涯発達心理学演習２		2			○	○	○	
			生涯教育心理学演習１		2			○	○	○	
			生涯教育心理学演習２		2			○	○	○	
			臨床心理面接演習１		2			○	○	○	
			臨床心理面接演習２		2			○	○	○	
			臨床心理査定演習		2			○	○	○	
			社会心理学演習		2			○	○	○	
			交通心理学演習		2			○	○	○	
			犯罪心理学演習		2			○	○	○	
		特殊演習	特殊演習１		2			○			2 単位以上
			特殊演習２		2				○		
		実践演習	心理現場へのインターンシップ		2				○	○	2 単位以上
			メンタルケア演習		2				○	○	
			チャイルドサポート演習		2				○	○	
			ビジネスリサーチ演習		2				○	○	
		研究法・技法	心理統計法		2		○	○	○	○	6 単位以上
			レポート・論文の書き方		2			○	○	○	
			プリゼンテーション法		2			○	○	○	
			心理測定法		2			○	○	○	
			心理学的データ解析		2			○	○	○	
			心理学研究法		2			○	○	○	
			面接調査法		2			○	○	○	
			実験心理学演習		2			○	○	○	
		研究法・技法	心理検査法演習１		2				○	○	6 単位以上
			心理検査法演習２		2				○	○	
			心理療法演習１		2				○	○	
			心理療法演習２		2				○	○	
			心理療法演習３		2				○	○	
		講読	感覚心理学講読		2		○	○	○	○	2 単位以上
			認知心理学講読		2				○	○	
			認知神経心理学講読		2		○	○	○	○	
			生涯発達心理学講読		2		○	○	○	○	
			生涯教育心理学講読		2				○	○	
			臨床心理基礎論講読		2		○	○	○	○	
			臨床心理学面接講読１		2		○	○	○	○	
			臨床心理学面接講読２		2		○	○	○	○	
			心理療法講読		2				○	○	
			臨床心理技法講読		2				○	○	
			社会心理学講読		2				○	○	
			交通心理学講読		2				○	○	
			犯罪心理学講読		2		○	○	○	○	
上記の学科科目中から６６単位以上											
選択	学科科目	他学部開講科目	現代文化論			2			○	○	
			現代社会論			2			○	○	
			歴史社会学			2			○	○	
			メディア文化史			2		○	○	○	
			メディア環境論			2			○	○	
			支配と抵抗の社会学			2			○	○	
			宗教文化論			2		○	○	○	
			サブカルチャー論			2		○	○	○	
			コミュニケーション論			2	○	○	○	○	
			コミュニケーションの社会学			2		○	○	○	
			スポーツ社会学			2		○	○	○	
			社会学史			2			○	○	
			社会学理論			2			○	○	
			家族文化論			2		○	○	○	
			家族社会学			2		○	○	○	
			ジェンダーの社会学			2			○	○	
			環境倫理学			2		○	○	○	
			都市文化論			2			○	○	
			文化人類学			2			○	○	
			基礎生態学			2			○	○	
			生態・環境論			2			○	○	
			人間関係論			2		○	○	○	
			社会福祉概論１			2		○	○	○	
			社会福祉概論２			2		○	○	○	
			老人福祉論			2		○	○	○	
			障害学			2		○	○	○	
			児童福祉論			2		○	○	○	
			地域福祉論			2		○	○	○	
			現代文化の諸相			2	○	○	○	○	
			モードとスタイル			2	○	○	○	○	
			映像文化論			2		○	○	○	
			ポップカルチャー			2		○	○	○	
			路上観察学			2		○	○	○	
			ライフスタイル論			2		○	○	○	
			逸脱論			2		○	○	○	
			消費文化論			2		○	○	○	
			ライフコース論			2		○	○	○	
			福祉文化論			2		○	○	○	

履修区分		科目	授業科目	単位 必修	単位 選択必修	単位 選択	配当年次 1	配当年次 2	配当年次 3	配当年次 4	要件
選択	学科科目	他学部開講科目	アート環境論			2			○	○	
			身体文化論			2			○	○	
			エイジングの社会学			2			○	○	
			仕事と遊びの社会学			2			○	○	
			学校の社会学			2			○	○	
			組織論			2			○	○	
			ソーシャルワーク論			2			○	○	
			ＥＲＰビジネスプロセス１			2			○	○	
			ＥＲＰビジネスプロセス２			2			○	○	
			ＥＲＰビジネスプロセス演習１			2			○	○	
			ＥＲＰビジネスプロセス演習２			2			○	○	
	共通科目	基本科目（選択必修科目とする科目を除く）									学科共通履修細則参照
		外国語科目（選択必修科目とする科目を除く）									
		体育科目（選択必修科目とする科目を除く）									
		総合科目	追大ＵＩ科目はすべての単位を、追大プロジェクト科目は最大８単位までを、国際交流科目は最大４単位までを、放送大学の科目及び資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合、大学コンソーシアム大阪単位互換協定により単位を修得した場合は各最大４単位までを卒業要件単位として認める。							

社会学部関連規程等

追手門学院大学社会学部規程

2006年3月13日
制定

（総則）
第1条　追手門学院大学学則（以下「学則」という。）に基づいて、追手門学院大学社会学部規程を次のように定める。

（学部・学科の目的）
第2条　社会学部に、社会学科を置く。
　社会学科では、基礎的教養としての社会学的知見を理解し、常識にとらわれない社会学的なものの見方ができ、社会福祉マインドをもった、人間性豊かな自立した市民、職業人を育成することを目指すものである。現代社会が直面する重要な問題、課題を実践的に学び、現代の社会と文化のあり方を追求し、新しい人間と社会のあり方を構築することは今日の社会的要請である。このため、社会学の各専門分野にわたり学生に学ばせ、人間社会に対する優しさと厳しさをあわせ持つ健全な人間社会の構成員として活躍する人材の育成を目的とする。

（定員）
第3条　本学部に置く学科の学生定員は、次のとおりとする。

学科	入学定員	編入学定員	収容定員
社会学科	150名	7名	614名
計	150名	7名	614名

（学年及び学期）
第4条　学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。
2　学年を分けて2学期とする。
　春学期　4月1日から9月20日まで
　秋学期　9月21日から翌年3月31日まで

（休業日）
第5条　休業日は、次のとおりとする。
（1）　日曜日
（2）　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
（3）　学院創立記念日（5月29日）
（4）　本学が定めた夏期、冬期及び春期休業日
2　前項第4号の休業期間は、本学学年暦による。
3　学長は、休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

（授業科目及び履修方法）
第6条　授業科目は、各学問の基本をなし、かつ幅広く深い教養・総合的な判断力・豊かな人間性を形成するための共通科目（新入生演習・基本科目・外国語科目・体育科目・総合科目）と、各学科の専門の学芸にかかわる学科科目及び資格取得に関する科目に区分する。

第7条　授業科目は、履修方法上の区分として、必修科目、選択科目（選択必修科目、選択科目）及び自由科目に分ける。
2　自由科目は、必修科目及び選択科目（選択必修科目、選択科目）以外の科目であり、卒業に必要な単位とはならない科目である。

第8条　社会学科の卒業に必要な単位数は、次表のとおりである。

学科	単位数
社会学科	124単位

　なお、共通科目及び学科科目の最低修得単位数は、社会学部規程並びに社会学科の履修細則に定める。

第9条　共通科目のうち、新入生演習は、1年生全員が履修するものとする。
2　共通科目のうち、基本科目は、16単位以上を修得するものとする。
3　共通科目のうち、外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語あるいは中国語の中から、4単位以上を修得するものとする。なお、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、外国語科目として日本語を修得しなければならない。
4　共通科目のうち、体育科目は、2単位以上を修得するものとする。
5　共通科目のうち、総合科目は、追大UI科目におけるすべての単位を、追大プロジェクト科目においては最大8単位までを、国際交流科目においては最大4単位までを卒業に必要な単位として認める。また、別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合においては、最大4単位までを卒業に必要な単位として認める。大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位においては、最大4単位までを卒業に必要な単位として認める。

第10条　学科科目は、必修科目及び選択科目（選択必修科目、選択科目）に分ける。なお、社会学科における学科科目の最低修得単位数は、次のとおりとする。

学科	単位数
社会学科	66単位

2　社会学科における学科科目及び単位数は、社会学科履修細則に定める。

第11条　その年度に開講する授業科目は、毎学年始めに発表する。

（教職課程）
第12条　卒業後中学校、高等学校の教員免許状の授与を受けようとする者のために教職課程を設ける。
2　教職課程の履修方法は、別に定める。

（学芸員、社会教育主事及びレクリエーション・インストラクターの資格取得）
第13条　卒業後、学芸員、社会教育主事及びレクリエーション・インストラクターとなる資格を得ようとする者は、これに必要な科目の単位を修得しなければならない。
2　履修方法は、別に定める。

（単位の計算）
第14条　授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目には45時間の学修を要することを標準とし、次の基準によるものとする。
（1）　講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。
（2）　外国語科目については、30時間の授業をもって1単位とする。
（3）　実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。
（4）　卒業論文については、6単位とする。

第15条　各授業科目に対する単位数は、学年の始めに発表する。

（1年間の授業期間）
第16条　1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

（履修の制限）
第17条　各学年次において履修できる単位数の制限は別に定める。

（履修の届出）
第18条　学生は、その年度に履修を希望する科目を所定の期日までに届け出なければならない。
2　履修登録手続をしない者は、当該科目の授業及び試験を受けることができない。

（科目修了の認定）
第19条　科目修了の認定は、試験によるほか、出席その他平素の成績を考慮して行う。
2　試験は、定期試験のほか随時に行うことがある。
3　成績評点は、100点を満点とし、60点以上を合格とする。
4　合格を得た科目に対して、所定の単位を与える。

第20条　原則として各科目とも出席すべき授業時数の3分の1以上欠席した者は、科目修了の認定を受けることができない。

第21条　科目修了の認定を得た科目に対しては、再度履修しても単位を与えない。

（追試験）
第22条　病気その他やむを得ない事由によって定期試験を受験できなかった者に対しては、願い出によって追試験を行う。なお、追試験については、別にこれを定める。

（追試験の受験料）
第23条　追試験の受験者は、別に定める受験料を納めなければならない。

（卒業及び学位）
第24条　本大学に4年以上在学し、所定の課程を修めた者をもって、卒業したものとする。
2　本大学を卒業した者には、次のとおり学位を授与する。
　社会学部
　　社会学科　学士（社会学）

（入学）
第25条　入学の時期は、毎学年の始めとする。

第26条　入学は、検定によって決定する。
2　入学検定の方法は、別に定める。

第27条　入学を希望する者は、学科を指定しなければならない。

第28条　所定の期日までに定められた入学手続を履行しない者は、入学の許可を取り消す。

（編入学及び他大学からの転学）
第29条　編入学又は他の大学からの転学は、選考の上、これを許可することがある。
2　選考の方法は、別に定める。

第30条　前条により編入学又は転学を許可された者の修業年限は2年とし、在学年限は4年を超えることができない。

（転学部及び転学科）
第31条　本大学の他学部への転学部及び他学科への転学科は、欠員がある場合に限り、選考の上、第2年次又は第3年次の始めにおいて許可することがある。

（休学）
第 32 条　病気その他やむを得ない事由で引き続き六か月以上修学できない場合は、保証人連署の上、休学願を学部長に提出し、その許可を得て休学することができる。ただし、病気の場合は、医師の診断書を添えなければならない。
2　休学の期間は、引き続き 2 年を超えることができない。
3　休学の期間は、通算して 3 年を超えることができない。
4　休学の期間は、在学年数に算入しない。

第 33 条　休学の理由が消滅し、復学しようとするときは、復学願を学部長に提出し、その承認を得なければならない。

第 34 条　休学中は、授業料その他の学費を減免する。
2　前項により減免する授業料その他の学費及びその額は、別にこれを定める。

（退学）
第 35 条　退学しようとする者はその事由を具して保証人連署の上、学長に願い出て許可を受けなければならない。ただし病気の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

第 36 条　前条により退学した者又は除籍された者が同一の学科に再入学を願い出たときは、退学又は除籍後 2 年以内に限り、選考の上、許可することがある。ただし、第 58 条第 1 号の規定により除籍された者は、再入学を許可しない。

（他大学への入学及び転学）
第 37 条　他の大学へ入学又は転学を志望するときは、学長の許可を受けなければならない。

（委託生）
第 38 条　学校、官庁その他の公共団体から特定の学科目を指定して修学を委託されたときは、選考の上、委託生として入学を許可することがある。その履修した科目につき試験の上、証明書を交付するが、単位は与えない。

（科目等履修生）
第 39 条　本大学の学生以外の者で、特定の学科目を指定して履修を願い出る者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。
2　科目等履修生の履修科目は、当該年度 30 単位以内とする。

第 40 条　科目等履修生が、その履修した授業科目の試験を受け、合格した授業科目については、単位を与える。
2　科目等履修生に対しては、合格した授業科目につき願い出により、単位修得証明書を交付する。

（聴講生）
第 41 条　本大学の学生以外の者で、特定の授業科目を指定して聴講を願い出る者があるときは、選考の上、聴講生として入学を許可することがある。
2　聴講生の聴講科目は、当該年度 20 単位以内とする。

第 42 条　委託生及び聴講生に対しては、その履修した授業科目につき願い出により試験の上、証明書を交付する。ただし、単位は与えない。

（委託生、科目等履修生及び聴講生の入学資格）
第 43 条　委託生、科目等履修生及び聴講生の入学資格は、学則第 29 条の定めるところによる。

（研究生）
第 44 条　本学部において研究を希望する者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することがある。
2　研究生は、研修修了時に研究報告書を提出しなければならない。なお、願い出により研究証明書を交付する。ただし、単位は与えない。

（外国人特別学生）
第 45 条　外国人で、学則第 29 条に定める資格を有する者が、学則第 30 条によらないで、本邦所在の外国公館の推薦により入学を出願するときは、選考の上、外国人特別学生として入学を許可することがある。

第 46 条　外国人特別学生で、学則第 5 章に規定する科目修了の認定を受け、所定の課程を修めた者には、学位を授与する。

第 47 条　委託生、科目等履修生、聴講生、研究生及び外国人特別学生に関する規則は、学則及び本規程に定めるもののほか、別に定める。

（入学金及び授業料等）
第 48 条　本大学に入学を許可された者は、入学金及び所定の学費を納付しなければならない。

第 49 条　学生は、授業料その他所定の学費を納付しなければならない。

第 50 条　委託生は研修指導費、科目等履修生は履修料、聴講生は聴講料、研究生は研究指導費を納付しなければならない。

第 51 条　入学金、授業料、実験実習費、研修指導費、履修料、聴講料、研究指導費の金額及び徴収については別にこれを定める。

第 52 条　既納の入学金、授業料その他の学費、研修指導費、履修料、聴講料、審査料及び研究指導費は、いかなる事情があっても返付しない。

第 53 条　本大学に入学を許可された者が入学時に指定の期日までに入学辞退を申し出た場合は、前条の規定にかかわらず、その請求により授業料その他の学費を返付する。

（教授会及び委員会）
第 54 条　本学部に教授会及び必要に応じ各種委員会を置く。
2　教授会及び各種委員会に関する規程は、別に定める。

（表彰）
第 55 条　学生で特に他の学生の模範とすべき行為のあったときは、表彰することがある。

（懲戒）
第 56 条　学生で本大学の規則若しくは命令に違背し、又は学生の本分に反する行為のあったときは、その軽重に従ってこれを懲戒する。
2　懲戒は、戒告、停学及び退学とする。
3　前項の退学は、次の各号の一に該当する者について行う。
（1）　性行不良で改善の見込みがないと認められる者
（2）　本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

（退学）
第 57 条　学生で学力劣等にして成業の見込みがないと認められる者又は正当の理由がなく出席が常でない者は、これを退学させる。

（除籍）
第 58 条　学生が次の各号の一に該当する者は、これを除籍する。
（3）　在学 8 年を超える者
（4）　休学期間が通算 3 年を超える者
（5）　疾病その他の事故により成業の見込みがないと認められる者
（6）　授業料その他学費を督促しても納付しない者

（その他）
第 59 条　学則及びこの規程に定めのない事項については、教授会がこれを定める。

附　則
この規程は、2006 年 4 月 1 日から施行する。

附　則
この規程は、2007 年 4 月 1 日から施行する。

附　則
この規程は、2008 年 4 月 1 日から施行する。

附　則
この規程は、2009 年 4 月 1 日から施行する。

附　則
この規程は、2011 年 4 月 1 日から施行する。

社会学科履修細則

Ⅰ一般的事項

1) 科目履修に関する基本的事項は、学則、社会学部規程、学科履修細則、学科共通履修細則及び教職課程･学芸員･社会教育主事･レクリエーションインストラクターの資格取得に関する規程等に掲げられている。これらを熟読の上、以下に述べる諸項目や各科目表・講義内容要旨等を参考にして、時間割作成の手引き及び科目表により、本学年度における履修科目を決定すること。
2) 同一時限に同時に開講されている科目は、重複して履修することができない。
3) 授業科目のうちで、A、B、C 等の区別のあるものは、そのいずれか一つを選択履修すること。
4) 各学期において履修することができる単位数の上限は、次のとおりとする。

年次		1 年		2 年		3 年		4 年	
学期		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
セメスター		第 1	第 2	第 3	第 4	第 5	第 6	第 7	第 8
単位数制限	2003 年度以降入学生	25	25	25	25	25	25	30	30
	編入学生					35	35	35	35

ただし、総合科目のうち、国際交流科目、別に定める放送大学の科目を修得した場合、別に定める資格・検定試験で一定の成績を修めた場合及び大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位については、この制限を受けない。

また、資格取得に関する科目等のうち、卒業要件とならない科目についてもこの制限を受けない。

なお、卒業論文は春学期の履修制限単位に含まれる。

5) 履修登録を所定の方法に従って、指定の期日までに行うこと。この手続をしない場合には、授業及び試験を受けることも、単位を修得することもできない。

Ⅱ共通科目

1　新入生演習

1) 新入生演習は、1 年生全員が履修するものとする。修得した単位は、卒業要件単位として認める。
2) 社会学科科目表及び学科共通履修細則の新入生演習の項を参照すること。

2　基本科目

1) 基本科目は、16 単位以上を修得しなければならない。
なお、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された学生は、日本事情 1･2･3･4 を含めて 16 単位以上を修得しなければならない。
2) 16 単位を超えて修得した基本科目の単位は、卒業要件単位として認める。
3) 学科共通履修細則の基本科目の項を参照すること。

3　外国語科目

1) 外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語及び中国語の中から、4 単位以上を修得しなければならない。なお、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された学生は、外国語科目として日本語を修得しなければならない。
2) 4 単位を超えて修得した外国語科目の単位は、卒業要件単位として認める。
3) 学科共通履修細則の外国語科目の項を参照すること。

4　体育科目

1) 体育科目は、2 単位以上を修得しなければならない。
2) 2 単位を超えて修得した体育科目の単位は、卒業要件単位として認める。
3) 学科共通履修細則の体育科目の項を参照すること。

5　総合科目

1) 総合科目のうち、追大 UI 科目については全ての単位を、追大プロジェクト科目については最大 8 単位までを、国際交流科目、放送大学の科目を修得した場合及び資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合、大学コンソーシアム大阪単位互換協定により単位を修得した場合は、各々最大 4 単位までを卒業要件単位として認める。
2) 学科共通履修細則の総合科目の項を参照すること。

Ⅲ学科科目

1) 社会学科における学科科目は、必修科目、選択必修科目及び選択科目に分かれる。また、学科科目には、学年指定のある科目があるので、社会学科科目表を参照し、所定の方法により単位を修得しなければならない。
2) 社会学科が開設する学科科目については､66 単位以上を修得しなければならない。
3) 必修科目には表現演習、基礎演習 1、基礎演習 2、専門演習 1、専門演習 2、卒論演習 1、卒論演習 2 及び卒業論文がある。
4) 選択必修科目（入門科目、実践科目、理論科目、現代文化群、人間関係群および社会環境群）は、46 単位以上を修得しなければならない。科目の配当年次については、社会学科科目表を参照すること。
5) 選択科目については、社会学科科目表を参照すること。また、社会学科が開設する学科科目のうち、最低修得単位数 (66 単位) を超えて修得した科目の単位は、卒業要件単位として認める。

Ⅳ卒業論文

1) 卒業論文は、必修科目 6 単位とする。社会学科第 4 年次に在学する者は、担当教員の指導のもとに、所定の手続を経て、所定の期日までに卒業論文を提出しなければならない。
2) 卒業論文は、社会学科の専攻に関連する研究成果を選び、論述するものとする。
3) 卒業論文は、A4 判の用紙を用い、400 字 30 枚以上 (ワープロの場合は、800 字 15 枚以上) とする。
4) 卒業論文は、12 月 15 日までに教務課に提出しなければならない。
なお、期日に遅れた者は受理しない。ただし、病気その他やむを得ない事情により期日までに提出できない者は、その理由を証する書面を添えて 12 月 15 日までに願い出た場合に限り、1 月 10 日を提出限度として延期を許可することがある。
5) 卒業論文の審査は論文審査及び口頭試問とし、複数の教員が担当する。
6) 卒業論文の審査に不合格の場合、あるいは提出しなかった場合には、次年度の春学期に提出することができる。この場合には、6 月 15 日までに卒業論文を教務課に提出しなければならない。
なお、期日に遅れた者は受理しない。ただし、病気その他やむを得ない事情により期日までに提出できない者は、その理由を証する書面を添えて 6 月 15 日までに願い出た場合に限り、7 月 10 日を提出限度として延期を許可することがある。

別表Ⅰ

社会学科科目表

履修区分		科目	授業科目	単位	配当年次 1	2	3	4	備考
必修	学科科目	演習	表現演習	2	○				新入生演習と同じクラスを選択する。
			基礎演習１	2		○			指定クラス
			基礎演習２	2		○			
			専門演習１	2			○		指定クラス
			専門演習２	2			○		
			卒論演習１	2				○	指定クラス
			卒論演習２	2				○	
		論文	卒業論文	6				○	
全員履修	共通科目		新入生演習	2	○				指定クラス
		基本科目	社会学科履修細則Ⅱ－２に従い、１６単位以上を修得すること。						学科履修細則及び各学科共通履修細則参照
		外国語科目	英語・ドイツ語・フランス語・中国語						学科共通履修細則参照
		体育科目	２単位以上を修得すること。						
選択必修	学科科目	入門科目	文化と社会１	2	○	○	○	○	
			文化と社会２	2	○	○	○	○	
			現代文化の諸相	2	○	○	○	○	
			モードとスタイル	2	○	○	○	○	
			コミュニケーション論	2	○	○	○	○	
			社会のイメージ	2	○	○	○	○	
		実践科目	文化社会学演習	2		○	○	○	
			社会探偵学演習	2		○	○	○	
			人間学演習１	2		○	○	○	
			人間学演習２	2		○	○	○	
			生態学フィールドワーク１	2			○	○	
			生態学フィールドワーク２	2			○	○	
			自主企画演習１	2				○	
			自主企画演習２	2				○	
		理論科目	社会学的想像力	2		○	○	○	
			社会学的リテラシー	2		○	○	○	
			パラドックスの社会学	2			○	○	
			社会学史	2			○	○	
			社会学理論	2			○	○	
		現代文化群	メディア文化論	2		○	○	○	
			サブカルチャー論	2		○	○	○	
			映像文化論	2		○	○	○	
			路上観察学	2		○	○	○	
			消費文化論	2		○	○	○	
			ポップカルチャー	2		○	○	○	
			文化記号論	2		○	○	○	
			スポーツ社会学	2		○	○	○	
			文化社会学特殊講義１	2		○	○	○	
			文化社会学特殊講義２	2		○	○	○	
			現代文化論	2			○	○	
			メディア環境論	2			○	○	
			モノと技術の社会学	2			○	○	
			アート環境論	2			○	○	
			都市文化論	2			○	○	
			知識社会学	2			○	○	
		人間関係群	ライフスタイル論	2		○	○	○	
			コミュニケーションの社会学	2		○	○	○	
			逸脱論	2		○	○	○	
			家族文化論	2		○	○	○	
			家族社会学	2		○	○	○	
			ライフコース論	2		○	○	○	
			自己と感情の社会学	2		○	○	○	
			人間関係論	2		○	○	○	
			人間学	2		○	○	○	
			障害学	2		○	○	○	
			人権教育論	2		○	○	○	
			社会福祉学特殊講義１	2		○	○	○	
			社会福祉学特殊講義２	2		○	○	○	
			社会的行為論	2			○	○	
			身体文化論	2			○	○	
			ジェンダーの社会学	2			○	○	
			エイジングの社会学	2			○	○	
			支配と抵抗の社会学	2			○	○	
			仕事と遊びの社会学	2			○	○	
			人間形成論	2			○	○	
			児童福祉論	2			○	○	
			老人福祉論	2			○	○	

履修区分		科目	授業科目	単位	配当年次 1	2	3	4	備考
選択必修	学科科目	社会環境群	近代性の社会学	2		○	○	○	
			宗教文化論	2		○	○	○	
			学校の社会学	2		○	○	○	
			福祉文化論	2		○	○	○	
			地域福祉論	2		○	○	○	
			環境倫理学	2		○	○	○	
			社会問題論	2		○	○	○	
			現代社会特殊講義１	2		○	○	○	
			現代社会特殊講義２	2		○	○	○	
			現代社会論	2			○	○	
			組織論	2			○	○	
			ソーシャルワーク論	2			○	○	
			境界性の社会学	2			○	○	
			場所と移動の社会学	2			○	○	
			グローバル化の社会学	2			○	○	
			文化人類学	2			○	○	
			歴史社会学	2			○	○	
			基礎生態学	2			○	○	
			生態・環境論	2			○	○	
		上記の科目中から、４６単位以上を修得すること。							
選択	共通科目		基本科目	（選択必修科目とする科目を除く）					学科共通履修細則参照
			外国語科目	（選択必修科目とする科目を除く）					
			体育科目	（選択必修科目とする科目を除く）					
			総合科目	追大ＵＩ科目はすべての単位を、追大プロジェクト科目は最大８単位までを、国際交流科目、放送大学の科目及び資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合、大学コンソーシアム大阪単位互換協定により単位を修得した場合は、各々最大４単位までを卒業要件単位として認める。					
	学科科目		社会学概論１	2		○	○	○	
			社会学概論２	2		○	○	○	
			哲学概論１	2		○	○	○	
			哲学概論２	2		○	○	○	
			社会福祉概論１	2		○	○	○	
			社会福祉概論２	2		○	○	○	
			人間学基礎論	2		○	○	○	他学部科目
			家族の倫理学	2		○	○	○	
			生物行動学	2		○	○	○	
			認知心理学	2		○	○	○	
			生涯発達心理学	2		○	○	○	
			パーソナリティ心理学	2		○	○	○	
			カウンセリング心理学	2		○	○	○	
			臨床心理学基礎論	2		○	○	○	
			精神医学	2		○	○	○	
			心理療法	2		○	○	○	
			メンタルヘルス論	2		○	○	○	
			社会心理学	2		○	○	○	
			交通心理学	2		○	○	○	
			犯罪心理学	2		○	○	○	
			障害福祉心理学	2		○	○	○	
			介護心理学	2		○	○	○	
			教育心理学	2		○	○	○	
			子ども学	2		○	○	○	
			家族心理学	2		○	○	○	
			生育史心理学	2		○	○	○	
			発達障害論	2		○	○	○	
			文化心理学	2		○	○	○	
			地球環境論１	2			○	○	
			地球環境論２	2			○	○	

1. 上記の単位修得条件を満たした上で、学科科目の修得単位数が６６単位以上、かつ修得単位数の合計が１２４単位以上でなければならない。
2. 本学科の定める選択必修単位数を超えて修得した単位は、卒業要件単位として認める（ただし、「総合科目」のうち、追大プロジェクト科目は８単位までを、国際交流科目、放送大学の科目及び資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合、大学コンソーシアム大阪単位互換協定により単位を修得した場合は各々４単位まで）。

国際教養学部関連規程等

追手門学院大学国際教養学部規程

2007 年 3 月 13 日
制定

（総則）
第 1 条　追手門学院大学学則（以下「学則」という。）に基づいて、追手門学院大学国際教養学部規程を次のように定める。

（学部・学科の目的）
第 2 条　国際教養学部は、現代社会の理解と創造に役立つ情報文化と 21 世紀の国際社会に広く通用する国際語学を中心に教育を行い、生活基盤としての基礎教養文化（コモン・リベラル・アーツ）の上に、より多様化し複雑化する社会や文化に対する的確な理解及び情報の適切な選択と発信の能力を涵養し、もって現代に通用する生きた教養を備えた社会有為の人材の育成を目的とする。
2　国際教養学部に、アジア学科と英語コミュニケーション学科を置く。
　アジア学科では、1）中国語やアジア諸地域でコミュニケーションが可能な英語の実践力を有し、その他のアジア諸言語についても一定の知識をもつ人材、2）アジア諸地域に関する基礎知識のうえにフィールドワークなどの体験的・主体的学習を通じて、日本を含むアジア諸地域の社会と文化に深い理解を持ち、日本はもとより国際社会の多方面で活躍する教養人の育成を目的とする。
　英語コミュニケーション学科では、1）21 世紀の国際社会に広く通用する英語コミュニケーション能力を備えた人材、2）異文化コミュニケーション能力の育成と異文化交流の促進、キャリア形成や資格を目指す実践英語学習などを通じて、国際社会の多方面で活躍する表現力、行動力、判断力を兼ね備えた教養人の育成を目的とする。

（学科及び定員）
第 3 条　本学部に置く学科及び学生定員は、次のとおりとする。

学科	入学定員	編入学定員	収容定員
アジア学科	100 名	5 名	410 名
英語コミュニケーション学科	130 名	5 名	530 名
計	230 名	10 名	940 名

（学年及び学期）
第 4 条　学年は、4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。
2　学年を分けて 2 学期とする。
　春学期　4 月 1 日から 9 月 20 日まで
　秋学期　9 月 21 日から翌年 3 月 31 日まで

（休業日）
第 5 条　休業日は、次のとおりとする。
（1）　日曜日
（2）　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日
（3）　学院創立記念日（5 月 29 日）
（4）　本学が定めた夏期、冬期及び春期休業日
2　前項第 4 号の休業期間は本学学年暦による。
3　学長は、休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

（授業科目及び履修方法）
第 6 条　授業科目は、各学問の基本をなし、かつ幅広く深い教養・総合的な判断力・豊かな人間性を形成するための共通科目（新入生演習・基本科目・外国語科目・体育科目・総合科目）と、各学科の専門の学芸にかかわる学科科目及び資格取得に関する科目に区分する。
2　前項とは別に副専攻科目を設ける。副専攻科目については、別に定める。

第 7 条　授業科目は、履修方法上の区分として、必修科目、全員履修科目、選択科目（選択必修科目、選択科目）及び自由科目に分ける。
2　自由科目は、必修科目及び選択科目（選択必修科目、選択科目）以外の科目であり、卒業要件単位とはならない科目である。

第 8 条　各学科の卒業に必要な単位数は、次表のとおりとする。

学科	単位数
アジア学科	124 単位
英語コミュニケーション学科	124 単位

　なお、共通科目及び学科科目の最低修得単位数は、国際教養学部規程並びに各学科の履修細則に定める。

第 9 条　国際教養学部における授業科目及びその単位数は、各学科の履修細則及び学科共通履修細則に定める。
2　その年度に開講する授業科目は、毎学年始めに発表する。
3　履修の詳細については、各学科の履修細則による。

第 10 条　共通科目のうち新入生演習は、1 年生が全員履修するものとする。
2　共通科目のうち基本科目は、16 単位以上を修得するものとする。また、キャリアデザイン論は、1 年生が全員履修すること。
3　共通科目のうち外国語科目の必修単位数・修得単位数等は、各学科の履修細則に定めるが、できるかぎり多くの単位を修得することが望ましい。なお、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、外国語科目として日本語を修得しなければならない。
4　共通科目のうち体育科目は、2 単位以上を修得するものとする。
5　共通科目のうち総合科目は、追大 UI 科目におけるすべての単位を、追大プロジェクト科目においては最大 8 単位まで、国際交流科目においては最大 4 単位までを卒業に必要な単位として認める。また別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める。大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位については最大 4 単位までを卒業に必要な単位として認める。
6　副専攻科目は修了要件単位を 20 単位とし、最大 20 単位を卒業に必要な単位として認める。

第 11 条　学科科目は、必修科目及び選択科目（選択必修科目、選択科目）に分ける。なお、各学科の学科科目の最低修得単位数は、次のとおりとする。

学科	単位数
アジア学科	62 単位
英語コミュニケーション学科	56 単位

2　各学科における学科科目及び単位数は、各学科の履修細則に定める。

第 12 条　各学科における授業科目の履修については、次のとおりとする。
（1）　アジア学科

科目	区分	分類		卒業に必要な単位数	
共通科目	全員履修	新入生演習			124 単位以上
	選択必修	基本科目	16 単位以上 ＊「キャリアデザイン論」は 1 年次全員履修とする	16 単位	
		外国語科目 中国語 英語 ドイツ語 フランス語 日本語 ［外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者のみ］	2 単位以上 ［外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は日本語 8 単位を修得すること］	2 単位	
		体育科目	2 単位以上	2 単位	
	選択	総合科目			
		追大 UI 科目			
		追大プロジェクト科目	最大 8 単位までを卒業に必要な単位として認める。		
		国際交流科目	最大 4 単位までを卒業に必要な単位として認める。		
		別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める。			
		大学コンソーシアム大阪単位互換協定により取得した単位は最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める。			
	基本科目、外国語科目、体育科目をあわせて 20 単位以上。これを超えて修得した単位は卒業に必要な単位として認める。				
学科科目	必修	講義	4 単位	16 単位	
		演習	12 単位		
	選択必修	A（専修外国語群）	16 単位以上	46 単位以上	
		B（卒業論文）（講義科目）	24 単位以上		
		C（講義・フィールドワーク科目）	6 単位以上		
	選択	他学科・他学部開講科目			
	演習、講義（現地演習科目を含む）をあわせて 62 単位以上。これを超えて修得した単位は卒業に必要な単位として認める。				

＊外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、基本科目 16 単位のうち 8 単位は、日本事情 1・2・3・4 を修得しなければならない。（アジア学科履修細則Ⅱ―2 参照）

副専攻

授業科目	分野	単位数
副専攻科目	履修可能な副専攻科目については別に定める	20 単位までを卒業に必要な単位として認める

（2） 英語コミュニケーション学科

科目	区分	分類		卒業に必要な単位数	
共通科目	全員履修	新入生演習			124単位以上
	選択必修	基本科目	16単位以上 ＊「キャリアデザイン論」は1年次全員履修とする	16単位	
	選択	外国語科目 中国語 英語 ドイツ語 フランス語 日本語 [外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者のみ]	[外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は日本語4単位を修得すること]		
	選択必修	体育科目	2単位以上	2単位	
	選択	総合科目			
		追大UI科目			
		追大プロジェクト科目	最大8単位までを卒業に必要な単位として認める。		
		国際交流科目	最大4単位までを卒業に必要な単位として認める。		
		別に定める放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は最大4単位まで卒業に必要な単位として認める。			
		大学コンソーシアム大阪単位互換協定により取得した単位は最大4単位まで卒業に必要な単位として認める。			
	共通科目を22単位以上。これを超えて修得した単位は卒業に必要な単位として認める。				
学科科目	必修	日本語能力強化科目	2単位	36単位	
		専修英語	26単位		
		演習	8単位		
	選択	卒業論文			
	選択必修	A(実践英語)	8単位以上	20単位以上	
		B(講義(現地演習科目含む))	12単位以上		
	選択	講義［他学部・他学科開設科目］			
	専修英語、日本語能力強化科目、実践英語、演習、講義(現地演習科目を含む)をあわせて56単位以上。 これを超えて修得した単位は卒業に必要な単位として認める。				

＊外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、基本科目16単位のうち8単位は、日本事情1・2・3・4を修得しなければならない。(英語コミュニケーション学科履修細則Ⅱ―2参照)

副専攻

授業科目	分野	単位数
副専攻科目	履修可能な副専攻科目については別に定める	20単位までを卒業に必要な単位として認める

(教職課程)
第13条　卒業後、中学校、高等学校の教員免許状の授与を受けようとする者のために教職課程を設ける。
2　教職課程の履修方法は、別に定める。

(学芸員、社会教育主事及びレクリエーション・インストラクターの資格取得)
第14条　卒業後、学芸員、社会教育主事及びレクリエーション・インストラクターとなる資格を得ようとする者は、これに必要な科目の単位を修得しなければならない。
2　履修方法は、別に定める。

(単位の計算)
第15条　授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目には45時間の学修を要することを標準とし、次の基準によるものとする。
（1） 講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。
（2） 外国語科目については、30時間の授業をもって1単位とする。
（3） 実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。
（4） 卒業論文については、アジア学科6単位、英語コミュニケーション学科4単位とする。

第16条　各授業科目に対する単位数は、学年の始めに発表する。

(1年間の授業期間)
第17条　1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(履修の制限)
第18条　各学期において履修できる単位数の制限は、別に定める。

(履修の届出)
第19条　学生は、その年度に履修を希望する科目を所定の期日までに届け出なければならない。
2　履修登録手続きをしない者は、当該科目の授業及び試験を受けることができない。

(科目修了の認定)
第20条　科目修了の認定は、試験によるほか、出席その他平素の成績を考慮して行う。
2　試験は、定期試験のほか随時に行うことがある。
3　成績評点は、100点を満点とし、60点以上を合格とする。
4　合格を得た科目に対しては、所定の単位を与える。

第21条　各科目とも出席すべき授業時数の3分の1以上欠席した者は、原則として科目修了の認定を受けることができない。

第22条　科目修了の認定を得た科目に対しては、再度履修しても単位を与えない。

(追試験)
第23条　病気その他やむを得ない事由によって定期試験を受験できなかった者に対しては、願い出によって追試験を行う。なお、追試験については、別にこれを定める。

(追試験の受験料)
第24条　追試験の受験者は、別に定める受験料を納めなければならない。

(卒業及び学位)
第25条　本大学に4年以上在学し、所定の課程を修めた者をもって、卒業したものとする。
2　本大学を卒業した者には、次のとおり学位を授与する。
国際教養学部
アジア学科　学士（国際教養学）
英語コミュニケーション学科　学士（国際教養学）

(入学)
第26条　入学の時期は、毎学年の始めとする。

第27条　入学は、検定によって決定する。
2　入学検定の方法は別に定める。

第28条　入学を希望する者は、学科を指定しなければならない。

第29条　所定の期日までに定められた入学手続を履行しない者は、入学の許可を取り消す。

(編入学又は他大学からの転学)
第30条　編入学又は他の大学からの転学は、選考の上、これを許可することがある。
2　前項の取り扱いについては、別にこれを定める。

第31条　前条により編入学又は転学を許可された者は、修業年限は2年とし、在学年限は4年を超えることができない。

(転学部及び転学科)
第32条　本大学の他学部への転学部及び他学科への転学科は、欠員がある場合に限り、選考の上、第2年次又は第3年次の始めにおいて許可することがある。

(休学)
第33条　病気その他やむを得ない理由で引き続き六か月以上修学できない場合は、保証人連署の上、休学願を学部長に提出し、その許可を得て休学することができる。ただし、病気の場合は、医師の診断書を添えなければならない。
2　休学の期間は、引き続き2年を超えることができない。
3　休学の期間は、通算して3年を超えることができない。
4　休学の期間は、在学年数に算入しない。

第34条　休学の理由が消滅し、復学しようとするときは、復学願を学部長に提出し、その承認を得なければならない。

第35条　休学中は、授業料その他の学費を減免する。
2　前項により減免する授業料その他の学費及びその額は、別にこれを定める。

(退学)
第36条　退学しようとする者は、その事由を具して保証人連署の上、学長に願い出て許可を受けなければならない。

第37条　前条により退学した者又は除籍された者が同一の学科に再入学を願い出たときは、退学又は除籍後2年以内に限り、選考の上、許可することがある。ただし、第59条第1号の規定により除籍された者は、再入学を許可しない。

(他大学への入学及び転学)
第38条　他の大学へ入学又は転学を志望するときは、学長の許可を受けなければならない。

(委託生)
第39条　学校、官庁その他公共団体から特定の学科目を指定して修学を委託されたときは、選考の上、委託生として入学を許可することがある。その履修した科目につき試験の上、証明書を交付するが、単位は与えない。

(科目等履修生)
第40条　本大学の学生以外の者で、特定の授業科目を指定して履修を願い出る者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。
2　科目等履修生の履修科目は、当該年度30単位以内とする。

第41条　科目等履修生が、その履修した授業科目の試験を受け、合格した授業科目については、単位を与える。
2　科目等履修生に対しては、合格した授業科目につき願い出により、単位修得証明書を交付する。

(聴講生)
第42条　本大学の学生以外の者で、特定の授業科目を指定して聴講を願い出る者があるときは、選考の上、聴講生として入学を許可することがある。
2　聴講生の聴講科目は、当該年度20単位以内とする。

第43条　委託生及び聴講生に対しては、その履修した授業科目につき願い出により

試験の上、証明書を交付する。ただし、単位は与えない。
（委託生、科目等履修生及び聴講生の入学資格）
第 44 条　委託生、科目等履修生及び聴講生の入学資格は、学則第 29 条の定めるところによる。

（研究生）
第 45 条　本学部において研究を希望する者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することがある。
2　研究生は、研修修了時に研究報告書を提出しなければならない。なお、願い出により研究証明書を交付する。ただし、単位は与えない。

（外国人特別学生）
第 46 条　外国人で、学則第 29 条に定める資格を有する者が、学則第 30 条によらないで、本邦所在の外国公館の推薦により出願するときは、選考の上、外国人特別学生として入学を許可することがある。

第 47 条　外国人特別学生で、学則第 5 章に規定する科目修了の認定を受け、所定の課程を修めた者には、学位を授与する。

第 48 条　委託生、科目等履修生、聴講生、研究生及び外国人特別学生に関する規則は、学則及び本規程に定めるもののほか、別に定める。

（入学金及び授業料等）
第 49 条　本大学に入学を許可された者は、入学金及び所定の学費を納付しなければならない。

第 50 条　学生は、授業料その他所定の学費を納付しなければならない。

第 51 条　委託生は研修指導費、科目等履修生は履修料、聴講生は聴講料、研究生は研究指導費を納付しなければならない。

第 52 条　入学金、授業料、実験実習費、研修指導費、履修料、聴講料、研究指導費の金額及び徴収については、別にこれを定める。

第 53 条　既納の入学金、授業料その他の学費、研修指導費、履修料、聴講料、審査料及び研究指導費は、いかなる事情があっても返付しない。

第 54 条　本大学に入学を許可された者が入学時に指定の期日までに入学辞退を申し出た場合は、前条の規定にかかわらず、その請求により授業料その他の学費を返付する。

（教授会及び委員会）
第 55 条　本学部に教授会及び必要に応じ各種委員会を置く。
2　教授会及び各種委員会に関する規程は、別に定める。

（表彰）
第 56 条　学生で特に他の学生の模範とすべき行為のあったときは、表彰することがある。

（懲戒）
第 57 条　学生で本大学の規則若しくは命令に違背し、又は学生の本分に反する行為があったときは、その軽重に従ってこれを懲戒する。
2　懲戒は、戒告、停学及び退学とする。
3　前項の退学は、次の各号の一に該当する者について行う。
（1）　性行不良で改善の見込みがないと認められる者
（2）　本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

（退学）
第 58 条　学生で学力劣等にして成業の見込みがないと認められる者又は正当の理由がなく出席が常でない者は、これを退学させる。

（除籍）
第 59 条　学生で次の各号の一に該当する者は、これを除籍する。
（1）　在学 8 年を超える者
（2）　休学期間が通算 3 年を超える者
（3）　疾病その他の事故により成業の見込みがないと認められる者
（4）　授業料その他学費を督促しても納付しない者

（その他）
第 60 条　学則及びこの規程に定めのない事項については、教授会がこれを定める。

附　則
この規程は、2007 年 4 月 1 日から施行する。

附　則
この規程は、2008 年 4 月 1 日から施行する。

附　則
この規程は、2008 年 4 月 1 日から施行する。

附　則
この規程は、2009 年 4 月 1 日から施行する。

附　則
この規程は、2009 年 4 月 1 日から施行する。

アジア学科履修細則

Ⅰ 一般的事項
1）科目履修に関する基本的事項は、学則、国際教養学部規程、各学科の学科履修細則、学科共通履修細則、教職課程・学芸員・社会教育主事・レクリエーションインストラクターの資格取得に関する規程等に掲げられている。これらを熟読の上、以下に述べる諸項目や各科目表・講義内容要旨等を参考にして、『時間割作成の手引き』と各学科等の開講科目表とにより、本年度における履修科目を決定すること。
2）学科履修細則は、各学科により異なるので、各自の所属学科の履修細則に定められたところにしたがうこと。
3）同一時限に同時に開講されている科目は、重複して履修することができない。
4）授業科目のうちで、A、B、C 等クラスの区別のあるものは、そのいずれか一つを選択履修すること。
5）各学期において履修することができる単位数の上限は、次のとおりとする。

年次	1 年		2 年		3 年		4 年	
学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
セメスター	第 1	第 2	第 3	第 4	第 5	第 6	第 7	第 8
03 年度以降入学生制限単位数	25	25	25	25	25	25	30	30
編入学生制限単位数（03 番台以降）					35	35	35	35

ただし、資格取得に関する科目等のうち、卒業要件とならない科目の単位数については、この制限を受けない。また、総合科目のうち、国際交流科目、別に定める放送大学の科目を修得した場合、別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合及び大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位数についても、この制限を受けない。
なお、通年科目の単位数は春学期の制限単位数に含まれる。
6）履修登録を所定の方法に従って、指定の期日までに行うこと。この手続きをしない場合には、授業及び試験を受けることも、単位を修得することもできない。

Ⅱ 共通科目
1　新入生演習
1）新入生演習は、1 年次春学期において、全員履修するものとする。修得した単位は、卒業に必要な単位として認める。
2）アジア学科開講科目表及び学科共通履修細則の新入生演習の項を参照すること。

2　基本科目
1）基本科目は、16 単位以上を修得しなければならない。外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、日本事情 1・2・3・4 を含めて 16 単位以上を修得しなければならない。
学科共通履修細則の基本科目の項を参照すること。
2）アジア学科の開設する基本科目は、次のとおりである。原則として 1 年次で履修することが望ましい。
なお、履修登録者数によっては、クラスを指定する場合がある。
日本語の諸相 1
日本語の諸相 2
アジアの諸文化 1
アジアの諸文化 2
アジアの社会 1
アジアの社会 2
アジアと国際社会 1
アジアと国際社会 2
オーストラリアと国際社会 1
オーストラリアと国際社会 2
3）必修単位数（16 単位）を超えて修得した基本科目の単位は、卒業に必要な単位として認める。
4）キャリアデザイン論は、1 年生が全員履修すること。

3　外国語科目
1）外国語科目は 2 単位以上を修得しなければならない。学科共通履修細則の外国語科目の項を参照すること。
2）外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、日本語 8 単位を修得しなければならない。
3）必修単位数（2 単位）を超えて修得した外国語科目の単位は、卒業に必要な単位として認める。
4）必修単位は卒業年次までに修得すればよいが、できる限り 1 年次・2 年次で修得すること。

4　体育科目
1）体育科目は、2 単位以上を修得しなければならない。学科共通履修細則の体育科目の項を参照すること。
2）必修単位数 (2 単位) を超えて修得した体育科目の単位は、卒業に必要な単位として認める。

5　総合科目
1）総合科目のうち「追大 UI 科目」はすべての単位を、「追大プロジェクト科目」は最大 8 単位まで、「国際交流科目」、「放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合」及び「大学コンソーシアム大阪単位互換協定により単位を修得した場合」は、各々最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める。
2）学科共通履修細則の総合科目の項を参照すること。

Ⅲ 学科科目
1）アジア学科の開設する学科科目については、62 単位以上を修得しなければならない。なお、アジア学科の学生が卒業に必要な単位の総数は前記「新入生演習」「基本科目」「外国語科目」「総合科目」として規定された単位数とあわせて計 124 単位である。
2）アジア学科の学科科目は、必修 (講義・演習)、選択必修 A、選択必修 B、選択必修 C、選択に分かれる。学科科目には、学年指定のある科目や、同一年次に並行

して履修することができない科目があるので、下記の留意事項およびアジア学科開講科目表を参照し、所定の方法で単位を修得しなければならない。

（A）必修 (講義・演習) は、16 単位を修得しなければならない。

① 1 年次配当の科目はない。

② 2 年次配当は「基礎演習 1」「基礎演習 2」「アジア論 1」「アジア論 2」計 8 単位である。

③ 3 年次配当は「応用演習 1」「応用演習 2」計 4 単位である。

④ 4 年次配当は「卒業演習 1」「卒業演習 2」計 4 単位である。

なお、「卒業演習」に限り、同一記号クラスの履修による 4 単位修得を原則とする。

（B）選択必修 A（専修外国語群) は、16 単位以上修得しなければならない。

なお、専修外国語については、「専修中国語群」および「専修英語群」いずれかのうち 1 つを選択し、それぞれ指定された科目から 16 単位以上を修得しなければならない。

「専修中国語群」のうち、「専修中国語初級講読 1」「専修中国語初級講読 3」「専修中国語初級講読 2」「専修中国語初級講読 4」の履修にあたっては、一つの科目を単独で履修することはできず、必ず「専修中国語初級講読 1」と「専修中国語初級講読 3」、または「専修中国語初級講読 2」と「専修中国語初級講読 4」をセットとして、なおかつ同じクラスで履修しなければならない。

また、「現地演習」については、本履修細則Ⅳに定める。

（C）選択必修 B は、24 単位以上を修得しなければならない。

なお、「卒業論文」については、本履修細則Ⅵに定める。

（D）選択必修 C は、6 単位以上を修得しなければならない。

なお、「フィールドワーク / 社会演習」については、本履修細則Ⅵに定める。

（E）選択科目については、必要単位数を設けない。

3）必修単位数（62 単位) を超えて修得した学科科目の単位は、卒業に必要な単位として認める。

Ⅳ 現地演習

1）現地演習科目は、現地演習である「カナダ現地演習」および「中国語現地演習」と、事前の準備、事後の総括を主内容とする「カナダ文化演習」および「中国語文化演習」からなる。

2）履修する場合は、同一地域のものをセットにして同一年次に履修しなければならない。

3）現地演習は、2 セット（16 単位) を履修することができる。ただし、同一年次につき、1 セットの履修しかできない。

4）受講生側の事情で、現地演習への参加が不可能になった場合については、原則として文化演習の単位を単独で認定はしない。

5）現地演習への参加に要する旅費、宿泊費などの費用は学生の自己負担とする。

6）現地演習の詳細については別に定める。

Ⅴ フィールドワーク

1）フィールドワークは、現地学習である「アジアフィールドワーク」と事前の準備、事後の総括を主内容とする「アジア社会演習」からなり、対象地域は、中国、東南アジア、タイ、日本に分かれる。

2）「アジアフィールドワーク」と「アジア社会演習」は、同一地域のもの (科目名番号の同じもの) をセットにして 8 単位を同一年次に履修しなければならない。個別 4 単位の履修は認めない。受講生側の事情で、現地学習への参加が不可能になった場合も、原則として「アジア社会演習」の単位を単独では認定しない。

3）現地学習の重要性を考えて少なくとも 1 セット (8 単位) を履修することが望ましい。外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、「アジアフィールドワーク 4」(日本)、「アジア社会演習 4」(日本) を選択することが望ましい。

4）フィールドワークは、4 セット (32 単位) を履修することができる。ただし、同一年次につき、1 セットの履修しかできない。

5）現地学習への参加に要する旅費、宿泊費などの費用は学生の自己負担とする。

6）現地学習の詳細については別に定める。

Ⅵ 卒業論文

1）卒業論文は、6 単位とする。本学科の第 4 年次に在学し、「卒業演習 1」あるいは「卒業演習 2」のいずれか 2 単位を修得した者は、「卒業演習」の担当教員の指導のもとに所定の手続きを経て、次学期に卒業論文を提出することができる。

2）卒業論文は、アジア学科に関連する研究課題を選び論述するものとする。

3）卒業論文は、所定の様式に従い、12,000 字以上 20,000 字以内とする。

4）卒業論文は、秋学期は 12 月 15 日までに、春学期は 6 月 15 日までに教務課に提出しなければならない。期日に遅れたものは受理しない。病気やその他やむを得ない事情により期日までに提出できないものは、その理由を証する書面を添えて願い出た場合に限り、秋学期は 1 月 10 日、春学期は 7 月 10 日を提出限度として延期を許可することがある。

5）卒業論文の審査は論文審査及び口頭試問とし、複数の教員が担当する。

Ⅶ 副専攻科目

1）所属学部以外の科目や特定の分野に関する科目を系統的に学ぶことで、基礎知識を確立し、学術的見地から考察できる能力や実践的応用力を身につけるために副専攻科目を開設する。

2）詳細については、学科共通履修細則を参照すること。

アジア学科　開講科目表（2008 年度以降入学生用）

履修区分			授業科目	単位 必修	単位 選択必修	単位 選択	配当年次 1	配当年次 2	配当年次 3	配当年次 4	要件
共通科目			新入生演習				○				2単位
共通科目		基本科目	「生活と社会」 「自然と数理」 「言語と文化」				○	○	○	○	16単位以上 キャリアデザイン論は1年次全員履修すること。 ただし外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、必ず日本事情1・2・3・4の8単位を含むものとする。
共通科目		基本科目	日本事情1				○	○	○	○	
共通科目		基本科目	日本事情2				○	○	○	○	
共通科目		基本科目	日本事情3				○	○	○	○	
共通科目		基本科目	日本事情4				○	○	○	○	
共通科目		外国語科目	中国語・英語・ドイツ語・フランス語から選択 日本語（外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者のみ）				○	○	○	○	2単位以上 ただし、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者については別に定める方法による。
共通科目		体育科目					○	○	○	○	2単位以上
共通科目		総合科目	「追大ＵＩ科目」についてはすべての単位を、「追大プロジェクト科目」については最大8単位まで、「国際交流科目」、「放送大学の科目を修得した場合及び資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合」及び「大学コンソーシアム大阪単位互換協定により単位を修得した場合」は、各々最大4単位まで卒業に必要な単位として認める。				○	○	○	○	学科共通履修細則参照
学科科目	必修	講義	アジア論1	2				○	○	○	16単位
学科科目	必修	講義	アジア論2	2				○	○	○	
学科科目	必修	演習	基礎演習1	2				○	○	○	
学科科目	必修	演習	基礎演習2	2				○	○	○	
学科科目	必修	演習	応用演習1	2					○	○	
学科科目	必修	演習	応用演習2	2					○	○	
学科科目	必修	演習	卒業演習1	2						○	
学科科目	必修	演習	卒業演習2	2						○	
学科科目	選択必修A	専修中国語群	専修中国語初級講読1		2		○	○	○	○	専修中国語群もしくは専修英語群のいずれかを選択し、16単位以上修得すること。ただし、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者については学科の指定する専修外国語群から16単位以上修得しなければならない。 専修中国語初級講読1と専修中国語初級講読3、または専修中国語初級講読2と専修中国語初級講読4は、それぞれ必ずセットとして、なおかつ同じクラスで履修すること。
学科科目	選択必修A	専修中国語群	専修中国語初級講読2		2		○	○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修中国語群	専修中国語初級講読3		2		○	○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修中国語群	専修中国語初級講読4		2		○	○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修中国語群	専修中国語初級会話1		2		○	○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修中国語群	専修中国語初級会話2		2		○	○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修中国語群	専修中国語中級講読1		2			○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修中国語群	専修中国語中級講読2		2			○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修中国語群	専修中国語中級作文1		2			○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修中国語群	専修中国語中級作文2		2			○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修中国語群	専修中国語中級会話1		2			○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修中国語群	専修中国語中級会話2		2			○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修中国語群	専修総合中国語1		2				○	○	
学科科目	選択必修A	専修中国語群	専修総合中国語2		2				○	○	
学科科目	選択必修A	専修中国語群	専修中国語上級会話1		2				○	○	
学科科目	選択必修A	専修中国語群	専修中国語上級会話2		2				○	○	
学科科目	選択必修A	専修中国語群	中国語現地演習		4			○	○	○	中国語現地演習と中国語文化演習は必ずセットで履修すること。
学科科目	選択必修A	専修中国語群	中国語文化演習		4			○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修英語群	英語リーディング1		2		○	○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修英語群	英語リーディング2		2		○	○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修英語群	英語ライティング1		2		○	○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修英語群	英語ライティング2		2		○	○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修英語群	英語発音クリニック		2		○	○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修英語群	英語リーディング3		2			○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修英語群	英語リーディング4		2			○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修英語群	英語ライティング3		2			○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修英語群	英語ライティング4		2			○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修英語群	英語コミュニケーション1		2			○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修英語群	英語コミュニケーション2		2			○	○	○	
学科科目	選択必修A	専修英語群	英語プレゼンテーション1		2				○	○	
学科科目	選択必修A	専修英語群	英語プレゼンテーション2		2				○	○	
学科科目	選択必修A	専修英語群	カナダ現地演習		4			○	○	○	カナダ現地演習とカナダ文化演習は必ずセットで履修すること。
学科科目	選択必修A	専修英語群	カナダ文化演習		4			○	○	○	

履修区分			授業科目	単位 必修	単位 選択必修	単位 選択	配当年次 1	配当年次 2	配当年次 3	配当年次 4	要件
学科科目	選択必修B	論文	卒業論文		6					○	
		講義	フィールドワーク論		2		○	○	○	○	
			東洋史概説１		2			○	○	○	
			東洋史概説２		2			○	○	○	
			西洋史概説１		2			○	○	○	
			西洋史概説２		2			○	○	○	
			日本史概説１		2			○	○	○	
			日本史概説２		2			○	○	○	
			考古学概説１		2			○	○	○	
			考古学概説２		2			○	○	○	
			人文地理学概説１		2			○	○	○	
			人文地理学概説２		2			○	○	○	
			自然地理学概説１		2			○	○	○	
			自然地理学概説２		2			○	○	○	
			地誌学１		2			○	○	○	
			地誌学２		2			○	○	○	
			アジア研究入門１		2			○	○	○	
			アジア研究入門２		2			○	○	○	
			東南アジアの社会１		2			○	○	○	
			東南アジアの社会２		2			○	○	○	
			南・西南アジアの社会１		2			○	○	○	
			南・西南アジアの社会２		2			○	○	○	
			インドの思想と宗教１		2			○	○	○	２４単位以上
			インドの思想と宗教２		2			○	○	○	
			近現代の中国		2			○	○	○	
			現代中国の文芸１		2			○	○	○	
			現代中国の文芸２		2			○	○	○	
			漢文学		2			○	○	○	
			日本文学史１		2			○	○	○	
			日本文学史２		2			○	○	○	
			日本文学概説１		2			○	○	○	
			日本文学概説２		2			○	○	○	
			中国の思想１		2				○	○	
			中国の思想２		2				○	○	
			西南アジアの歴史１		2				○	○	
			西南アジアの歴史２		2				○	○	
			中国の文学１		2				○	○	
			中国の文学２		2				○	○	
			日本の芸能と文学１		2				○	○	
			日本の芸能と文学２		2				○	○	
			比較社会史１		2				○	○	
			比較社会史２		2				○	○	
			現代アジアの諸問題１		2				○	○	
			現代アジアの諸問題２		2				○	○	
			アジア・オーストラリア関係論１		2			○	○	○	
			アジア・オーストラリア関係論２		2			○	○	○	
	選択必修C	講義	アジアフィールドワーク１		4			○	○	○	６単位以上 アジアフィールドワークとアジア社会演習は、必ず同一地域のもの（科目名番号の同じもの）をセットで履修すること。
			アジア社会演習１		4			○	○	○	
			アジアフィールドワーク２		4			○	○	○	
			アジア社会演習２		4			○	○	○	
			アジアフィールドワーク３		4			○	○	○	
			アジア社会演習３		4			○	○	○	
			アジアフィールドワーク４		4			○	○	○	
			アジア社会演習４		4			○	○	○	
			日本語のための古典１		2		○	○	○	○	
			日本語のための古典２		2		○	○	○	○	
			日本語学１		2		○	○	○	○	
			日本語学２		2		○	○	○	○	
			南・西南アジア諸語の世界１		2			○	○	○	
			南・西南アジア諸語の世界２		2			○	○	○	
			東南アジア諸語の世界１		2			○	○	○	
			東南アジア諸語の世界２		2			○	○	○	
			韓国語・朝鮮語の世界		2			○	○	○	
			国語学１		2			○	○	○	
			国語学２		2			○	○	○	
			応用日本語１		2			○	○	○	
			応用日本語２		2			○	○	○	
			国語学史		2				○	○	
			日本語教育演習１		2				○	○	
			日本語教育演習２		2				○	○	
			アジア英語１		2				○	○	
			アジア英語２		2				○	○	
		実習	日本語教育実習１		1					○	
			日本語教育実習２		1					○	

履修区分			授業科目	単位 必修	単位 選択必修	単位 選択	配当年次 1	配当年次 2	配当年次 3	配当年次 4	要件
学科科目	選択	講義	イギリス文化講義			2		○	○	○	
			アメリカ文化講義			2		○	○	○	
			イギリス史			2		○	○	○	
			アメリカ史			2		○	○	○	
			英文学概論１			2		○	○	○	
			英文学概論２			2		○	○	○	
			米文学概論１			2		○	○	○	
			米文学概論２			2		○	○	○	
			英語学概論１			2		○	○	○	
			英語学概論２			2		○	○	○	
			英語学講義１			2		○	○	○	
			英語学講義２			2		○	○	○	
			英語音声学１			2		○	○	○	
			英語音声学２			2		○	○	○	
			英語コミュニケーション論１			2		○	○	○	
			英語コミュニケーション論２			2		○	○	○	
			情報科学各論１			2		○	○	○	
			情報科学各論２			2		○	○	○	
			言語情報処理概論１			2		○	○	○	
			言語情報処理概論２			2		○	○	○	
			コンピュータと英語研究			2		○	○	○	
			コンピュータと英語教育			2		○	○	○	
			異文化間コミュニケーション論１			2		○	○	○	
			異文化間コミュニケーション論２			2		○	○	○	
			日欧比較論１			2		○	○	○	
			日欧比較論２			2		○	○	○	
			美学美術史１			2		○	○	○	
			美学美術史２			2		○	○	○	
			文化人類学			2			○	○	
			経済原論１			2		○	○	○	
			経済原論２			2		○	○	○	
			アジア経済論１			2		○	○	○	
			アジア経済論２			2		○	○	○	
			オーストラリア経済論			4		○	○	○	
			オーストラリア産業論１			2		○	○	○	
			オーストラリア産業論２			2		○	○	○	
			韓国の文化と社会１			2		○	○	○	
			韓国の文化と社会２			2		○	○	○	
			現代韓国事情			2		○	○	○	
			社会学概論１			2		○	○	○	
			社会学概論２			2		○	○	○	
			哲学概論１			2		○	○	○	
			哲学概論２			2		○	○	○	
			日本経済史１			2			○	○	
			日本経済史２			2			○	○	
			外国経済史１			2			○	○	
			外国経済史２			2			○	○	
			経済地理１			2			○	○	
			経済地理２			2			○	○	
			中国語科教育研究１			2			○	○	
			中国語科教育研究２			2			○	○	
			国語科教育研究１			2			○	○	
			国語科教育研究２			2			○	○	
			ERP ビジネスプロセス１			2			○	○	
			ERP ビジネスプロセス２			2			○	○	
			ERP ビジネスプロセス演習１			2			○	○	
			ERP ビジネスプロセス演習２			2			○	○	

英語コミュニケーション学科履修細則

Ⅰ 一般的事項

1）科目履修に関する基本的事項は、学則、国際教養学部規程、各学科の学科履修細則、学科共通履修細則、教職課程・学芸員・社会教育主事・レクリエーションインストラクターの資格取得に関する規程等に掲げられている。これらを熟読の上、以下に述べる諸項目や各科目表・講義内容要旨等を参考にして、『時間割作成の手引き」と各学科等の開講科目表とにより、本年度における履修科目を決定すること。
2）学科履修細則は、各学科により異なるので、各自の所属学科の履修細則に定められたところにしたがうこと。
3）同一時限に同時に開講されている科目は、重複して履修することができない。
4）授業科目のうちで、A、B、C 等クラスの区別のあるものは、そのいずれか一つを選択履修すること。
5）各学期において履修することができる単位数の上限は、次のとおりとする。

年次	1 年		2 年		3 年		4 年	
学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
セメスター	第 1	第 2	第 3	第 4	第 5	第 6	第 7	第 8
03 年度以降入学生制限単位数	25	25	25	25	25	25	30	30
編入学生制限単位数 (03 番台以降)					35	35	35	35

ただし、資格取得に関する科目等のうち、卒業要件とならない科目の単位数については、この制限を受けない。また、総合科目のうち、国際交流科目、別に定める放送大学の科目を修得した場合、別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合及び大学コンソーシアム大阪単位互換協定により修得した単位数についても、この制限を受けない。
なお、通年科目の単位数は春学期の制限単位数に含まれる。

6）履修登録を所定の方法に従って、指定の期日までに行うこと。この手続きをしない場合には、授業及び試験を受けることも、単位を修得することもできない。

Ⅱ 共通科目

1）共通科目は、新入生演習、基本科目、外国語科目、体育科目、総合科目に分かれる。それぞれ、本履修細則に定められたとおりに履修すること。
2）共通科目は、22 単位以上を修得しなければならない。
3）必要単位数（22 単位) を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位として認める。

1　新入生演習

1）新入生演習は、1 年次春学期において、全員履修するものとする。修得した単位は、卒業に必要な単位として認める。
2）英語コミュニケーション学科開講科目表及び学科共通履修細則の新入生演習の項を参照すること。

2　基本科目

1）基本科目は、16 単位以上を修得しなければならない。外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、日本事情 1・2・3・4 を含めて 16 単位以上を修得しなければならない。
学科共通履修細則の基本科目の項を参照すること。
2）英語コミュニケーション学科の開設する基本科目は、次のとおりである。原則として 1 年次で履修することが望ましい。
なお、履修登録者数によっては、クラスを指定する場合がある。
英米の文化・文学 1
英米の文化・文学 2
言語の科学 1
言語の科学 2
比較文化概論 1
比較文化概論 2
比較思想概論 1
比較思想概論 2
異文化交流の歴史異文化交流とコミュニケーション
3）必修単位数 (16 単位) を超えて修得した基本科目の単位は、卒業に必要な単位として認める。
4）キャリアデザイン論は、1 年生が全員履修すること。

3　外国語科目

1）外国語科目については、必要単位数を設けない。修得した外国語科目の単位は、卒業に必要な単位として認める。
2）外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、日本語 4 単位を修得しなければならない。

4　体育科目

1）体育科目は、2 単位以上を修得しなければならない。学科共通履修細則の体育科目の項を参照すること。
2）必修単位数 (2 単位) を超えて修得した体育科目の単位は、卒業に必要な単位として認める。

5　総合科目

1）総合科目のうち「追大 UI 科目」はすべての単位を、「追大プロジェクト科目」は最大 8 単位まで、「国際交流科目」、「放送大学の科目を修得した場合及び別に定める資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合」及び「大学コンソーシアム大阪単位互換協定により単位を修得した場合」は、各々最大 4 単位まで卒業に必要な単位として認める。
2）学科共通履修細則の総合科目の項を参照すること。

Ⅲ 学科科目

1）英語コミュニケーション学科の開設する学科科目については、56 単位以上を修得しなければならない。なお、英語コミュニケーション学科の学生が卒業に必要な単位の総数は前記「共通科目」(「新入生演習」「基本科目」「外国語科目」「総合科目」) として規定された単位数とあわせて計 124 単位である。
2）英語コミュニケーション学科の学科科目は、必修 (日本語能力強化科目・専修英語・演習)、選択必修 A、選択必修 B、選択 (卒業論文・講義) に分かれる。学科科目には、学年指定のある科目や、同一年次に並行して履修することができない科目があるので、下記の留意事項および英語コミュニケーション学科開講科目表を参照し、所定の方法で単位を修得しなければならない。
（A）必修 (日本語能力強化科目・専修英語・演習) は、36 単位を修得しなければならない。
① 1 年次配当は「英語リーディング 1」「英語リーディング 2」「英語ライティング 1」「英語ライティング 2」「英語発音クリニック」計 10 単位である。
② 2 年次配当は「日本語ワークショップ」「英語リーディング 3」「英語リーディング 4」「英語ライティング 3」「英語ライティング 4」「英語コミュニケーション 1」「英語コミュニケーション 2」計 14 単位である。
③ 3 年次配当は「英語プレゼンテーション 1」「英語プレゼンテーション 2」「特論演習 1」「特論演習 2」計 8 単位である。
④ 4 年次配当は「卒業演習 1」「卒業演習 2」計 4 単位である。
（B）選択必修 A(実践英語) は、8 単位以上修得しなければならない。
（C）選択必修 B(講義 (現地演習を含む)) は、12 単位以上を修得しなければならない。なお、「現地演習」については本履修細則Ⅳに、「フィールドワーク / 社会演習」については本履修細則Ⅴにそれぞれ定める。
（D）選択科目 (専修中国語群･卒業論文･講義) については、必要単位数を設けない。「専修中国語群」のうち、「専修中国語初級講読 1」「専修中国語初級講読 3」「専修中国語初級講読 2」「専修中国語初級講読 4」の履修にあたっては、一つの科目を単独で履修することはできず、必ず「専修中国語初級講読 1」と「専修中国語初級講読 3」、または「専修中国語初級講読 2」と「専修中国語初級講読 4」をセットとして、なおかつ同じクラスで履修しなければならない。
さらに、「卒業論文」については、本履修細則Ⅵに定める。
3）必修単位数 (56 単位) を超えて修得した学科科目の単位は、卒業に必要な単位として認める。

Ⅳ 現地演習

1）現地演習科目は、現地演習である「カナダ現地演習」および「中国語現地演習」と、事前の準備、事後の総括を主内容とする「カナダ文化演習」および「中国語文化演習」からなる。
2）履修する場合は、同一地域のものをセットにして同一年次に履修しなければならない。
3）現地演習は、2 セット (16 単位) を履修することができる。ただし、同一年次につき、1 セットの履修しかできない。
4）受講生側の事情で、現地演習への参加が不可能になった場合については、原則として文化演習の単位を単独で認定はしない。
5）現地演習への参加に要する旅費、宿泊費などの費用は学生の自己負担とする。
6）現地演習の詳細については別に定める。

Ⅴ フィールドワーク

1）フィールドワークは、現地学習である「アジアフィールドワーク」と事前の準備、事後の総括を主内容とする「アジア社会演習」からなり、対象地域は、中国、東南アジア、タイ、日本に分かれる。
2）「アジアフィールドワーク」と「アジア社会演習」は、同一地域のもの (科目名番号の同じもの) をセットにして 8 単位を同一年次に履修しなければならない。個別 4 単位の履修は認めない。受講生側の事情で、現地学習への参加が不可能になった場合も、原則として「アジア社会演習」の単位を単独では認定しない。
3）フィールドワークは、4 セット (32 単位) を履修することができる。ただし、同一年次につき、1 セットの履修しかできない。
4）現地学習への参加に要する旅費、宿泊費などの費用は学生の自己負担とする。
5）現地学習の詳細については別に定める。

Ⅵ 卒業論文

1）卒業論文は、選択科目で 4 単位とする。
2）学科の第 4 年次に在学し、「卒業演習 1」あるいは「卒業演習 2」のいずれかの単位を修得した者は「卒業演習」の担当教員の指導のもとに所定の手続きを経て、所定の期日までに卒業論文を提出することができる。
3）卒業論文は、英語コミュニケーション学科の専攻に関連する研究課題を選び論述するものとする。
4）卒業論文は、所定の様式に従って執筆し、和文の場合には 1 ページ 1,200 字で 10 ページ以上 17 ページ以内、英文の場合には 1 行 60 ストロークとし 1 ページ 25 行で、20 ページ以上 30 ページ以内とする。
5）卒業論文は、春学期は 6 月 15 日までに、秋学期は 12 月 15 日までに教務課に提出しなければならない。期日に遅れたものは受理しない。病気やその他やむを得ない事情により期日までに提出できないものは、その理由を証する書面を添えて願い出た場合に限り、秋学期は 1 月 10 日、春学期は 7 月 10 日を提出限度として延期を許可することがある。
6）卒業論文の審査は論文審査及び口頭試問とし、複数の教員が担当する。

Ⅶ 副専攻科目

1）所属学部以外の科目や特定の分野に関する科目を系統的に学ぶことで、基礎知識を確立し、学術的見地から考察できる能力や実践的応用力を身につけるために副専攻科目を開設する。
2）詳細については、学科共通履修細則を参照すること。

英語コミュニケーション学科　開講科目表（2008 年度以降入学生用）

履修区分			授業科目	単位 必修	単位 選択必修	単位 選択	配当年次 1	配当年次 2	配当年次 3	配当年次 4	要件
共通科目			新入生演習				○				２単位
共通科目		基本科目	「生活と社会」				○	○	○	○	１６単位以上 キャリアデザイン論は１年次全員履修すること。 ただし外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、必ず日本事情１・２・３・４の８単位を含むものとする。
共通科目		基本科目	「自然と数理」								
共通科目		基本科目	「言語と文化」								
共通科目		基本科目	日本事情１				○	○	○	○	
共通科目		基本科目	日本事情２				○	○	○	○	
共通科目		基本科目	日本事情３				○	○	○	○	
共通科目		基本科目	日本事情４				○	○	○	○	
共通科目		外国語科目	中国語・英語・ドイツ語・フランス語 ただし、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者は、日本語を修得しなければならない。				○	○	○	○	外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者については別に定める方法による。
共通科目		体育科目					○	○	○	○	２単位以上
共通科目		総合科目	「追大ＵＩ科目」についてはすべての単位を、「追大プロジェクト科目」については最大８単位まで、「国際交流科目」、「放送大学の科目を修得した場合及び資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合」及び「大学コンソーシアム大阪単位互換協定により単位を修得した場合」は、各々最大４単位まで卒業に必要な単位として認める。				○	○	○	○	学科共通履修細則参照
学科科目	必修	日本語能力強化科目	日本語ワークショップ	2				○	○	○	２単位
学科科目	必修	専修英語	英語リーディング１	2			○	○	○	○	２６単位
学科科目	必修	専修英語	英語リーディング２	2			○	○	○	○	
学科科目	必修	専修英語	英語ライティング１	2			○	○	○	○	
学科科目	必修	専修英語	英語ライティング２	2			○	○	○	○	
学科科目	必修	専修英語	英語発音クリニック	2			○	○	○	○	
学科科目	必修	専修英語	英語リーディング３	2				○	○	○	
学科科目	必修	専修英語	英語リーディング４	2				○	○	○	
学科科目	必修	専修英語	英語ライティング３	2				○	○	○	
学科科目	必修	専修英語	英語ライティング４	2				○	○	○	
学科科目	必修	専修英語	英語コミュニケーション１	2				○	○	○	
学科科目	必修	専修英語	英語コミュニケーション２	2				○	○	○	
学科科目	必修	専修英語	英語プレゼンテーション１	2					○	○	
学科科目	必修	専修英語	英語プレゼンテーション２	2					○	○	
学科科目	選択	専修中国語群	専修中国語初級講読１			2	○	○	○	○	専修中国語初級講読１と専修中国語初級講読３、または専修中国語初級講読２と専修中国語初級講読４は、それぞれ必ずセットとして、なおかつ同じクラスで履修すること。
学科科目	選択	専修中国語群	専修中国語初級講読２			2	○	○	○	○	
学科科目	選択	専修中国語群	専修中国語初級講読３			2	○	○	○	○	
学科科目	選択	専修中国語群	専修中国語初級講読４			2	○	○	○	○	
学科科目	選択	専修中国語群	専修中国語初級会話１			2	○	○	○	○	
学科科目	選択	専修中国語群	専修中国語初級会話２			2	○	○	○	○	
学科科目	選択	専修中国語群	専修中国語中級講読１			2		○	○	○	
学科科目	選択	専修中国語群	専修中国語中級講読２			2		○	○	○	
学科科目	選択	専修中国語群	専修中国語中級作文１			2		○	○	○	
学科科目	選択	専修中国語群	専修中国語中級作文２			2		○	○	○	
学科科目	選択	専修中国語群	専修中国語中級会話１			2		○	○	○	
学科科目	選択	専修中国語群	専修中国語中級会話２			2		○	○	○	
学科科目	選択	専修中国語群	専修総合中国語１			2			○	○	
学科科目	選択	専修中国語群	専修総合中国語２			2			○	○	
学科科目	選択	専修中国語群	専修中国語上級会話１			2			○	○	
学科科目	選択	専修中国語群	専修中国語上級会話２			2			○	○	
学科科目	選択必修Ａ	実践英語	資格英語１		2				○	○	８単位以上
学科科目	選択必修Ａ	実践英語	資格英語２		2				○	○	
学科科目	選択必修Ａ	実践英語	資格英語３		2					○	
学科科目	選択必修Ａ	実践英語	資格英語４		2					○	
学科科目	選択必修Ａ	実践英語	トラベルイングリッシュ１		2				○	○	
学科科目	選択必修Ａ	実践英語	トラベルイングリッシュ２		2				○	○	
学科科目	選択必修Ａ	実践英語	観光ビジネス英語１		2				○	○	
学科科目	選択必修Ａ	実践英語	観光ビジネス英語２		2				○	○	
学科科目	選択必修Ａ	実践英語	秘書英語１		2				○	○	
学科科目	選択必修Ａ	実践英語	秘書英語２		2				○	○	
学科科目	選択必修Ａ	実践英語	通訳英語１		2				○	○	
学科科目	選択必修Ａ	実践英語	通訳英語２		2				○	○	

履修区分			授業科目	単位 必修	単位 選択必修	単位 選択	配当年次 1	配当年次 2	配当年次 3	配当年次 4	要件
学科科目	必修	演習	特論演習１	2					○	○	８単位
学科科目	必修	演習	特論演習２	2					○	○	
学科科目	必修	演習	卒業演習１	2						○	
学科科目	必修	演習	卒業演習２	2						○	
学科科目	選択	論文	卒業論文			4				○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	イギリス文化講義		2			○	○	○	１２単位以上
学科科目	選択必修Ｂ	講義	アメリカ文化講義		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	イギリス史		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	アメリカ史		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	英文学概論１		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	英文学概論２		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	米文学概論１		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	米文学概論２		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	英語学概論１		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	英語学概論２		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	英語学講義１		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	英語学講義２		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	英語音声学１		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	英語音声学２		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	英語コミュニケーション論１		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	英語コミュニケーション論２		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	情報科学各論１		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	情報科学各論２		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	言語情報処理概論１		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	言語情報処理概論２		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	コンピュータと英語教育		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	コンピュータと英語研究		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	異文化間コミュニケーション論1		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	異文化間コミュニケーション論2		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	日欧比較論１		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	日欧比較論２		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	現地演習	カナダ現地演習		4			○	○	○	現地演習と文化演習は、同一地域のものを必ずセットで履修すること。
学科科目	選択必修Ｂ	現地演習	カナダ文化演習		4			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	現地演習	中国語現地演習		4			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	現地演習	中国語文化演習		4			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	アジア論１		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	アジア論２		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	フィールドワーク論		2		○	○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	東洋史概説１		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	東洋史概説２		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	日本史概説１		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	日本史概説２		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	考古学概説１		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	考古学概説２		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	人文地理学概説１		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	人文地理学概説２		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	自然地理学概説１		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	自然地理学概説２		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	地誌学１		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	地誌学２		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	アジア研究入門１		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	アジア研究入門２		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	東南アジアの社会１		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	東南アジアの社会２		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	南・西南アジアの社会１		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	南・西南アジアの社会２		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	インドの思想と宗教１		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	インドの思想と宗教２		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	近現代の中国		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	現代中国の文芸１		2			○	○	○	
学科科目	選択必修Ｂ	講義	現代中国の文芸２		2			○	○	○	

履修区分			授業科目	単位			配当年次				要件
				必修	選択必修	選択	1	2	3	4	
学科目	選択必修B	講義	漢文学		2			○	○	○	
			日本文学史１		2			○	○	○	
			日本文学史２		2			○	○	○	
			日本文学概説１		2			○	○	○	
			日本文学概説２		2			○	○	○	
			中国の思想１		2				○	○	
			中国の思想２		2				○	○	
			西南アジアの歴史１		2				○	○	
			西南アジアの歴史２		2				○	○	
			中国の文学１		2				○	○	
			中国の文学２		2				○	○	
			日本の芸能と文学１		2				○	○	
			日本の芸能と文学２		2				○	○	
			比較社会史１		2				○	○	
			比較社会史２		2				○	○	
			現代アジアの諸問題１		2				○	○	
			現代アジアの諸問題２		2				○	○	
			アジア・オーストラリア関係論１		2			○	○	○	
			アジア・オーストラリア関係論２		2			○	○	○	
			アジアフィールドワーク１		4			○	○	○	アジアフィールドワークとアジア社会演習は、必ず同一地域のもの（科目名番号の同じもの）をセットで履修すること。
			アジア社会演習１		4			○	○	○	
			アジアフィールドワーク２		4			○	○	○	
			アジア社会演習２		4			○	○	○	
			アジアフィールドワーク３		4			○	○	○	
			アジア社会演習３		4			○	○	○	
			アジアフィールドワーク４		4			○	○	○	
			アジア社会演習４		4			○	○	○	
			日本語のための古典１		2		○	○	○	○	
			日本語のための古典２		2		○	○	○	○	
			日本語学１		2		○	○	○	○	
			日本語学２		2		○	○	○	○	
			南・西南アジア諸語の世界１		2			○	○	○	
			南・西南アジア諸語の世界２		2			○	○	○	
			東南アジア諸語の世界１		2			○	○	○	
			東南アジア諸語の世界２		2			○	○	○	
			韓国語・朝鮮語の世界		2			○	○	○	
			国語学１		2			○	○	○	
			国語学２		2			○	○	○	
			国語学史		2				○	○	
			日本語教育演習１		2				○	○	
			日本語教育演習２		2				○	○	
			アジア英語１		2				○	○	
			アジア英語２		2				○	○	
			日本語教育実習１		1					○	
			日本語教育実習２		1					○	
	選択	講義	西洋史概説１			2		○	○	○	
			西洋史概説２			2		○	○	○	
			応用日本語１			2		○	○	○	
			応用日本語２			2		○	○	○	
			心理学の歴史			2			○	○	
			心理学体系論			2			○	○	
			美学美術史１			2		○	○	○	
			美学美術史２			2		○	○	○	
			哲学概論１			2		○	○	○	
			哲学概論２			2		○	○	○	
			認知心理学			2		○	○	○	
			文化人類学			2			○	○	
			オーストラリア産業論１			2		○	○	○	
			オーストラリア産業論２			2		○	○	○	
			韓国の文化と社会１			2		○	○	○	
			韓国の文化と社会２			2		○	○	○	
			現代韓国事情			2		○	○	○	
			ERP ビジネスプロセス１			2			○	○	
			ERP ビジネスプロセス２			2			○	○	
			ERP ビジネスプロセス演習１			2			○	○	
			ERP ビジネスプロセス演習２			2			○	○	

学科共通履修細則

Ⅰ 新入生演習

新入生演習の内容及び履修方法

6. 大学での学修に必要な基礎的素養を身につけるための授業で、大学で何をどのように学ぶかについて教員と一緒に考える授業科目である。学問のおもしろさを知ることと、学修するためのスキルを身につけることを目標とする。
7. 新入生全員が指定されたクラス毎に履修する科目である。修得すれば卒業に必要な単位として認める。

Ⅱ 基本科目

基本科目は 1 年次以上で履修することができる。なお、履修登録者数によってはクラスを指定する場合がある。（科目の詳細については後掲の一覧表を参照すること。

Ⅲ 外国語科目

A. 英語

科目の種類

（1） 英語講読・英語 L.L.・英会話・検定英語の 4 つの種目をおく。
（2） 英語講読･英語 L.L.･検定英語はそれぞれ Step Ⅰ･Step Ⅱ､英会話は Step Ⅰ・Step Ⅱ・Step Ⅲに分けて継続的に履修することができる。
（3） 英語は、いずれの科目も春学期・秋学期各 1 単位とする。

科目一覧

STEP Ⅰ		配当年次	Step Ⅱ		配当年次	STEP Ⅲ		配当年次
旧科目	新科目		旧科目	新科目		旧科目	新科目	
英語講読Ⅰ	英語講読 1	1 年次以上	英語講読Ⅱ	英語講読 3	2 年次以上			
	英語講読 2			英語講読 4				
英語 L.L. Ⅰ	英語 L.L.1		英語 L.L. Ⅱ	英語 L.L.3				
	英語 L.L.2			英語 L.L.4				
英会話Ⅰ	英会話 1		英会話Ⅱ	英会話 3		英会話Ⅲ	英会話 5	3 年次以上
	英会話 2			英会話 4			英会話 6	
検定英語Ⅰ	検定英語 1		検定英語Ⅱ	検定英語 3	1 年次以上			
	検定英語 2			検定英語 4				

・旧科目で単位修得済みの者は、それに対応する新科目を履修することはできない。

1. 科目の内容

（1） 英語講読
社会・人文科学、外国文化などに関する論説等の講読を通じて、読解能力と異文化、流動的な国際情勢に対する理解を深める。
英語講読 1・2 では、精読方式や読解技能を養う訓練方法を用いて、英語の構造や慣用表現に関する基礎知識を習得させ読解力を養うことを目指す。
英語講読 3・4 では、英語講読 1・2 で養った読解力を更に伸ばすことを目的とし、多様なスタイル、内容の文章についての理解を深め、総合的な英語運用能力を高めることを目指す。

（2） 英語 L.L.
音声としての英語 - 生きた英語 - の理解力を高め、国際コミュニケーションの手段としての英語力の基礎を養うために、ビデオ、録音教材などで視聴訓練を行い、英語の総合的な理解力を身につけることを目指す。
英語 L.L.1･2 では、平易な発話を用いて、個々の音の発音、リズム、イントネーションなどの英語の基礎的音声ルールを修得する。
英語 L.L.3・4 では、比較的長い発話、ストーリーなどを用いて練習する。

（3） 英会話
国際コミュニケーションの手段としての英語の運用能力を高めることを目指す。外国人教員との学習を通じて、英語によるコミュニケーションを実践するとともに、異文化理解の機会を持つ。
英会話 1・2 では、基礎的な言語機能を中心に、ジェスチャーなどの Non-verbal Communication を含めた言語活動を行う。
英会話 3・4 では、意見を述べたり、討論したり、特定の場面における問題処理などの実践的な言語機能を中心とした活動を行う。

（4） 検定英語
TOEFL®、STEP（実用英語検定）などの各種の英語検定試験や、将来外国の大学で勉強を志す場合に必要とされるような実用的な英語の運用能力ならびに知識を高めることを目指す。
検定英語 1・2 は「英検 2 級」、TOEFL®400 点、検定英語 3・4 は、「英検準 1 級及び 1 級」、TOEFL®500 点を目指す。

2. 履修方法

（1） 科目は、学科、学生の必要に応じて、自由に選択することができる。各学科の学科履修細則を参照すること。
（2） 学年にかかわりなく、初年度には Step Ⅰ、次年度以降に Step Ⅱ、それらを履修の上で Step Ⅲを履修することが望ましい。
（3） Step Ⅰと Step Ⅱにおいて異なる科目を選択してもよいが、各科目の講義内容を考えて履修すること。Step Ⅱと Step Ⅲの場合もこれに準ずる。学生各自の希望と学力に応じていずれの Step の科目でも初年度から履修することができる。
（4） 履修希望者が多い場合には、人数を制限したり、クラスを指定したりすることがある。

B. ドイツ語

1. 科目の種類

（1） ドイツ語は、読解に重点をおく科目と、表現に重点をおく科目とに、大別される。
（2） ドイツ語の科目には、読解と表現それぞれに、入門、初級、中級（1・2）、上級（1・2）、演習（1・2）の 5 段階があり、より高度なレベルへと学習を継続することができる。
（3） ドイツ語は、いずれの科目も春学期・秋学期各 1 単位とする。

科目一覧

旧科目	新科目	配当年次	旧科目	新科目	配当年次
ドイツ語読解Ⅰ	ドイツ語読解入門	1 年次以上	ドイツ語読解Ⅲ	ドイツ語読解上級 1	3 年次以上
	ドイツ語読解初級			ドイツ語読解上級 2	
ドイツ語表現Ⅰ	ドイツ語表現入門		ドイツ語表現Ⅲ	ドイツ語表現上級 1	
	ドイツ語表現初級			ドイツ語表現上級 2	
ドイツ語読解Ⅱ	ドイツ語読解中級 1	2 年次以上	ドイツ語読解Ⅳ	ドイツ語読解演習 1	3 年次以上
	ドイツ語読解中級 2			ドイツ語読解演習 2	
ドイツ語表現Ⅱ	ドイツ語表現中級 1		ドイツ語表現Ⅳ	ドイツ語表現演習 1	
	ドイツ語表現中級 2			ドイツ語表現演習 2	

・旧科目で単位修得済みの者は、それに対応する新科目を履修することはできない。

2. 科目の内容

（1） 読解入門：ドイツ語の綴りに慣れ、基本的な語彙を学んで、初歩的な文のしくみを理解する。
（2） 表現入門：ドイツ語の音（おん）に慣れ、自分について語り、相手についてたずねる初歩的な力を養成する。
（3） 読解初級：音、文法、語彙、文章が密接に関連した教材によって読解力をつける。
（4） 表現初級：時間と空間に関する表現を学び、基本的な情報の伝達と理解ができる力をつける。
（5） 読解中級 1・2：やさしい思想・文学作品・新聞・雑誌などの講読を通じて読解力を高め、外国文化の理解を深める。
（6） 表現中級 1・2：ことばに不自由なくドイツ語圏を旅行でき、日常生活におけるコミュニケーションに必要な表現力を養う。
（7） 読解上級 1・2：やや高度な政治・社会・文化関連の教材を用い、読解力を発展させる。
（8） 表現上級 1・2：出来事について話し、自分の意見を述べられるまでに表現力を発展させる。また、短い文を書く能力を養う。
（9） 読解演習 1･2：より高度な政治･社会･文化関連の教材を用い、読解力を高める。
（10） 表現演習 1・2：意見の交換ができるまでに表現力を高める。また、文章を書く能力をも養う。

3. 履修方法

（1） ドイツ語の科目については、各自が自由に選択できる。
（2） 学年にかかわりなく、履修の初年度には入門を履修すること。読解と表現をあわせて履修することが望ましい。
（3） 「読解入門」を履修した者は、「読解初級」を履修することができる。
（4） 「表現入門」を履修した者は、「表現初級」を履修することができる。
（5） 「読解初級」を履修した者は、「読解中級」を履修することができる。
（6） 「表現初級」を履修した者は、「表現中級」を履修することができる。
（7） 履修希望者が多い場合には、人数を制限したり、クラスを指定したりすることがある。

C. フランス語

1. 科目の種類

（1） フランス語は、読解に重点をおく科目と、表現に重点をおく科目とに、大別される。
（2） フランス語の科目には、読解と表現それぞれに、入門、初級、中級（1･2）、上級（1･2）、演習（1・2）の 5 段階があり、より高度なレベルへと学習を継続することができる。
（3） フランス語は、いずれの科目も春学期・秋学期各 1 単位とする。

科目一覧

旧科目	新科目	配当年次	旧科目	新科目	配当年次
フランス語読解Ⅰ	フランス語読解入門	1 年次以上	フランス語読解Ⅲ	フランス語読解上級 1	3 年次以上
	フランス語読解初級			フランス語読解上級 2	
フランス語表現Ⅰ	フランス語表現入門		フランス語表現Ⅲ	フランス語表現上級 1	
	フランス語表現初級			フランス語表現上級 2	
フランス語読解Ⅱ	フランス語読解中級 1	2 年次以上	フランス語読解Ⅳ	フランス語読解演習 1	3 年次以上
	フランス語読解中級 2			フランス語読解演習 2	
フランス語表現Ⅱ	フランス語表現中級 1		フランス語表現Ⅳ	フランス語表現演習 1	
	フランス語表現中級 2			フランス語表現演習 2	

※旧科目で単位修得済みの者は、それに対応する新科目を履修することはできない。

2. 科目の内容
（1） 読解入門：フランス語の綴りに慣れ、基本的な語彙を学んで、初歩的な文のしくみを理解する。
（2） 表現入門：フランス語の音（おん）に慣れ、自分について語り、相手についてたずねる初歩的な力を養成する。
（3） 読解初級：音、文法、語彙、文章が密接に関連した教材によって読解力をつける。
（4） 表現初級：時間と空間に関する表現を学び、基本的な情報の伝達と理解ができる力をつける。
（5） 読解中級 1・2：やさしい思想・文学作品・新聞・雑誌などの講読を通じて読解力を高め、外国文化の理解を深める。
（6） 表現中級 1・2：ことばに不自由なくフランス語圏を旅行でき、日常生活におけるコミュニケーションに必要な表現力を養う。
（7） 読解上級 1・2：やや高度な政治・社会・文化関連の教材を用い、読解力を発展させる。
（8） 表現上級 1・2：出来事について話し、自分の意見を述べられるまでに表現力を発展させる。また、短い文を書く能力を養う。
（9） 読解演習 1･2：より高度な政治･社会･文化関連の教材を用い、読解力を高める。
（10） 表現演習 1・2：意見の交換ができるまでに表現力を高める。また、文章を書く能力をも養う。
3. 履修方法
（1） フランス語の科目については、各自が自由に選択できる。
（2） 学年にかかわりなく、履修の初年度には入門を履修すること。読解と表現をあわせて履修することが望ましい。
（3）「読解入門」を履修した者は、「読解初級」を履修することができる。
（4）「表現入門」を履修した者は、「表現初級」を履修することができる。
（5）「読解初級」を履修した者は、「読解中級」を履修することができる。
（6）「表現初級」を履修した者は、「表現中級」を履修することができる。
（7） 履修希望者が多い場合には、人数を制限したり、クラスを指定したりすることがある。

D. 中国語
1. 科目の種類
（1） 中国語の科目は、読解に重点をおく講読類と、会話に重点をおく会話類に、大別される。
（2） 各類に、それぞれ、Ⅰ（初級）・Ⅱ（中級）の 2 段階があり、より高度なレベルへと学習を継続することができる。
（3） 中国語は、いずれの科目も春学期・秋学期各 1 単位とする。
科目一覧

	Ⅰ初級			Ⅱ中級		
	旧科目	新科目	配当年次	旧科目	新科目	配当年次
講読類	中国語講読Ⅰ-1 中国語講読Ⅰ-2	中国語講読基礎 1	1 年次以上	中国語講読Ⅱ-1	中国語講読中級 1	2 年次以上
		中国語講読基礎 2			中国語講読中級 2	
		中国語講読基礎 3				
		中国語講読基礎 4		中国語講読Ⅱ-2	中国語講読中級 3	
	中国語講読Ⅰ-2	中国語講読入門 1			中国語講読中級 4	
		中国語講読入門 2				
会話類	中国語会話Ⅰ-1	中国語会話基礎 1	1 年次以上	中国語会話Ⅱ-1	中国語会話中級 1	2 年次以上
		中国語会話基礎 2			中国語会話中級 2	
	中国語会話Ⅰ-2	中国語会話入門 1		中国語会話Ⅱ-2	中国語会話中級 3	
		中国語会話入門 2			中国語会話中級 4	

・旧科目で単位修得済みの者は、それに対応する新科目を履修することはできない。
2. 科目の内容
Ⅰ. 初級
講読入門 1、2
中国語の基本を 1 年でひととおり学ぶ。
講読基礎 1、2、3、4
中国語の基本をひととおり学び、さらにそれを補強し発展させる。1 と 3、2 と 4 は必ずセットで履修することとし、週 2 回の受講によってより高い到達度を目ざす。
会話入門 1、2
中国語で簡単な会話が出来るようになることを目標に、中国語の基本を音声面に重点を置いて学習する。
会話基礎 1、2
中国語で簡単な会話が出来るようになることを目標に、中国語を「聴く」「話す」ための訓練をする。
Ⅱ. 中級
講読中級 1、2
講読基礎 1、2、3、4 で学んだことがらを補強し、発展させながら、中国語を読むための実践的応用力をつける。
講読中級 3、4
中国語の基本をひととおり身につけた人のための科目。中国語の文法力と語彙力を強化し、読解力の向上を図る。
会話中級 1、2
会話入門 1、2 と会話基礎 1、2 で学んだことがらを補強し、発展させながら中国語を「聴く」「話す」ための実践的応用力をつける。
会話中級 3、4
中国語の基本をひととおり身につけた人のための科目。中国語を聴く力、話す力を強化し、会話力の向上を図る。
3. 履修方法
（1） 中国語の科目については、各自の興味と必要に応じて、自由に選択することができる。
（2） 学年にかかわりなく、最初に基礎 1 または入門 1 を履修する。
（3） 初級の基礎 1・基礎 2 あるいは入門 1・入門 2 を履修してから、次年度以降に中級を履修する。
（4） 初年度には講読と会話をともに履修することが望ましい。

E. 日本語
外国人留学生と帰国生徒のうち指定された者は、日本語の科目を修得しなければならない。各学科の履修細則の共通科目 - 外国語科目の項を参照すること。
科目一覧

旧科目	旧単位	新科目	新単位	配当年次	旧科目	旧単位	新科目	新単位	配当年次
日本語Ⅰ-1	2	日本語読解中級 1	1	1 年次以上	日本語Ⅱ-1	2	日本語読解上級 1	1	2 年次以上
		日本語読解中級 2					日本語読解上級 2		
日本語Ⅰ-2	2	日本語聴解中級 1	1		日本語Ⅱ-2	2	日本語聴解上級 1	1	
		日本語聴解中級 2					日本語聴解上級 2		

・旧科目で単位修得済みの者は、それに対応する新科目を履修することはできない。

Ⅳ 体育科目
1. 科目の種類
体育科目は、健康科学群の基礎体育･体育概論、スポーツ科学群の応用体育･スポーツ概論、及びネイチャーアクティビティ（学外実習）からなる。それぞれの科目及び単位数については、以下の表のとおりとする。
科目一覧

		旧科目	新科目	単位数	配当年次
健康科学群	実技	基礎体育	基礎体育 1	1	1 年次以上
			基礎体育 2	1	
	講義	体育概論	体育概論	2	
スポーツ科学群	実技	応用体育	応用体育 1	1	
			応用体育 2	1	
			応用体育 3	1	
	講義		スポーツ概論	2	
ネイチャーアクティビティ	実技	スポーツ実習	余暇生活実習 1	1	
			余暇生活実習 2	1	
			余暇生活実習 3	1	

・旧科目で単位修得済みの者は、それに対応する新科目を履修することはできない。
2. 科目の内容
（1） 健康科学群
身体運動の実践と理論を通して、各自の健康レベルの把握と維持・増進のための方法を理解し、運動の生活化と習慣化を図ることを目的とする。
①基礎体育 1・2
「実技」及び「理論」との継続接点を重視し、本学で学習する体育科目の総合化を確立するための出発点として位置づけている。この授業の特色は、体育独自のクラス編成による学生間の交流を促進することと、身体運動の実践・理論をとおして、生活科学としての体育理解を深めることにある。
②体育概論
体育は人間そのものを対象とするもので、体育概論では身体活動を巨視的に見ることによって自己存在の意義を確認すると同時に、活動によって得られたものを現代社会、及び将来に活かそうとするものである。
（2） スポーツ科学群
実践を通して、自主的に心身の健康を管理し、スポーツ種目の特性を理解し、生活化（生涯スポーツ化）するための科学的知識を習得する。
①応用体育 1・2
受講者一人ひとりのコミュニケーションの追求、自己確認、技能向上による生活世界の拡大などがスポーツ実践において成就することを期待しつつ、特定スポーツ文化の理解、技能・ルール・審判法などの習熟向上を図ることにある。
②応用体育 3
生涯体育・スポーツを念頭において、スポーツ文化の生活化をはかることを目的とする。応用体育 1・2 を履修し、そのスポーツ種目を経験している、もしくは現在までにそのスポーツ種目を経験していることが望ましい。
③スポーツ概論
最近のスポーツの普及発展ぶりから見て、人間生活にとってスポーツは文化生活の一部になっている。しかし、健康･人間関係･技術上必ずしも「文化」となってはいない。そこで社会の様々なスポーツの様相からスポーツの本質を理解する。
（3） ネイチャーアクティビティ
現代人の生活様式を踏まえ、余暇活動の考え方や人間と自然との付き合いなどについて、実習を通して学習する（日本レクリエーション協会公認「レクリエーション・インストラクター」資格取得コースあり）。
①余暇生活実習 1（ゴルフ）･余暇生活実習 2（キャンプ）･余暇生活実習 3（スキー）
学内では到達できない実践的技能の向上を図るとともに、仲間との共同生活における人間的なふれあいから得られる信頼感、及び学内では得ることのできないすばらしい自然の中で生活する態度を養うことを目的に、ゴルフ・キャンプ・スキーの三つの余暇生活実習を実施する。それぞれ事前説明会･事前実習を学内において行う。
3. 履修方法
（1） 体育科目は 2 単位以上を修得しなければならない。
（2） 2 単位を超えて修得した体育科目の単位については、各学科の履修細則の定めるところによる。
（3） 科目の詳細についてはオリエンテーション時の配布資料を参照のこと。
（4） 科目は、必要に応じて、自由に選択することができる。
（5） 講義科目を履修する場合、人数を制限することがある。
（6） 基礎体育・応用体育・余暇生活実習を履修する場合、抽選登録の手続きが必要となる。ただし、履修希望者の多い場合には、人数を制限することがある。

Ⅴ 総合科目

1. 総合科目は「追大 UI 科目」、「追大プロジェクト科目」、「国際交流科目」の分野に分ける。
　なお、「放送大学の科目を修得した場合及び資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合（2005 年度入学生までは、自主活動科目の分野という。)」、「大学コンソーシアム大阪単位互換協定により単位を修得した場合（2006 年度入学生から適用)」についても総合科目として取り扱う。
2. 「追大 UI 科目」については全ての単位を、「追大プロジェクト科目」については最大 8 単位まで（2007 年度入学生までは最大 4 単位まで）を、「国際交流科目」、「放送大学の科目を修得した場合及び資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合（2005 年度入学生までは、自主活動科目という。)」、「大学コンソーシアム大阪単位互換協定により単位を修得した場合（2006 年度入学生から適用)」については、各分野各々最大 4 単位までを卒業に必要な単位として認める。
3. 「追大 UI 科目」・「追大プロジェクト科目」は履修制限単位に含めるが、「国際交流科目」・「放送大学の科目を修得した場合及び資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合（2005 年度入学生までは、自主活動科目という。)」、「大学コンソーシアム大阪単位互換協定による単位修得（2006 年度入学生から適用)」については、履修制限単位に含めない。
4. 総合科目の詳細な登録手続き及び日程等については、別に掲示する。
5. 各科目の内容

（1） 追大 UI 科目

　追手門学院大学の教育理念を具現化するための科目である。複数教員が担当し各教員の経験を通して大学生活のあり方を考える。また、大学の基盤である地域の特色について各専門の教員を通して考える。通常の授業と同様に履修登録手続きを行い履修すること。

科目一覧

科　　目	単位数	配当年次
学び論	2	1 年次以上
北摂を学ぶ	2	1 年次以上

（2） 追大プロジェクト科目

　講義や学外における実体験を通して大学と社会の関係について学ぶとともに、大学生として大学で学ばなければならないことを考える科目。実習系の科目については事前に申込を行い、手続き終了後、履修登録手続きを行うこと。それ以外の科目については、通常の授業と同様に履修登録手続きを行い履修すること。

科目一覧

科　　目	単位数	配当年次
インターンシップ 1	2	3 年次以上
インターンシップ 2	2	3 年次以上
経営力インターンシップ 1	2	3 年次以上
経営力インターンシップ 2	2	3 年次以上
社会人の基礎	2	3 年次以上
キャリア形成論 1	2	2 年次以上
キャリア形成論 2	2	2 年次以上
ボランティア論	2	1 年次以上
オーストラリアを学ぶ 1	2	1 年次以上
オーストラリアを学ぶ 2	2	1 年次以上

※オーストラリアを学ぶ（2008 年度まで開講）を修得した場合、オーストラリアを学ぶ 1 を履修することはできない。

（3） 国際交流科目

　追手門学院大学の教育理念の一つである国際性を養成するための科目である。本学主催の交換留学制度、海外セミナーや国際共同研修の参加により国際交流活動の活性化を図る。事前に申込を行い、海外活動終了後に単位認定を行う。

注：科目一覧 -1 は、2006 年度入学生まで適用（学籍番号 06 番台まで）

科目一覧 -1

科目	単位数	配当年次	備考
交換留学インド	4	1 年次以上	
交換留学オーストラリア	4	1 年次以上	
交換留学アメリカ	4	1 年次以上	
交換留学中国	4	1 年次以上	
交換留学タイ	4	1 年次以上	
交換留学イギリス	4	1 年次以上	
交換留学韓国	4	1 年次以上	
交換留学オランダ	4	1 年次以上	
交換留学ドイツ	4	1 年次以上	
海外セミナー	4	1 年次以上	
海外セミナー 1	4	1 年次以上	不開講
海外セミナー 2	4	1 年次以上	不開講
海外セミナー 3	4	1 年次以上	不開講
短期海外セミナー	2	1 年次以上	
国際現地研修	4	2 年次以上	
国際現地研修 1	4	2 年次以上	不開講
国際現地研修 2	4	2 年次以上	不開講
国際現地研修 3	4	2 年次以上	不開講

注：科目一覧 -2 は、2007 年度入学生から適用（学籍番号 07 番台から）

科目一覧 -2

科目	単位数	配当年次	備考
交換留学インド	4	1 年次以上	
交換留学オーストラリア	4	1 年次以上	
交換留学アメリカ	4	1 年次以上	
交換留学中国	4	1 年次以上	
交換留学タイ	4	1 年次以上	
交換留学イギリス	4	1 年次以上	
交換留学韓国	4	1 年次以上	
交換留学オランダ	4	1 年次以上	
交換留学ドイツ	4	1 年次以上	
海外セミナー	4	1 年次以上	
短期海外セミナー	2	1 年次以上	
国際現地研修	4	2 年次以上	

注：（4）の項目は、2005 年度入学生まで適用（学籍番号 05 番台まで）。

（4） 自主活動科目

　学生が自主的に学習したことについて、所定の単位を認定する科目である。単位互換協定を結んだ放送大学の所定の科目を修得することにより単位を認定する。また、大学が指定する資格・検定試験の成績について評価し単位を認定する。事前に申込を行い、放送大学の科目については単位修得を、資格・検定試験については、結果届出をもって単位認定を行う。ただし、放送大学科目については、4 年次生の秋学期の履修を認めない。資格・検定試験については本学所定の基準を満たさなければ単位認定を行わない。

科目一覧

科目	単位数	配当年次
放送大学 1	2	1 年次以上
放送大学 2	2	1 年次以上
放送大学 3	2	1 年次以上
放送大学 4	2	1 年次以上
放送大学 5	2	1 年次以上
放送大学 6	2	1 年次以上
放送大学 7	2	1 年次以上
放送大学 8	2	1 年次以上
放送大学 9	2	1 年次以上
放送大学 10	2	1 年次以上
資格・検定 1	2	1 年次以上
資格・検定 2	2	1 年次以上
資格・検定 3	2	1 年次以上
資格・検定 4	2	1 年次以上
資格・検定 5	2	1 年次以上

注：6. 7. の項目は、2006 年度入学生から適用（学籍番号 06 番台から）。

6. 放送大学の科目を修得した場合及び資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合
（1） 放送大学の科目を修得した場合及び資格・検定試験で一定以上の成績を修めた場合は、総合科目の単位として、最大 4 単位までを卒業に必要な単位として認める。
（2） 放送大学の所定の科目については、単位互換協定を結んでおり、単位修得をもって単位認定を行う。
（3） 資格・検定については、大学が指定するものについて、結果届出をもって、本学所定の基準を満たした場合に単位認定を行う。
（4） 放送大学科目及び資格・検定のいずれの場合も事前に所定の申込を行うものとする。ただし、放送大学科目については、4 年次生の秋学期の履修を認めない。
（5） 放送大学科目及び資格・検定の詳細については、別紙資料を参照すること。

7. 大学コンソーシアム大阪単位互換協定により単位を修得した場合
（1） 大阪府下の大学・短期大学で組織する大学コンソーシアム大阪が、単位互換協定により提供する科目について、本学が履修を認めた科目を履修し単位を修得した場合、本学で修得したものとみなし、総合科目の単位として、最大 4 単位までを卒業に必要な単位として認める。
（2） 大学コンソーシアム大阪単位互換協定により履修できる科目の、提供大学・科目名・単位数・シラバス・履修方法等の詳細は、大学コンソーシアム大阪が作成・発行する冊子を参照すること。なお、本学が履修を認めた科目以外は履修することができない。
（3） 大学コンソーシアム大阪単位互換協定による単位修得に関する詳細は、別紙資料を参照すること。

Ⅵ 副専攻

注：Ⅵの項目は、2006 年度入学生から適用（学籍番号 06 番台から）。但し、心理学部及び社会学部の学生には適用しない。

1. 副専攻は、所属学部以外の科目や特定の分野に関する科目を系統的に学ぶことで、基礎知識を確立し、学術的見地から考察できる能力や実践的応用力を身につけるために開設するものである。
2. 副専攻で履修する科目については、履修制限単位に含める。なお、副専攻科目を履修登録するには、事前に教務課へ届け出るものとする。
3. 副専攻の修了に必要な単位は 20 単位とし、卒業に必要な単位として認める（20 単位を超えて修得しても卒業に必要な単位としては最大 20 単位までとする)。
4. 特定の副専攻分野で 20 単位を修得すれば、申し出により、卒業時にこれを証する書類を発行する。
5. 副専攻の詳細については、別紙資料を参照すること。

Ⅶ 科目修了の認定と試験

1. 科目修了の認定のための試験を行う。
ただし、出席その他平素の成績を考慮して科目修了の認定を行うこともある。
2. 原則として、各授業科目の出席すべき授業時数の 3 分の 1 以上欠席したものは、科目修了の認定を受けることができない。
3. 定期の試験は春学期末及び秋学期末に行い、あらかじめその日程を予告する。
4. 随時試験は、各科目担当教員が必要と認める場合に行う。
5. 次に該当するものは試験を受けることができない。
（ⅰ）前項 2. に該当するもの。
（ⅱ）所定の履修登録手続きをしていないもの。
6. 試験の際、開始後 20 分以上遅刻したものは受験できない。
また、開始後 35 分を経過しなければ退室できない。
7. 学生は各自の学生証を机上に置き、受験しなければならない。
学生証不携帯の場合は、教務課へ受験許可書の貸し出しを願い出ることができる。
8. 試験の際、着席を指定したときはその指定された位置において受験しなければならない。
9. 追試験は、定期試験に限り、次の（a）から（e）までに該当する理由で欠席したものに対して行う。
（a）病　　気：医師の診断書が必要
（b）二親等以内の死亡：7 日間以内とする
（c）不慮の事故、災害：公的な証明書が必要
（d）就職試験等：就職先及びキャリア開発課の証明が必要
（e）本学が認めた場合：申請書類が必要
追試験希望者は、所定の定期試験欠席届・追試験願を当該科目試験実施日も含めて 3 日（大学休業日は除く。）以内に教務課へ提出（代理人も可）しなければならない。
追試験は 1 回のみ行う。
追試験料は 1 科目につき金 500 円とする（ただし伝染病罹患による出席停止の場合を除く）。
※裁判員に選出され、試験日と公判日が重なった場合、教務課各学部係窓口に申し出てください。
10. 試験場においては静粛、厳正の態度を持し、不正の行為があってはならない。
もし不正の行為があると認めたときは、学則及び規程によって厳重に処分する。

基本科目一覧表

分野	授業科目	単位数		配当年次				備考
		必修	選択	1	2	3	4	
言語と文化	日本語の諸相 1		2	○	○	○	○	
	日本語の諸相 2		2	○	○	○	○	
	アジアの諸文化 1		2	○	○	○	○	
	アジアの諸文化 2		2	○	○	○	○	
	アジアの社会 1		2	○	○	○	○	
	アジアの社会 2		2	○	○	○	○	
	アジアと国際社会 1		2	○	○	○	○	
	アジアと国際社会 2		2	○	○	○	○	
	英米の文化・文学 1		2	○	○	○	○	
	英米の文化・文学 2		2	○	○	○	○	
	比較文化概論 1		2	○	○	○	○	
	比較文化概論 2		2	○	○	○	○	
	言語の科学 1		2	○	○	○	○	
	言語の科学 2		2	○	○	○	○	
	比較思想概論 1		2	○	○	○	○	
	比較思想概論 2		2	○	○	○	○	
	異文化交流の歴史		2	○	○	○	○	
	異文化交流とコミュニケーション		2	○	○	○	○	
	ヨーロッパの文学 1		2	○	○	○	○	
	ヨーロッパの文学 2		2	○	○	○	○	
	ヨーロッパの思想 1		2	○	○	○	○	
	ヨーロッパの思想 2		2	○	○	○	○	
	ことばと文化（ドイツ語）		2	○	○	○	○	
	ことばと文化（フランス語）		2	○	○	○	○	
	ことばと文化（韓国語・朝鮮語）1		2	○	○	○	○	
	ことばと文化（韓国語・朝鮮語）2		2	○	○	○	○	
	くらしと文化		2	○	○	○	○	
生活と社会	入門経済学 1		2	○	○	○	○	
	入門経済学 2		2	○	○	○	○	
	日本国憲法		2	○	○	○	○	
	市民生活と法 1		2	○	○	○	○	
	市民生活と法 2		2	○	○	○	○	
	家族と法 1		2	○	○	○	○	
	家族と法 2		2	○	○	○	○	
	近代日本社会と世界 1		2	○	○	○	○	
	近代日本社会と世界 2		2	○	○	○	○	
	市民社会と政治 1		2	○	○	○	○	
	市民社会と政治 2		2	○	○	○	○	
生活と社会	生活と地理 1		2	○	○	○	○	
	生活と地理 2		2	○	○	○	○	
	社会学の考え方		2	○	○	○	○	
	福祉の諸問題		2	○	○	○	○	
	メディア論		2	○	○	○	○	
	現代社会と倫理		2	○	○	○	○	
	現代社会の諸問題		2	○	○	○	○	
	現代社会の人間関係		2	○	○	○	○	
	現代社会と人権 1		2	○	○	○	○	
	現代社会と人権 2		2	○	○	○	○	
	共生社会と人間		2	○	○	○	○	
	社会調査入門 1		2	○	○	○	○	
	社会調査入門 2		2	○	○	○	○	
	余暇とレクリエーション		2	○	○	○	○	
	ジェンダー論		2	○	○	○	○	
	女性学		2	○	○	○	○	
	心の科学		2	○	○	○	○	
	人間関係の心理学		2	○	○	○	○	
	人間性の形成		2	○	○	○	○	
	現代の子どもと教育 1		2	○	○	○	○	
	現代の子どもと教育 2		2	○	○	○	○	
	キャリアデザイン論		2	○	○	○	○	
	ファイナンス入門		2	○	○	○	○	
	オーストラリアと国際社会 1		2	○	○	○	○	
	オーストラリアと国際社会 2		2	○	○	○	○	
自然と数理	生物の科学		2	○	○	○	○	
	生物の進化		2	○	○	○	○	
	生物の多様性		2	○	○	○	○	
	入門物理学 1		2	○	○	○	○	
	入門物理学 2		2	○	○	○	○	
	入門化学 1		2	○	○	○	○	
	入門化学 2		2	○	○	○	○	
	入門数学 1		2	○	○	○	○	
	入門数学 2		2	○	○	○	○	
	入門統計学 1		2	○	○	○	○	
	入門統計学 2		2	○	○	○	○	
	入門コンピュータ 1		2	○	○	○	○	
	入門コンピュータ 2		2	○	○	○	○	
	組織と情報 1		2	○	○	○	○	
	組織と情報 2		2	○	○	○	○	
	科学技術史 1		2	○	○	○	○	
	科学技術史 2		2	○	○	○	○	
日本事情	日本事情 1	2		○	○	○	○	外国人特別学生、外国人留学生及び帰国生徒のうち指定された者のみ
	日本事情 2	2		○	○	○	○	
	日本事情 3	2		○	○	○	○	
	日本事情 4	2		○	○	○	○	

索引

索引

【あ行】

アドミッション・ポリシー……3
追大プロジェクト科目……60
追大ＵＩ科目……60
オフィスアワー……20

【か行】

外国語科目……57
学位……12
学芸員資格取得に関する規程……158
学芸員（博物館学芸員課程）……145
学籍情報の登録……18
学籍情報の変更……25
学籍番号……25
学科科目（経済学科）……63
学科科目（ヒューマンエコノミー学科）……66
学科科目（経営学科）……70
学科科目（マーケティング学科）……74
学科科目（心理学科）……79
学科科目（社会学科）……84
学科科目（アジア学科）……86
学科科目（英語コミュニケーション学科）……89
学科共通履修細則……207
科目等履修生……118
カリキュラム・ポリシー……3
規程（経済学部関連）……170
規程（経営学部関連）……180
規程（心理学部関連）……191
規程（社会学部関連）……195
規程（国際教養学部関連）……199
規程等……169
基本科目……55
キャリ蔵……15
休学……27
休講……21
教員組織一覧……20
教員との連絡……19
教員連絡依頼書……20
教職課程……144
教職課程に関する規程……146
行事予定……42
共通科目……55
掲示板……18
欠席……23
欠席届……23
研究室……19
研究生……117
国際交流科目……61

【さ行】

再入学……36
GPA ……112
資格・検定……61
資格取得……144
試験……104
試験時間割……106
社会教育主事課程……145
社会教育主事の資格取得に関する規程……160
シュウカツ伝言板……15
修業年限……26
シュウ蔵……15
授業……42
授業中試験・レポート……105
授業料等納付……26
受験許可証……107
奨学金制度……26
証明書自動発行機……37
除籍……32
除籍取消……33
シラバス……44
新入生演習……55
成績……112
成績確認願……113
成績問合せ……113
成績発表……113
総合科目……60
卒業者発表……12
卒業要件単位数……46

【た行】

体育科目……59
退学……30
大学院関係事項（経済学研究科）……120
大学院関係事項（経営学研究科）……125
大学院関係事項（心理学研究科）……130
大学院関係事項（文学研究科）……139
大学院へ進学する……116
大学コンソーシアム大阪……62
単位……13
抽選登録……101
聴講生……118
追試験……110
定期試験……106
定期試験に代わるレポート……108
ディプロマ・ポリシー……3
転学部・転学科……35
問合せ先一覧……39

【な行】

２親等……23,111

【は行】

復学……29
副専攻……92
不正行為……107
放送大学……61
補講……22

【ま行】

窓口受付時間……19
メール設定……16

【や行】

ユーザーID ……16
UNIVERSAL PASSPORT ……14

【ら行】

履修……98
履修単位制限……99
履修登録……101
レクリエーション・インストラクター課程……145
レクリエーション・インストラクターの資格取得に関する規程……162
レポート提出票……108

ACCREDITED
2002. 4～2012. 3

追手門学院大学は、2002年4月に
（財）大学基準協会による「加盟判定審査」を
受けて正会員として認められました。

2011年度　STUDY GUIDE

発行日　2011年4月1日発行
発行者　追手門学院大学
（教務部教務課）

〒567-8502　大阪府茨木市西安威2-1-15

TEL. 072-641-9614　教　務　係　　072-641-9618　心理学部係
072-641-9616　経済学部係　　072-641-9153　社会学部係
072-641-9617　経営学部係　　072-641-9620　国際教養学部係